一般国道32号満濃バイパス建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第３冊

吉野下秀石遺跡

２００７．１０

香　川　県　教　育　委　員　会
国土交通省四国地方整備局

一般国道32号満濃バイパス建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第３冊

吉野下秀石遺跡

２００７．１０

香　川　県　教　育　委　員　会
国土交通省四国地方整備局

序　文

吉野下秀石遺跡は、一般国道32号満濃バイパス建設に伴い発掘調査が行われた香川県仲多度郡まんのう町に所在する遺跡です。

発掘調査は、平成５、８年度に香川県教育委員会からの委託を受けた、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターによって実施されました。

調査の結果、香川県では出土例の少ない、古墳時代の竈付きの竪穴住居跡が多数発見され、香川県の古代史研究の進展に寄与するものとなりました。

このたび、平成18年度に実施しました整理事業が終了し、「一般国道32号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第３冊　吉野下秀石遺跡」として刊行することになりました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成１９年１０月

香川県埋蔵文化財センター
所長　渡部明夫

例　言

1．本報告書は、一般国道32号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、香川県仲多度郡まんのう町（旧満濃町）に所在する吉野下秀石遺跡（よしのしもひでいしいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は、香川県教育委員会が国土交通省四国地方整備局（旧建設省四国地方建設局）から委託され、平成５、８年度に香川県教育委員会が調査主体、旧財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．調査に当って、下記の関係諸機関及び各位の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

国土交通省四国地方整備局（旧建設省四国地方建設局）、まんのう（旧満濃）町教育委員会、大阪府立泉北考古資料館、地元自治会、地元水利組合、徳島文理大学　大久保徹也

4．本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。

本報告書の執筆・編集は西岡達哉が担当した。

5．本報告書で用いる方位の北は、国土座標系第Ⅳ系の北であり、標高はＴ．Ｐ．を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。

ＳＢ：掘立柱建物跡　ＳＤ：溝状遺構　ＳＨ：竪穴住居跡　ＳＫ：土　坑　ＳＰ：柱穴跡
ＳＲ：自然河川跡　　ＳＸ：不明遺構

6．石器実測図中、網掛けは摩滅範囲を、輪郭線の回りの実線は磨滅箇所を、破線は敲打痕や潰れ箇所を表す。黒色で塗り潰した箇所は、現代の欠損箇所を表す。

7．挿図の一部に国土地理院地形図「善通寺」（1/25,000）を使用した。

本 文 目 次

序　文

例　言

第１章　調査の経過 …… 1

第１節　遺跡の発見と調査に至る経緯 …… 1

第２節　発掘調査の経過 …… 3

第３節　整理作業の経過 …… 3

第２章　立地と環境 …… 5

第３章　発掘調査の成果 …… 31

第１節　土層序 …… 31

第２節　遺構と遺物 …… 31

第４章　まとめ …… 105

第１節　遺跡の変遷 …… 105

第２節　竪穴住居跡の竈の分類 …… 110

挿　図　目　次

第 1 図 遺跡位置図 …… 1
第 2 図 調査地区割図 …… 2
第 3 図 調査対象地周辺地形図 …… 5
第 4 図 関連遺跡位置図 …… 6
第 5 図 土層序実測図１ …… 9
第 6 図 土層序実測図２ …… 10
第 7 図 土層序実測図３ …… 11
第 8 図 土層序実測図４ …… 12
第 9 図 土層序実測図５ …… 13
第 10 図 土層序実測図６ …… 14
第 11 図 遺構配置図１ …… 15
第 12 図 遺構配置図２ …… 16
第 13 図 遺構配置図３ …… 17
第 14 図 遺構配置図４ …… 18
第 15 図 遺構配置図５ …… 19
第 16 図 遺構配置図６ …… 20
第 17 図 遺構配置図７ …… 21
第 18 図 遺構配置図８ …… 22
第 19 図 遺構配置図９ …… 23
第 20 図 遺構配置図10 …… 24
第 21 図 遺構配置図11 …… 25
第 22 図 遺構配置図12 …… 26
第 23 図 遺構配置図13 …… 27
第 24 図 遺構配置図14 …… 28
第 25 図 遺構配置図15 …… 29
第 26 図 遺構配置図16 …… 30
第 27 図 竪穴住居跡遺構実測図１ …… 32
第 28 図 竪穴住居跡遺構実測図２ …… 33
第 29 図 竪穴住居跡遺物実測図１ …… 34
第 30 図 竪穴住居跡遺構実測図3・竪穴住居跡遺物実測図2 35
第 31 図 土坑遺溝実測図１ …… 36
第 32 図 溝状遺構遺構実測図１ …… 38
第 33 図 溝状遺構遺物実測図1・柱穴跡遺物実測図 39
第 34 図 不明遺構遺構実測図１ …… 39
第 35 図 不明遺構遺物実測図1・土坑遺物実測図1 … 40
第 36 図 竪穴住居跡遺構実測図４ …… 41
第 37 図 竪穴住居跡遺構実測図５ …… 42
第 38 図 竪穴住居跡遺構実測図６ …… 43
第 39 図 竪穴住居跡遺物実測図３ …… 44
第 40 図 竪穴住居跡遺物実測図４ …… 45
第 41 図 竪穴住居跡遺構実測図７ …… 48
第 42 図 竪穴住居跡遺構実測図８ …… 49
第 43 図 竪穴住居跡遺構実測図９ …… 50
第 44 図 竪穴住居跡遺構実測図10 …… 51
第 45 図 竪穴住居跡遺構実測図11 …… 52
第 46 図 竪穴住居跡遺構実測図12 …… 53
第 47 図 竪穴住居跡遺構実測図13 …… 54
第 48 図 竪穴住居跡遺構実測図14 …… 55
第 49 図 竪穴住居跡遺物実測図５ …… 56
第 50 図 竪穴住居跡遺構実測図15 … 57、58
第 51 図 竪穴住居跡遺構実測図16 … 59、60
第 52 図 竪穴住居跡遺構実測図17 …… 61
第 53 図 竪穴住居跡遺物実測図６ …… 62
第 54 図 竪穴住居跡遺構実測図18 …… 64
第 55 図 竪穴住居跡遺構実測図19 …… 65
第 56 図 竪穴住居跡遺構実測図20 …… 66
第 57 図 竪穴住居跡遺構実測図21 …… 67
第 58 図 竪穴住居跡遺物実測図７ …… 68
第 59 図 竪穴住居跡遺物実測図８ …… 69
第 60 図 竪穴住居跡遺溝実測図22 …… 70
第 61 図 竪穴住居跡遺溝実測図23 …… 71
第 62 図 竪穴住居跡遺溝実測図24 …… 74
第 63 図 竪穴住居跡遺溝実測図25 …… 75
第 64 図 竪穴住居跡遺物実測図９ …… 76
第 65 図 竪穴住居跡遺溝実測図26 …… 77
第 66 図 竪穴住居跡遺溝実測図27 …… 78
第 67 図 竪穴住居跡遺溝実測図28 …… 79
第 68 図 竪穴住居跡遺物実測図10 …… 80
第 69 図 掘立柱建物跡遺構実測図１ … 81
第 70 図 掘立柱建物跡遺構実測図２ … 82
第 71 図 掘立柱建物跡遺構実測図３ … 83
第 72 図 掘立柱建物跡遺構実測図４ … 84
第 73 図 掘立柱建物跡遺構実測図５ … 85
第 74 図 掘立柱建物跡遺構実測図６ … 86
第 75 図 土坑遺構実測図２ …… 88
第 76 図 土坑遺構実測図３ …… 89
第 77 図 土坑遺物実測図２ …… 90
第 78 図 溝状遺構遺構実測図２ …… 92
第 79 図 不明遺構遺構実測図２ …… 92
第 80 図 掘立柱建物跡遺構実測図７ … 93、94
第 81 図 掘立柱建物跡遺構実測図８ … 95、96
第 82 図 掘立柱建物跡遺構実測図９ … 97、98
第 83 図 溝状遺構遺構実測図３…… 99、100
第 84 図 遺物包含層遺物実測図１ …… 102
第 85 図 遺物包含層遺物実測図２ …… 103
第 86 図 遺構変遷図１ …… 106
第 87 図 遺構変遷図２ …… 107
第 88 図 遺構変遷図３ …… 108
第 89 図 遺構変遷図４ …… 109
第 90 図 竈形態分類図 …… 111
第 91 図 竈形態模式図 …… 111

写 真 図 版 目 次

扉　調査対象地空中写真 …… 139
図版1　上：Ⅰ・Ⅱ区 …… 141
中上,中下：Ⅲ区
下左：Ⅲb区　下右：Ⅳ区
図版2　SH01 …… 142
図版3　上,中上：SH01 …… 143
中下左：SH02
中下右,下：SH03
図版4　SH03 …… 144
図版5　上,中上・下：SH04 …… 145
下：SH05
図版6　SH05 …… 146
図版7　SH06 …… 147
図版8　上,中上・下：SH06 …… 148
下：SH07
図版9　SH07 …… 149
図版10　上：SH07 …… 150
中上・下,下：SH08
図版11　SH08 …… 151
図版12　SH09 …… 152
図版13　上,中上：SH09 …… 153
中下,下：SH10
図版14　SH11 …… 154
図版15　上,中上：SH11 …… 155
中下,下：SH12
図版16　上,中上：SH12 …… 156
中下,下：SH13
図版17　SH14 …… 157
図版18　上,中上左：SH15 …… 158
中上右：SB01
中下左：SB02
中下右：SB04
下左：SB06
下右：SB09
図版19　上左：SB07・08 …… 159
上右：SK01
中上右：SK04
下左：SK06
中下右：SK07
下右：SK08
図版20　上左：SK11 …… 160
上右,中上・下：SK12
下左：SK13
下右：SK14
図版21　上左：SK15 …… 161
上右：SK16
下左：SK17
中上右：SK23
中下右：SK27
下右：SK29
図版22　上左：SK30 …… 162
上右：SK31
中左,中上右：SK32
中下右,下左：SK33
下：SK34
図版23　上：SK35 …… 163
中上左：SK36
中上右：SK37
中下左：SK38
下左：SK40
下右：SK42
図版24　上左：SK42 …… 164
上右：SK43
中上左：SK44
中上右：SK45
中下：SK46
下左：SK47
下右：SD01
図版25　上左：SD01 …… 165
上右,中上左：SD02
中上右：SD03
中下：SD04
下左：SD05
下右：SD10
図版26　上左：SD11 …… 166
上右：SD12
中上左：SX02
中上右：SX03
中下,下：SX04
図版27　上,中上・下：縄文土器 …… 167
下：須恵器1
図版28　須恵器2 …… 168
図版29　須恵器3 …… 169
図版30　須恵器4 …… 170
図版31　須恵器5 …… 171
図版32　上,中上左：須恵器6 …… 172
中上右,中下,下：土師器1
図版33　上,中上・下,下左：土師器2 … 173
下右：製塩土器1
図版34　上,中上・下：製塩土器2 …… 174
下：紡錘車
図版35　上,中上：砥石 …… 175
中下左：石鏃
中下右,下：石斧
図版36　上：石包丁 …… 176
中上：石包丁か刃器
中下左：鏃か
中下右,下左：刀子か
下右：鉄滓

付　表　目　次

第 1 表 調査体制一覧表 …… 3
第 2 表 竪穴住居跡一覧表 …… 115
第 3 表 掘立柱建物跡一覧表 …… 115
第 4 表 土坑一覧表 …… 116
第 5 表 溝状遺構一覧表 …… 117
第 6 表 柱穴跡一覧表 …… 118
第 7 表 出土位置別出土品内訳一覧表 124
第 8 表 弥生土器・須恵器・土製品等一覧表 129
第 9 表 石器・石製品一覧表 …… 138
第 10 表 金属製品一覧表 …… 138
第 11 表 竈形態分類一覧表 …… 110

第１章　調査の経過

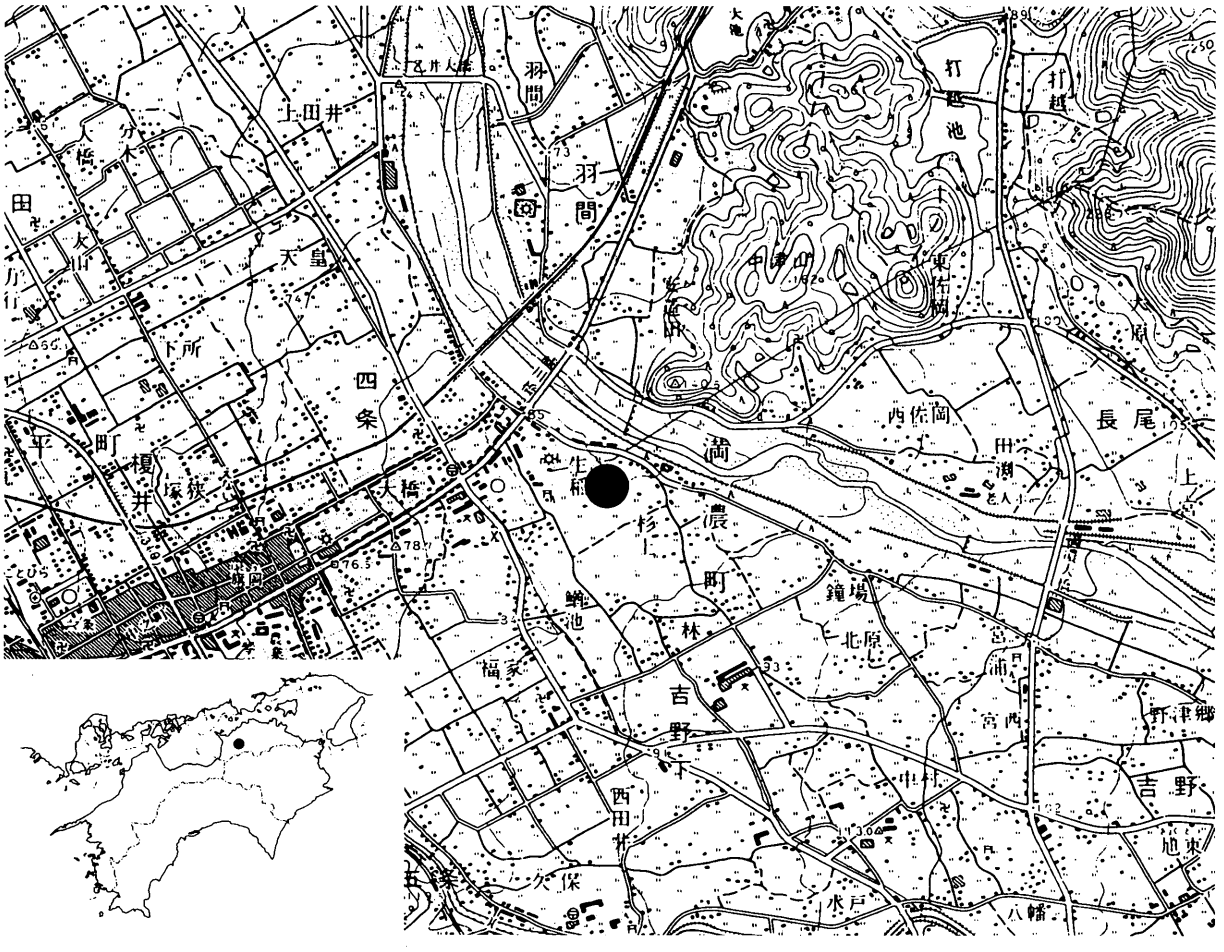
第１節　遺跡の発見と調査に至る経緯

吉野下秀石遺跡の所在地については、土器川の氾濫原に相当することと、条里地割が近隣の吉野下福家地区及び西田井地区よりも未発達であること等を根拠として、従前から埋蔵文化財包蔵地が存在しない地域として認識されてきた。

ところが、広大な沖積平野が存在し、周知の包蔵地の「寺院跡」である「弘安寺跡」の範囲から約500mの至近距離にあることや、土器川を挟んで対峙する中津山に中・後期古墳が群集すること等から、これらに関連した埋蔵文化財が存在するという予察も行われていた。

このため、建設省四国建設局（現国土交通省四国地方整備局）から、一般国道32号満濃バイパスの新設計画に当っての埋蔵文化財の照会を受けた香川県教育委員会事務局文化行政課（現生涯学習・文化財課）では、その存否を明らかにするために、平成２年９月５日～13日の期間で吉野下地区において、14箇所のトレンチ掘削による試掘調査（595㎡）を実施した。

調査の結果、土器川の自然堤防上に、古墳時代の集落跡を中心とした、縄文時代から平安時代までの埋蔵文化財包蔵地が広く存在することが明らかになったため、8,500㎡が「吉野



第１図　遺跡位置図

第２図　調査地区割図

下秀石遺跡」として遺跡台帳に登載された。

その後、工事内容が具体化したため、文化行政課では平成５年度に本発掘調査を実施することで国土交通省四国建設局との合議が整った。

しかしながら、一部の用地買収が遅れたために、同年度の調査面積は7,310㎡となり、残りの1,190㎡については、後年度（平成８年度に実施）に延期されることになった。

第２節　発掘調査の経過

本発掘調査は、建設省四国地方建設局（現国土交通省四国地方整備局）から委託を受けた香川県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターとの間で、平成５年４月１日付「埋蔵文化財調査契約書」が締結されて開始された。

当該年度の調査方式は、工事請負方式が採られた。

また、効率的な調査を行うために、対象地全体を北から南へ向かってⅠ～Ⅳ区に大区分した。さらに、Ⅲ区のうち用地買収が遅れた２箇所については、北をⅡｂ区、南をⅢｂ区に小区分した。

現地作業は、平成５年７月26日の進入路及び仮設橋梁の設置工事から開始した。８月11日には、重機によるⅠ区の表土掘削に着手し、その後は、Ⅱ区、Ⅳ区、Ⅲ区の順序で作業が進行し、平成６年３月31日に完了した。

また、Ⅱｂ区とⅢｂ区については、平成８年６月11日から着手し、８月31日に完了した。

第３節　整理作業の経過

出土品の整理作業は、平成18年８月１日から平成19年３月31日までの８ヶ月間で実施した。

作業は、竪穴住居跡から出土した土師器や須恵器の図化を中心にして、原稿執筆、遺物復元、実測遺物抽出、遺物実測、遺構・遺物図面トレース、遺物写真撮影、台帳整備、収納の順序で進行した。

図面で報告した遺物の数量は、縄文土器３点、弥生土器48点、土師器76点、須恵器221点、黒色土器１点、製塩土器14点、石器・石製品18点、金属器３点の合計384点である。

第１表　調査体制一覧表

	香川県教育委員会事務局文化行政課	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
平成５年度（発掘調査）	総　括 課　長　中村　仁 主　幹　菅原良弘 課長補佐　小原克己 総　務 係　長　源田和幸	総　括　所　長　松本豊胤 次　長　真鍋隆幸 総務係　係　長　土井茂樹 係　長　今田　修（～5.31） 係　長　上林和明（6.1～） 主　査　大西健司

	主　事　　桜木新士 主　事　　石川恵三子 主　事　　藤原和子 埋蔵文化財 係　長　　藤好史郎 主任技師　國木健司 技　師　　森下英治	主任主事　斉藤政好 主任主事　西村厚二 調査係　文化財専門員　西村尋文 主任技師　大久保徹也 主任技師　清水　渉 調査技術員　今井由記子
平成８年度 （発掘調査）	香川県教育委員会事務局文化行政課 総　括 課　長　　藤原章夫 課長補佐　高木一義 総　務 係　長　　山崎　隆 主　査　　星加宏明 主　事　　打越和美 埋蔵文化財 副主幹　　渡部明夫 文化財専門員　木下晴一 技　師　　塩崎誠司	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 総　括 所　長　　大森忠彦 次　長　　小野善範 総務係 係　長　　前田和也 主　査　　林　照代 主任主事　西川　大 主　事　　佐々木隆司 参　事　　別枝義昭 調査係 主任文化財専門員　大山真充 文化財専門員　大久保徹也 主任技師　住野正和 調査技術員　高橋佳織里 参　事　　近藤和史
平成18年度 （整理報告）	香川県教育委員会事務局文化行政課 総　括 課　長　　三谷雄治 課長補佐　中村禎伸 総務・振興グループ 副主幹　　河内一裕 主　事　　脇　悠介 文化財グループ 課長補佐　藤好史郎 主　任　　山下平重 文化財専門員　信里芳紀	香川県埋蔵文化財センター 総　括 所　長　　渡部明夫 次　長　　榊原正人 総務課 課　長　　野口孝一 主　任　　嶋田和司 主　任　　田中千晶 資料普及課 課　長　　廣瀬常雄 主任文化財専門員　西岡達哉 臨時職員　朝田加奈子 上原慶子 辻　悦子 鳥谷真希子 山田昌代

第2章　立地と環境

吉野下秀石遺跡の所在地は、丸亀平野南部の標高88～90mの地点である。当該地は、東方の中津山と西方の琴平山に挟まれて、平野の幅が著しく狭くなった箇所に相当し、河川の流域以外のほぼ全域が扇状地形である。

調査地は、土器川に架かる祓川橋の西詰から、南東方向に約320m離れた位置で、現在は国道バイパス用地であるが、調査開始前の土地利用の状況は、全地目が水田であった。

遺跡の所在地から土器川までは、約150mの至近距離であるため、遺跡の経営が河川の存在と密接な関係にあったことは確実と考えられる。

さて本稿では、検出遺構との関連から、旧満濃町内の土器川流域の古墳時代から平安時代にかけての遺跡群の様態を種類別に概観して、本遺跡の歴史的な位置付けの材料とする。

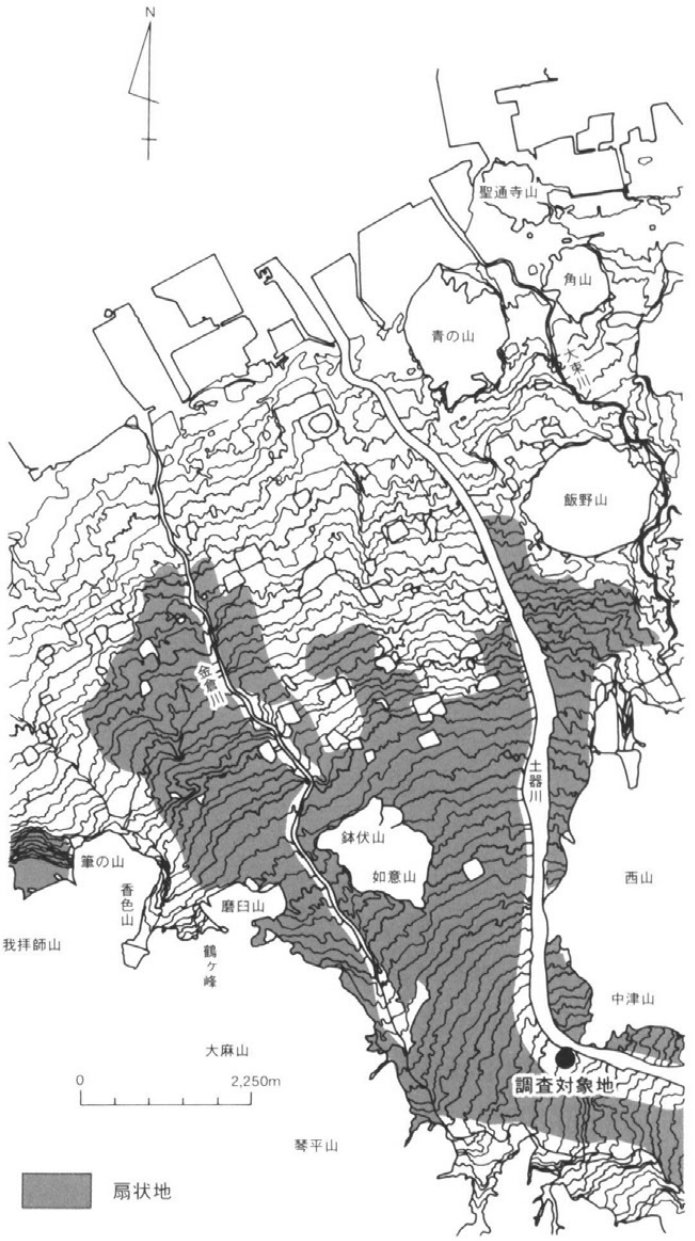
1．集落跡

本遺跡と同じ調査原因で調査が行われたまんのう町十郷買田岡下遺跡では、古墳時代中期と平安時代前期の遺構が確認された。特に後者は、大型の掘立柱建物跡を含む5棟の建物跡が検出されたことと、石製帯飾りのような稀少品が出土したことから、有力者の存在が想定されている。

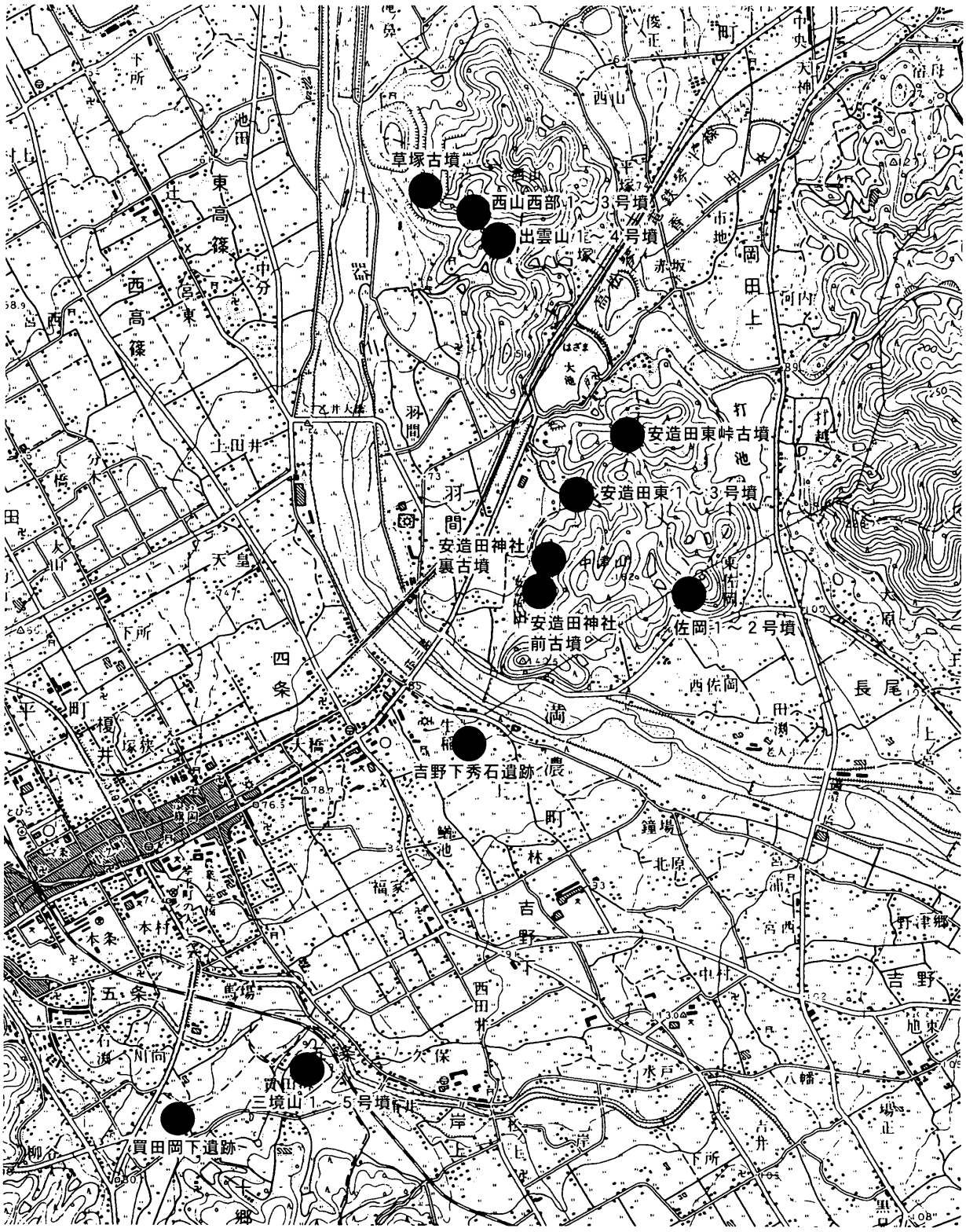
2．墳　墓

60箇所の古墳の所在が明らかにされているが、土器川の東岸と西岸では、分布密度が大きく異なり、前者の19箇所に対して、後者は41箇所である。

また、前者では丸亀市との境界の西山から中津山、城山、鷹丸山、扇山にかけての各山麓に、帯状に連なった分布状態を示す一方で、後者では善通寺市と琴平町の境界の如意山、金倉川西岸の三境山、南部の丘陵地



第3図　調査対象地周辺地形図


草塚古墳
西山西部1～3号墳
出雲山1～4号墳
安造田東峠古墳
安造田東1～3号墳
安造田神社裏古墳
安造田神社前古墳
佐岡1～2号墳
吉野下秀石遺跡
三境山1～5号墳
買田岡下遺跡

第４図　関連遺跡位置図

帯から派生した尾根等の限定された箇所に集中する状態を示すことが顕著な差異である。

これらのうち、立地状態から吉野下秀石遺跡との関連が強いと考えられる遺跡は、西山、中津山、三境山の周辺に所在するものである。

(1)草塚古墳

長径13mの円墳で、長さ3.5mの横穴式石室が存在したことが伝えられているが、詳細な構造や出土品等は不明である。

(2)西山西部１～３号墳

いずれも直径10m程度の円墳であるが、詳細は不明である。

本古墳群の周辺では、組み合わせ式の箱式石棺の発見例が伝えられていることから、これらの主体部の形態についても、同様の内容が想定される。

(3)出雲山１～４号墳

詳細は全く不明である。

(4)安造田東峠古墳

長径15mの円墳で、長さ2.5mの両袖形横穴式石室が存在する。

(5)安造田東１～３号墳

３号墳の詳細が明らかにされている。同墳は、直径12mの円墳で、長さ3.2mの両袖形横穴式石室が存在する。出土品は、須恵器、耳環、ガラス製玉類、金属製品（武具及び馬具）等である。特にガラス製品のうちのモザイクガラス玉は、国外からの輸入品と考えられ、全国で１例のものである。

このように、特殊な副葬品を所有した同墳は、安造田東古墳群だけでなく、丸亀平野の南部地域の墳墓を代表する遺跡と考えられることから、土器川の両岸に勢力を張った有力者の存在が推測される。

(6)安造田神社裏古墳

直径10mの円墳で、長さ2.7mの両袖形横穴式石室が存在する。

(7)安造田神社前古墳

墳丘が崩落しているために、墳形と規模は不明である。主体部は、長さ3.5mの両袖形横穴式石室である。

(8)佐岡１～２号墳

１号墳は、１つの墳丘に２つの主体部がある「一墳丘複数横穴式石室墳」であり、第１石室が長さ７mの両袖形横穴式石室である。第２石室の詳細は不明である。

(9)三境山１～５号墳

詳細は全く不明である。

３．生産遺跡

須恵器窯跡の満濃池東岸窯跡が同池の汀線付近に所在する。遺構の内容等は不明であるが、７～８世紀頃の蓋、杯（高台杯を含む）、硯、甕等が採取されている。

丸亀平野の北部地域では、古墳時代後期の多度津町黒藤窯跡と、丸亀市青ノ山１号窯跡が発見されているが、南部地域では同窯跡が唯一の須恵器生産遺跡であることから、製品は広

域へ供給されていた可能性がある。

4．条里遺構

土器川と金倉川に挟まれた平地では、南北方向に縦走する県道満濃善通寺線を境界として、土地区画の様態が全く異なる。

すなわち、同線の西方では、丸亀平野に現存する、基軸が真北から30°西方に偏った条里地割の延長線が明瞭に認められるのに対して、東方では、旧吉野小学校周辺の狭小な地域以外では、同地割が認められないことに気付かされる。

したがって、当該地は土地開発の進度の差異が対照的に現れた地域と判断される。

この差異については、土器川と金倉川の流路の変動による影響の多寡を要因として理解することが適当と考えられたため、以下に現認される両川の変動の痕跡を確認する。

まず土器川については、丸亀市方面から国道32号満濃バイパスを越えて、直線状に南進して来た県道満濃善通寺線が、満濃中学校の西方約300mの位置で東方へ急角度で屈曲して、同川の流路に並走する状態を示す。この並走した道路敷が、同川が西方へ湾入した流路のうちの、最もわかりやすい痕跡である。そして、この湾入した地形の内部の地名が「吉野」で、「葦の野」（湿地帯）を意味する。

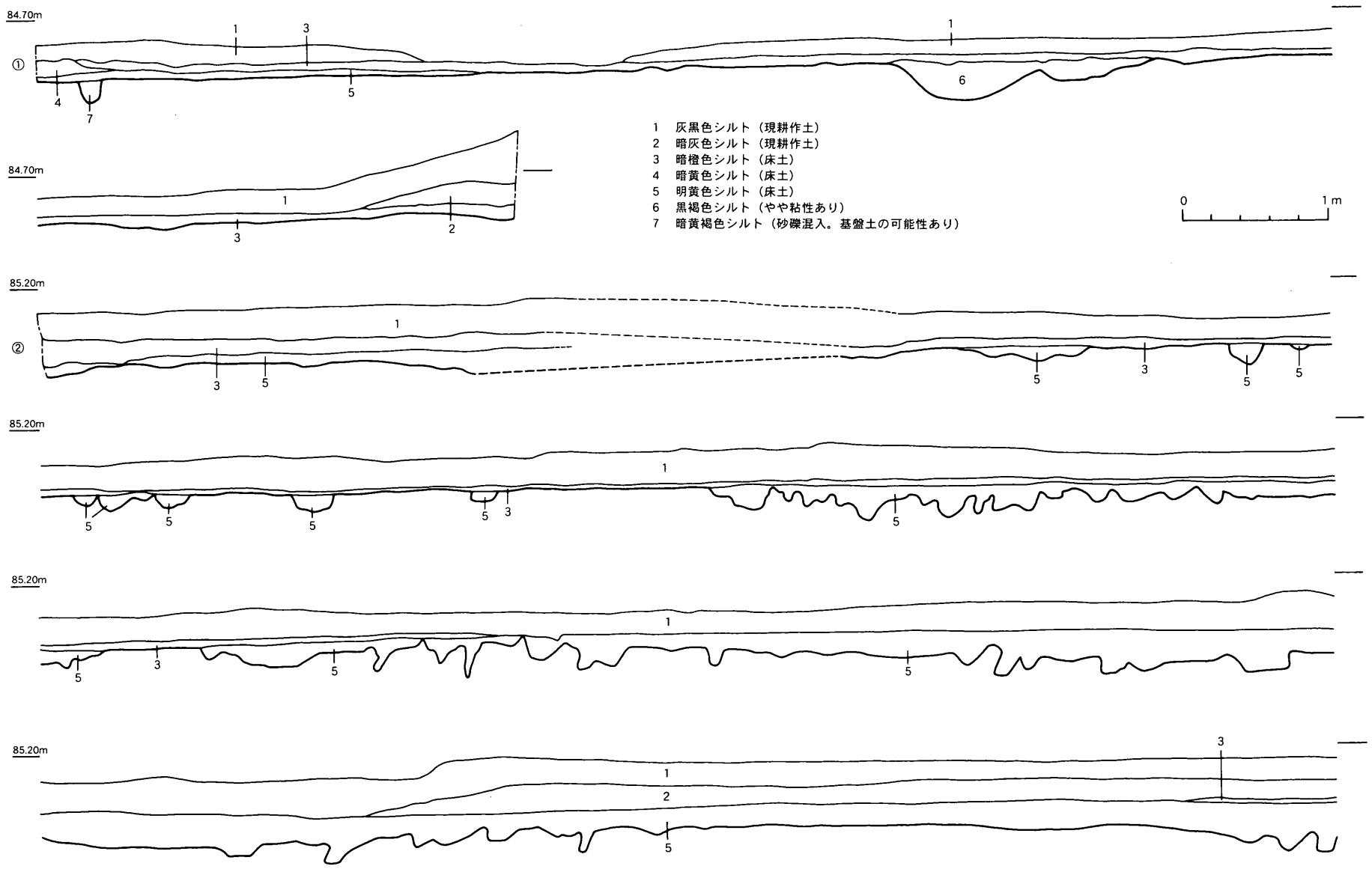
また、上記の屈曲箇所付近に「川滝」の地名があることも、河水が存在したことを示唆するものである。

さらに、旧吉野小学校南側の県道の道路敷が蛇行した状態であることも、土器川の流路を形成していたことを現すものと考えられる。

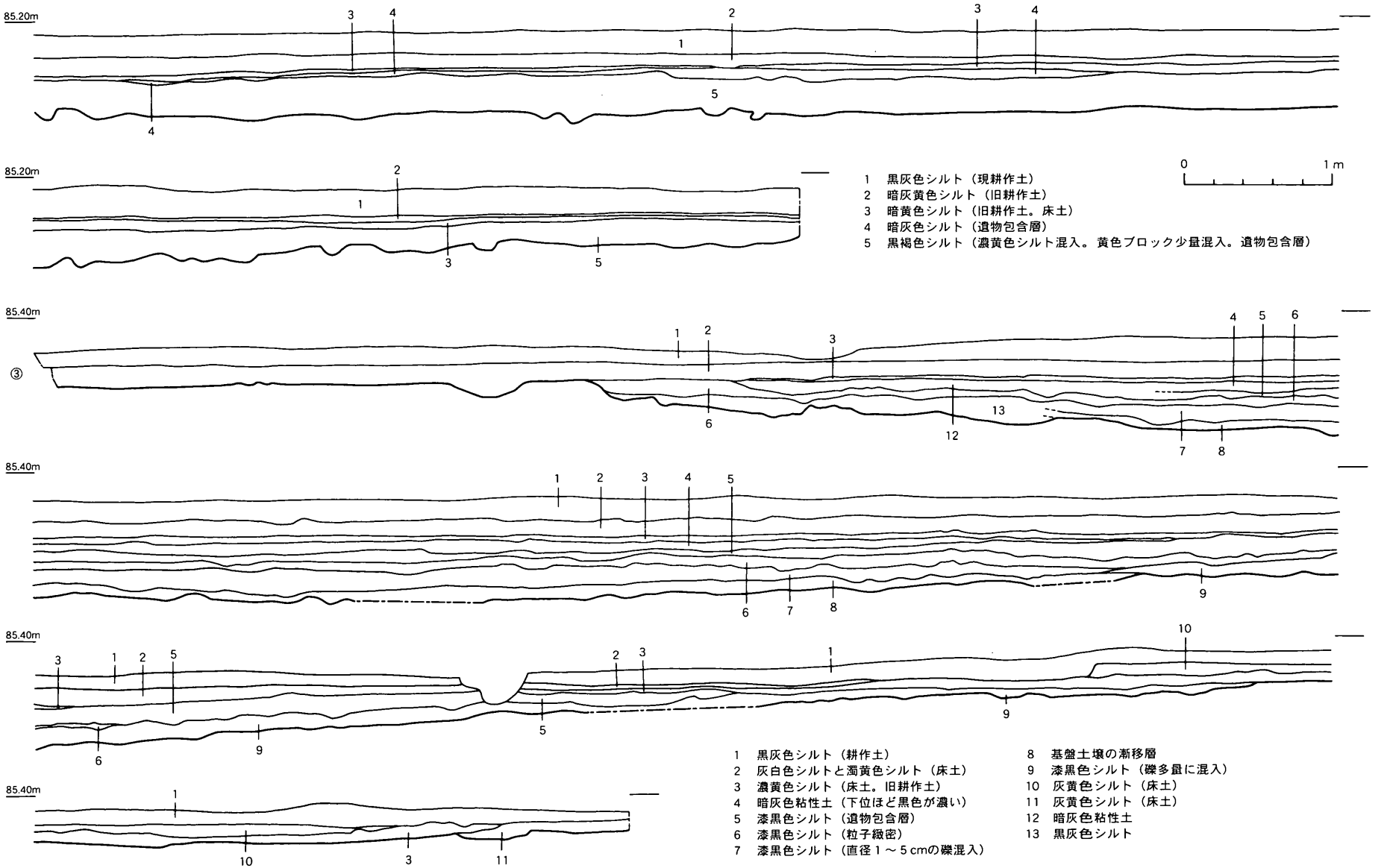
次に金倉川については、八幡神社の南西方約400mの位置で南西方へ直角に屈曲するが、支流は直進して、満濃中学校の西側を通過した後に、祓川橋付近で土器川に近接するか、あるいは満濃中学校の南方約250mの位置から西方へ湾流する状態を示している。

したがって、本川についても上記の土器川の湾入地域に合致する範囲内において、湿潤な自然環境を形成していたことが想定される。

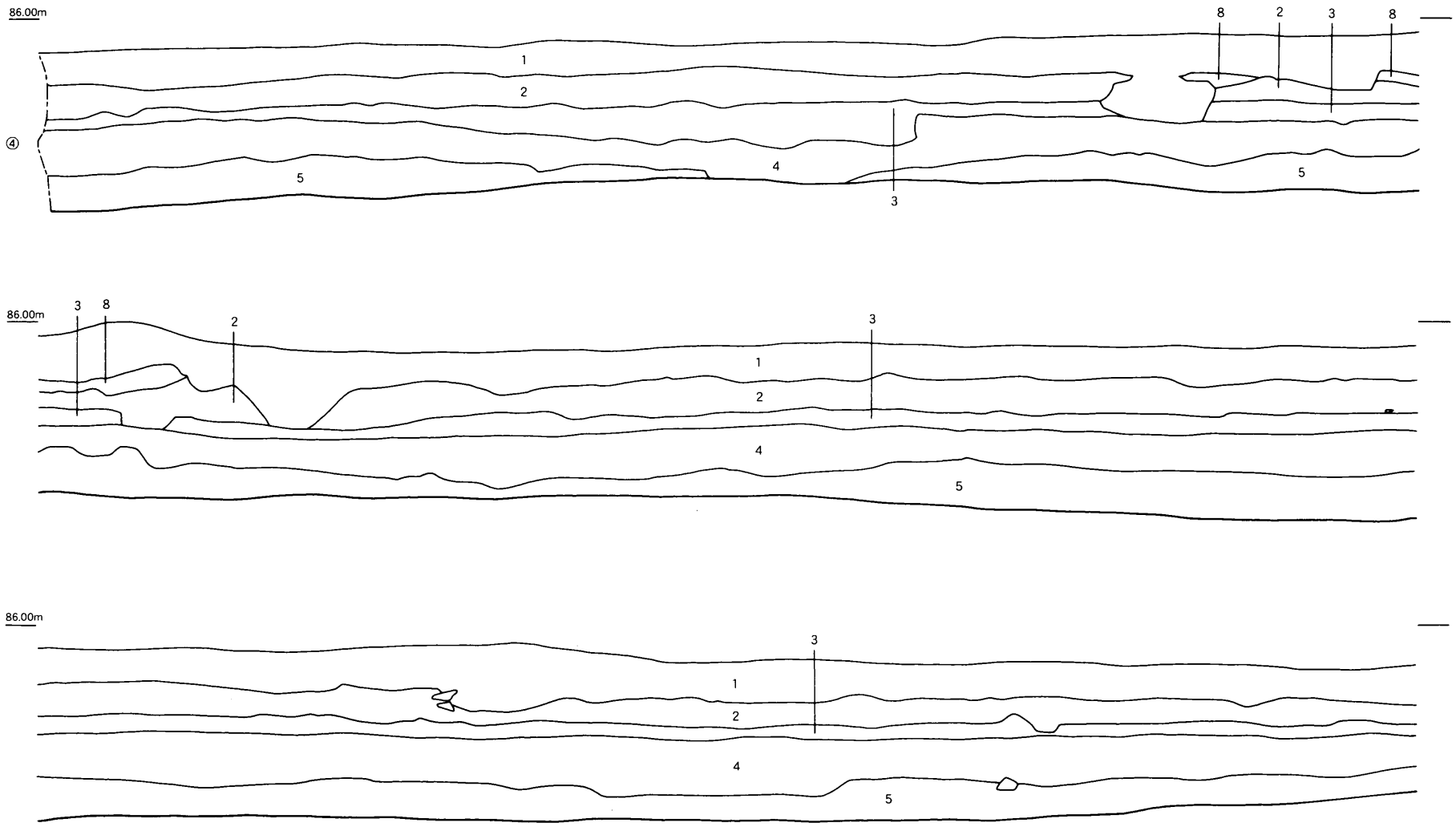
さて、このように河水の影響を強く受けた地域であるが、本対象地の周辺については、規格性のある土地区画が試みられた痕跡として、旧満濃町役場西側の県道満濃善通寺線を基軸として、東方へ約200m間隔で設けられた直線状の土地区画の存在が認められる。ただし、南北方向の区画線が不整なことから、完成に至らなかったものと考えられる。


84.70m
①
84.70m
85.20m
②
85.20m
85.20m
85.20m
1 灰黒色シルト（現耕作土）
2 暗灰色シルト（現耕作土）
3 暗橙色シルト（床土）
4 暗黄色シルト（床土）
5 明黄色シルト（床土）
6 黒褐色シルト（やや粘性あり）
7 暗黄褐色シルト（砂礫混入。基盤土の可能性あり）
0
1 m

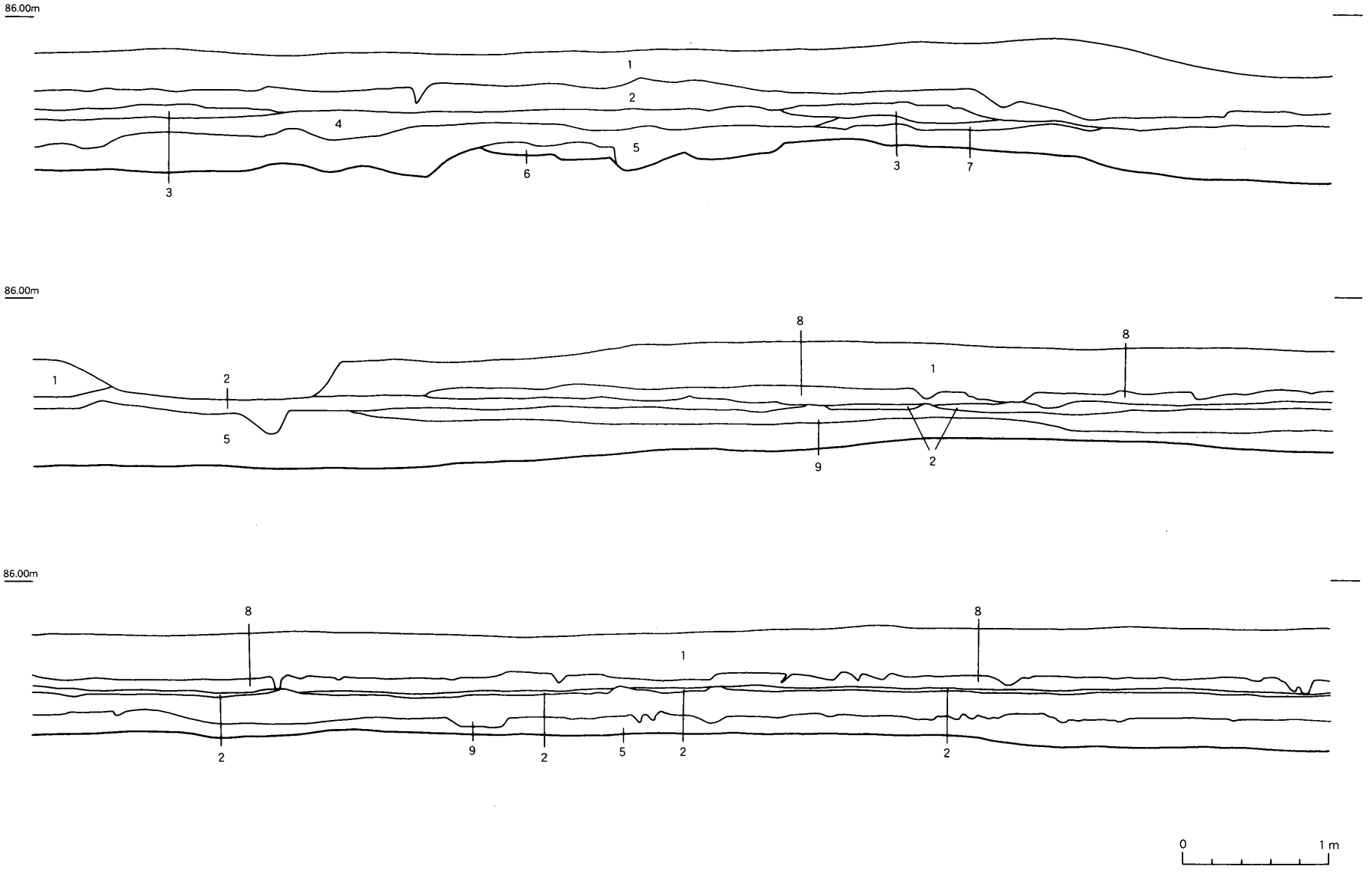
第５図　土層序実測図１


85.20m
85.20m
85.40m
③
85.40m
85.40m
85.40m
0
1 m
1　黒灰色シルト（現耕作土）
2　暗灰黄色シルト（旧耕作土）
3　暗黄色シルト（旧耕作土。床土）
4　暗灰色シルト（遺物包含層）
5　黒褐色シルト（濃黄色シルト混入。黄色ブロック少量混入。遺物包含層）
1　黒灰色シルト（耕作土）
2　灰白色シルトと濁黄色シルト（床土）
3　濃黄色シルト（床土。旧耕作土）
4　暗灰色粘性土（下位ほど黒色が濃い）
5　漆黒色シルト（遺物包含層）
6　漆黒色シルト（粒子緻密）
7　漆黒色シルト（直径１～５cmの礫混入）
8　基盤土壌の漸移層
9　漆黒色シルト（礫多量に混入）
10　灰黄色シルト（床土）
11　灰黄色シルト（床土）
12　暗灰色粘性土
13　黒灰色シルト

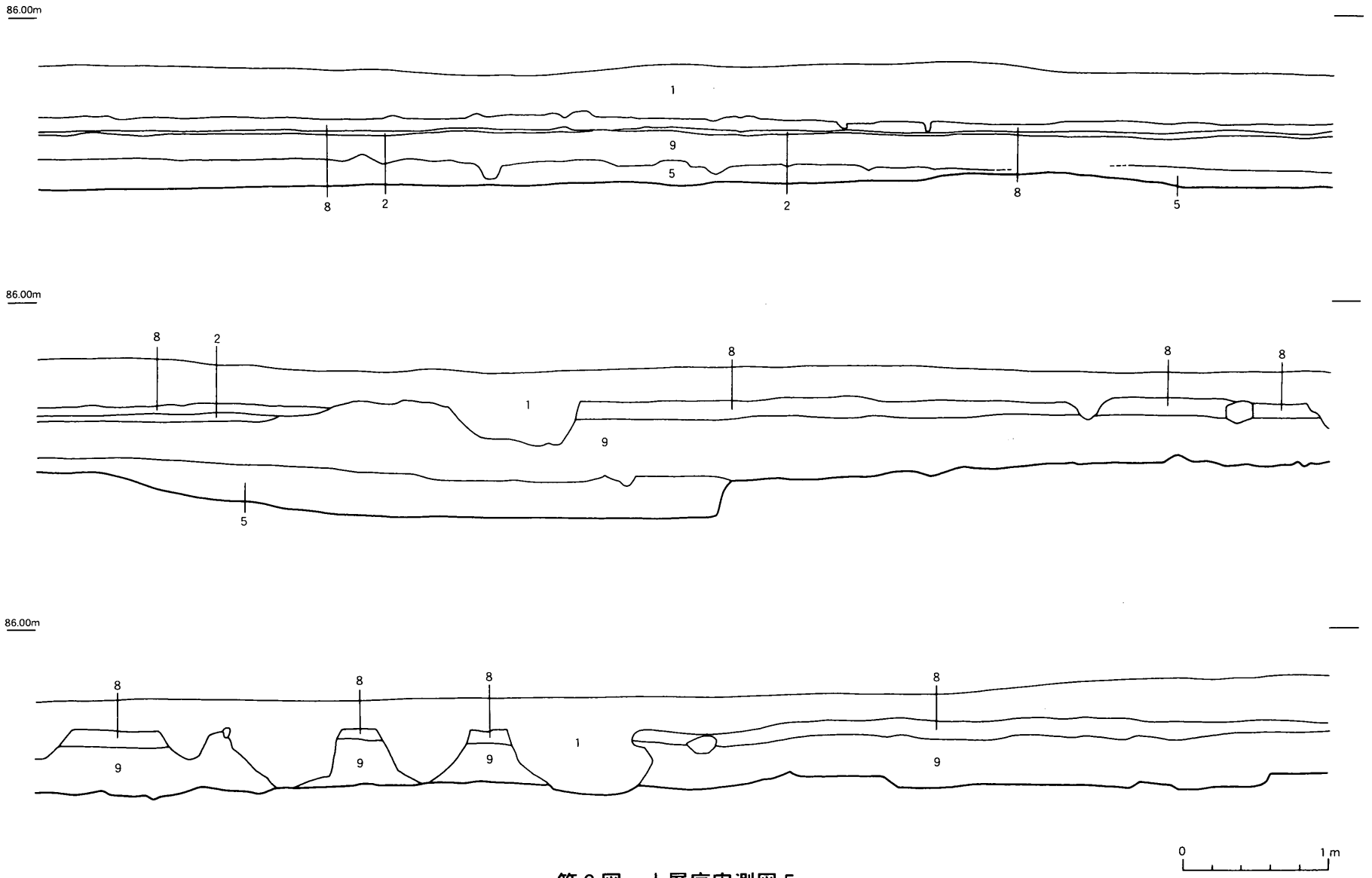
第６図　土層序実測図２



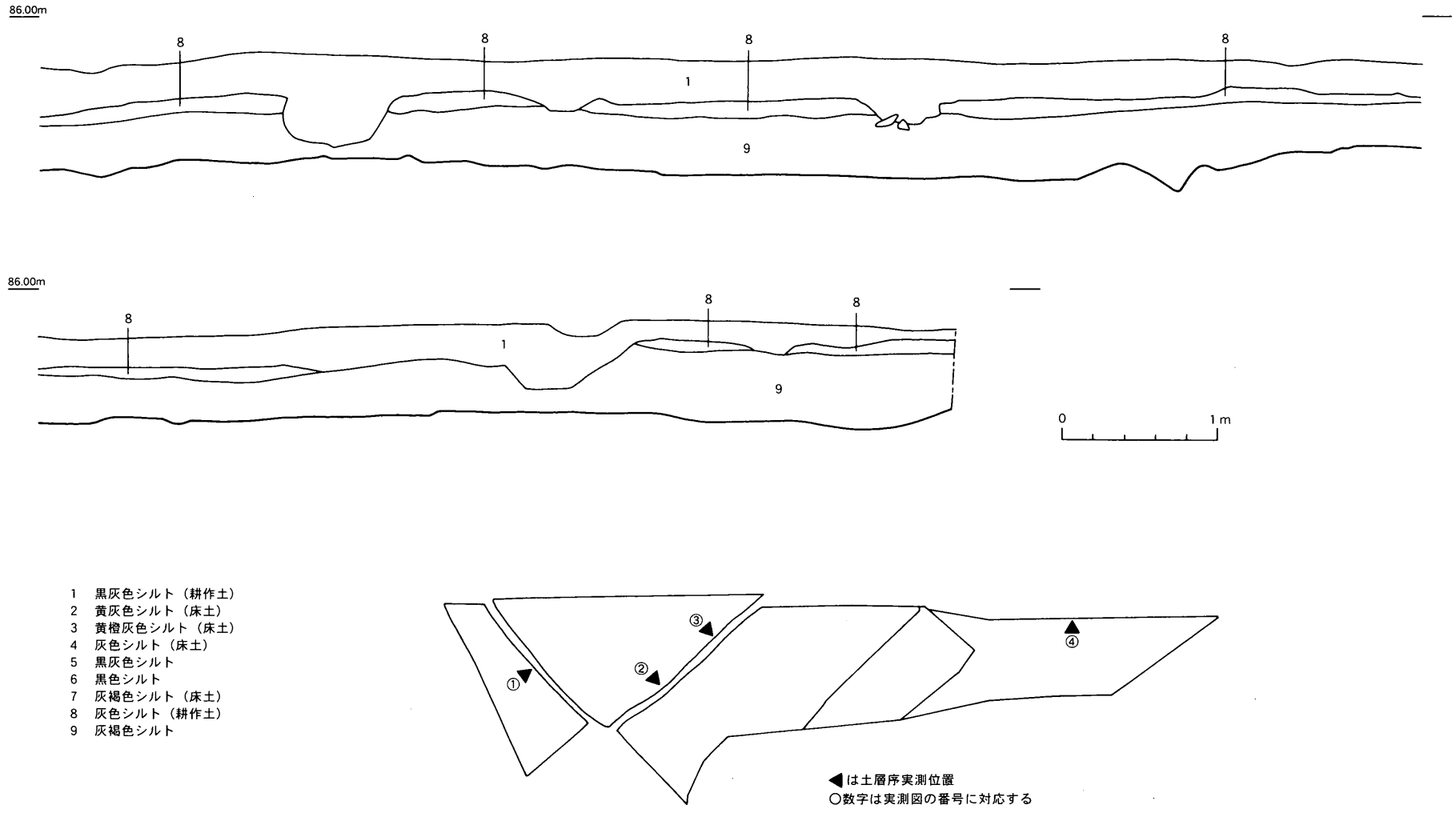
第７図　土層序実測図３



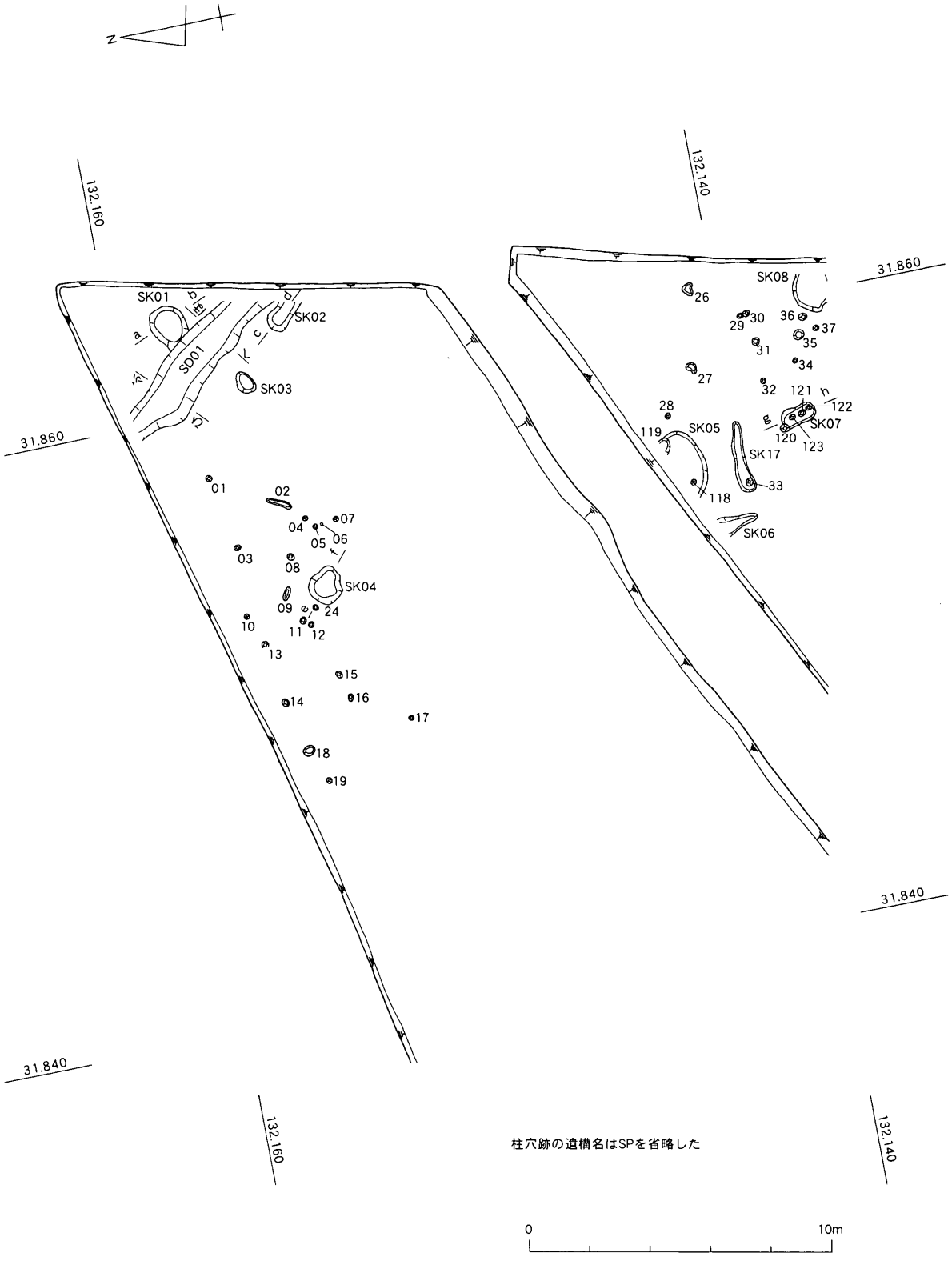
第８図　土層序実測図４



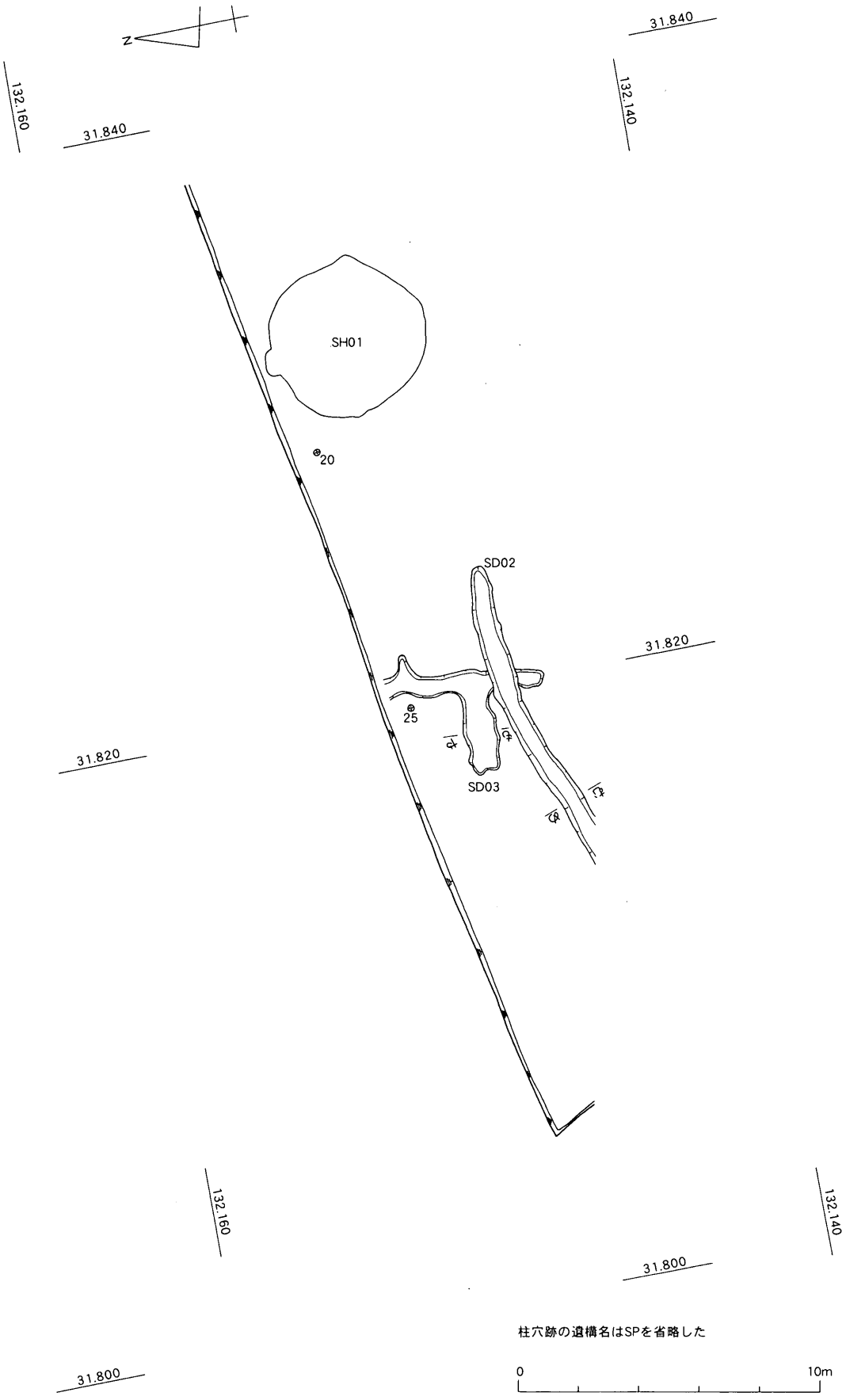
第９図　土層序実測図５



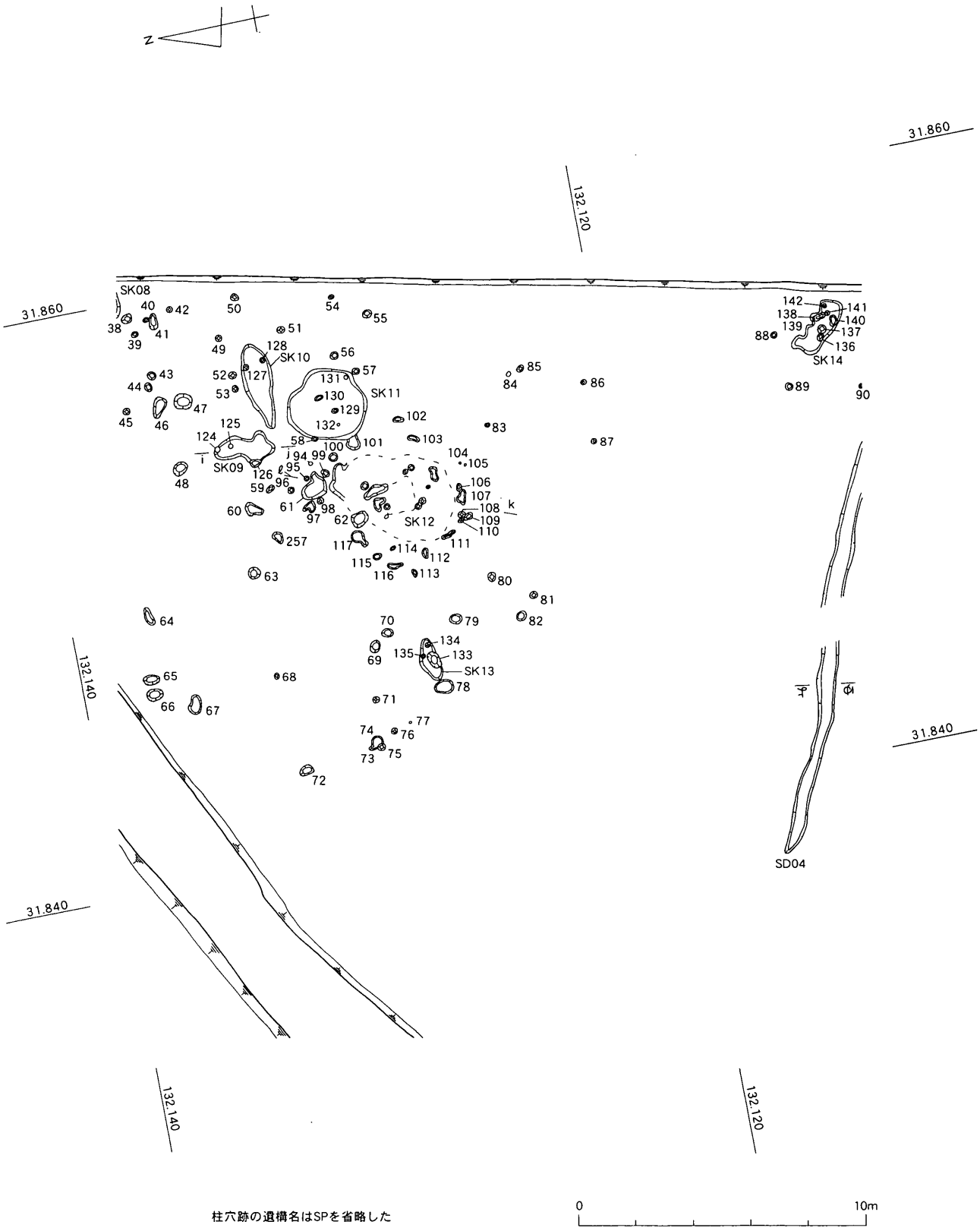
第10図　土層序実測図 6


N
132.160
132.140
31.860
31.840
SK01
SK02
SK03
SK04
SK05
SK06
SK07
SK08
SK17
SD01
01
02
03
04
05
06
07
08
09
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
24
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
118
119
120
121
122
123
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
0
10m

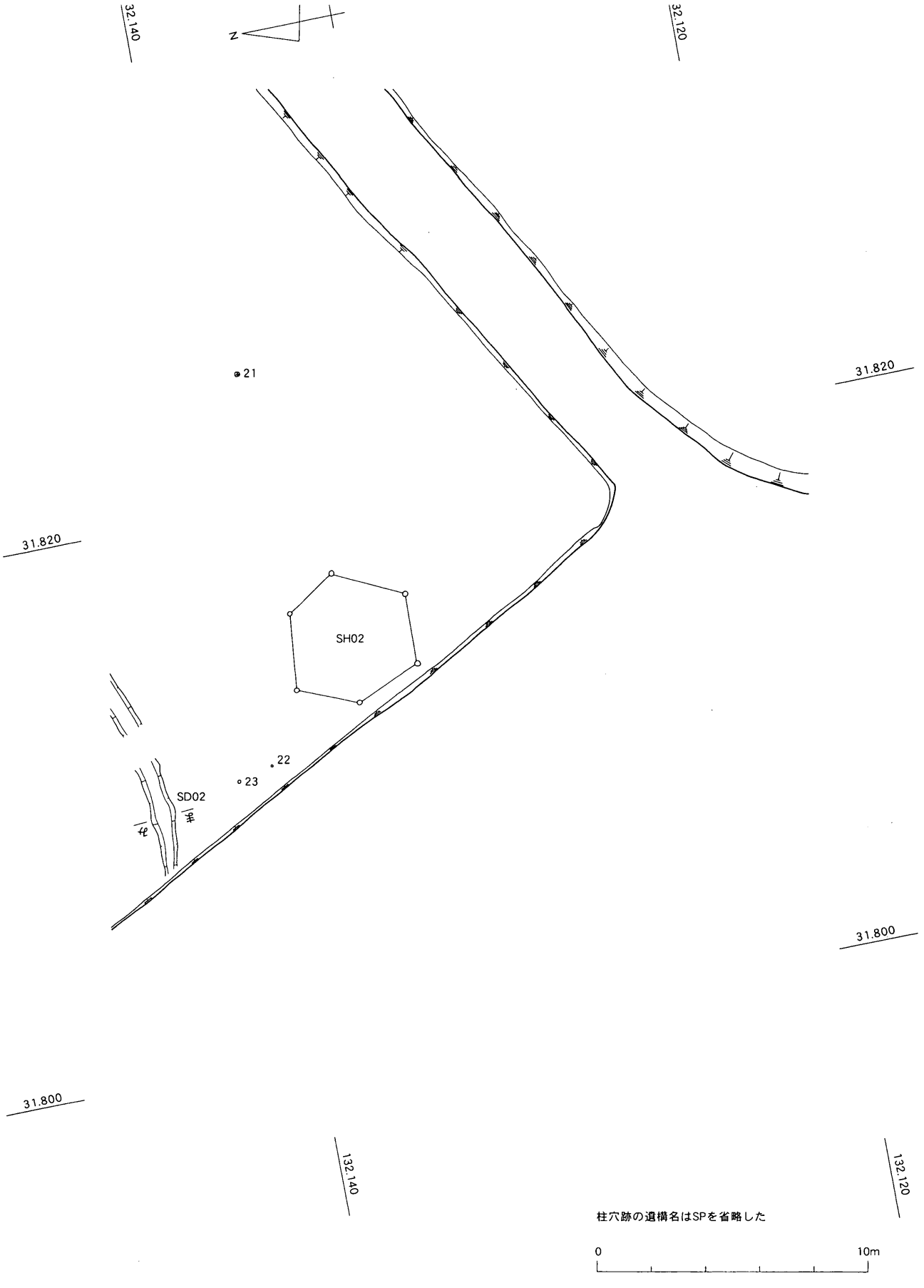
第11図　遺構配置図 1


N
31.840
132.160
31.840
132.140
SH01
20
SD02
31.820
25
31.820
SD03
132.160
132.140
31.800
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
31.800
0
10m

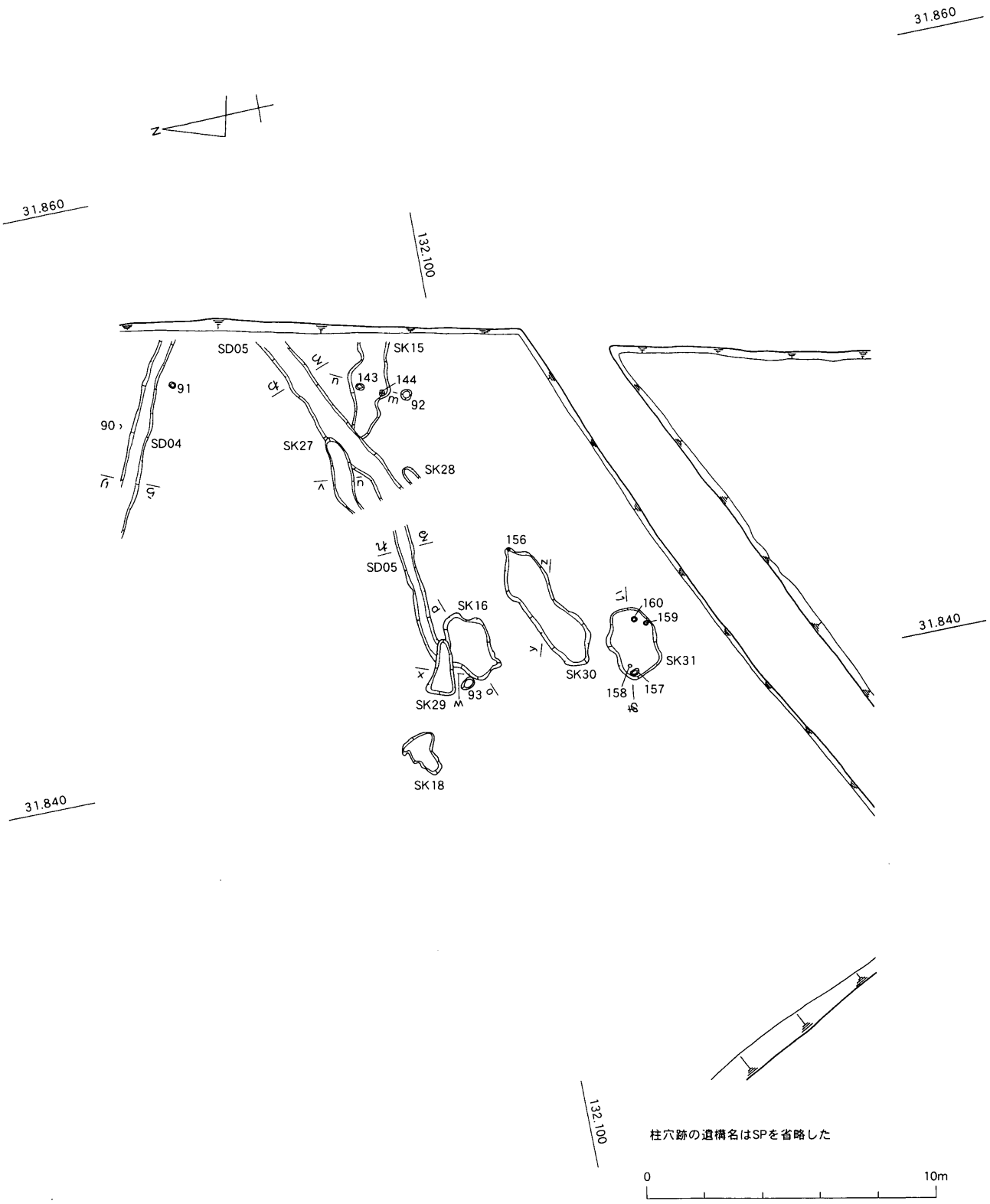
第12図　遺構配置図２


N
31.860
132.120
31.860
SK08
SK09
SK10
SK11
SK12
SK13
SK14
SD04
132.140
31.840
31.840
132.140
132.120
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
0
10m

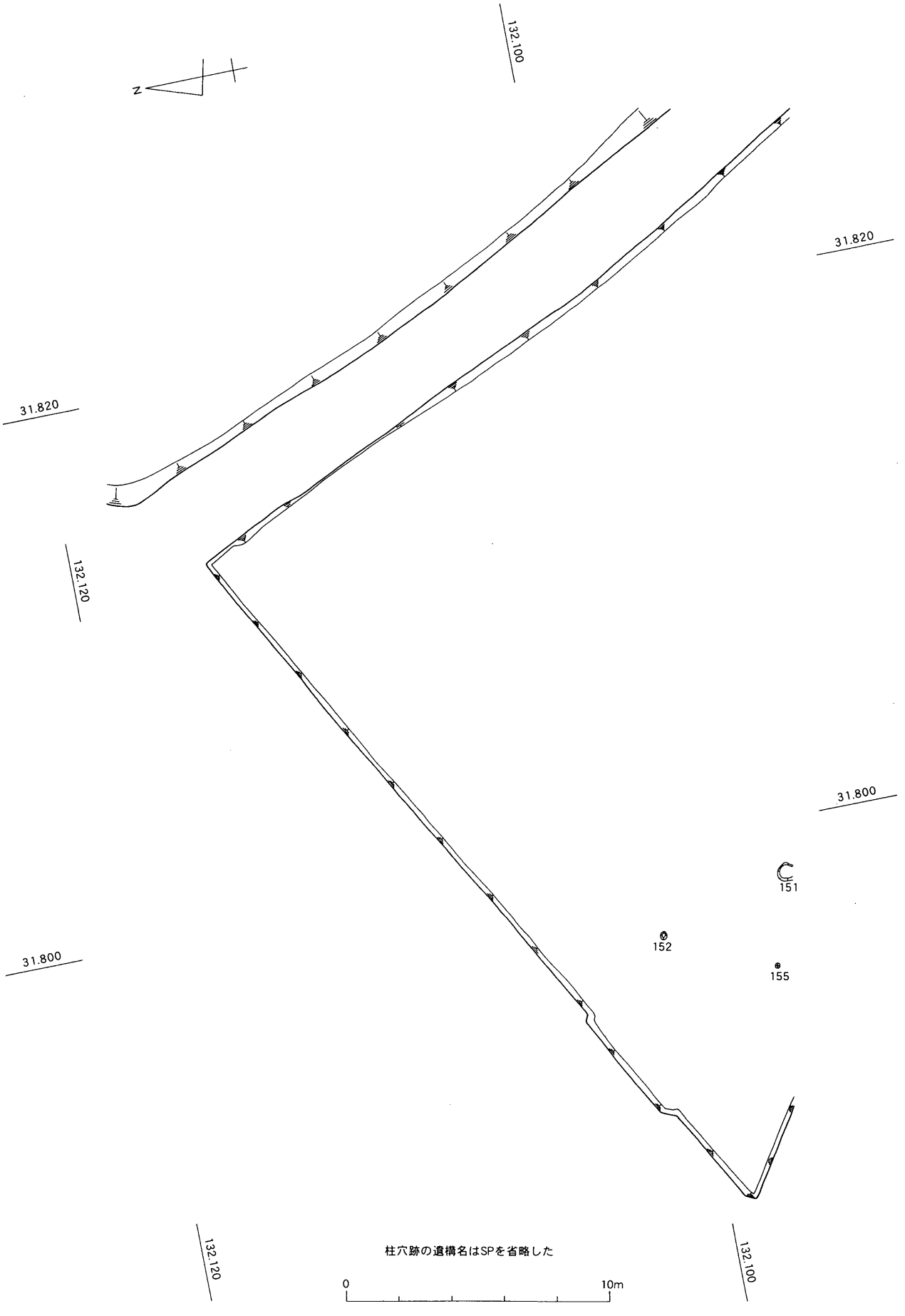
第13図　遺構配置図３


32.140
N
32.120
21
31.820
31.820
SH02
22
23
SD02
31.800
31.800
132.140
132.120
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
0
10m

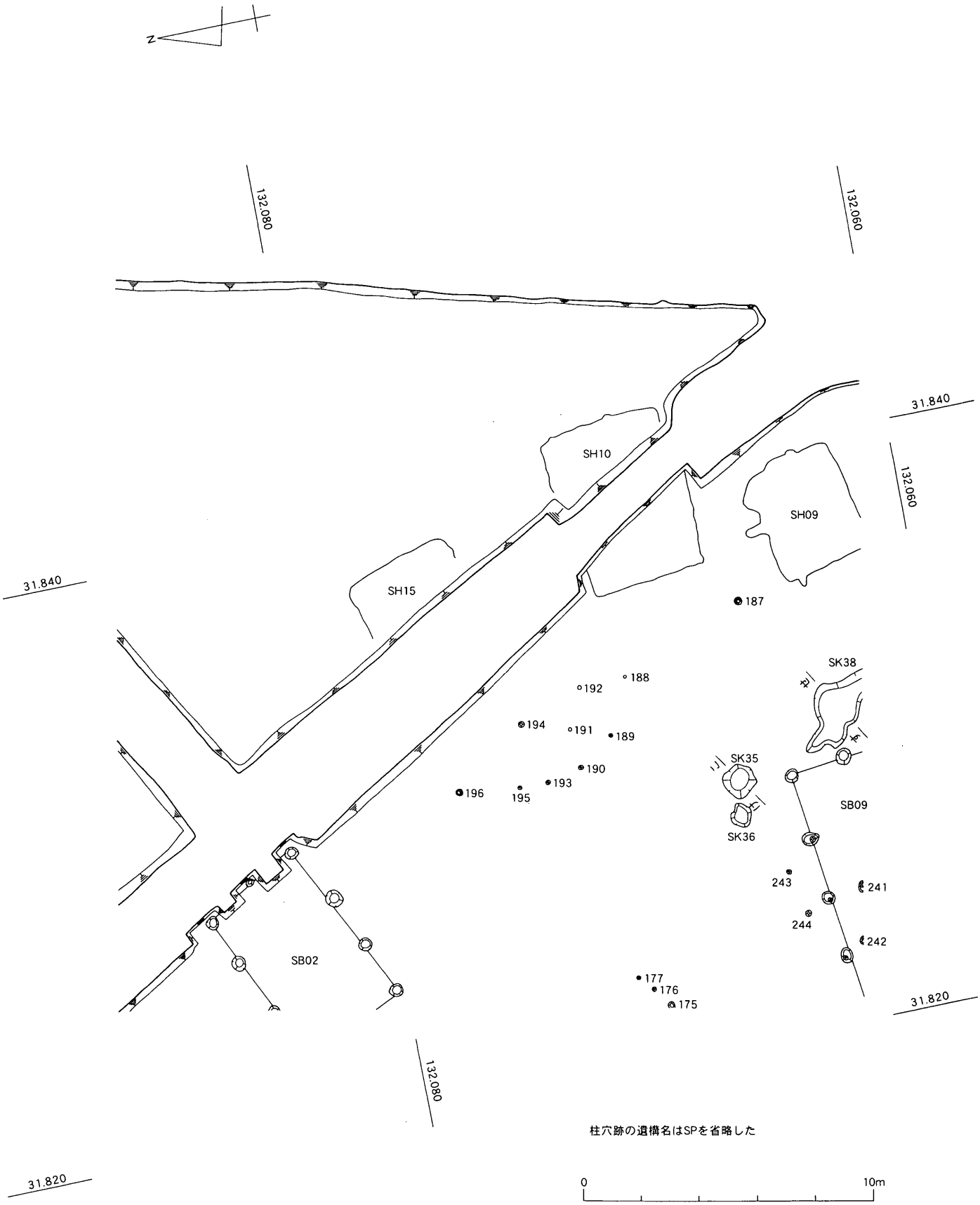
第14図　遺構配置図４


31.860
31.860
132.100
SD05
SK15
143
144
92
91
90
SD04
SK27
SK28
SD05
156
SK16
160
159
31.840
SK30
SK31
158
157
SK29
93
SK18
31.840
132.100
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
0
10m

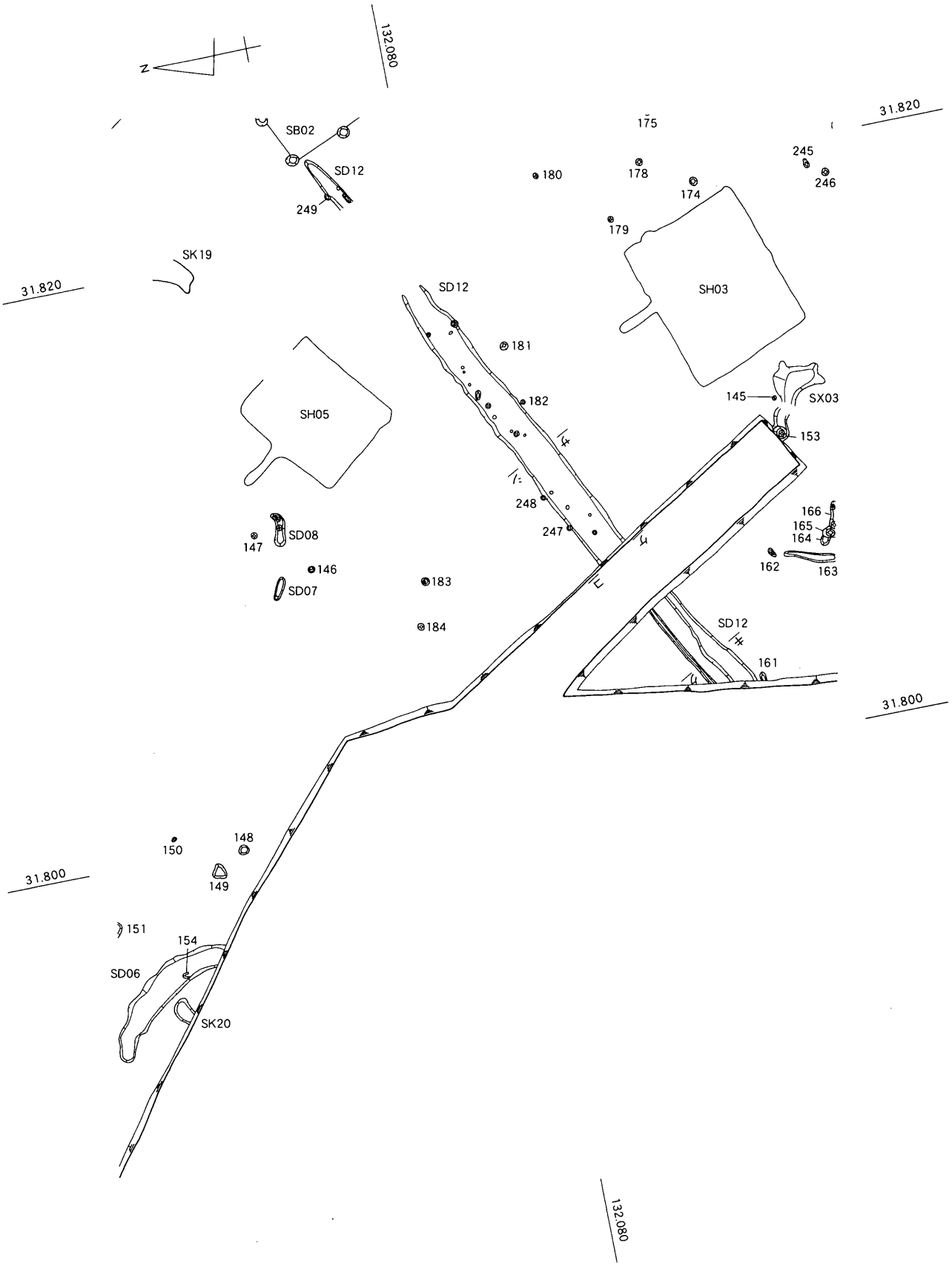
第15図　遺構配置図５


132.100
N
31.820
31.820
132.120
31.800
151
152
155
31.800
132.120
132.100
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
0
10m

第16図　遺構配置図 6

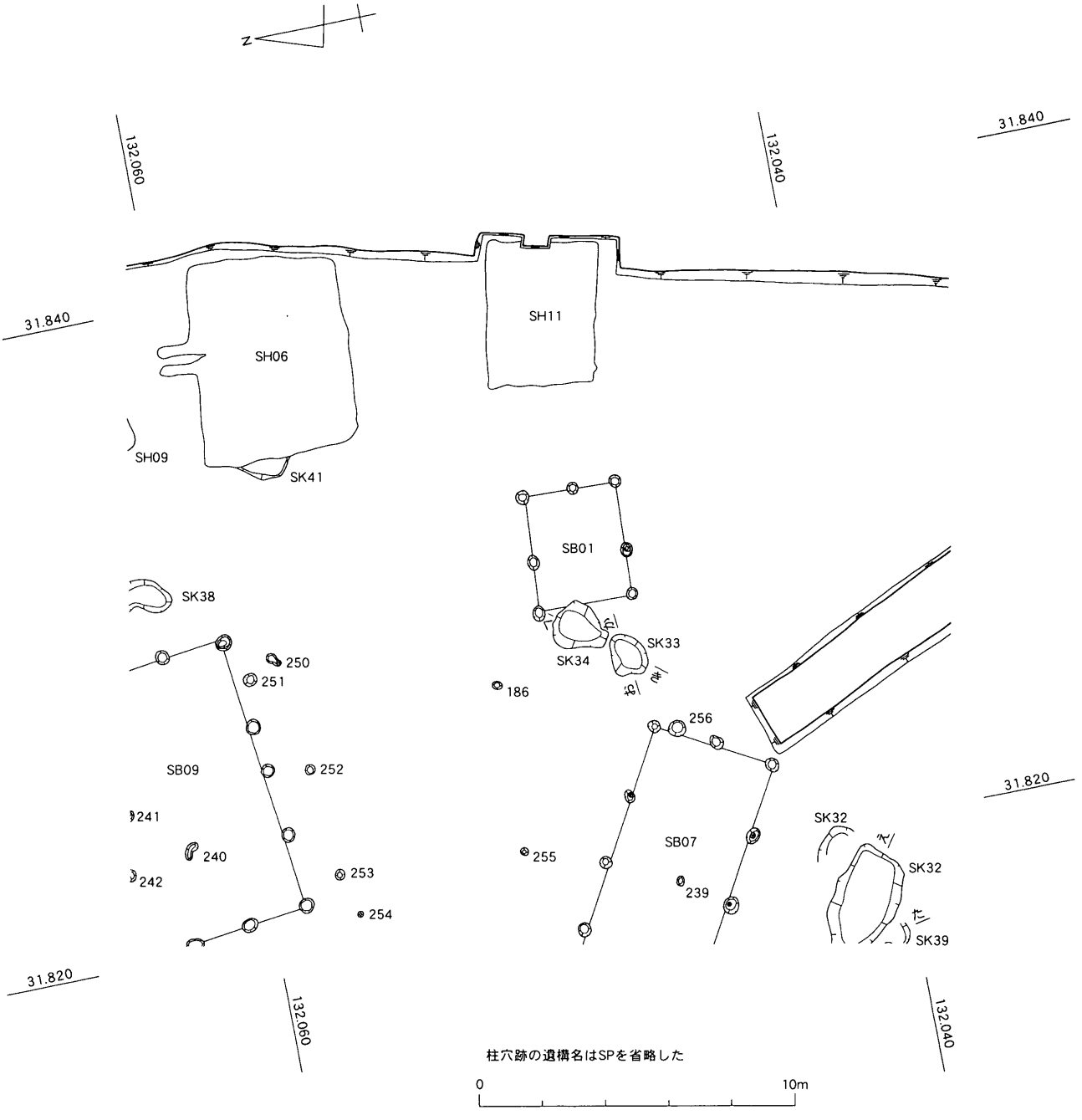

N
132.080
132.060
31.840
SH10
SH09
SH15
187
188
192
194
191
189
190
193
196
195
SK38
SK35
SK36
SB09
243
241
244
242
SB02
177
176
175
31.820
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
0
10m

第17図　遺構配置図７

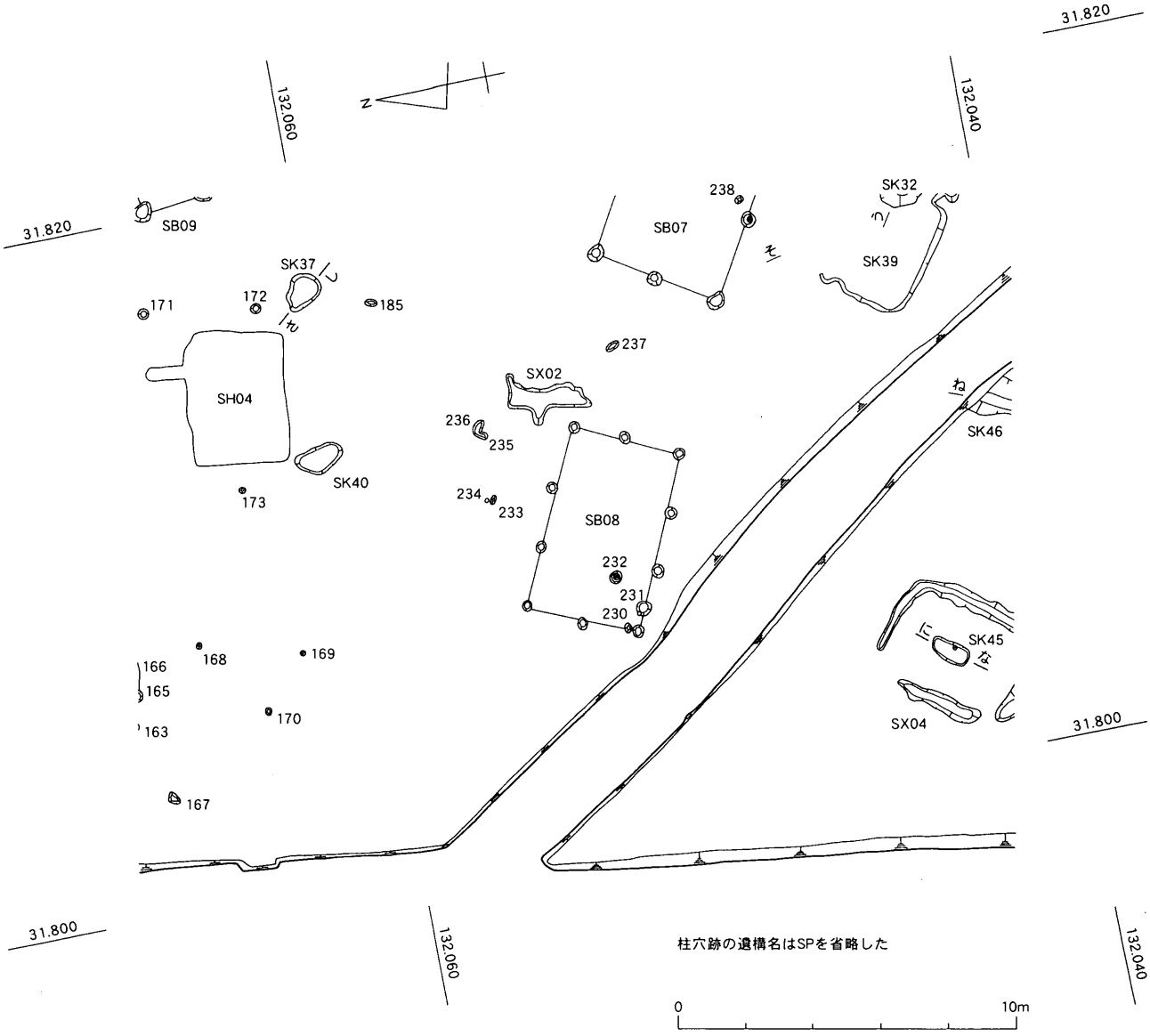


柱穴跡の遺構名はSPを省略した

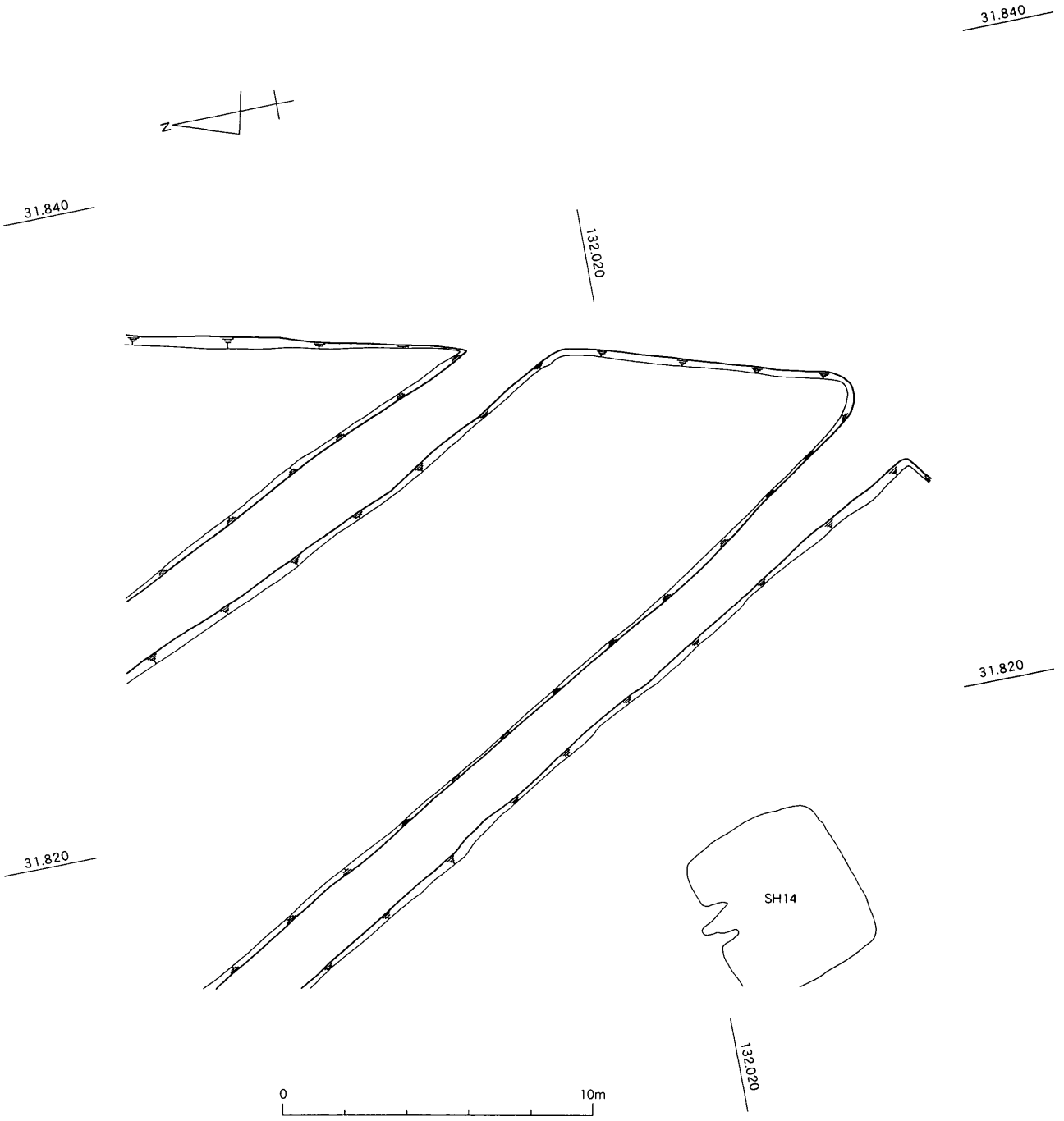
第18図　遺構配置図８


N
132.060
132.040
31.840
31.840
SH11
SH06
SH09
SK41
SB01
SK38
SK33
SK34
250
251
186
256
SB09
252
31.820
241
SK32
SB07
240
255
SK32
242
253
239
254
SK39
31.820
132.060
132.040
柱穴跡の遺構名はSPを省略した
0
10m

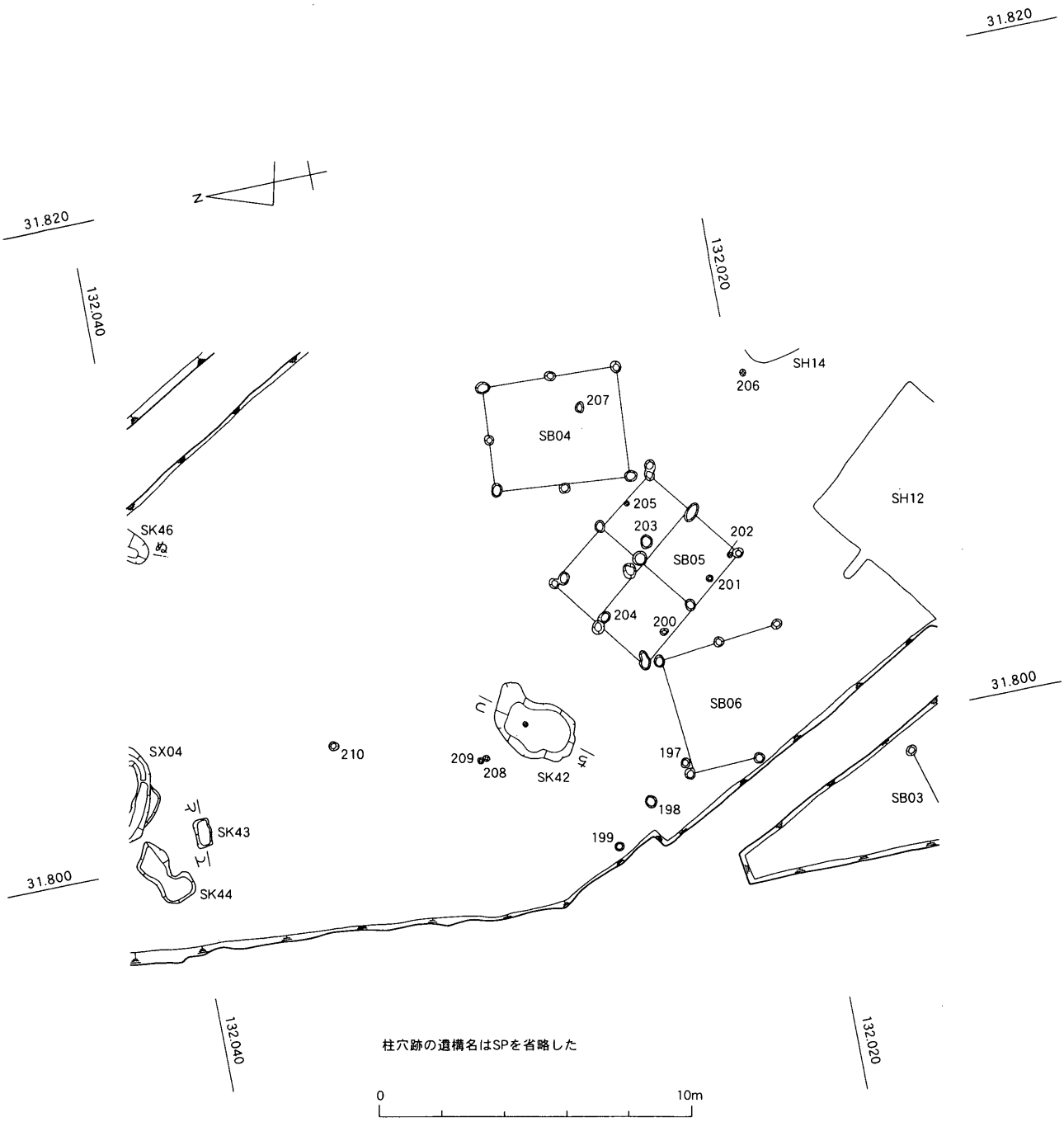
第19図　遺構配置図９



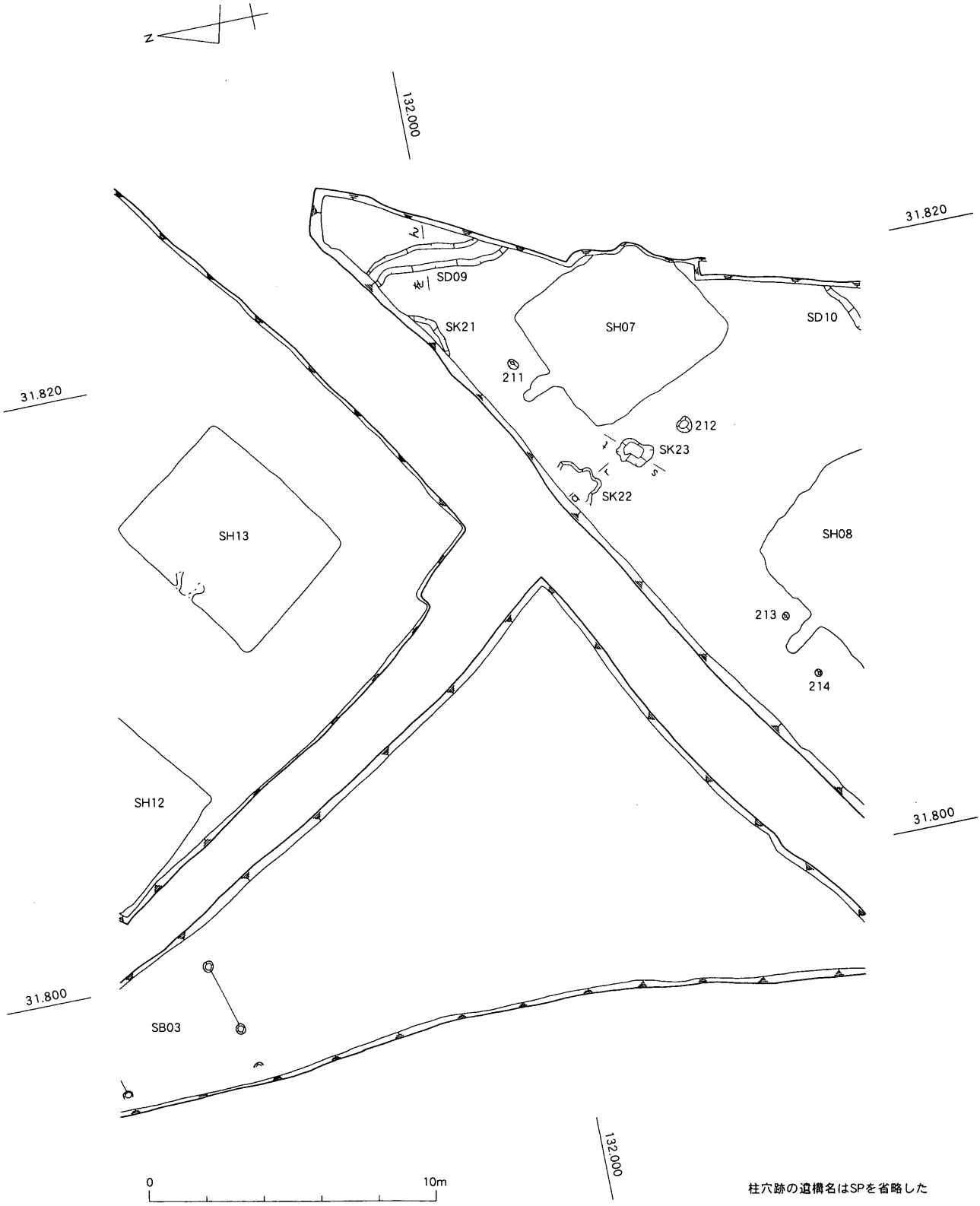
第20図　遺構配置図10



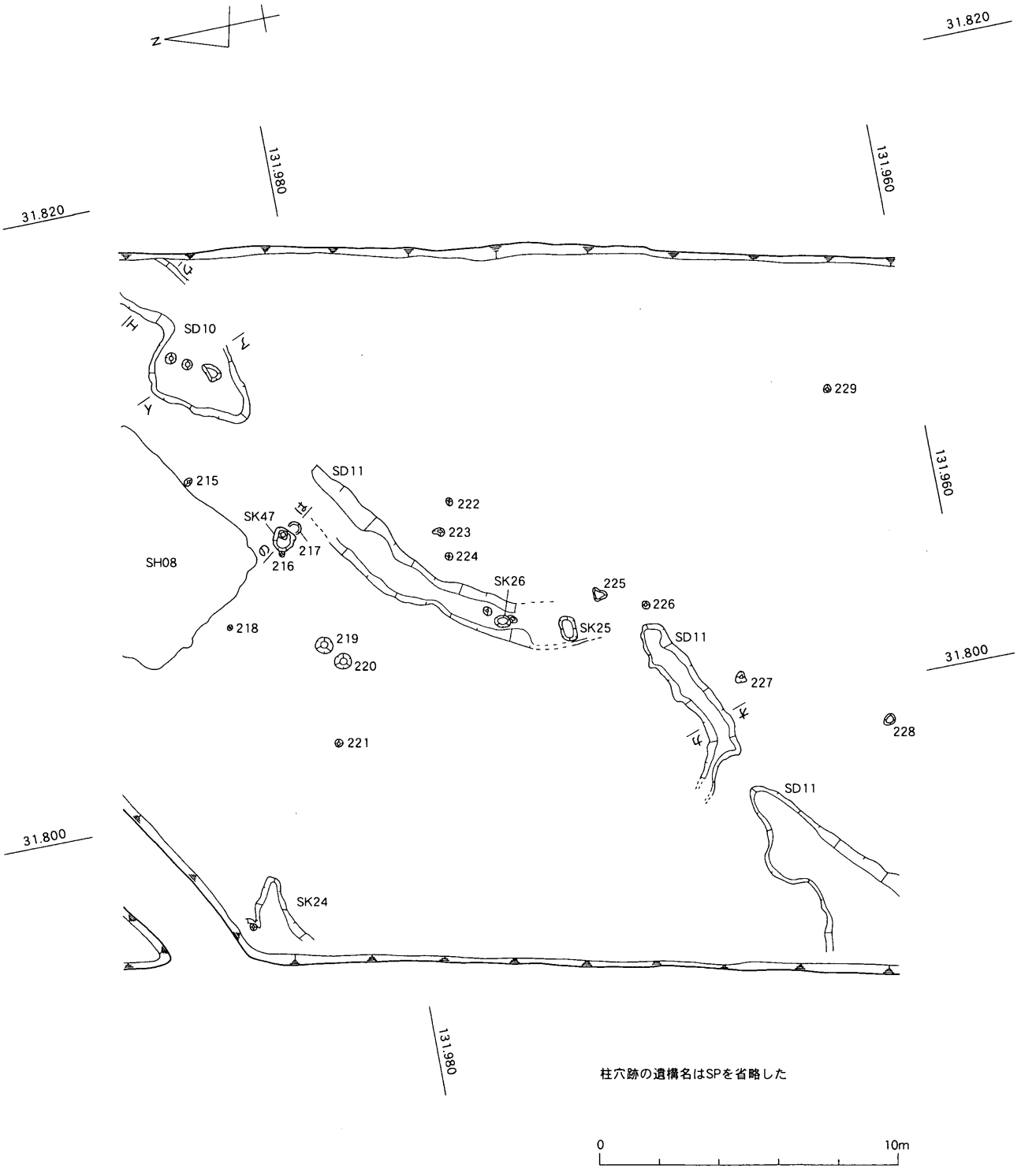
第21図　遺構配置図11



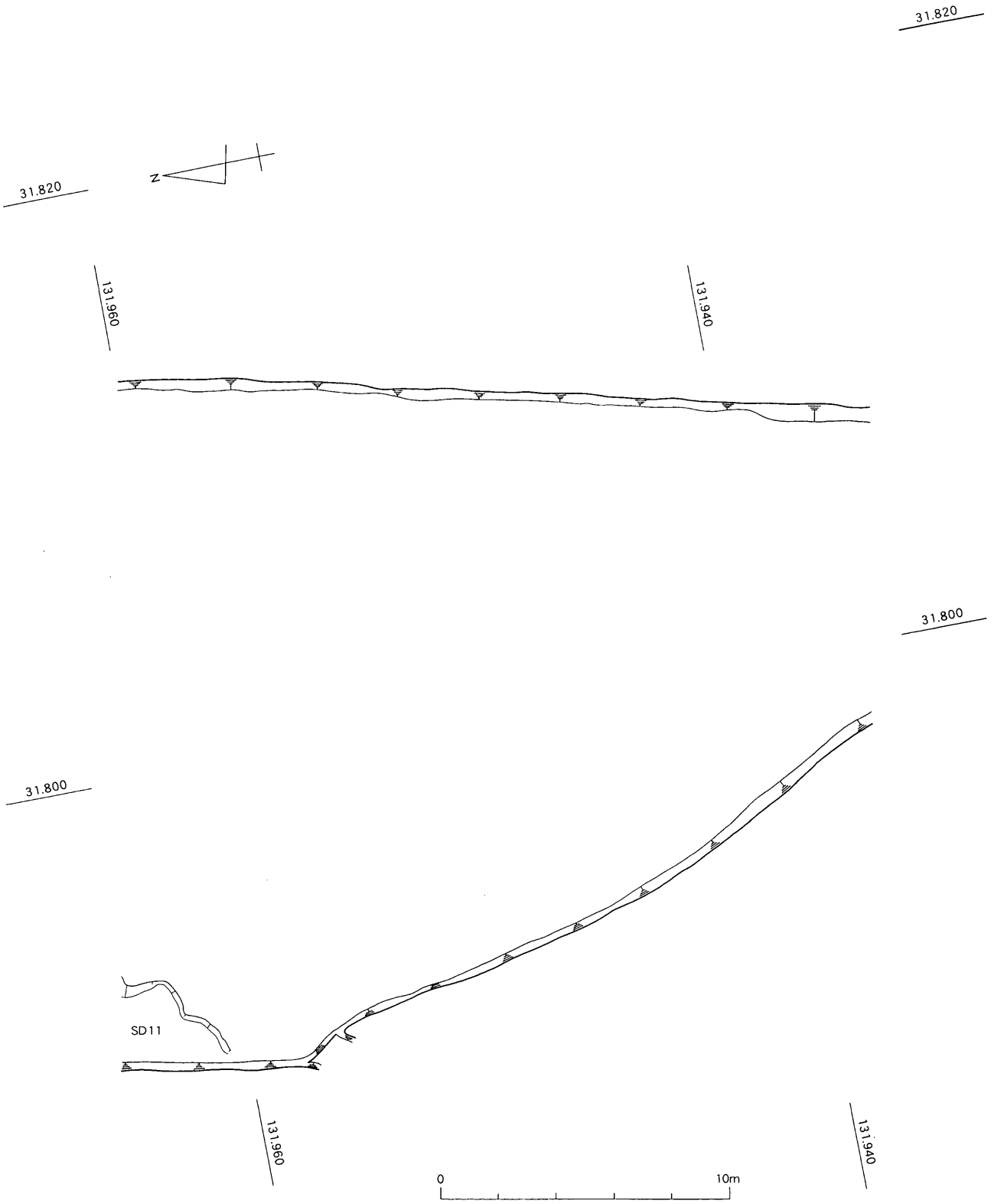
第22図　遺構配置図12



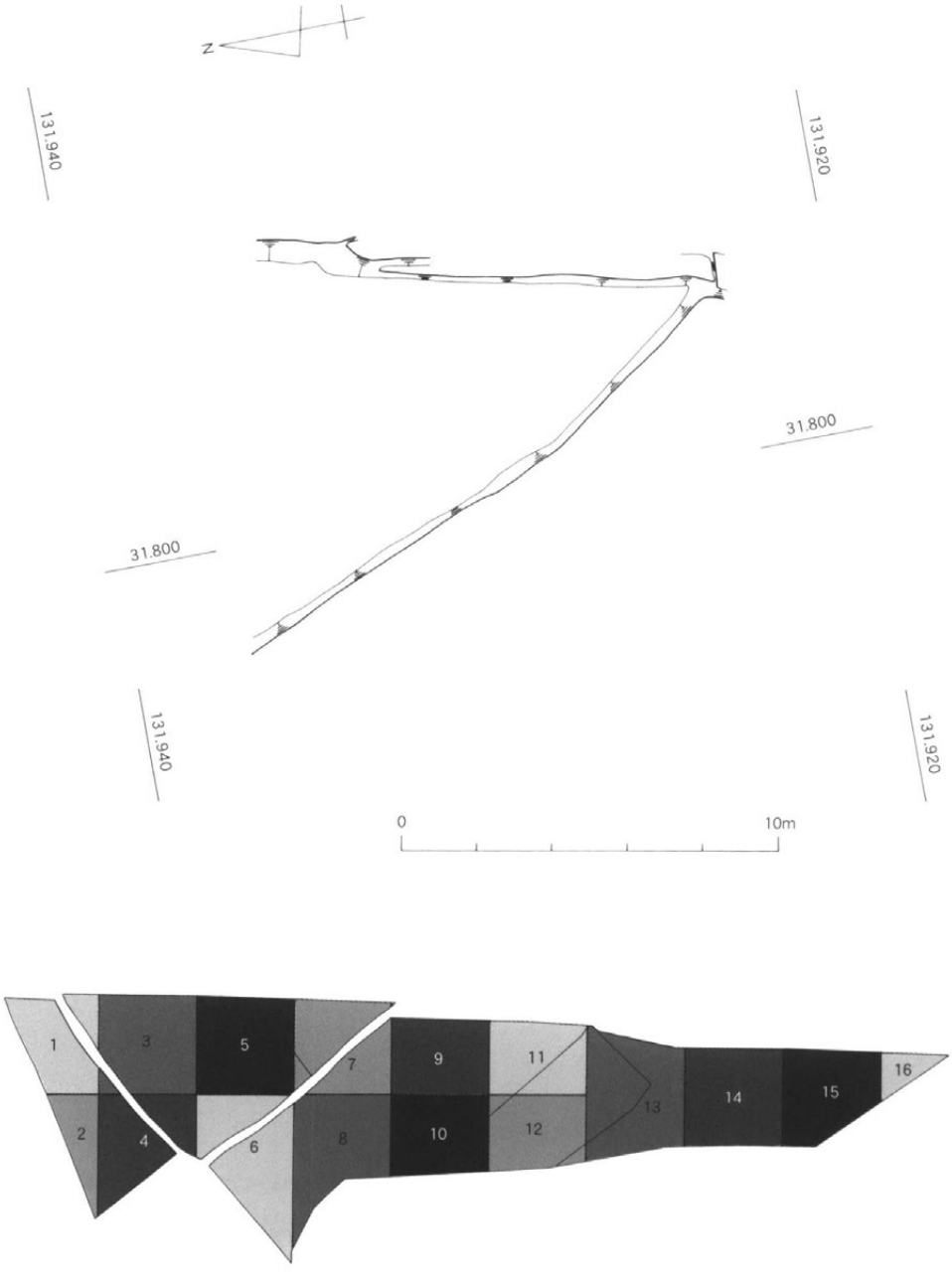
第23図　遺構配置図13



第24図　遺構配置図14



第25図　遺構配置図15



第26図　遺構配置図16

第３章　発掘調査の成果

第１節　土層序

対象地は、隣接する琴平町とまんのう町の中心街や、国道32号や県道等の主要幹線道路から離れていることから、過去において、農耕地としての利用以外の大規模な土地改変が行われることがなかったために、古い地形が維持されていると判断される。

また、表土から基盤土までの堆積層が薄い事実や、すべての竪穴住居跡が竈の上部構造を欠損していた事実から、河川に近接した位置でありながら、土砂の堆積の進行が鈍い上に、早くから人為的な開墾が繰り返されたことがわかる。

土層序は、対象地の全域にわたって、現代の農耕地の水田耕作土が占める割合が高く、各層は水平な堆積状態を示していた。

基本土層序は以下のとおりである。

第１層：表土（現代の水田耕作土を含めて、過去に同様の目的により形成されたと考えられる複数の土壌。耕作土直下の充填土（いわゆる「床土」）を含む）

第２層：黒色系シルト（Ⅱ区を中心に、一部の基盤土の上位に堆積した遺物包含層。凹地形が湿地状態となり、長期間にわたって無酸素状態化したことにより形成されたことが考えられる）

第３層：黄灰色シルトと砂礫（基盤土の扇状地を形成した土壌）

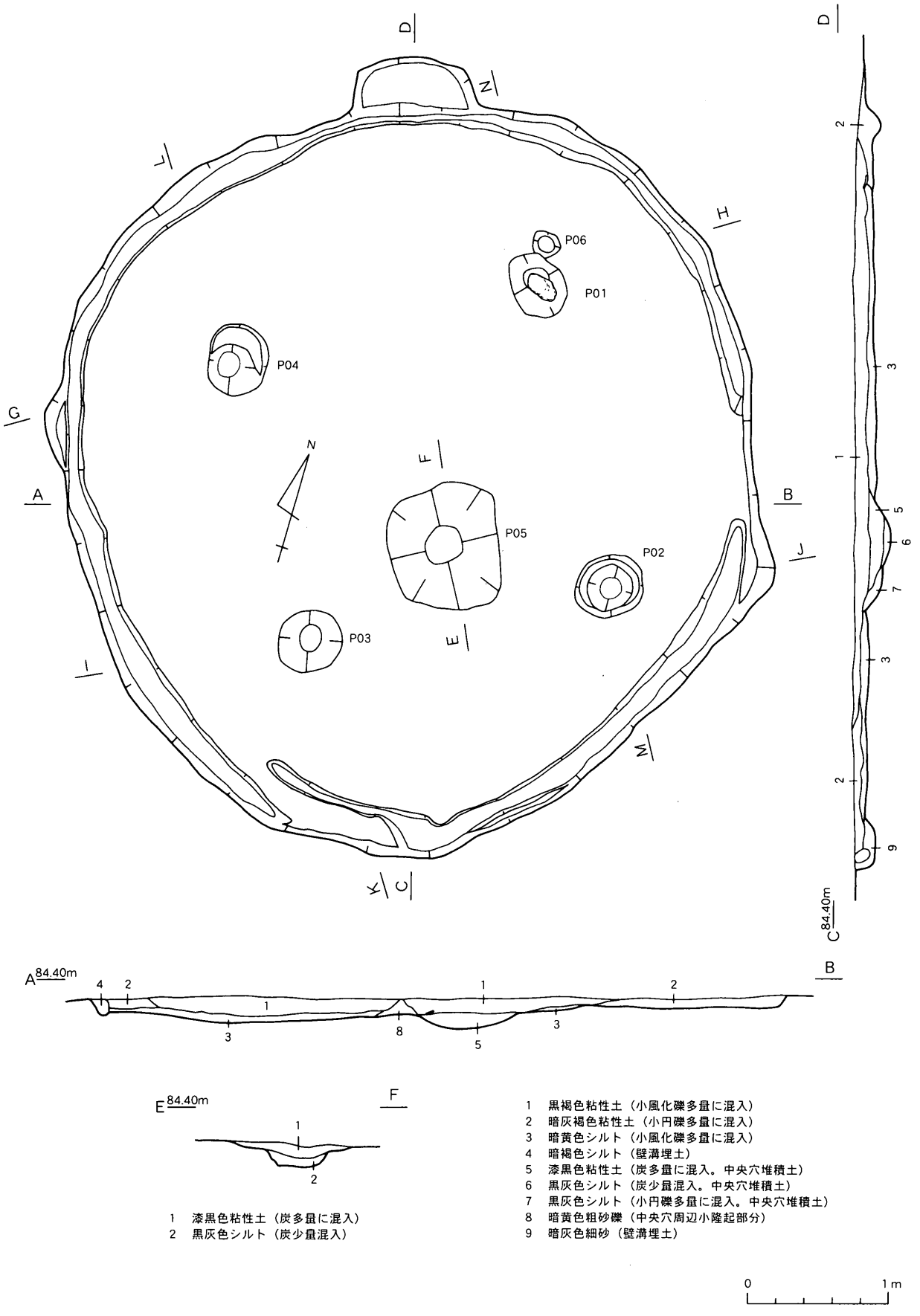
第２節　遺構と遺物

報告に際しての留意点は、以下のとおりである。

・遺構略号は、原則として種類別の古い所属時期順に「01」からの通し番号とした。
・竪穴住居跡に伴う柱穴跡、土坑の遺構略号は、「S」を削除して、遺構ごとに「P01」、「K01」からの通し番号とした。
・遺構の平面形態、規模、方向性については、種類別に一覧表にまとめ、解説文との重複を避けた。
・弥生土器の各器種の名称については、「壺形土器」は「壺」、「甕形土器」は「甕」のように、「形土器」を省略した。
・当該遺構が、下位の遺構を壊して構築されたか、あるいは下位の遺物包含層を掘削して構築されたときに混入した、本来当該遺構に伴わない遺物については、原則として当該遺構の解説の中で報告した。
・各遺構からの出土品については、遺構ごとに内訳を一覧表にまとめることで報告を簡略化するとともに、実測図を掲載したものについても、図面に表現のある内容と、一覧表の記載と重複する内容についての解説は省略した。

１．弥生時代の遺構

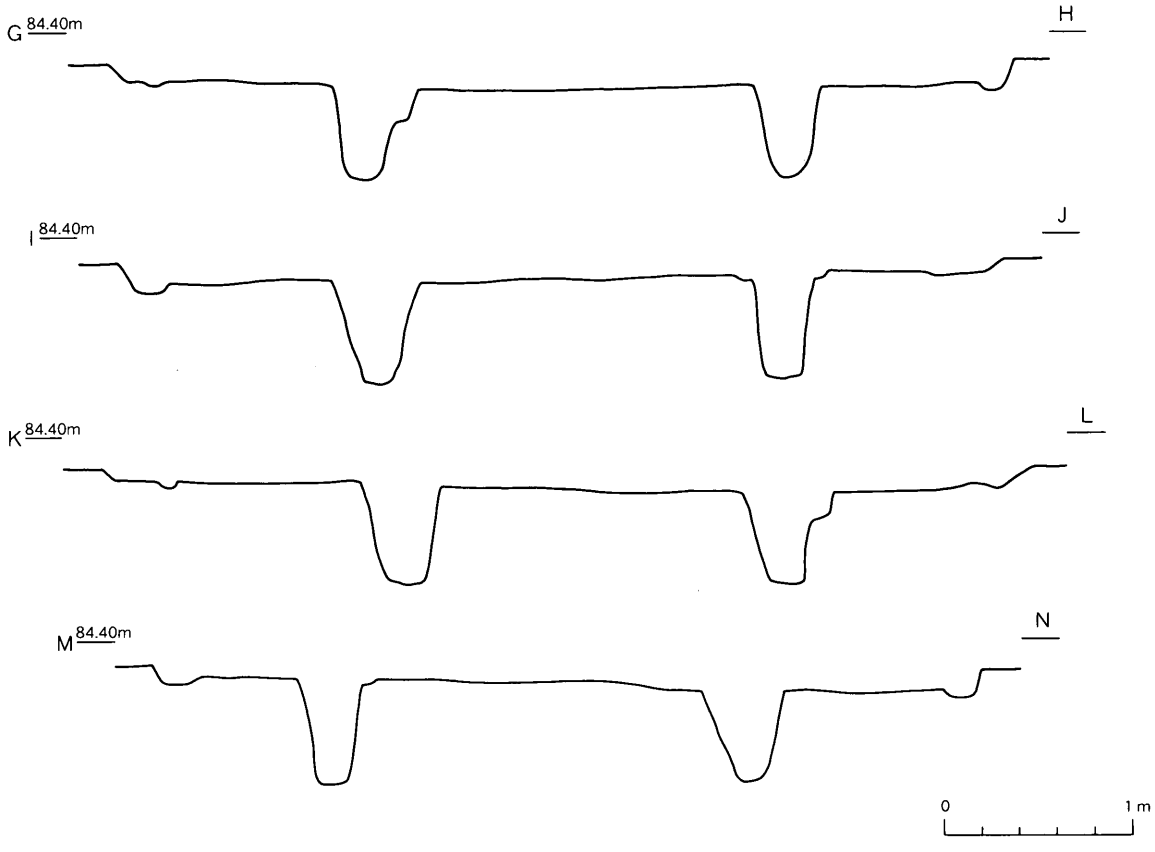
(1)竪穴住居跡



1　黒褐色粘性土（小風化礫多量に混入）
2　暗灰褐色粘性土（小円礫多量に混入）
3　暗黄色シルト（小風化礫多量に混入）
4　暗褐色シルト（壁溝埋土）
5　漆黒色粘性土（炭多量に混入。中央穴堆積土）
6　黒灰色シルト（炭少量混入。中央穴堆積土）
7　黒灰色シルト（小円礫多量に混入。中央穴堆積土）
8　暗黄色粗砂礫（中央穴周辺小隆起部分）
9　暗灰色細砂（壁溝埋土）

1　漆黒色粘性土（炭多量に混入）
2　黒灰色シルト（炭少量混入）

第27図　竪穴住居跡遺構実測図１（SH01）



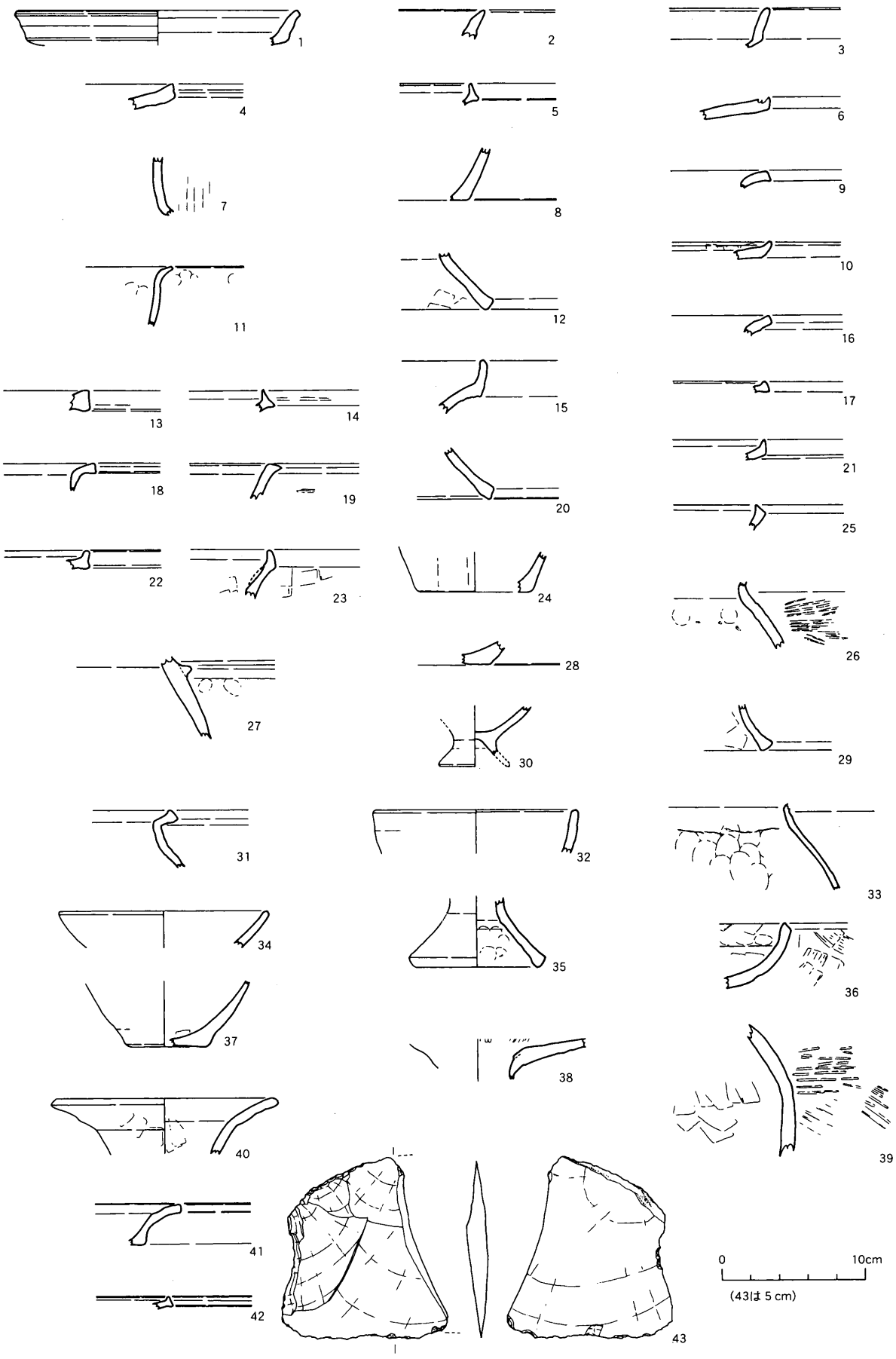
第28図　竪穴住居跡遺構実測図２（SH01）

SH01（第27～29図）

［遺構］対象地の北端部に所在する。全体の平面形態は整然としているが、北壁面の一部分について、長さ30cm、幅80cmの規模で、外方向に矩形に張り出した箇所がある。同所の底面は、最終床面よりも８cm高いため、縦断面が階段状の形態であるとともに、P01とP04の中間箇所に位置することから、住居の出入口に相当した可能性がある。

主柱穴跡はP01～04で、整然とした正方形の配列を示している。壁溝は、東壁面と南壁面の一部分を除いて、全壁面沿いに存在する。底面が平坦な形態の箇所が多いことから、板状のものを埋めるために開削されたことがわかる。P05は４個の主柱穴跡で構成された空間の内部に所在し、埋土中に炭が含まれていたことから、炉跡と判断される。しかしながら、壁面、底面、周辺部に被熱の痕跡は認められない。

［遺物］１～26は埋土の上・中位、27～43は下位あるいは床面の直上の出土品である。小破片が多いことから、住居の廃絶後に混入したものが多いと考えられる。30は粗製品であるが、均整のとれた器形である。33は薄い器壁の精巧なつくりである。38は杯部内部の中心部に充填されていた粘土円盤が脱落している。42の口縁端部には、赤色顔料が付着している。43は原形を保った資料で、直刃の形態である。刃部以外の側縁部にも調整剥離の痕跡が認められることから、定型化の意図があったことがわかる。



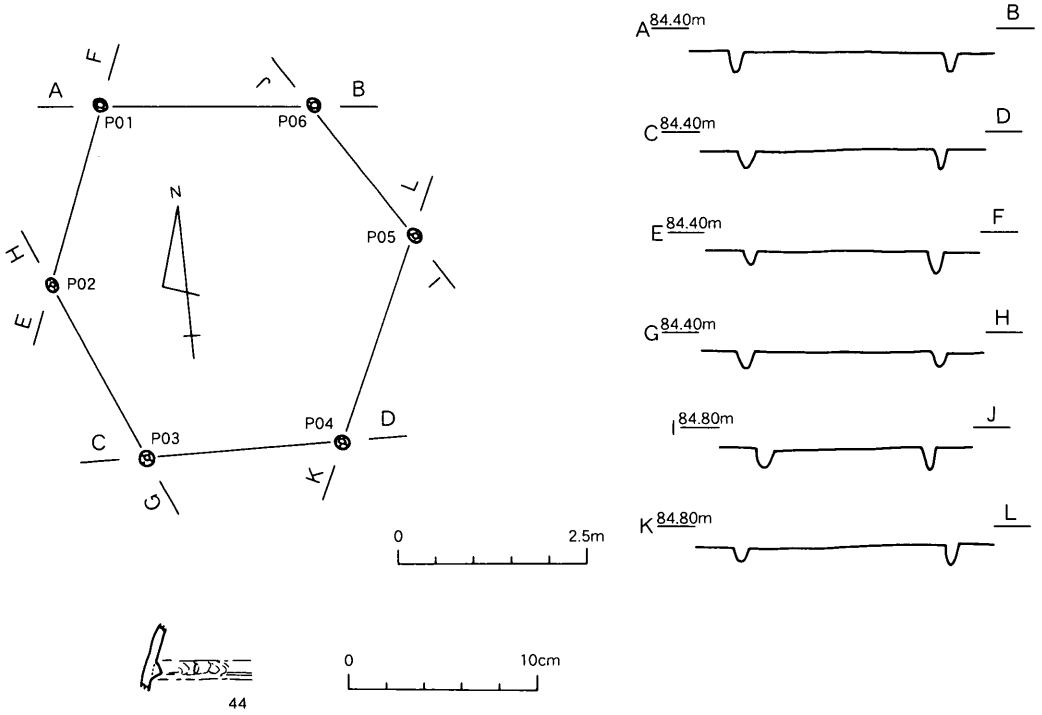
第29図　竪穴住居跡遺物実測図１（１～43：SH01）

SH02（第30図）

[遺構] 対象地の北西端部に所在する。最終床面まで削り取られていたために、６個の主柱穴跡（P01～06）だけが保存されていた。各遺構は柱間距離の値が近似した、整然とした六角形の配置を示すことから、住居の原形は整然とした円形か多角形の平面形態であったことが想像される。

炉跡と壁溝の存在については、全く不明である。

[遺物] 44は混入品の縄文時代晩期の凸帯文土器である。凸帯上には、長楕円形の刺突文が施されている。



第30図　竪穴住居跡遺構実測図３（SH02）・竪穴住居跡遺物実測図２（44：SH02）

(2)土　坑

SK01（第31図）

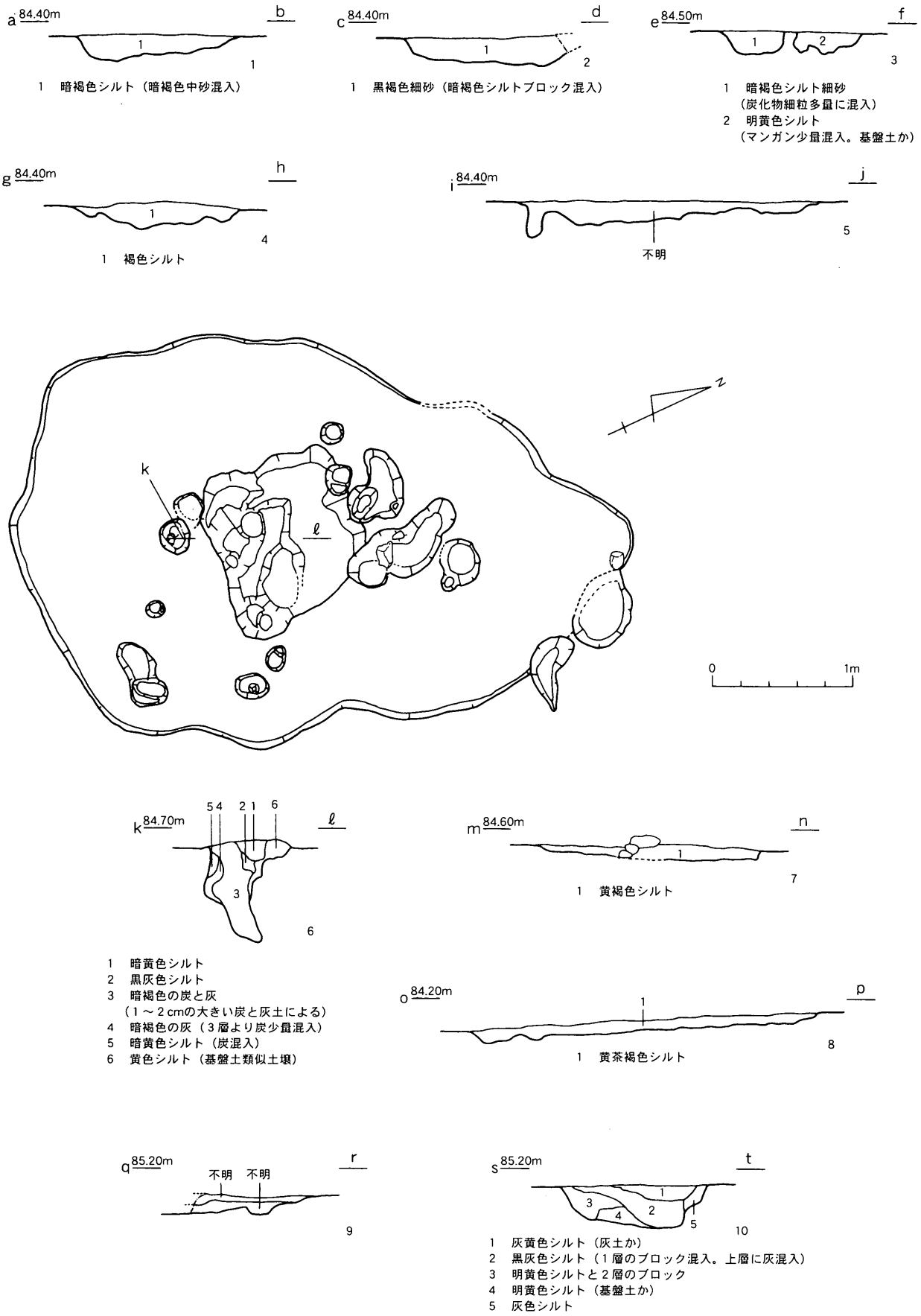
[遺構] 対象地の北東隅部のSD01の下位に所在する。平面形態は整然としているが、壁面の傾斜角度は一定でなく、底面についても東から西方向へ傾斜する形態であることから、計画的に開削された可能性は低い。

SK02（第31図）

[遺構] 対象地の北東隅部に所在する。平面形態が整然としており、壁面が急角度であることや、底面が平坦面を示すことから、墓様の施設と考えられる。

SK05

[遺構] 対象地の北東部に所在する。遺構の北半部が現存する用水路の下部にあるため、全体像は不明であるが、平面形態が整然としていること、壁面の傾斜角度が一定であること、底面が平坦であることの理由により、計画的に開削されたことが考えられる。



（1：SK01，2：SK02，3：SK04，4：SK07，5：SK09，6：SK12，7：SK15，8：SK16，9：SK22，10：SK23）

第31図　土坑遺構実測図1
（SK01，SK02，SK04，SK07，SK09，SK12，SK15，SK16，SK22，SK23）

SK07（第31図）

[遺構] 対象地の北東部に所在する。平面形態は、東側の長側壁面の一部分が歪曲している以外は、概ね整然としている。ただし、縦・横断面が皿型であることと、壁面と底面の凹凸が著しいことから、人工的な施設の可能性は低い。

SK08

[遺構] 対象地の北東部の境界部分に所在する。平面形態は、西壁面の一部分が歪曲している以外は、整然としている。

SK09（第31図）

[遺構] 対象地の北東部に所在する。平面形態が著しく歪曲していることと、断面形態が不整な皿型で、底面の凹凸が激しいことから、樹木が抜き取られて生じた痕跡の可能性がある。

SK10

[遺構] 対象地の北東部に所在する。遺構の中央部から西部にかけて、幅が極端に狭くなっていることから、人工的な遺構でないと判断される。

SK11

[遺構] 対象地の北東部に所在する。平面形態が整然としており、壁面の傾斜角度が均一であることから、計画的に開削されたことが考えられる。

SK12（第31,35図）

[遺構] 対象地の北東部に所在する大型の自然遺構である。全体は浅い凹地形で、中央部が柱穴跡状の形態である。同部の埋土中には、炭が含まれていたが、分量が少ないことや焼土が見られないことから、他所から運搬されたものと考えられる。

SK14

[遺構] 対象地の北部の東側の境界部分に所在する。平面形態が著しく歪曲していることから、自然遺構と考えられる。

SK15（第31図）

[遺構] 対象地の北部の東側の境界部分に所在し、東半部は対象地の外部に存在する。平面形態は不定形な溝状を示し、断面形態は一部に基盤土の未開削箇所のあるために、浅い皿形であることから、自然遺構と考えられる。

SK16（第31図）

[遺構] 対象地の北部の中央部からやや東側に所在する。平面形態は著しく歪曲しており、断面形態は浅い皿形で、底面の凹凸が多いことから、自然遺構と考えられる。

SK23（第31図）

[遺構] 対象地の南部の中央部から東寄りの位置に所在する。平面形態は、北及び南壁面の一部分が崩落によって突出している以外は、整然とした状態である。また、各壁面の傾斜角度は急で、底面も平坦に開削されていることから、断面形態についても整然とした箱型を示す。

埋土中には、灰が含まれていたが、炭や焼土が存在しないために、内部で火が使用されたことは考えられない。

(3)溝状遺構

SD01（第32図）

[遺構] 対象地の北東隅部に所在する。遺構の規模は、北部ほど幅と深さが小さいことから、対象地の外部の北方の地域において延伸部が消滅することが予測される。

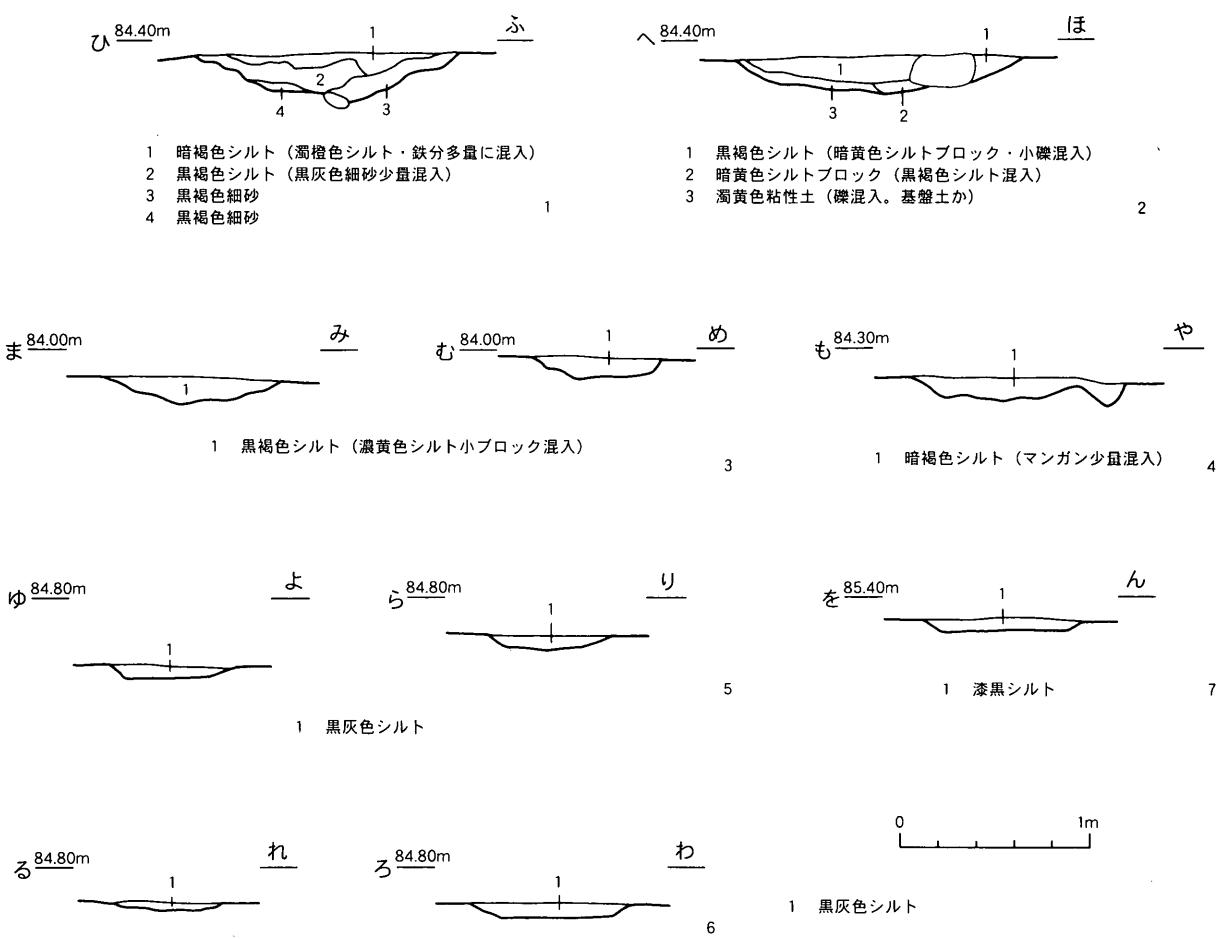
周囲に土坑群が存在するが、竪穴住居跡の所在地と乖離した位置関係にあることから、日常生活において、頻繁に利用された遺構とは考えられない。

SD02（第32,33図）

[遺構] 対象地の北西隅部に所在する。遺構全体にわたって、幅と深さが均等であることから、計画的に開削されたことが推察される。

規模が浅いことと、竪穴住居跡の間隙に所在することから、日常的に通水あるいは導水のために開削された水路ではなく、集落内部の雨水や湧水の非常用の排水路の機能が考えられる。

[遺物] 45は口縁端部に強いナデ調整が施されたために、縦方向に平坦面が生じ、下端部が垂下した形態となっている。



（1～2：SD01，3：SD02，4：SD03，5：SD04，6：SD05，7：SD09）

第32図　溝状遺構遺構実測図1（SD01～SD05、SD09）

第33図　溝状遺構遺物実測図１・柱穴跡遺物実測図（45：SD02，46：SP80，47：SP82）

SD04（第32図）

[遺構] 対象地の北東部に所在する。幅と深さは小規模であるが、延長が対象地の横幅の約半分の距離にわたるほど大型であることと、平面形態が直線状であることが特徴である。

当該遺構とⅡ区SD02の所在地が、概ね弥生時代の遺構の分布範囲の南限であることから、集落の境界を示すために開削された可能性がある。

SD05（第32図）

[遺構] 対象地の北東部に所在する。周囲の土坑群には、明確な生活遺構が含まれないことから、集落外部の自然流路と考えられる。

SD09（第32図）

[遺構] 対象地の南部の東側の境界部分に所在する。周囲に関連する遺構が存在しないために、開削の目的は不明である。

(4)柱穴跡（第33図）

[遺構] 対象地の北部を中心とした地域に所在する。規則的な配列を示す遺構が認められないことから、竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の居住遺構の下部遺構に該当するものは存在しないと考えられる。

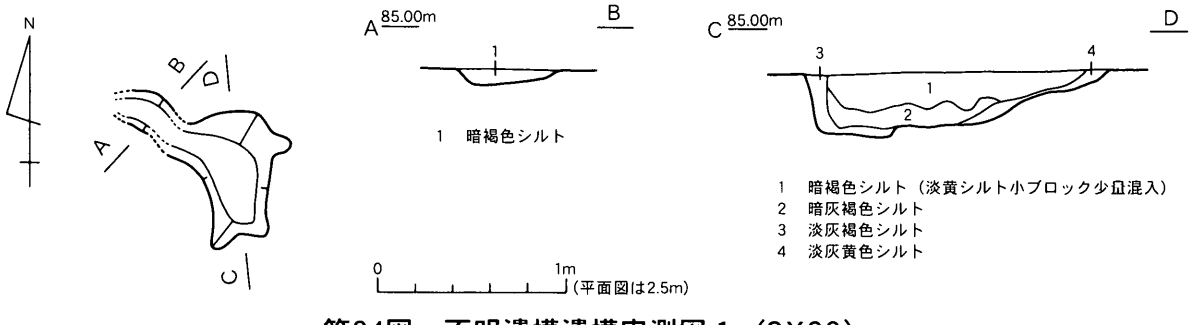
[遺物] 46と47は混入した資料で、前者は晩期に所属する凸帯文土器、後者はD字形の刺突文が施された後期に所属するものである。

(5)不明遺構

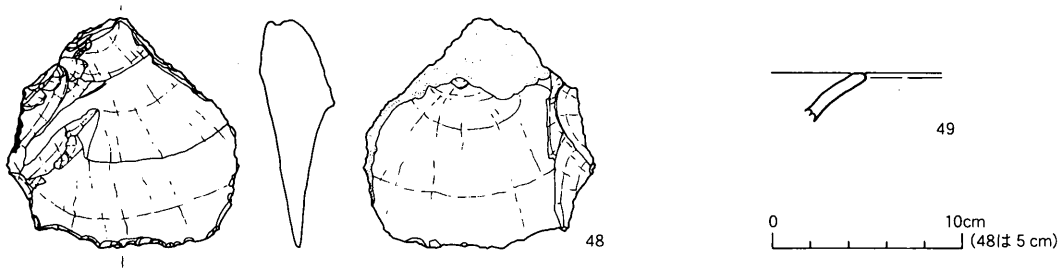
SX01（第35図）

[遺構] 対象地の北端部の中央部に所在したとされているが、記録が残されていないために、詳細は不明である。

[遺物] 48は剥片が利用された不定形な資料である。刃部は乱雑な剥離調整によって成形されている。



第34図　不明遺構遺構実測図１（SX03）



第35図　不明遺構遺物実測図１・土坑遺物実測図１（48：SX01，49：SK12）

SX02,SX03（第34図）

[遺構] 対象地のほぼ中央部に、約12mの距離を離れて所在する。平面形態が著しく歪曲していることと、埋土中に壁面に沿った帯状の土層序が認められることから、樹木が抜き取られて生じた痕跡と判断される。

２．古墳時代の遺構

(1)竪穴住居跡

SH03（第36,37,39,40図）

[遺構] 対象地のほぼ中央部の西寄りの場所に所在する。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についても完全な直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

主柱穴跡は４個（P01～04）で、床面の中央部に正方形に配置されている。壁溝は、竈の下部と西壁面の北半部以外の箇所に、均等な幅と深さで開削されており、底面が平坦な形態であることから、板状のものが設置されていたことがわかる。

南壁面に近接するP05は、竈と正反対の位置にあるため、出入口の施設に関連した遺構の可能性がある。

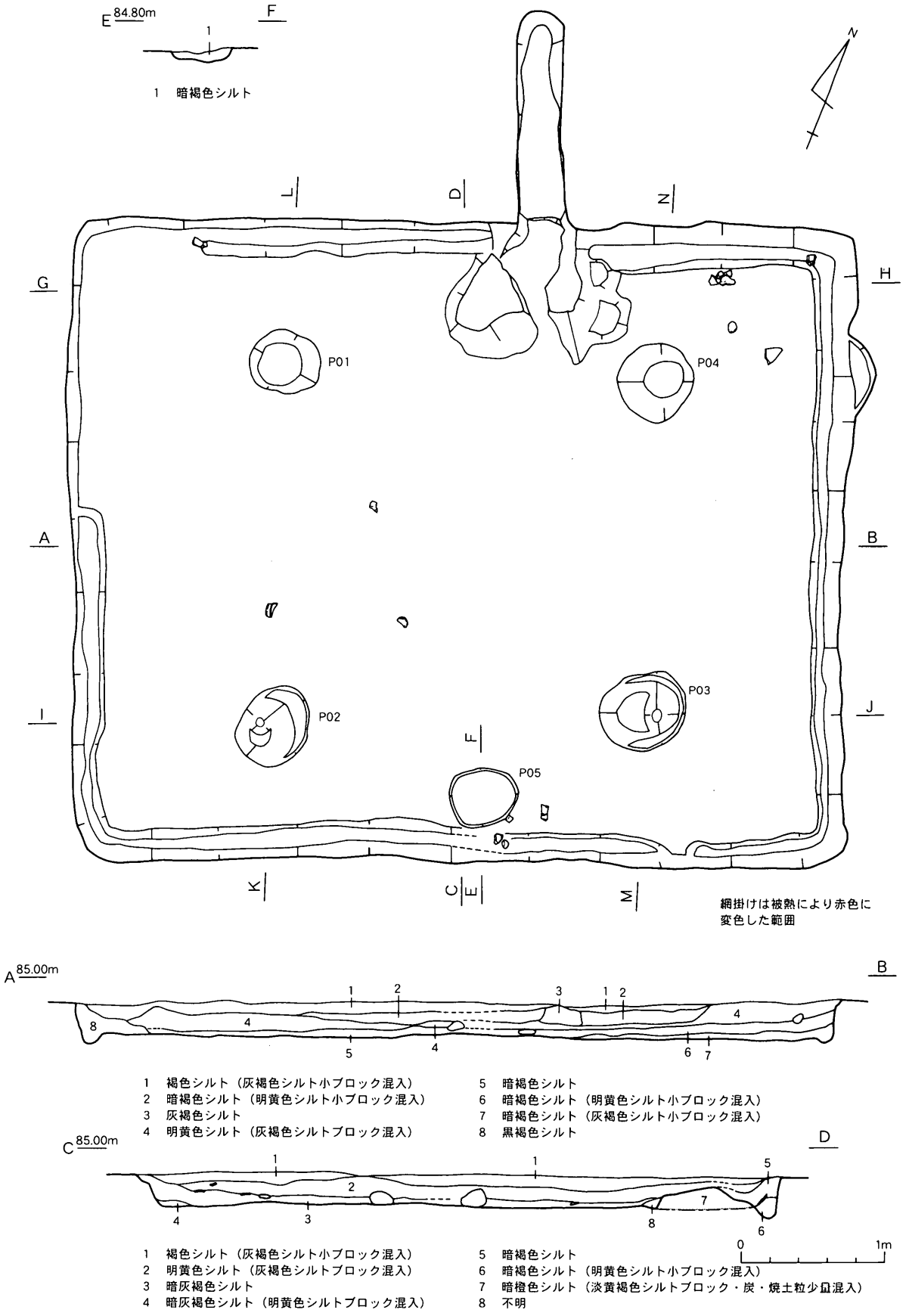
竈は北壁面の中央部からやや東寄りの位置に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

燃焼部と器設部については、高さ約20cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模と外面形態から、原形は幅約70cm、奥行き約100cm、高さ約50cmの規模の半球型の形態であったと想定される。

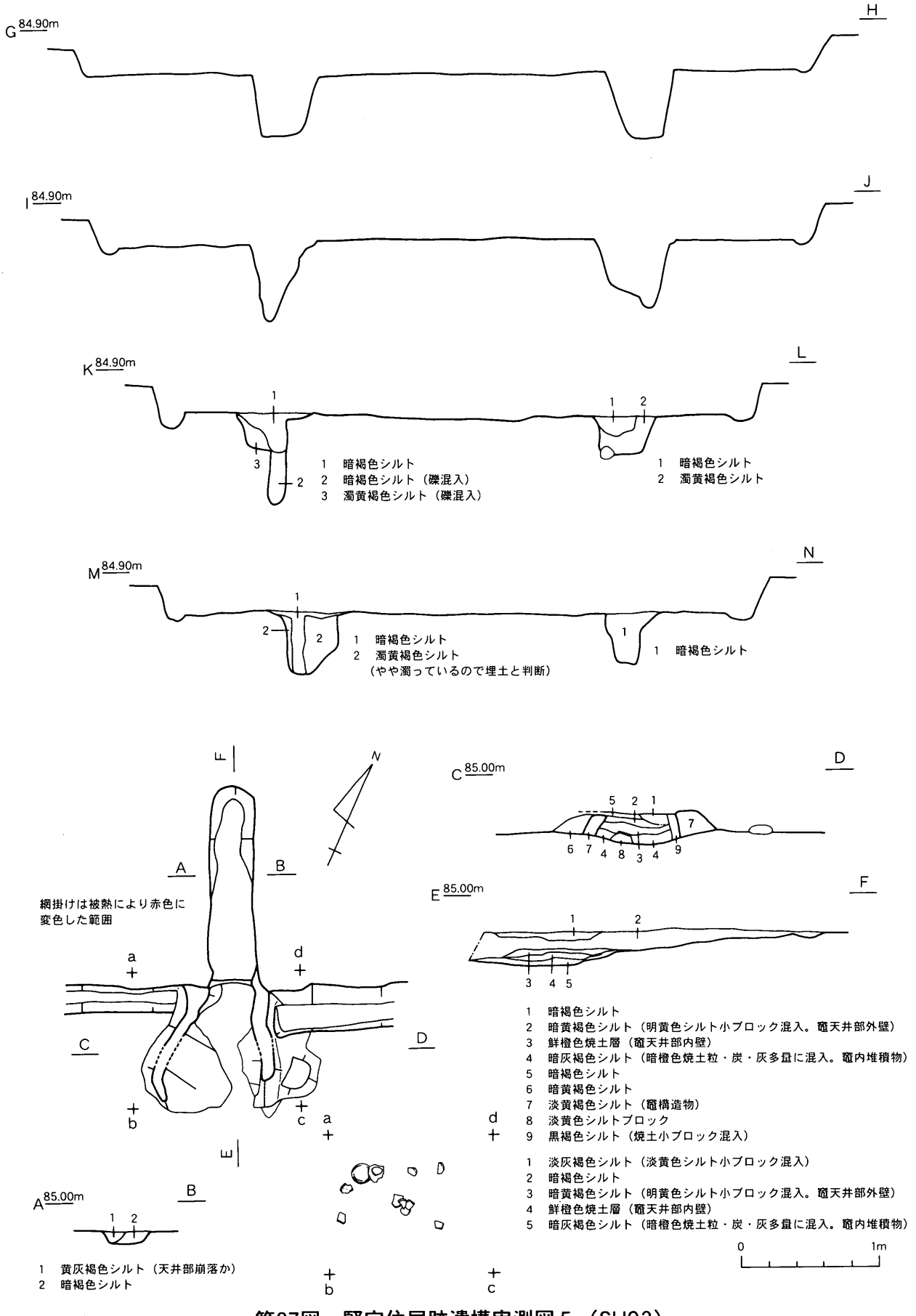
両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

煙道部の底面は、傾斜角度が約６°で、平滑に整えられているが、先端部の煙出し部の底面については約５cmの深さで浅く窪められている。

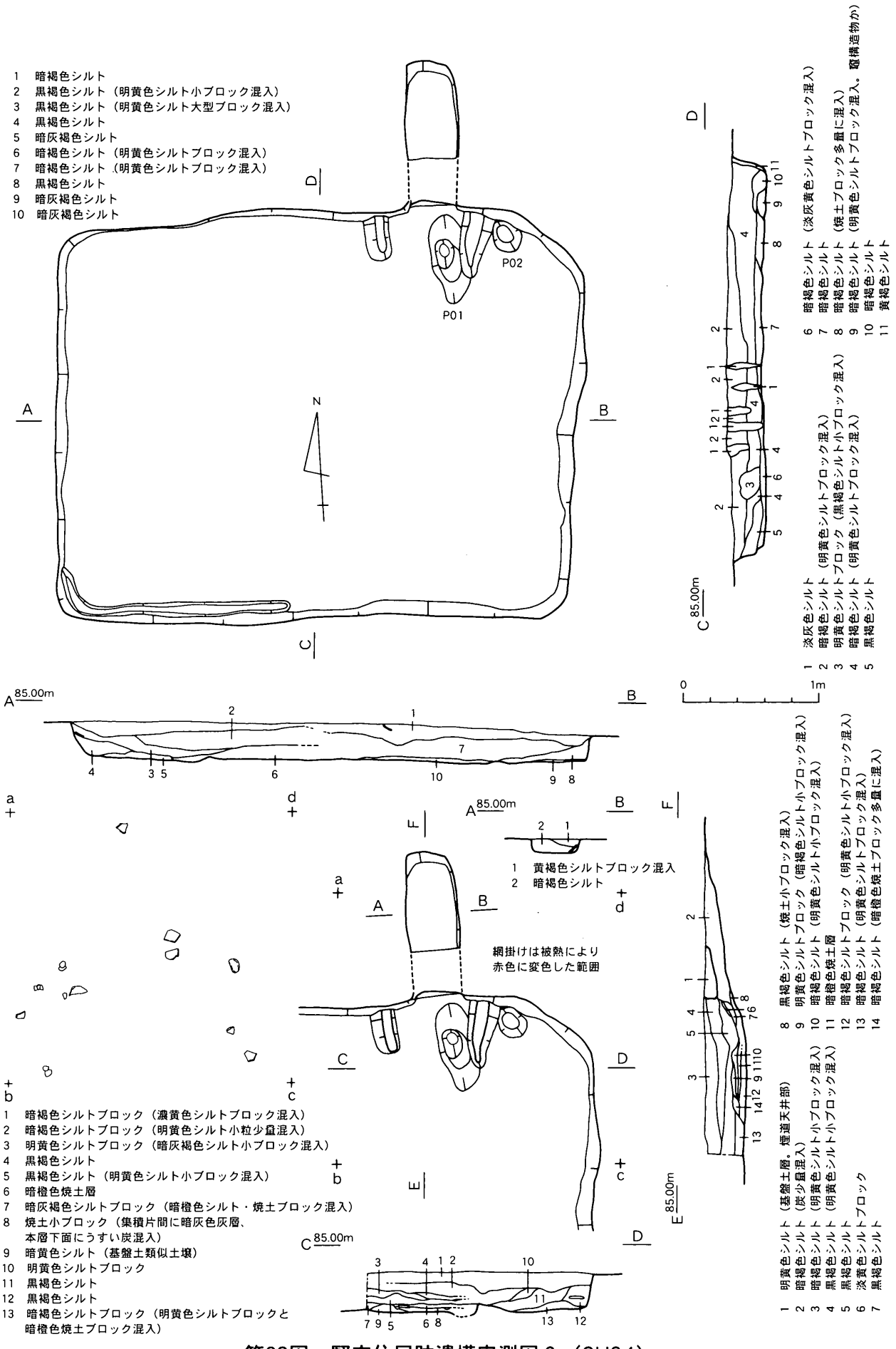
なお、床面全体の埋土中には、基盤土に類似した土壌ブロックが多く含まれていたことから、人為的に埋め戻されたことが推測される。



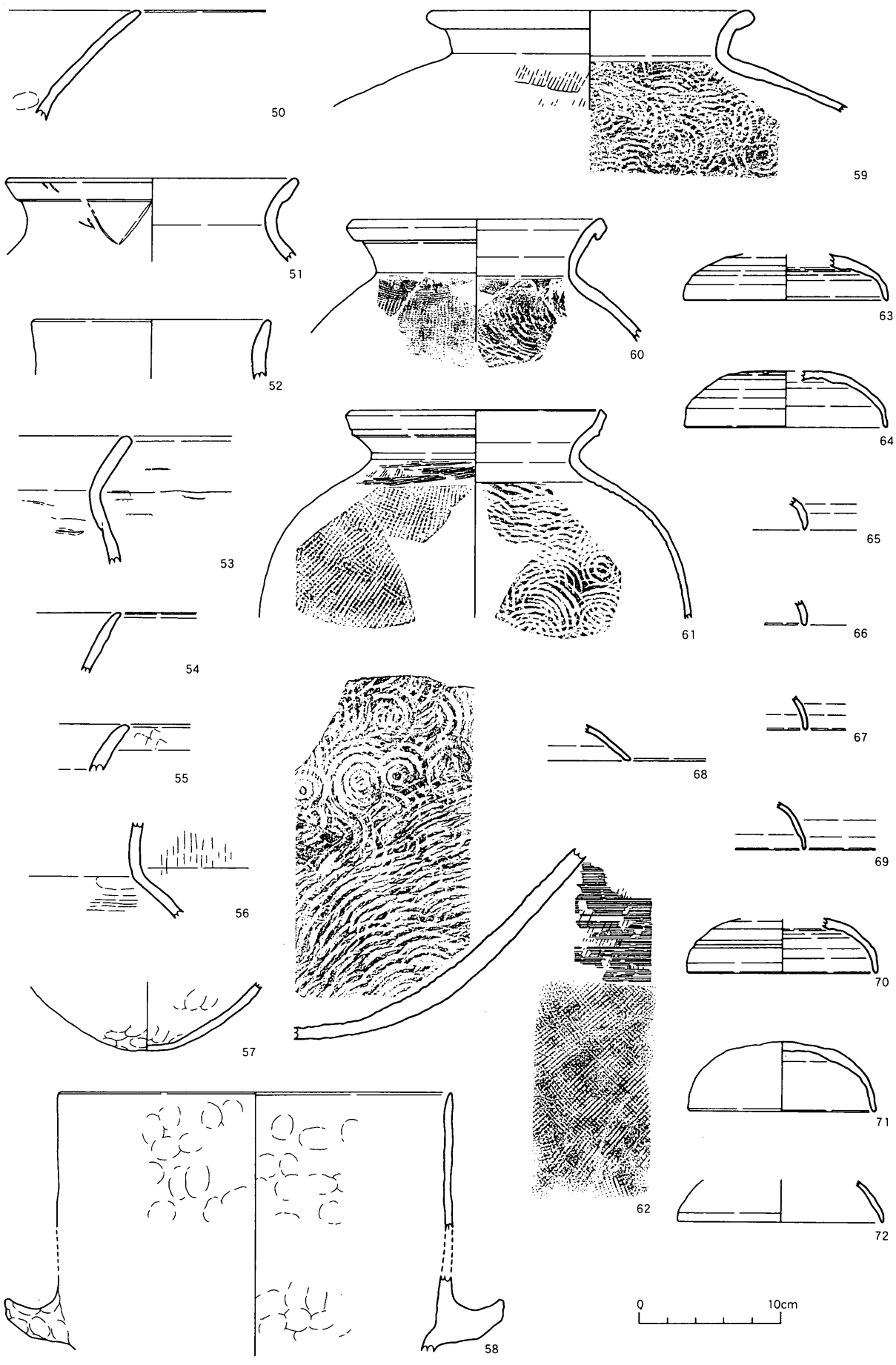
第36図　竪穴住居跡遺構実測図４（SH03）



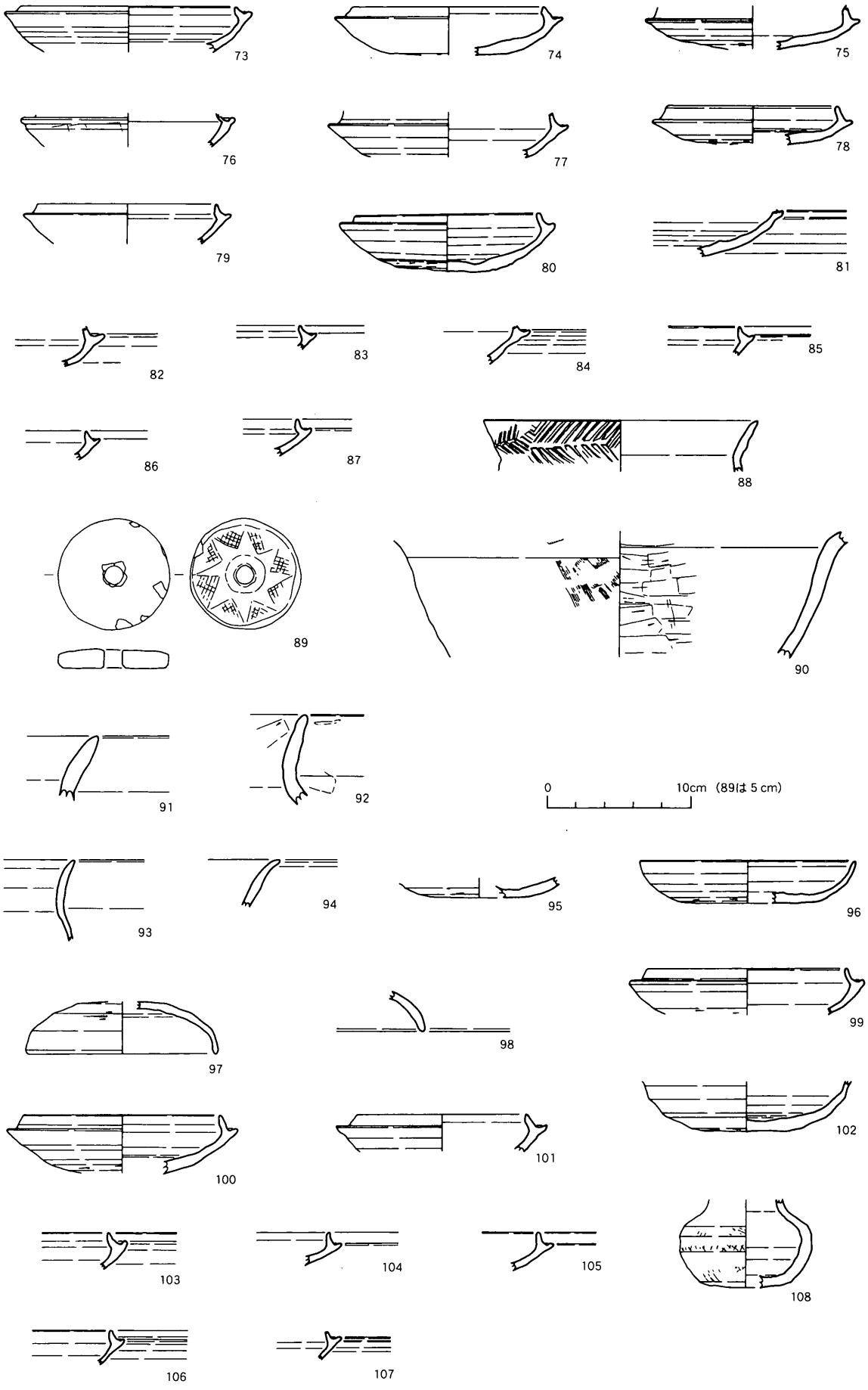
第37図　竪穴住居跡遺構実測図５（SH03）



第38図　竪穴住居跡遺構実測図６（SH04）



第39図　竪穴住居跡遺物実測図３（50～72：SH03）



第40図　竪穴住居跡遺物実測図４（73～92：SH03，93～108：SH04）

[遺物] 50は、口縁部がラッパ形に開口する大型品である。51の外面には、２本の斜線で構成された大小２種類のＶ字形の線刻文が施されている。また、製作された際の焼成状態が不良のために、全体が黄橙色に発色している。53と54の原形は、長胴の形態が考えられる。58の部材は、本遺構とSH04の各竈周辺から出土した資料によって構成されていることから、両遺構が共存したことや同時に埋没したことを示す資料である。口縁部から把手の接合部までが均整のとれた円筒型の形態である。また、59～62によって、本遺構とSH04、SH06、SH08、SH09、SH10、SH12、SH13、SH15と共存したことや同時に埋没したことがわかる。60は、口縁端部が外側の下方向に折り曲げられた後に、先端部が器壁に接着されないままで成形を終えられた資料である。61は全体の器壁が一定の厚さで精巧につくられた資料で、特に口縁部が明瞭な稜線が形成されるように丁寧に仕上げられている。63と64は65～72に比べて、口縁端部が内側へ折り曲げられるように成形されたために、同部が垂直気味の形態を示す。73～87はかえし部が短い器形で、同部の内側への傾斜角度が大きい特徴がある。88の口縁部外面には、矢羽状のタタキ目が認められる。89の片面には金属のヘラ状工具で鋸歯文と斜格子文が線刻されている。

SH04（第38,40図）

[遺構] 対象地のほぼ中央部のSH03の南側に隣接して所在する。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についても北東隅部以外は、ほぼ直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

床面や遺構外部に柱穴跡が存在しないことから、柱材は床面に据え置かれていたことが考えられる。壁溝は、南壁面の西半部に沿った場所だけに存在するため、土留めの施設の設置用に開削された可能性は低い。

竈は北壁面の北東隅部寄りの位置に存在する。煙道部の上部構造の一部は、原形を保っていたが、燃焼部、器設部各上部構造は完全に損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

燃焼部と器設部については、高さ約15cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模と外面形態から、原形は幅約50cm、奥行き約80cm、高さ約50cmの規模であったと想定される。上部構造の形態はわからない。

両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

煙道部は、住居側が地下構造である。底面は傾斜角度が約６°で、先端部まで平滑に整えられている。

なお、床面全体の埋土中には、基盤土に類似した土壌ブロックが多く含まれていたことから、人為的に埋め戻されたことが推測される。

[遺物] 杯身が多く出土している。99～107はかえし部が短い器形で、同部の内側への傾斜角度が大きい特徴がある。108の体部外面の最大径の位置には、ヘラ状の工具による「×」状の文様が施されている。

SH05（第41,42,49図）

[遺構] 対象地の中央部から北西寄りに位置して、SH03の北側に所在する。各壁面は整然とした直線的な平面形態であり、各隅部についても、ほぼ直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

主柱穴跡は４個（P01～04）で、床面の中央部に正方形に配置されている。壁溝は存在しない。

竈は北壁面の中央部に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は完全に損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

竈の原形については、被熱により赤色に変色した箇所の範囲と、床面の窪みの形態と規模から、幅約110cm、奥行き約100cmの大型施設であったと想定され、竈の基底部が住居跡の床面積に占める割合が大きいことから、炊事専用の施設であった可能性が考えられる。上部構造の形態はわからない。

煙道部の底面は、住居側が水平で、中央部から先端部にかけての部位が約17°の急勾配である。表面は平滑に整えられている。

主柱穴跡以外の柱穴跡のうち、南壁面に近接するP05は、竈と正反対の位置にあるため、出入口の施設に関連した遺構の可能性がある。

[遺物] 遺物の保存状態は不良である。112は、口縁端部が垂直気味に折り返された器形である。

SH06（第43～45,49図）

[遺構] 対象地のほぼ中央部の東側の境界部に接して所在する。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についても南西隅部以外は、ほぼ直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

本遺構は、新の２棟の住居跡が北及び東壁面の一部分を共有して重複したものであり、大部分は新しい段階のものである。

古い段階の遺構は、床面東半部で検出されたＬ字形の溝、主柱穴跡（P05～08）、竈２である。壁溝が直角に屈曲することと、主柱穴跡が四角形に配列されていることから、原形は長方形の平面形態であったことがわかる。

竈２については、燃焼部と器設部が完全に損壊しているために、原形は明らかでない。

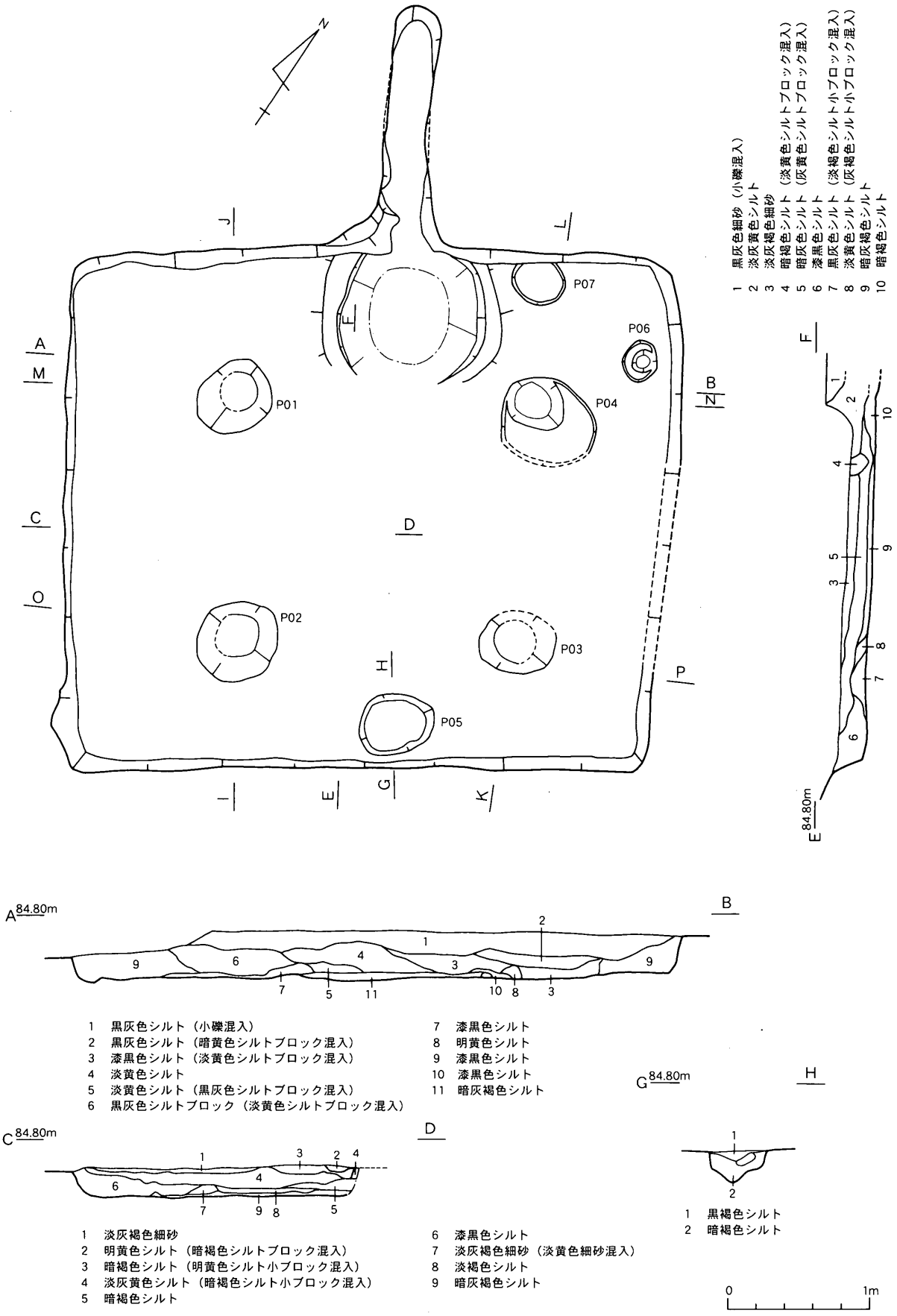
煙道部の底面は、傾斜角度が約５°で、先端部まで平滑に整えられている。

新しい段階の遺構のうち、壁溝は北及び西壁面に沿った場所に存在する。底面が平坦な形態であることから、板状のものが設置されていたことがわかる。

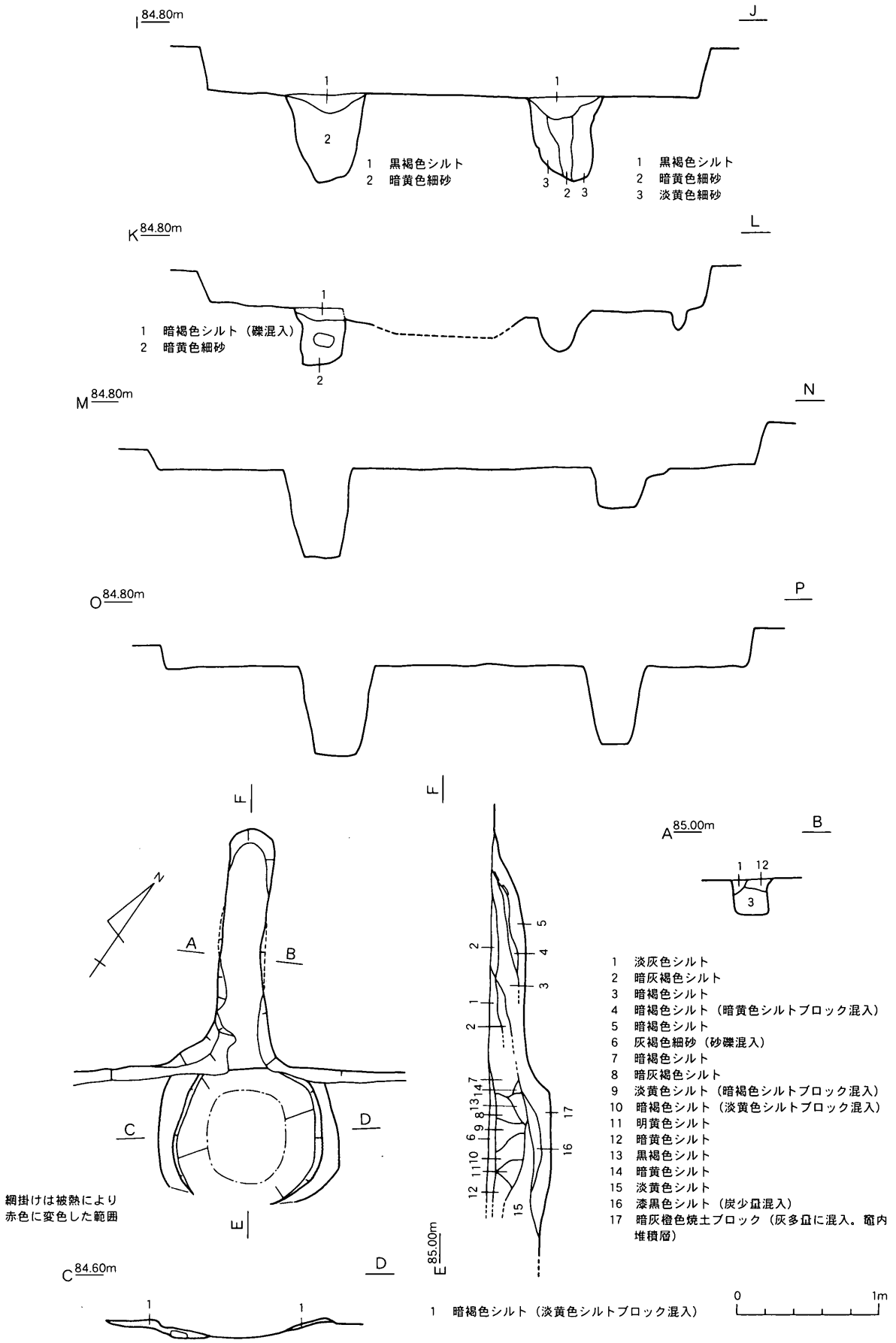
主柱穴跡は４個（P01～04）で、長方形に配列されている。

竈１は北壁面の中央部に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は完全に損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

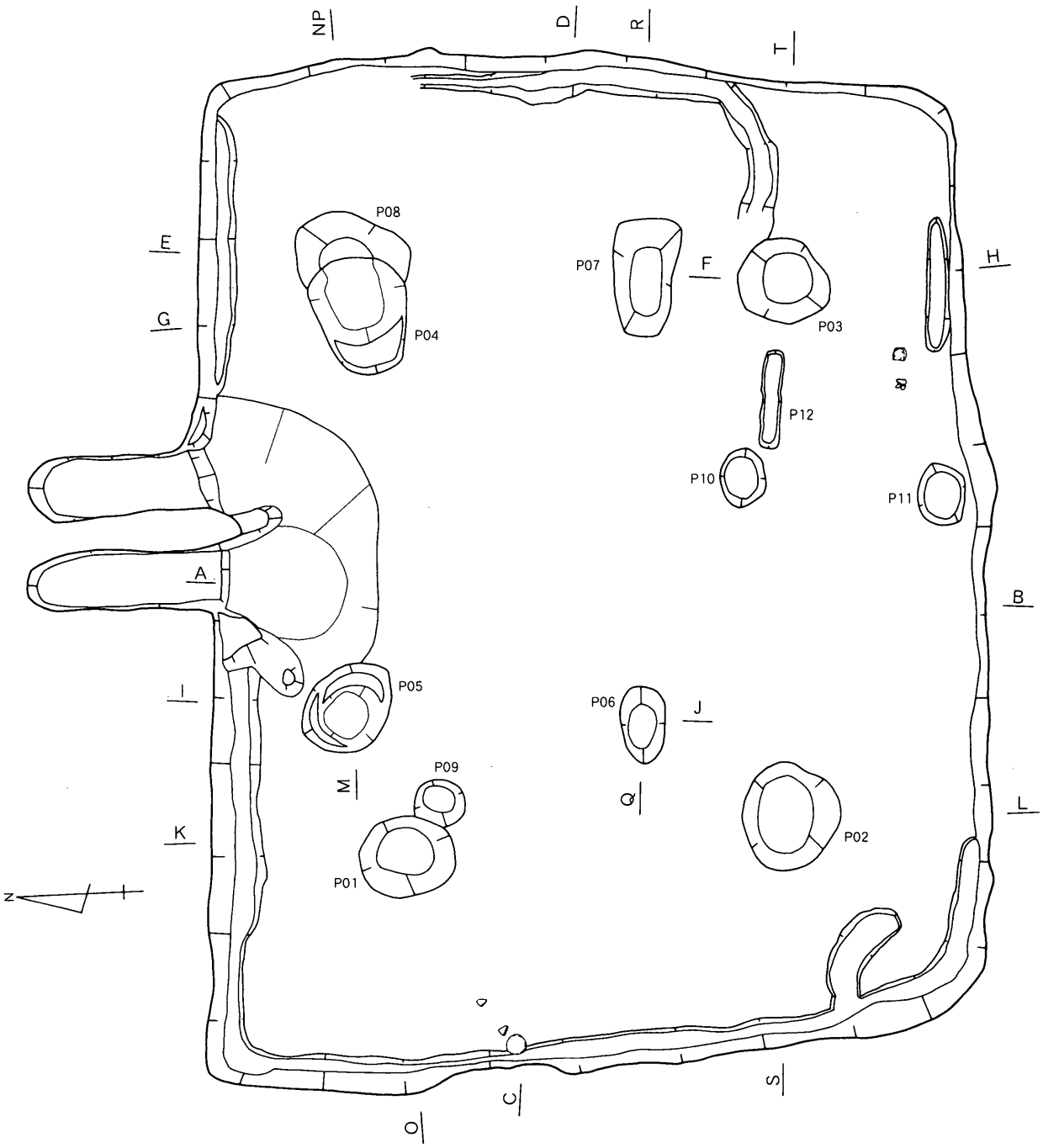
燃焼部と器設部については、高さ約４～15cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模と

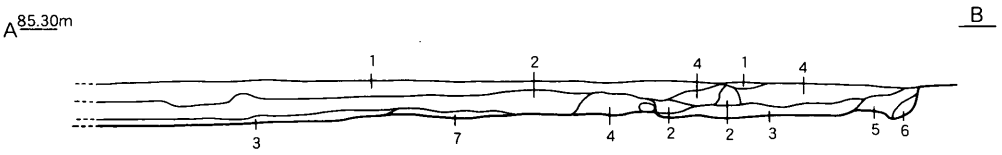


第41図　竪穴住居跡遺構実測図７（SH05）



第42図　竪穴住居跡遺構実測図８（SH05）

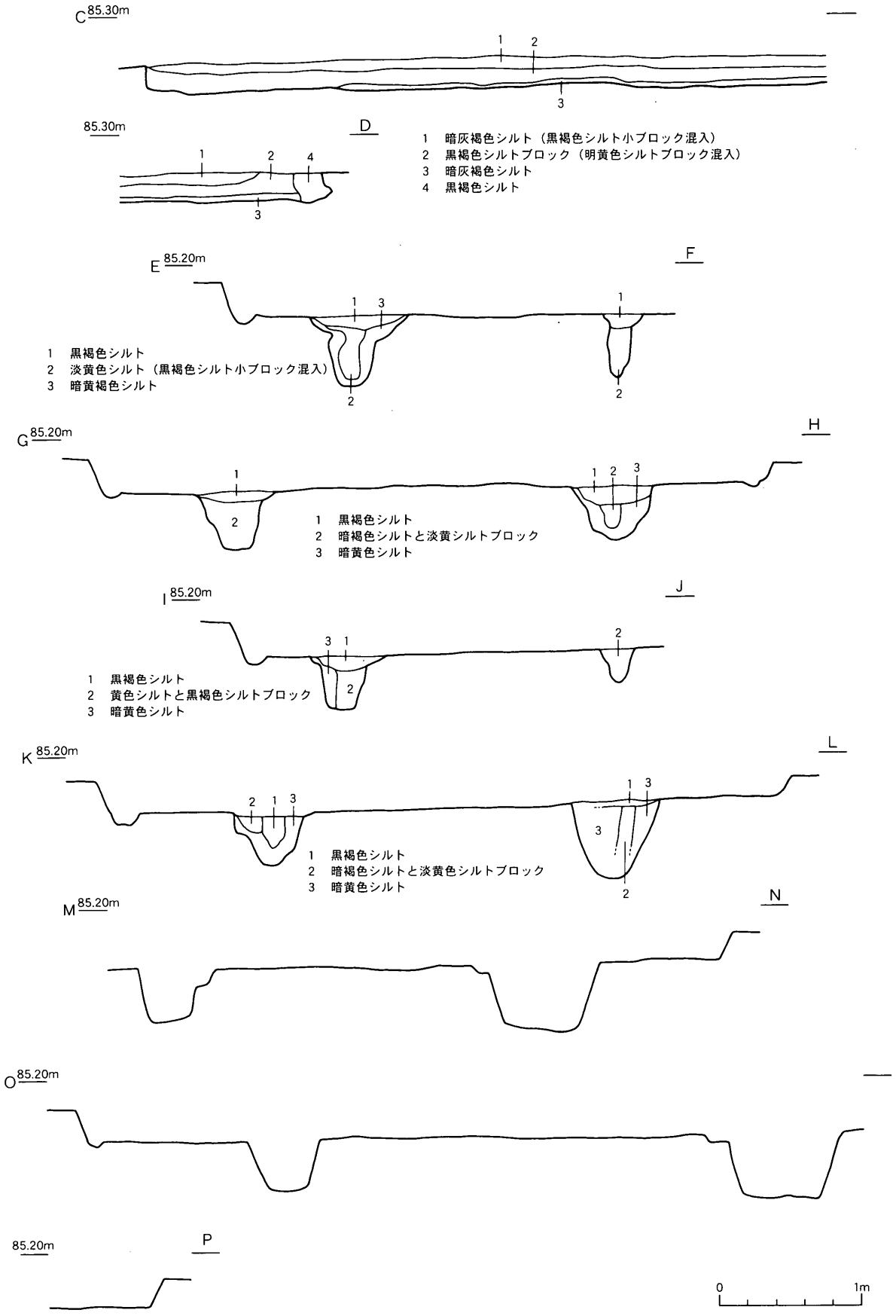




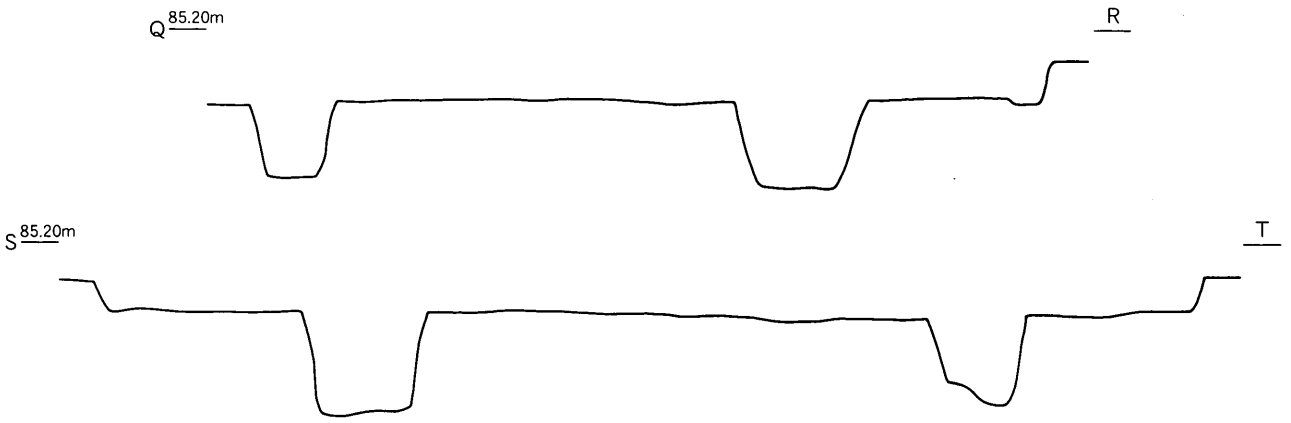
1　暗灰褐色シルト（黒褐色シルト小ブロック混入）
2　黒褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）
3　暗灰褐色シルト
4　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルト小ブロック混入）
5　暗灰褐色シルト（淡黄色シルト小ブロック混入）
6　淡黄色シルトブロック（灰褐色シルトブロック混入）
7　灰褐色シルト（炭多量に混入。本層直下の床面は加熱により赤色に変色）

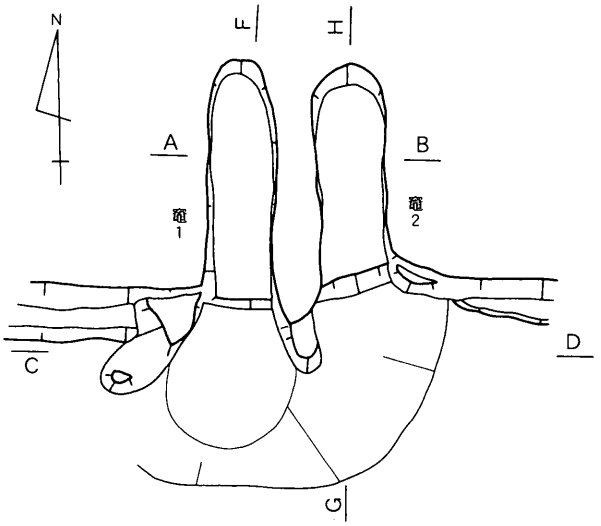
0　1m

第43図　竪穴住居跡遺構実測図９（SH06）

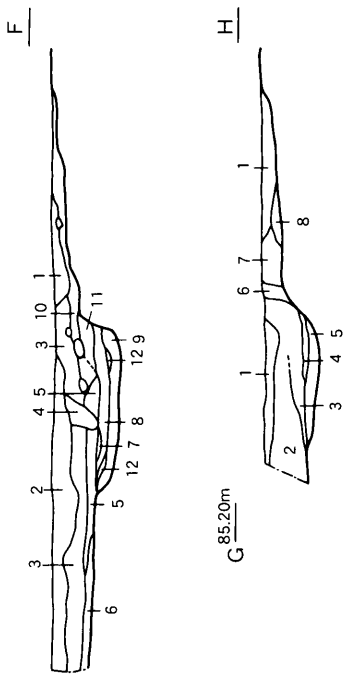


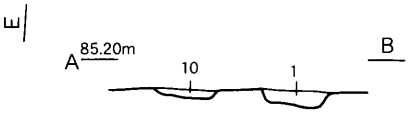
第44図　竪穴住居跡遺構実測図10（SH06）

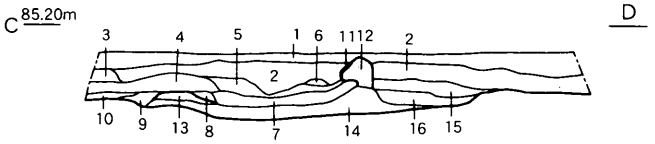




網掛けは被熱により
赤色に変色した範囲







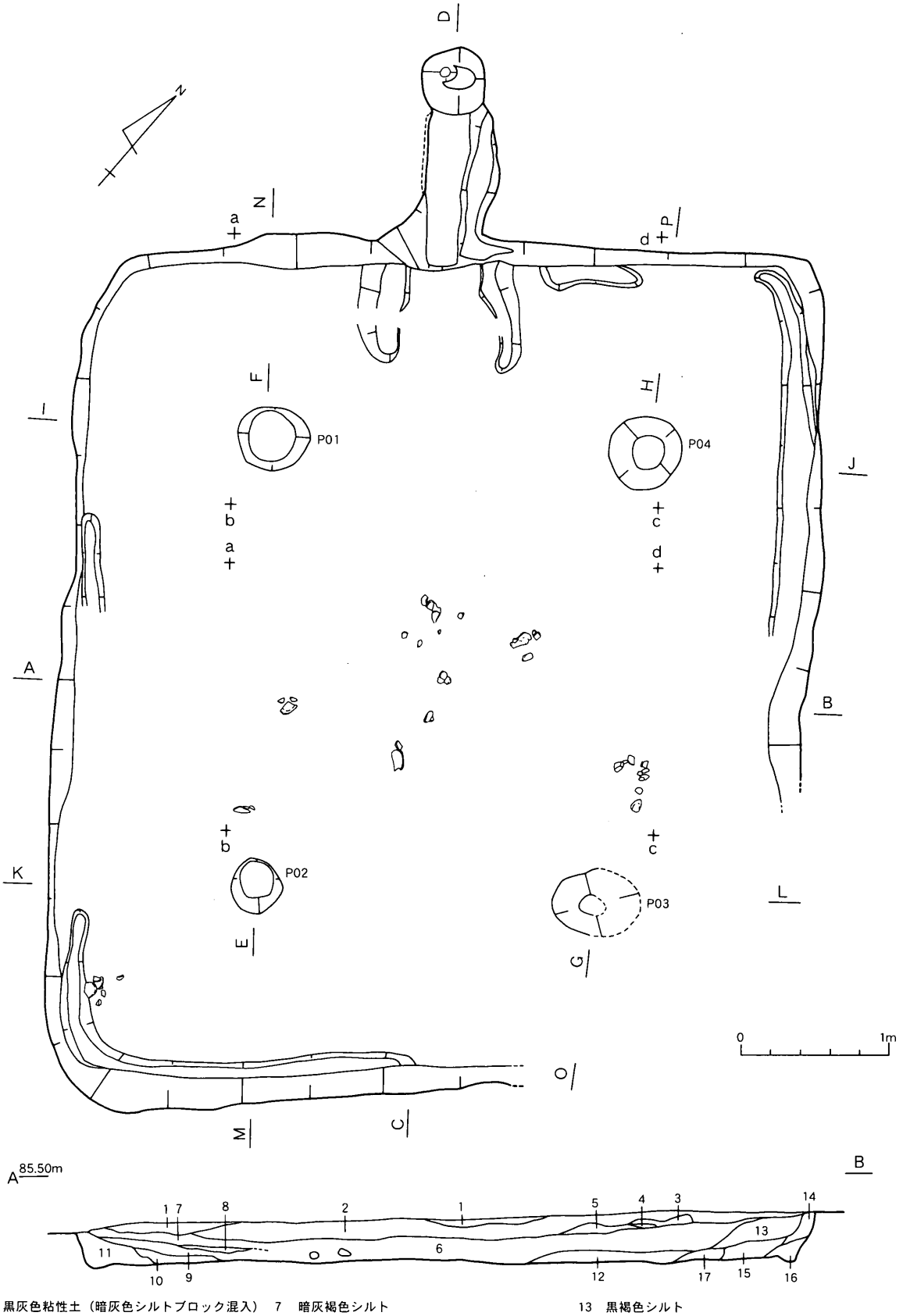
1 淡灰褐色シルト
2 暗褐色シルト（淡黄色シルト小ブロック混入）
3 黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
4 黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
5 黒褐色シルト（暗橙色焼土小ブロック少量混入）
6 淡黄色シルトブロック
7 暗橙色焼土ブロック（炭・灰混入。竈１内堆積層）
8 黒褐色シルト
9 暗褐色シルト
10 淡黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック少量混入）
11 淡橙色シルト（竈１右壁赤色に変色した部分）
12 淡黄色シルト（竈１右壁）
13 暗橙色焼土層（竈１床）
14 黒灰シルト（炭・砂礫混入）
15 黒褐色シルト（炭・灰少量混入。竈２基部か）
16 基盤土ブロック（暗褐色シルトブロック混入）

1 淡灰褐色シルト
2 淡灰褐色シルト
3 暗褐色シルト（淡黄色シルト小ブロック混入）
4 灰褐色細砂（樹根か）
5 黒褐色シルト（暗橙色焼土小ブロック少量混入）
6 灰褐色シルト
7 淡黄色シルトブロック
8 暗橙色焼土ブロック（炭・灰混入。竈１内堆積層）
9 黒褐色シルト（炭・灰少量混入。竈２基部か）
10 暗褐色シルト
11 暗褐色シルト（炭・暗橙色焼土ブロック多量に混入）
12 基盤土ブロック

1 淡灰褐色シルト
2 暗灰褐色シルト（淡黄色シルト小ブロック混入）
3 黒褐色シルト（炭・灰少量混入。竈２基部か）
4 淡黄色シルトブロック
5 黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック・小礫混入）
6 暗褐色シルト
7 灰褐色シルト
8 暗褐色シルト

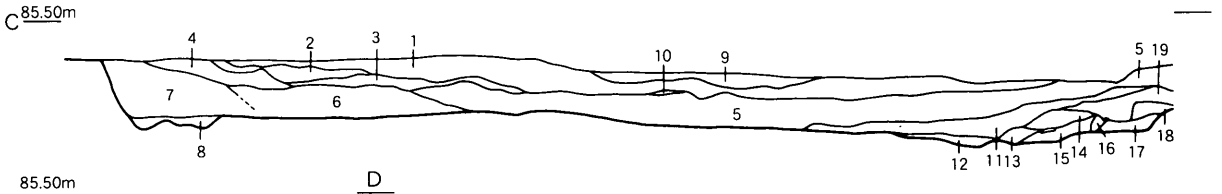
0 1m

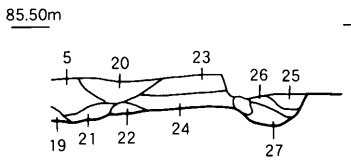
第45図　竪穴住居跡遺構実測図11（SH06）



1　黒灰色粘性土（暗灰色シルトブロック混入）
2　暗褐色粘性土（小礫多量に混入）
3　淡黄褐色シルト
4　黒褐色シルト
5　淡黄褐色シルト
6　灰褐色シルト
7　暗灰褐色シルト
8　黒黄褐色シルト
9　灰褐色シルト
10　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
12　漆黒色シルト
13　黒褐色シルト
13　黒褐色シルト
14　黒褐色シルト（濃黄色シルト小ブロック混入）
15　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック多量に混入）
16　漆黒色シルト
17　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）

第46図　竪穴住居跡遺構実測図12（SH07）



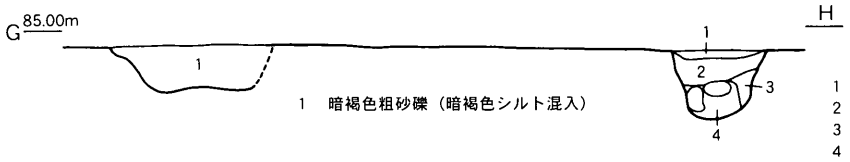


1 暗褐色粘性土（小礫多量に混入）
2 暗黄褐色シルト
3 濁黄色シルト（黒灰色シルトブロック混入）
4 灰褐色シルト
5 灰褐色シルト
6 暗灰褐色シルト（小礫混入）
7 黒灰褐色シルト
8 暗灰色シルト（炭少量混入）
9 黒灰色粘性土（暗灰色シルトブロック混入）
10 暗黄色シルトブロック
11 黒褐色シルト（濃黄色シルト小ブロック混入）
12 明黄色シルト（黒灰色シルトブロック混入）
13 灰褐色シルト（炭・焼土粒混入）
14 暗橙色焼土ブロック（灰褐色シルトブロック混入）
15 暗橙褐色焼土ブロック
16 暗灰色シルト（暗褐色シルトブロック混入）
17 暗褐色シルト
18 暗橙色焼土ブロック（暗灰褐色シルトブロック混入）
19 暗灰褐色シルト（焼土粒混入）
20 黒褐色シルト
21 暗褐色シルト（暗黄色シルトブロック・焼土粒混入）
22 暗黄色粘性土（基盤土ブロック）
23 暗褐色シルト
24 灰褐色シルト（暗黄色シルト小ブロック混入）
25 黒褐色シルト
26 暗褐色シルト
27 暗褐色シルト（暗黄色シルトブロック混入）

0 1m

1 暗褐色シルト
2 暗黄色シルト
3 黄色シルト

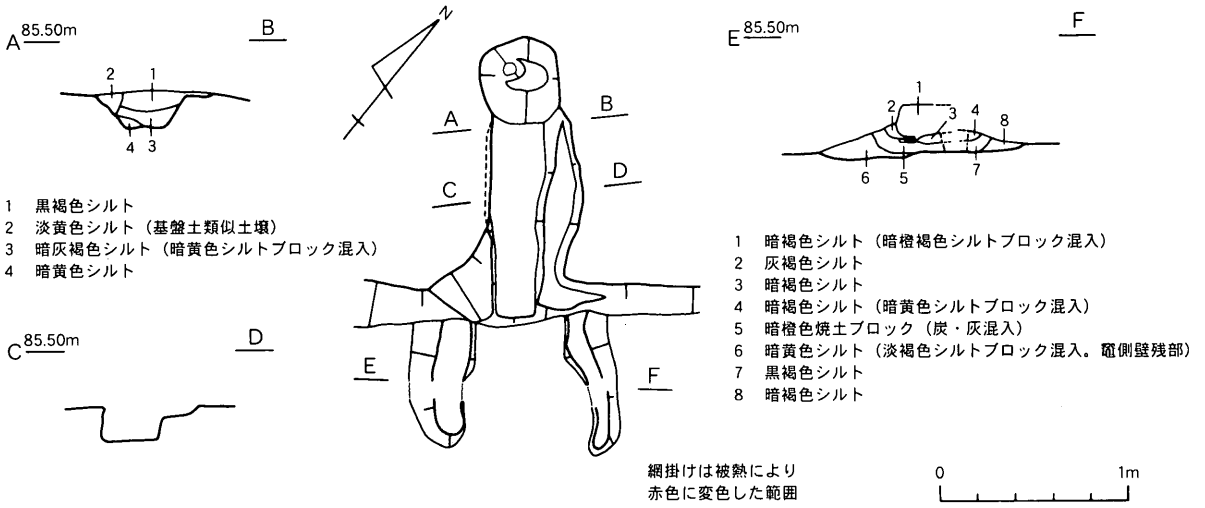
1 黒褐色シルト
2 暗褐色シルト（暗褐色砂礫混入）



1 暗褐色粗砂礫（暗褐色シルト混入）

1 暗褐色シルト
2 暗黄褐色シルト
3 明黄色シルトブロック
4 暗黄色シルト

第47図　竪穴住居跡遺構実測図13（SH07）



第48図　竪穴住居跡遺構実測図14（SH07）

外面形態から、原形は幅約70cm、奥行き約70cmの規模の半球型か箱型の形態であったと想定される。

両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

煙道部の底面は、傾斜角度が約5°で、先端部まで平滑に整えられている。

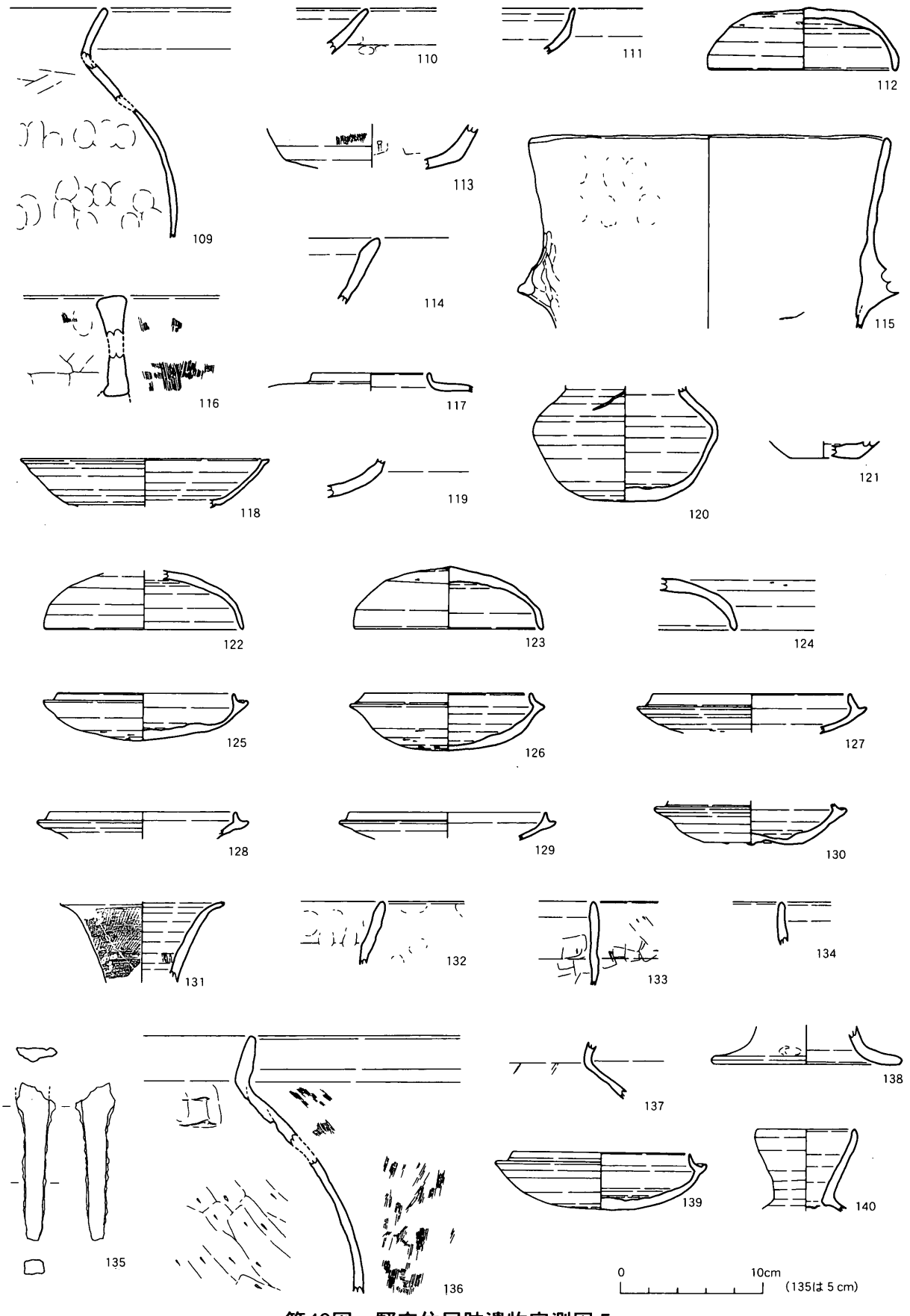
[遺物] 115、116、120、122、125、127、130によって、本遺構がSH09、SH10、SH11と共存したことや同時に埋没したことがわかる。114の口縁部は、内面に複数の稜線が成形された受け口状の形態である。115は口縁部から把手接合部までが短い器形で、口縁部が外反気味に開口する。116は複合口縁部の上部と考えられるが、原形は不明である。117は体部が扁平な器形である。120は肩部がく字形に鋭く屈曲した器形である。122～124は器高が低い扁平な器形である。125～130はかえし部が低いことと、器高が低いことが特徴である。これらのうち128と129は、製作された際の焼成が不完全なために、黄白色に発色している。132～134は半球型の体部が想定される。135の原形は、先端部が菱形の形態であったと考えられる。軸部は、横断面が長方形になるように、四方から丁寧な鍛造がなされている。

SH07（第46～49図）

[遺構] 対象地の南部の東側の境界部に所在し、遺構の一部分が対象地の外部に存在する。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についてもほぼ直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

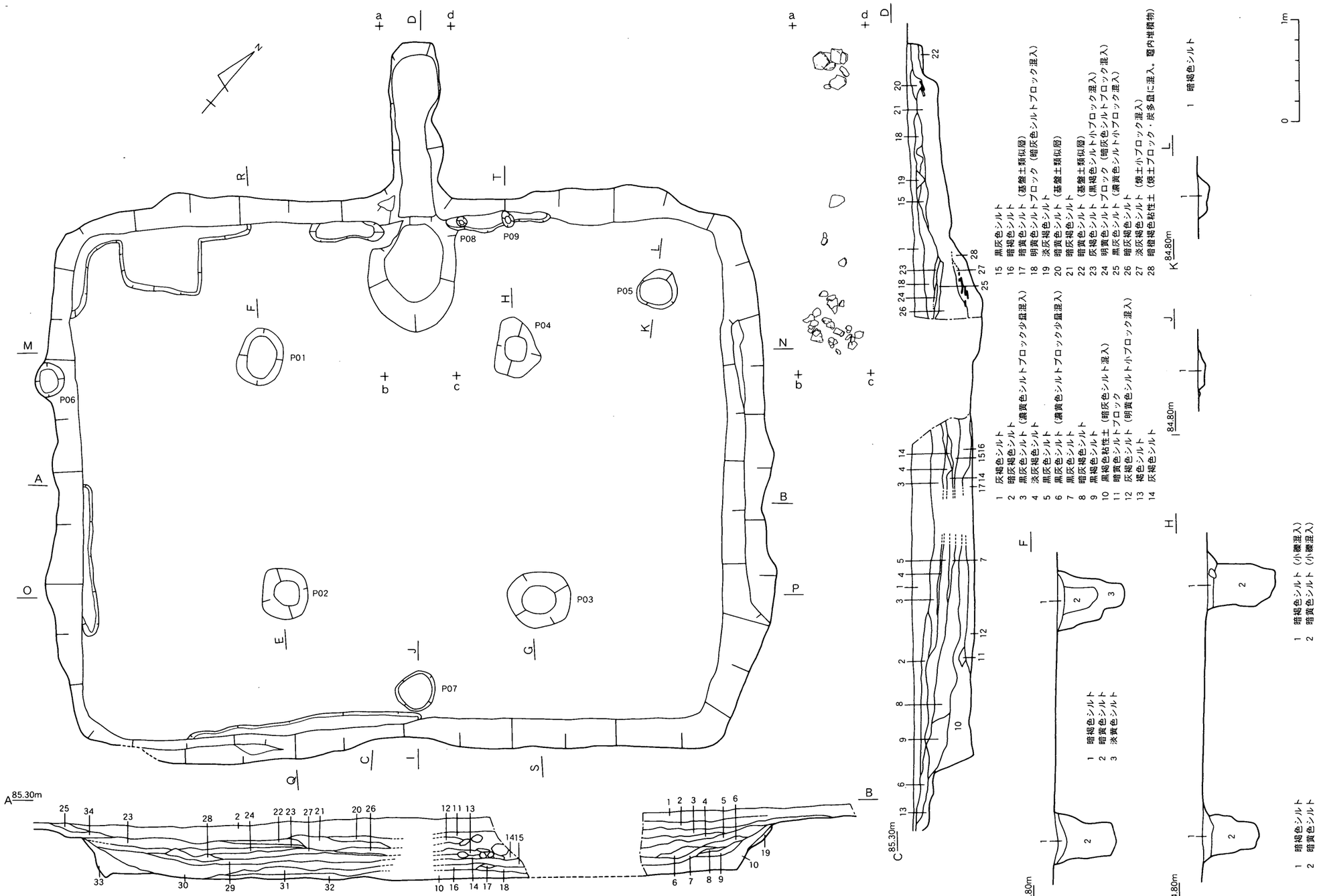
主柱穴跡は4個（P01～04）で、正方形に配列されている。主柱穴跡以外の柱穴跡は存在しない。壁溝は北東及び南西隅部に存在することから、各隅部の崩落防止のために開削されたことが考えられる。

竈は北壁面の中央部に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は完全に損壊して、

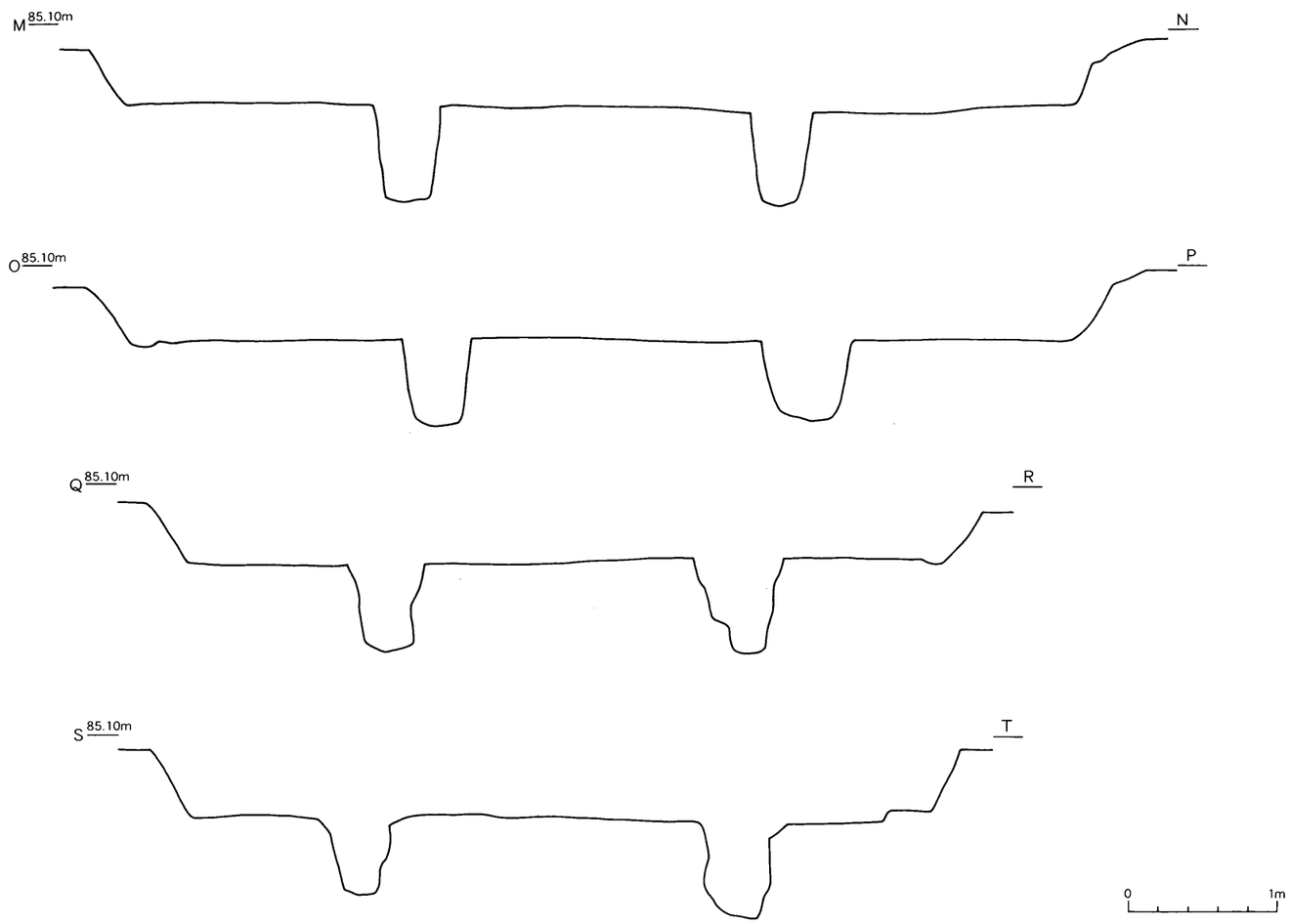


第49図　竪穴住居跡遺物実測図５

（109～112：SH05，113～135：SH06，136～140：SH07）



第50図　竪穴住居跡遺構実測図15（SH08）



第51図　竪穴住居跡遺構実測図16（SH08）

部材が各部の内部に転落していた。

燃焼部と器設部については、高さ約10～20cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模から、原形は幅約70cm、奥行き約70cmの規模であったと想定される。上部構造の形態はわからない。

両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

煙道部の底面は、煙出し部以外の傾斜角度が約7°である。煙出し部は住居側に比べて幅が広く、底面も深さ10cmの規模で窪んでいる。

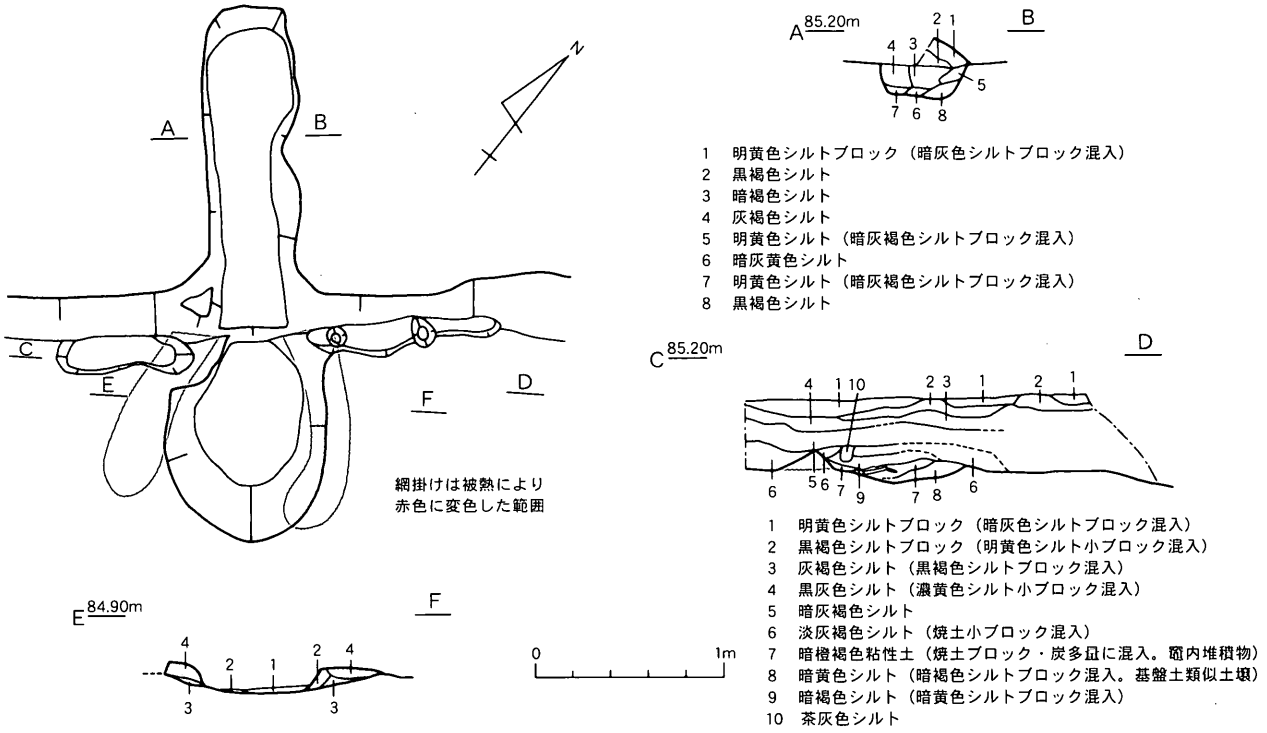
[遺物] 遺物の保存状態は不良である。136により、本遺構がSH08と併存したことや同時に埋没したことがわかる。139のかえし部は、水平気味に傾斜した後に、先端部が上方へ少し立ち上がった形態である。

SH08（第50～53図）

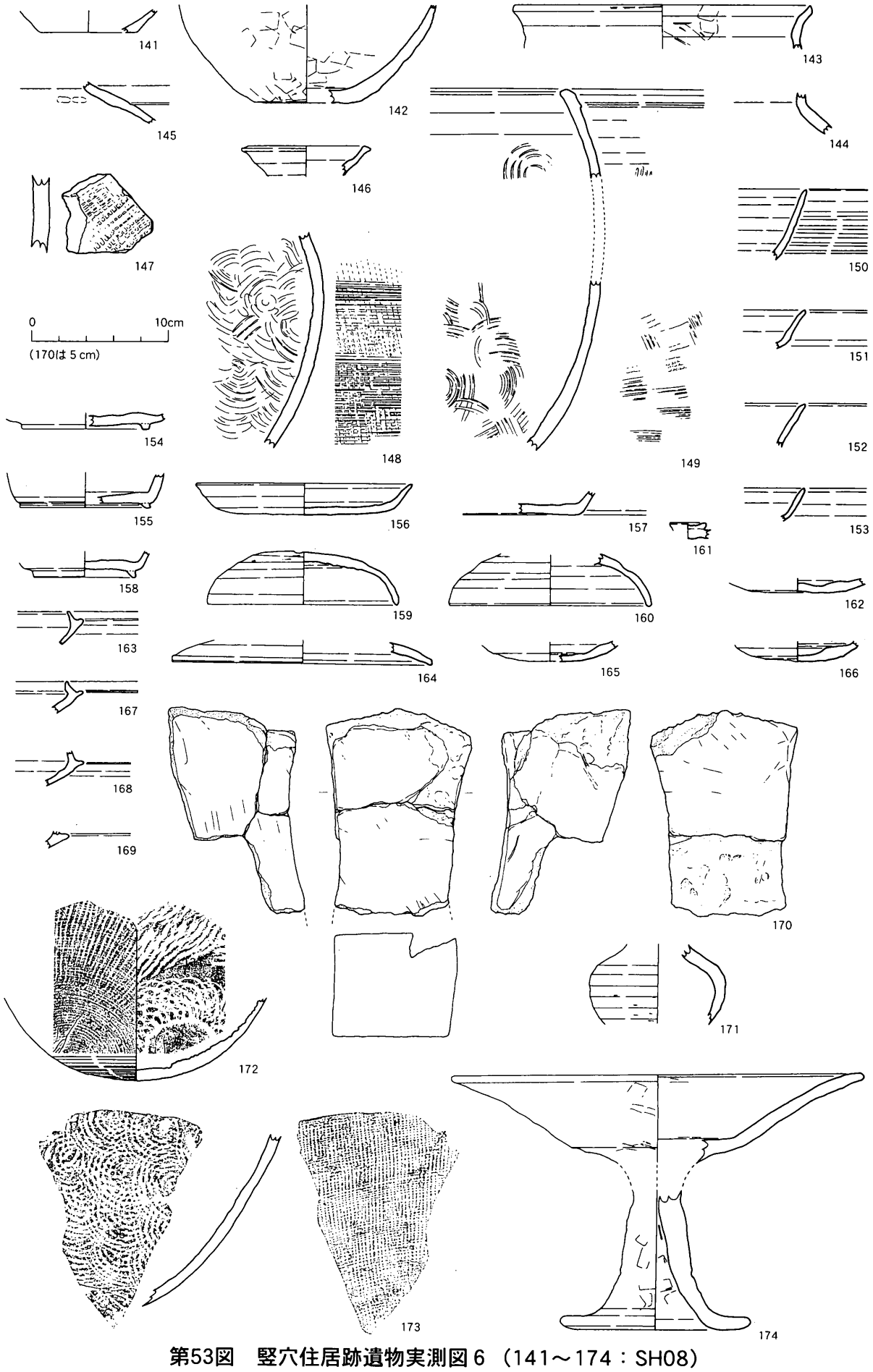
[遺構] 対象地の南部に所在しており、同時期の竪穴住居跡の中では、最も南に位置するものである。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についてもほぼ直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

主柱穴跡は4個（P01～04）で、床面の中央部に正方形に配置されている。壁溝は、南及び西壁面に沿って小規模なものが存在する程度であることから、排水用の施設と考えられる。

南壁面に近接するP07は、竈と正反対の位置にあるため、出入口の施設に関連した遺構の



第52図　竪穴住居跡遺構実測図17（SH08）



第53図　竪穴住居跡遺物実測図６（141～174：SH08）

可能性がある。

竈は北壁面の中央部に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

燃焼部と器設部については、高さ約20cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模と外面形態から、原形は幅約80cm、奥行き約100cm、高さ約50cmの規模の半球型の形態であったと想定される。

両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。

竈内部の床面は、直径約100cm、深さ約15cmの規模で、皿型に窪んでいる。

煙道部の底面は、傾斜角度が約9°で、先端部まで平滑に整えられている。煙出し部の埋土の中位からひとかたまりになって出土した、破砕された状態の須恵器は、開口部の開閉のためや、雨水の浸入防止のために使用されたことが考えられる。

なお、床面全体の埋土中には、基盤土に類似した土壌ブロックが多く含まれていたことから、人為的に埋め戻されたことが推測される。

[遺物] 149の体部は、上胴部に最大径が位置し、部位ごとの屈曲箇所がないために、胴張りの太鼓型の形態を示している。口縁部は端部と内外面に丁寧なナデ調整が施されたために、縦断面は各隅部の稜線が明瞭な長方形の形態を示している。150～152は、口縁部が直線状に長く伸びた器高が高い器形である。杯身には、高台部のある器形（154、155、158）と同部がない器形（162、163、165～169）が共存するが、前者は埋土の上位及び遺構直近の遺物包含層に包蔵されていたことから、本遺構の存続時期のものではないと判断される。170は長軸方向の４面に、主として斜め方向の使用痕が認められる。174により、本遺構がSH12及びSH13と共存したことや同時に埋没したことがわかる。口縁部の屈曲箇所以上の部位が大きいことと、脚端部の横方向への広がりが小さいことが特徴である。

SH09（第54,58,59図）

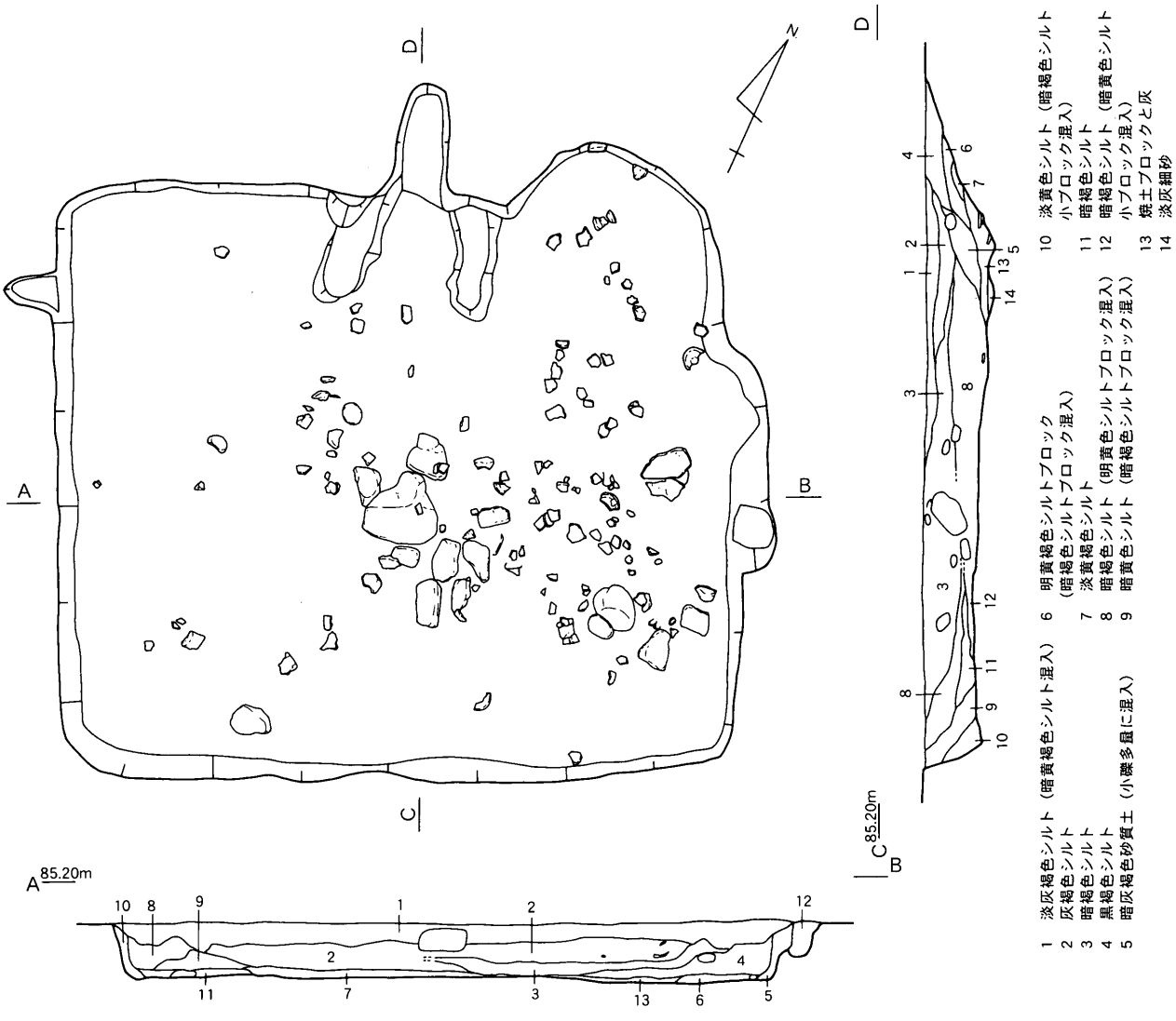
[遺構] 対象地の中央部の東寄りの位置に所在する。北及び東壁面の一部分が損壊しているが、原形は全壁面が直線的な平面形態であったと推測され、北東隅部以外の隅部がほぼ直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

主柱穴跡や壁溝等は存在しない。柱材は、床面に据え置かれていたと考えられる。

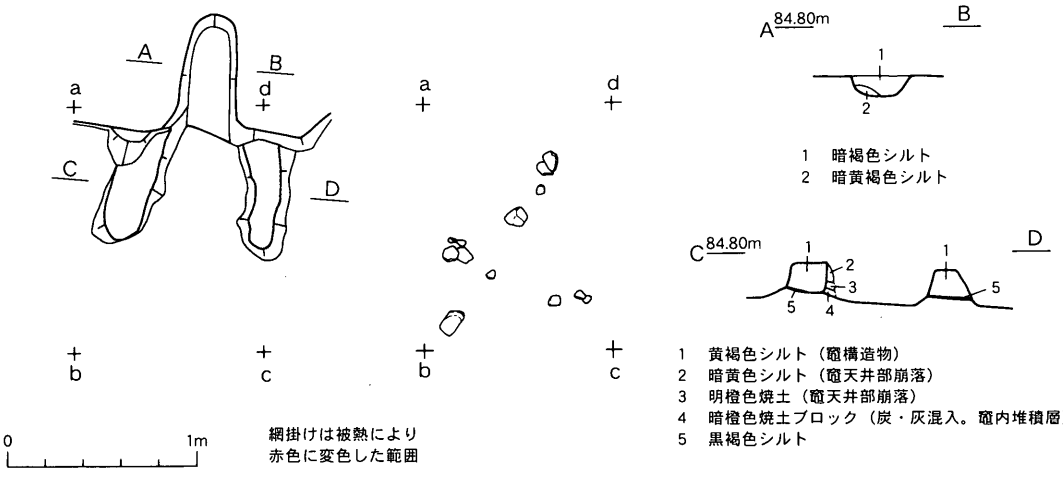
竈は北壁面の中央部に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

燃焼部と器設部については、高さ約15cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模から、原形は幅約100cm、奥行き約60cm、高さ約50cmの規模で、外面が垂直気味の形態であることから箱型の形態であったと想定される。

両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化し



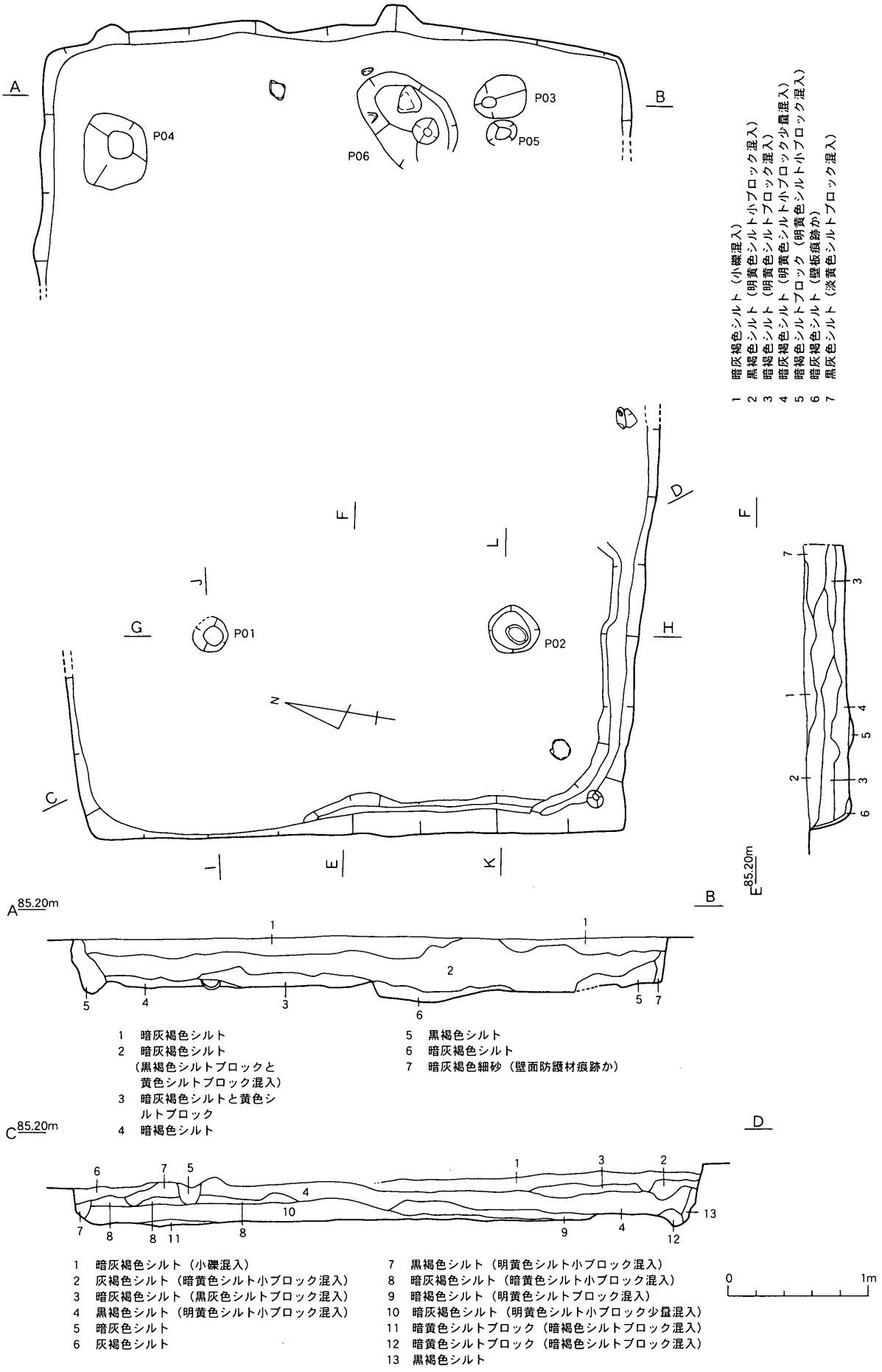
1 淡灰褐色シルト（暗黄褐色シルト混入）
2 灰褐色シルト
3 濃黄褐色シルト（暗褐色シルトブロック混入）
4 暗褐色シルト（濃黄色シルトブロック混入）
5 黒褐色シルト
6 灰褐色シルト
7 灰褐色シルト
8 黒褐色シルト
9 暗灰褐色シルト（淡黄色シルト小ブロック混入）
10 黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
11 暗褐色シルトブロック（淡黄色シルトブロック混入）
12 暗黄色シルト
13 明黄色シルトブロック



1 暗褐色シルト
2 暗黄褐色シルト

1 黄褐色シルト（竈構造物）
2 暗黄色シルト（竈天井部崩落）
3 明橙色焼土（竈天井部崩落）
4 暗橙色焼土ブロック（炭・灰混入。竈内堆積層）
5 黒褐色シルト

第54図　竪穴住居跡遺構実測図18（SH09）



第55図　竪穴住居跡遺構実測図19（SH10）

ていた。

煙道部の底面は、傾斜角度が約23°で、先端部まで平滑に整えられている。

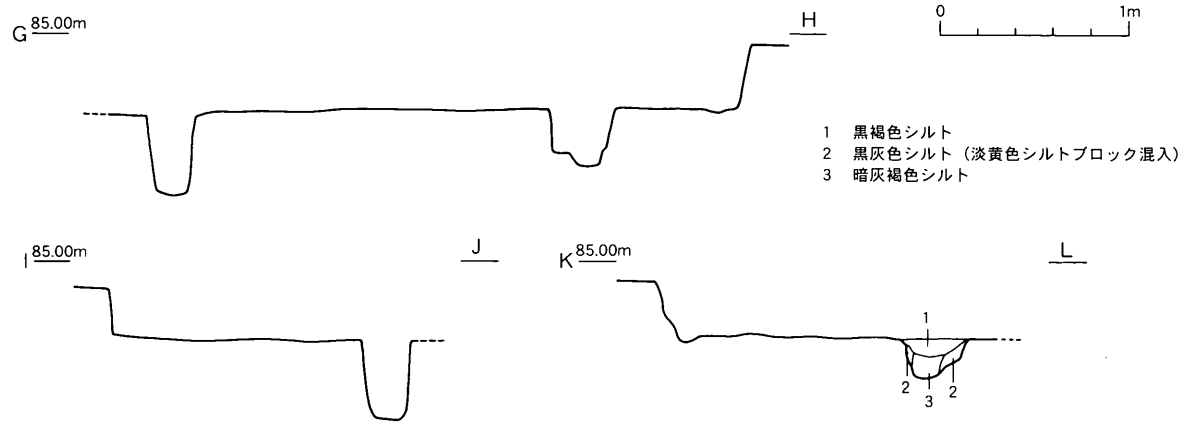
なお、埋土の中位には、基盤土に類似した土壌ブロックが多く含まれていたことから、人為的に埋め戻されたことが推測される。また、同土層序の上位から遺物が集中して出土している。これらの事実から、廃絶後は自然埋没し、その後人為的に完全に埋め戻されたことがわかる。

[遺物] 175は、口縁部の屈曲箇所が不明瞭な器形で、同部の長さが短い。177はく字形に屈曲する口縁部が特徴で、内外面の全体にわたってハケ目調整が施されている。178は球形の器形である。183～198は器高が低い、扁平な器形である。183、191、198が製作された際の焼成が不完全で、黄白色に発色している。196の上面には、直径に平行する方向に、ヘラ状工具で施された3本の線刻文が認められる。199～213のかえし部は短い形態で、ほぼ45°の角度で傾斜する。216の底面には、ヘラ状工具による1本の直線状の線刻文が認められる。218～225の原形は半球型の器形である。227は、長軸方向の4面に、長軸に直交及び斜交する使用痕が認められる。228と229は基部である。230は同一個体の部材であるが、隔絶した箇所であるために、上下に並べて配置した。231は長胴の器形で、蛸壺として使用されたことが想定できるが、紐掛けの痕跡はない。

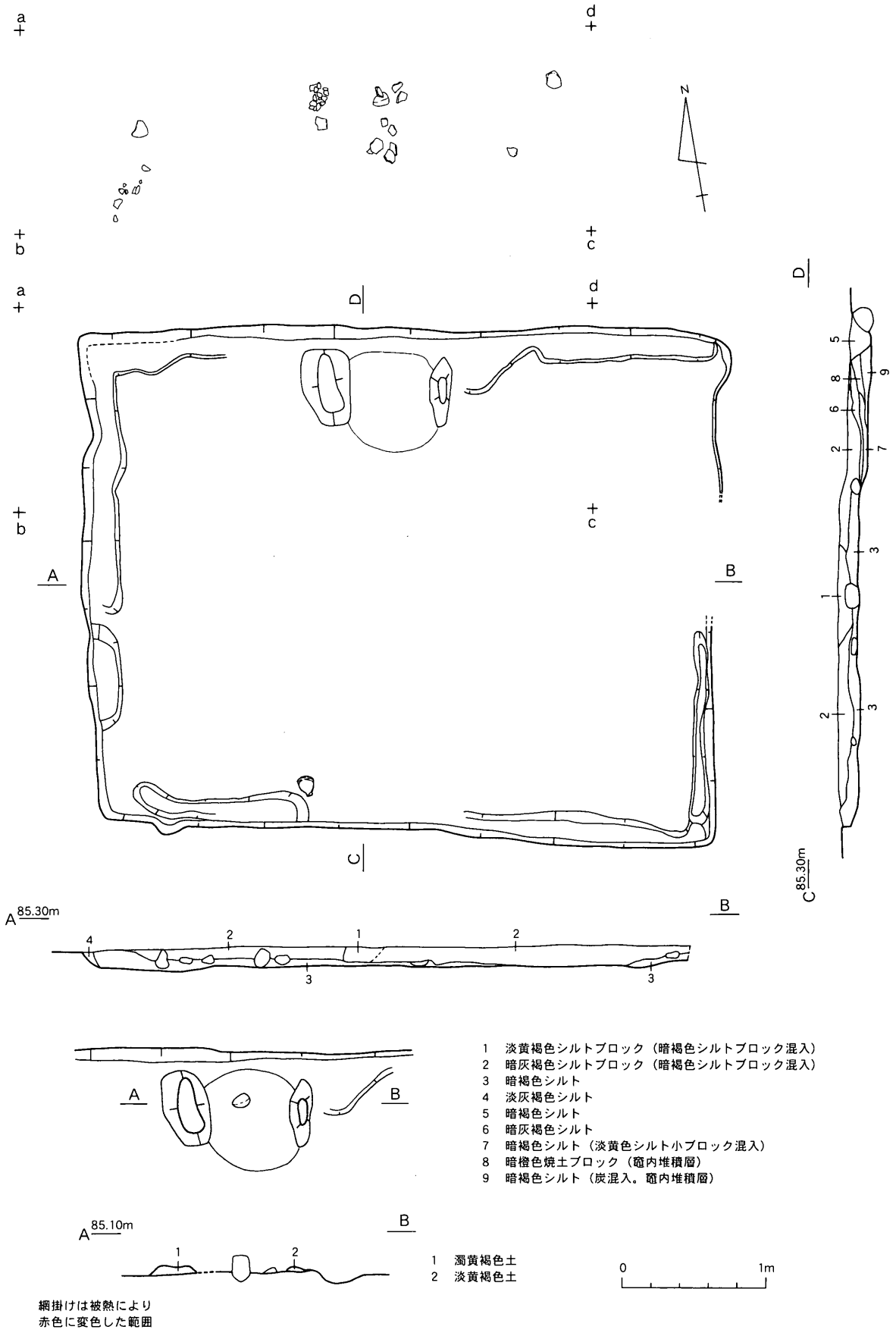
SH10（第55,56,59図）

[遺構] 対象地のほぼ中央部の東寄りの位置に所在する。遺構の中央部については、現存する用水路のために調査を実施することができなかった。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についても完全な直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

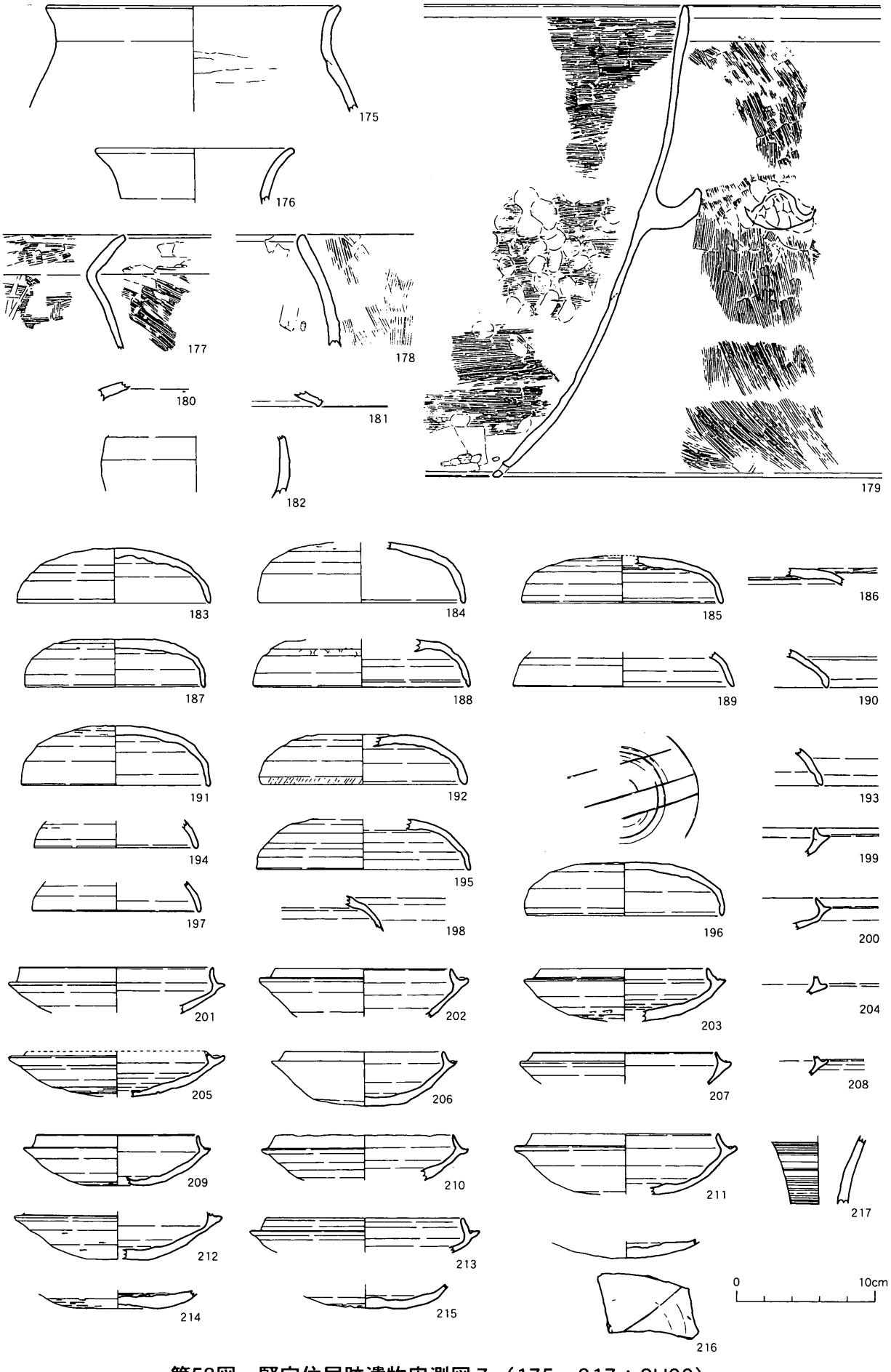
柱穴跡は、南西隅部の小型遺構を除いて6個存在するが、床面の東半部の4個については、壁面に近接し過ぎるため、主柱穴跡は西半部の2個（P01・02）と考えられる。すなわち、原形は床面の中央部に正方形の配置にあったことが想定される。壁溝は、南西隅部に存在する。



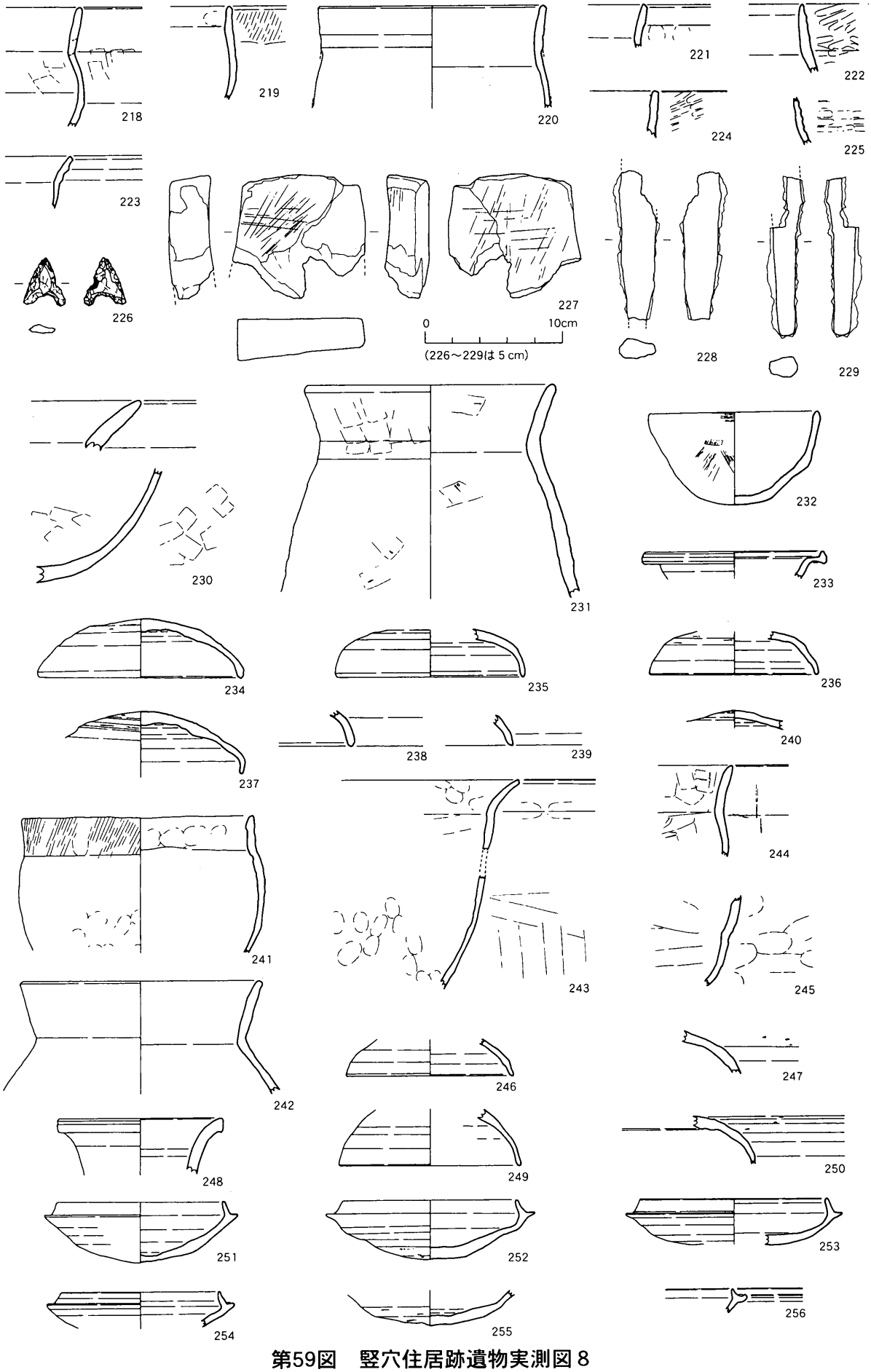
第56図　竪穴住居跡遺構実測図20（SH10）



第57図　竪穴住居跡遺構実測図21（SH11）

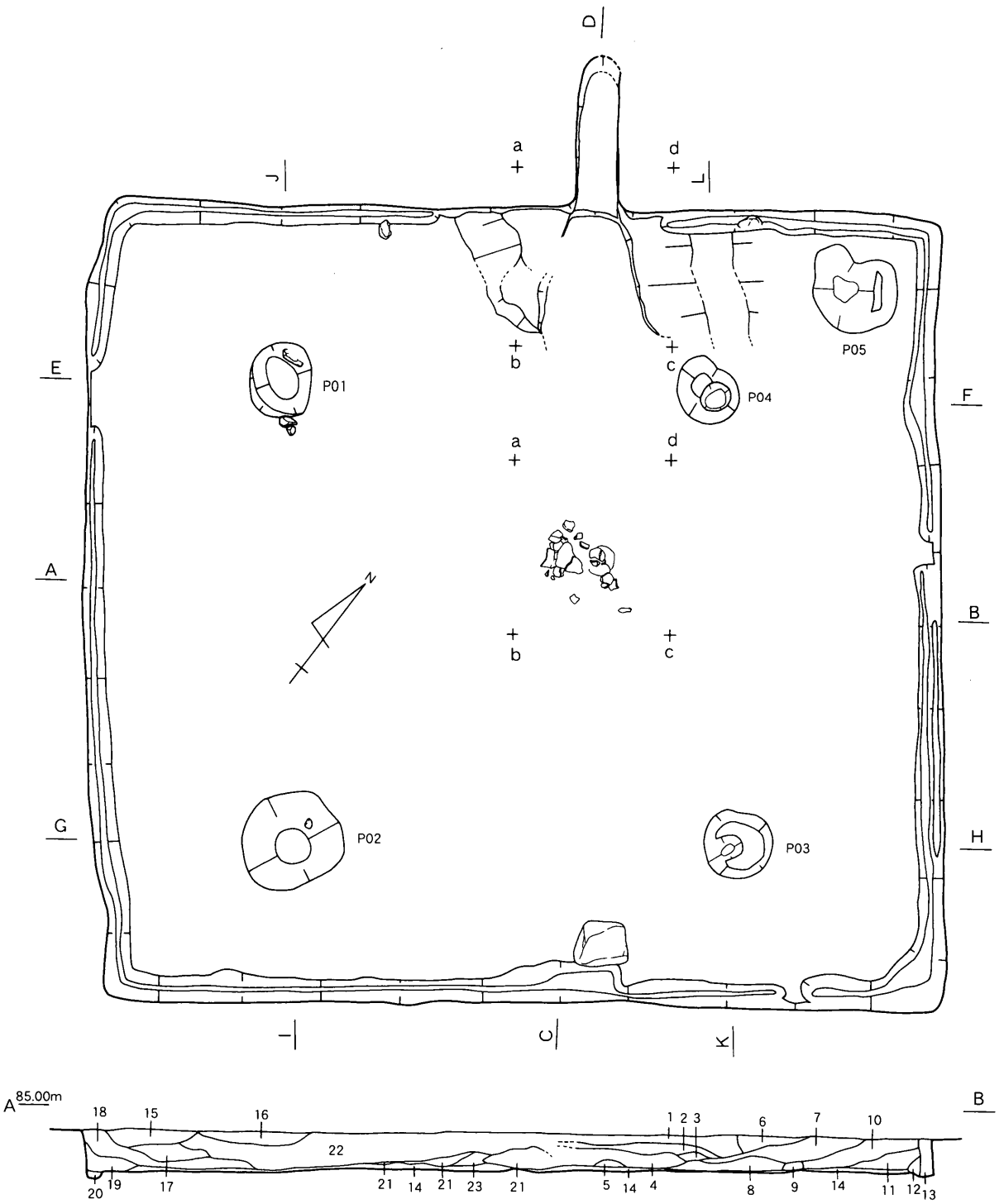


第58図　竪穴住居跡遺物実測図７（175～217：SH09）



第59図　竪穴住居跡遺物実測図８

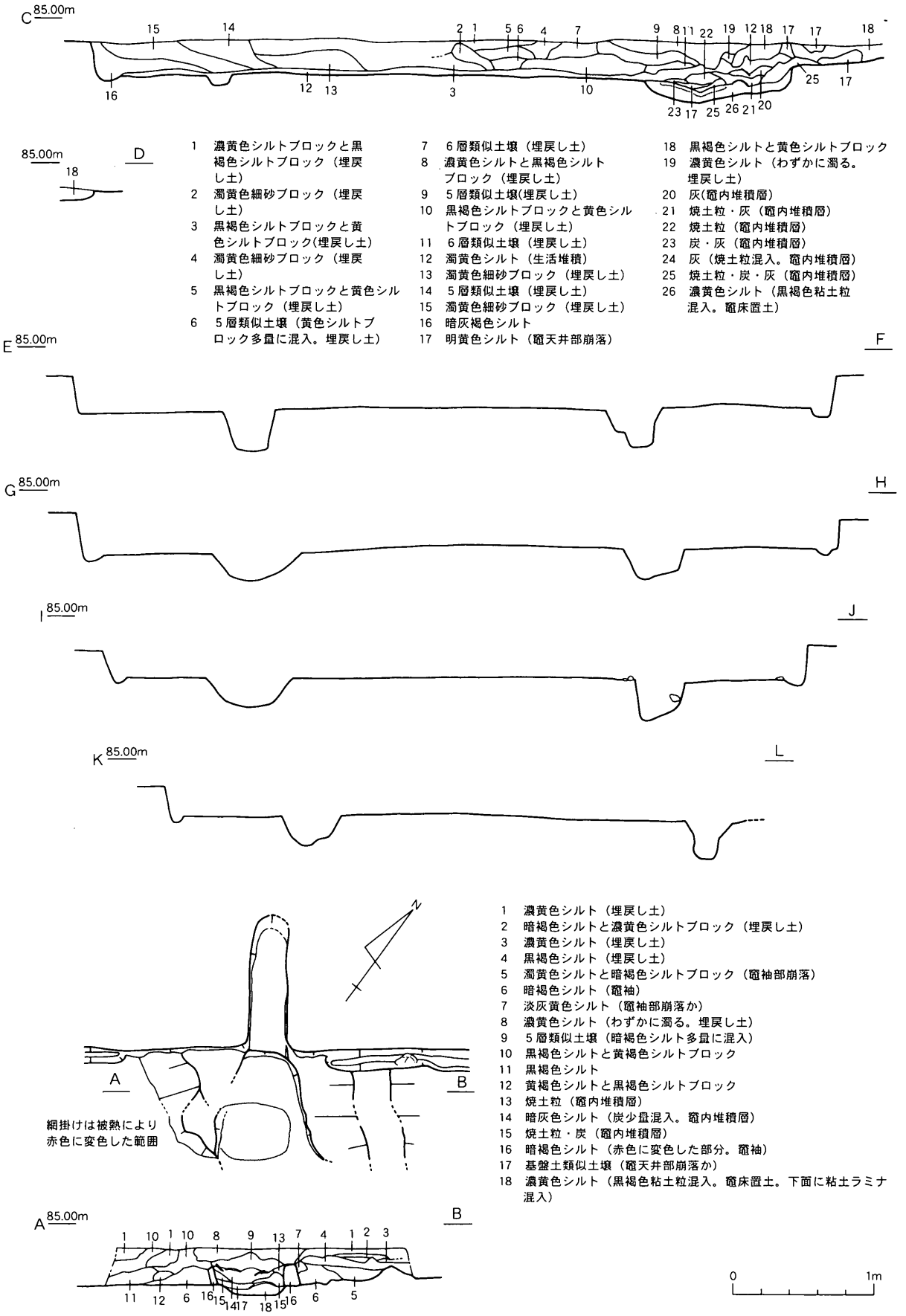
（218～231：SH09，232～241：SH10，242～256：SH11）



1　濃黄色シルトブロックと黒褐色シルトブロック（埋戻し土）
2　１層類似土壌（濃黄色シルトブロック多量に混入。埋戻し土）
3　濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
4　黒褐色シルトブロックと黄色シルトブロック（埋戻し土）
5　濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
6　濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
7　２層類似土壌（黒褐色シルトブロック多量に混入。埋戻し土）
8　濃黄色シルトブロックと黒褐色シルトブロック（埋戻し土）
9　黒褐色シルトブロックと黄色シルトブロック（埋戻し土）
10　濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
11　黒褐色シルトブロックと黄色シルトブロック（埋戻し土）
12　濁黄色シルト
13　黒褐色シルト（壁面防護材痕跡か）
14　灰褐色シルト（炭少量混入。生活堆積）
15　濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
16　濃黄色シルトと黒褐色シルトブロック
17　黄褐色シルト（黒褐色シルトブロック混入。埋戻し土）
18　黒色シルト（黄褐色シルトブロック少量混入。埋戻し土）
19　淡灰褐色細砂（炭混入）
20　黒褐色シルト（壁面防護材痕跡か）
21　濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
22　暗灰褐色シルト（黄色シルトブロック混入。埋戻し土）
23　22層類似土壌（黄色シルトブロック少量混入。埋戻し土）

0　1m

第60図　竪穴住居跡遺構実測図22（SH12）



1 濃黄色シルトブロックと黒褐色シルトブロック（埋戻し土）
2 濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
3 黒褐色シルトブロックと黄色シルトブロック(埋戻し土)
4 濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
5 黒褐色シルトブロックと黄色シルトブロック（埋戻し土）
6 5層類似土壌（黄色シルトブロック多量に混入。埋戻し土）
7 6層類似土壌（埋戻し土）
8 濃黄色シルトと黒褐色シルトブロック（埋戻し土）
9 5層類似土壌(埋戻し土)
10 黒褐色シルトブロックと黄色シルトブロック（埋戻し土）
11 6層類似土壌（埋戻し土）
12 濁黄色シルト（生活堆積）
13 濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
14 5層類似土壌（埋戻し土）
15 濁黄色細砂ブロック（埋戻し土）
16 暗灰褐色シルト
17 明黄色シルト（竈天井部崩落）
18 黒褐色シルトと黄色シルトブロック
19 濃黄色シルト（わずかに濁る。埋戻し土）
20 灰(竈内堆積層)
21 焼土粒・灰（竈内堆積層）
22 焼土粒（竈内堆積層）
23 炭・灰（竈内堆積層）
24 灰（焼土粒混入。竈内堆積層）
25 焼土粒・炭・灰（竈内堆積層）
26 濃黄色シルト（黒褐色粘土粒混入。竈床置土）

1 濃黄色シルト（埋戻し土）
2 暗褐色シルトと濃黄色シルトブロック（埋戻し土）
3 濃黄色シルト（埋戻し土）
4 黒褐色シルト（埋戻し土）
5 濁黄色シルトと暗褐色シルトブロック（竈袖部崩落）
6 暗褐色シルト（竈袖）
7 淡灰黄色シルト（竈袖部崩落か）
8 濃黄色シルト（わずかに濁る。埋戻し土）
9 5層類似土壌（暗褐色シルト多量に混入）
10 黒褐色シルトと黄褐色シルトブロック
11 黒褐色シルト
12 黄褐色シルトと黒褐色シルトブロック
13 焼土粒（竈内堆積層）
14 暗灰色シルト（炭少量混入。竈内堆積層）
15 焼土粒・炭（竈内堆積層）
16 暗褐色シルト（赤色に変色した部分。竈袖）
17 基盤土類似土壌（竈天井部崩落か）
18 濃黄色シルト（黒褐色粘土粒混入。竈床置土。下面に粘土ラミナ混入）

第61図　竪穴住居跡遺構実測図23（SH12）

竈は確認されなかった。

なお、床面全体の埋土中には、基盤土に類似した土壌ブロックが多く含まれていたことから、人為的に埋め戻されたことが推測される。

[遺物] 杯蓋は、器高が低い扁平な器形（234～236、238、239）が主体であるが、口縁端部が内側へ屈曲されることにより、高い器高に成形された資料（237）が含まれる。241は球形の器形である。

SH11（第57,59図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの東側の境界部分に所在し、遺構の一部分が対象地外に存在する。北・西・南壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についても完全な直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

主柱穴跡は存在しない。壁溝は、断続的に各壁面沿いに存在し、均等な幅と深さで開削されているとともに、底面が平坦な形態であることから、板状のものが設置されていたことがわかる。

竈は北壁面の中央部からやや西寄りの位置に存在する。燃焼部、器設部の各上部構造は大部分が損壊して、部材が各部の内部に転落していた。煙道部は完全に滅失している。

燃焼部と器設部については、高さ約10cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模から、原形は幅約60cm、奥行き約70cmの規模であったと想定される。上部構造の形態はわからない。

両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

竈床面の中央部に存在していた棒状の自然石は、煮沸容器の支柱であったと考えられる。

[遺物] 杯蓋は器高が高いものが多い（246、247、249、250）。杯身のかえし部は、他の住居跡の類似資料に比べて、傾斜角度が急で、長めの形態である（251～254、256）。

SH12（第60,61図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの場所に所在する。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についても完全な直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

主柱穴跡は４個（P01～04）で、床面の中央部に正方形に配置されている。壁溝は、竈の下部と西壁面の一部分以外の箇所に、均等な幅と深さで開削されており、底面が平坦な形態であることから、板状のものが設置されていたことがわかる。

竈は北壁面の中央部からやや東寄りの位置に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

燃焼部と器設部については、高さ約20cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されている。残存する下部構造の基底部から、原形は馬蹄形の平面形態を示していたことがわかる。残存する部位の規模は、床面中央部に近い側が幅約70cm

で、壁面に向かって狭くなる。奥行きは約70cmである。基底部の粘土塊の外面の傾斜角度が急なことから、燃焼部と器設部の原形は箱型の形態であった可能性が高い。

両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

竈の床面中央部から出土した転倒した高杯は、煮沸容器の支柱として利用されたものと考えられる。

煙道部の底面は、傾斜角度が約4°で、平滑に整えられている。

なお、床面全体の埋土中には、基盤土に類似した土壌ブロックが多く含まれていたことから、人為的に埋め戻されたことが推測される。

[遺物] 259の口縁部は直線状の長い形態で、直立気味に開口することが特徴である。体部は、下部ほど直径が大きい長胴の形態が想定される。261の杯部は、浅い皿状の形態である。

SH13（第62～64図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの場所に所在する。各壁面は直線的な平面形態であり、各隅部についても完全な直角に成形されていることから、計画的に構築された遺構と判断される。

主柱穴跡は4個（P01～04）で、床面の中央部に正方形に配置されている。壁溝は、竈の下部以外の箇所に、均等な幅と深さで開削されており、底面が平坦な形態であることから、板状のものが設置されていたことがわかる。

竈は北壁面の中央部に存在する。燃焼部、器設部の各上部構造は損壊して、部材が各部の内部に転落していた。煙道部は完全に滅失している。

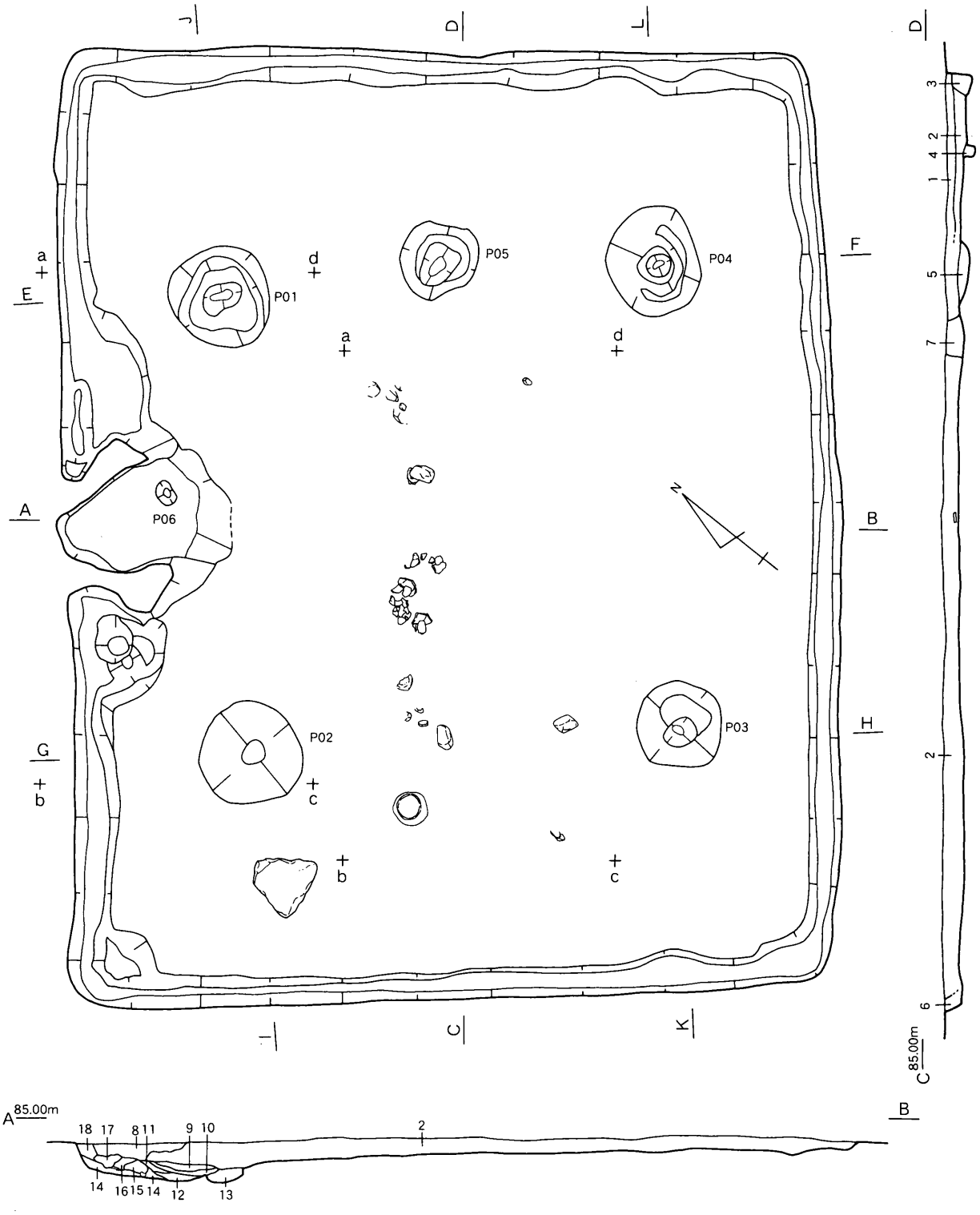
燃焼部と器設部は、高さ約20cmの下部構造が保存されており、床面直上に粘土塊が積み上げられて構築されていたことがわかる。残存する下部構造の基底部の規模と外面形態から、原形は幅約120cm、奥行き約120cmの規模の半球型か箱型の形態であったと想定される。両部位の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

[遺物] 266は、逆八字形に開口する短い口縁部と、長胴の体部が特徴である。267と268は、口径が体部の最大径を凌駕する器形で、器壁が薄いことが特徴である。270は口縁部が直立する器形である。274は器壁が薄い器形で、稜線が鋭角的に突出する形態である。杯蓋は、口縁端部が直線状に垂下する高い器形（277）と、同部が外方向に張り出した浅い器形（278）に2分され、杯身は、かえし部が直立気味の器形（281）と、同部が内傾する器形（282）に2分される。

SH14（第65,66,68図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの場所に所在する。各壁面は外方向へ湾曲気味の平面形態であり、各隅部についても丸く成形されていることが他の住居跡と大きく異なる特徴である。

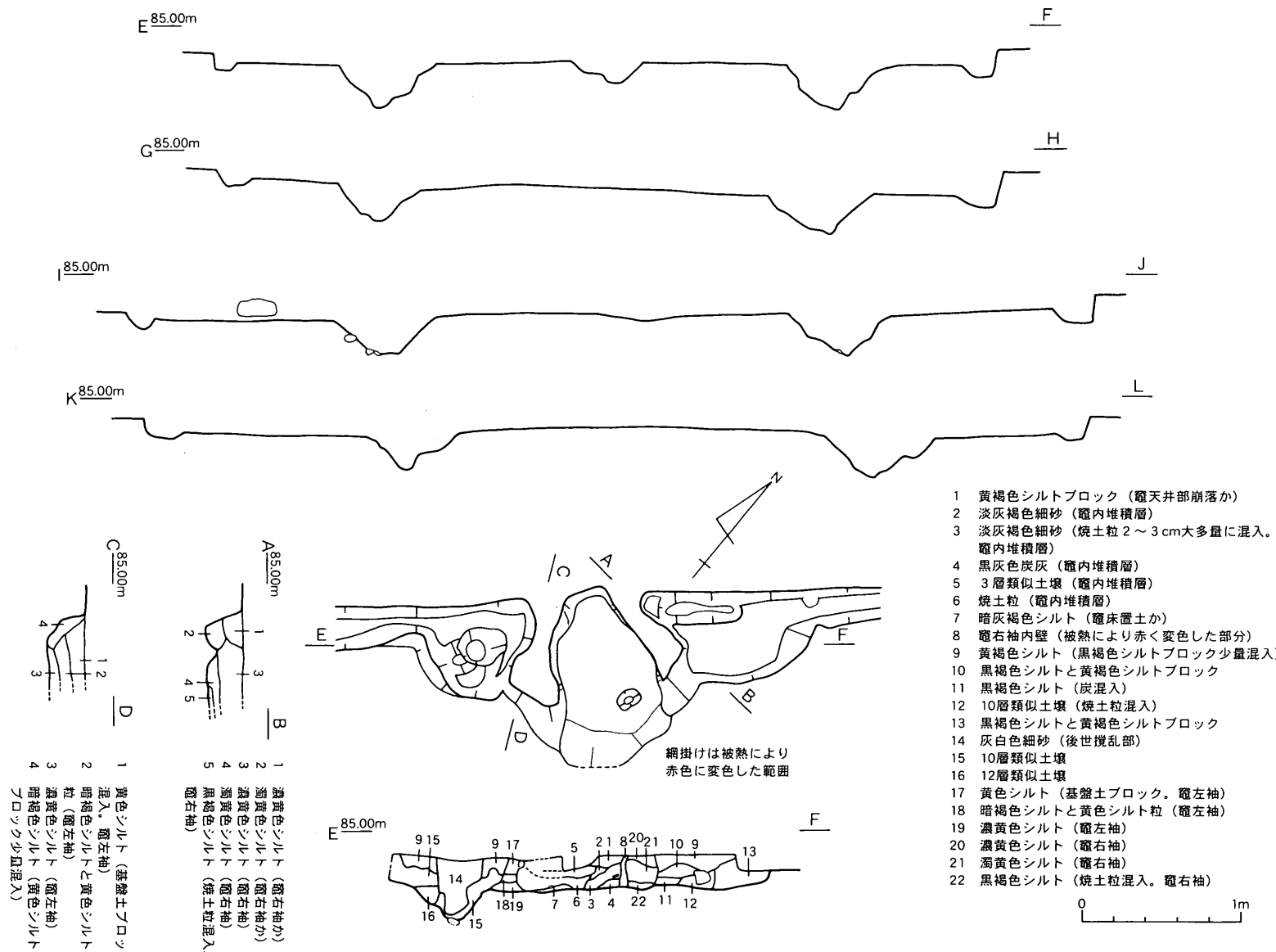
主柱穴跡は4個（P01～04）で、正方形に配置されている。壁溝は北及び東壁面と南壁面の一部分に存在するが、幅と深さが不均等なために排水を目的とした施設と考えられる。



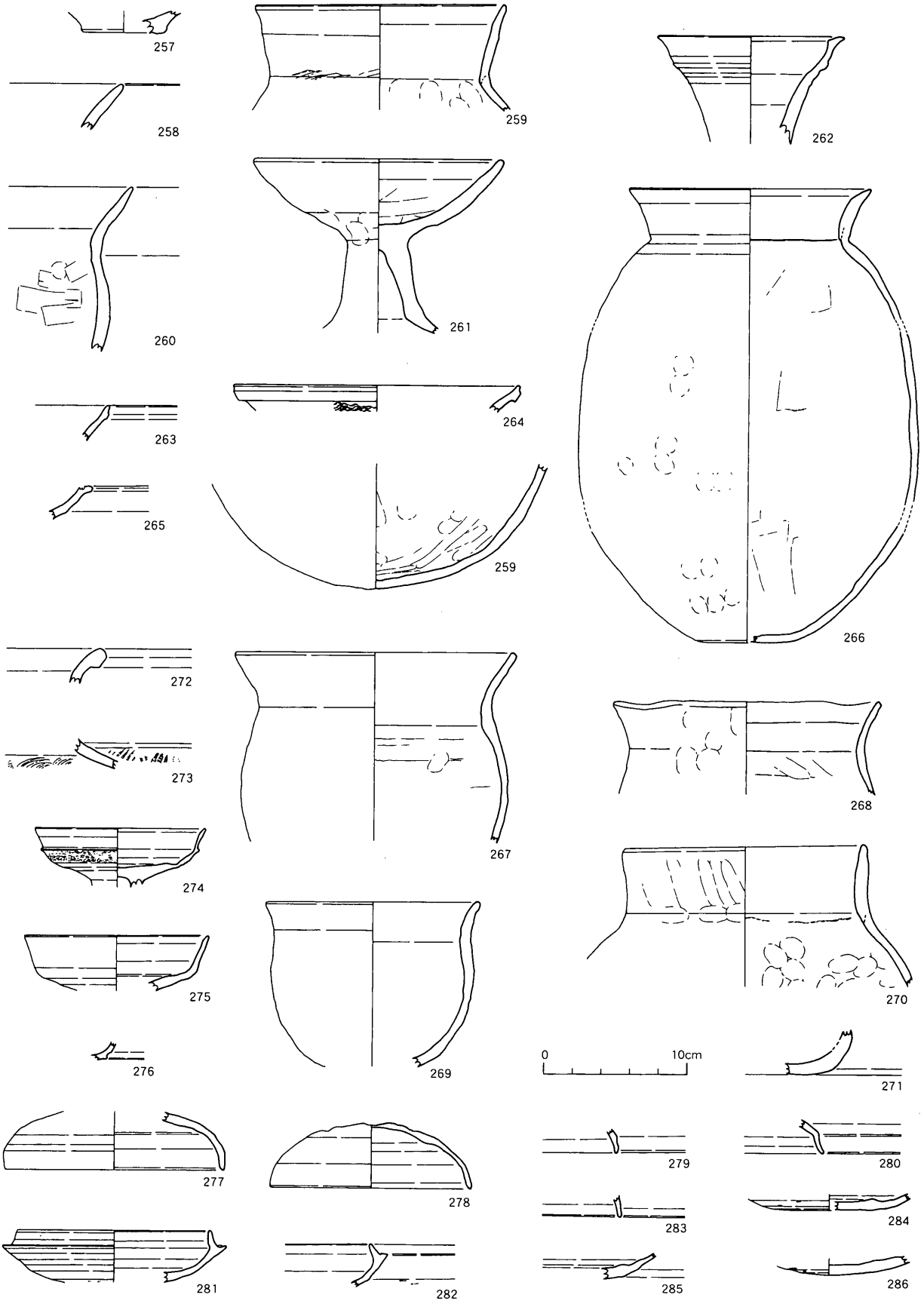
1　黒褐色シルトと黄褐色砂質土ブロック
2　黒褐色シルト（鉄分混入）
3　黒褐色粘性土（壁面防護材痕跡か）
4　黒褐色細砂（炭混入）
5　黒褐色シルト（黄褐色シルトブロック２～３cm大多量に混入）
6　３層類似土壌（壁面防護材痕跡か）
7　黄褐色シルトブロックと黒褐色シルトブロック
8　黄色シルト（竈天井部崩落か）
9　焼土粒(竈内堆積層)
10　黒灰色炭灰（竈内堆積層）
11　暗灰褐色シルト（竈内堆積層）
12　焼土粒（竈内堆積層）
13　黒灰色シルトと黄色粘性土ブロック（竈床補修層か）
14　暗灰褐色シルト（竈床補修層か）
15　焼土ブロック（竈床堆積層）
16　炭灰(竈床堆積層)
17　焼土ブロック（竈床堆積層）
18　黒褐色シルトブロックと黄褐色シルトブロック

第62図　竪穴住居跡遺構実測図24（SH13）

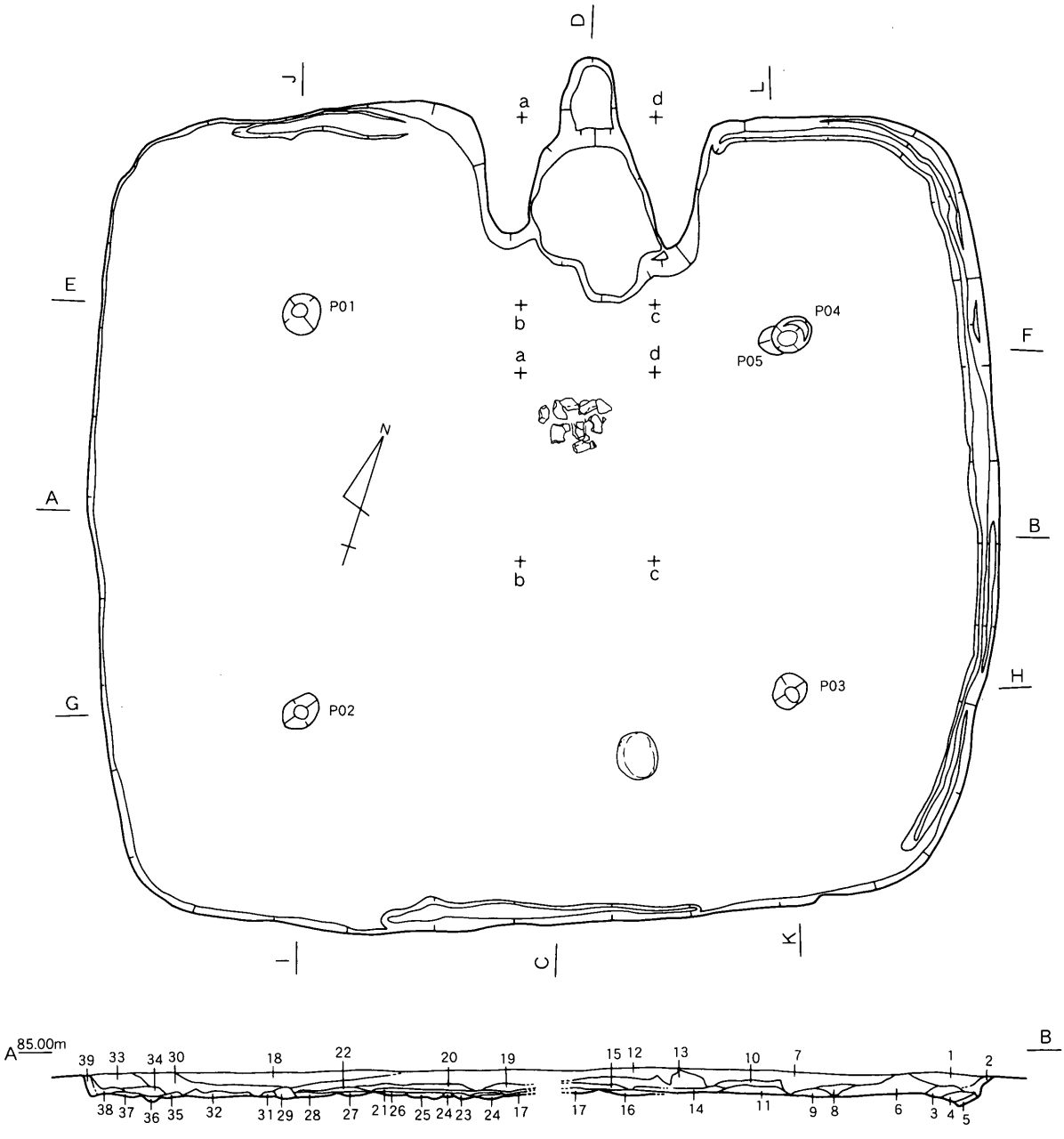
0　1m



第63図　竪穴住居跡遺構実測図25（SH13）



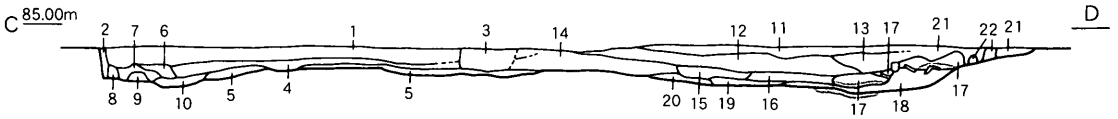
第64図　竪穴住居跡遺物実測図９（257～265：SH12，266～286：SH13）



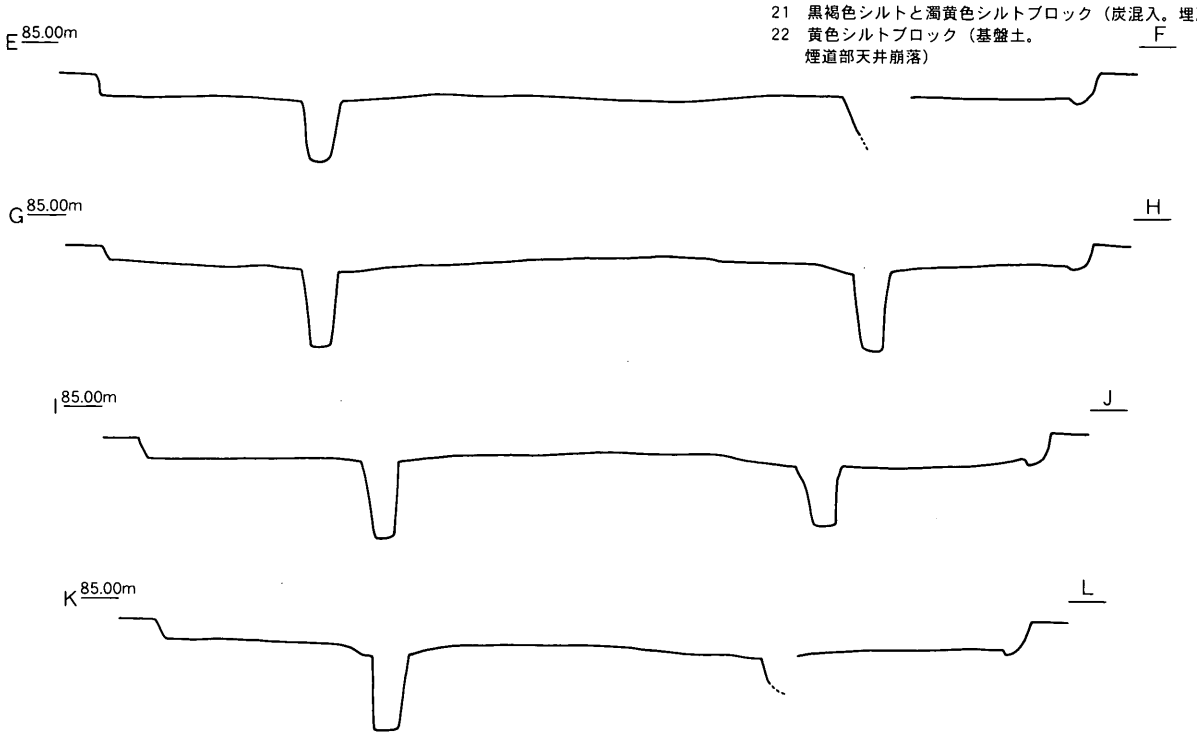
1　暗黒色シルト（２～３cm大の基盤土ブロック少量混入。埋戻し土）
2　暗黒色シルト（２～３cm大の基盤土ブロック多量に混入。埋戻し土）
3　暗黄色シルト（基盤土ブロックに暗黒色シルトブロック多量に混入）
4　黄色シルト（基盤土ブロックを主体とし、わずかに２～３cm大の暗黒褐色シルトブロック混入）
5　暗黄色シルト（全体に黒ずんで汚れる）
6　暗灰褐色シルト（２～３cm大の基盤土ブロック混入。埋戻し土）
7　暗黄色シルトブロックと暗黒色シルトブロック（埋戻し土）
8　暗灰褐色シルト（埋戻し土）
9　黒褐色シルト（焼土ブロックと炭２～３cm大を多量に混入。生活堆積）
10　暗灰褐色シルト（埋戻し土）
11　黒褐色シルト（焼土ブロックと炭２～３cm大を多量に混入。生活堆積）
12　７層類似土壌（やや淡い。埋戻し土）
13　暗灰褐色シルト（基盤土ブロック極少量混入。埋戻し土）
14　灰褐色シルト（微細な炭少量混入。生活堆積）
15　灰褐色シルト（微細な炭少量混入。生活堆積）
16　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
17　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
18　暗灰褐色シルト（濃黄色シルトブロック少量混入。生活堆積か）
19　暗灰褐色シルト（基盤土ブロック極少量混入。埋戻し土）
20　暗灰褐色シルト（基盤土ブロック極少量混入。埋戻し土）
21　灰褐色シルト（微細な炭少量混入。生活堆積）
22　灰褐色シルト（微細な炭少量混入。生活堆積）
23　濃黄色粘性土と灰褐色シルトブロック（16層類似土壌。汚れが強い。局部的な補修か。貼床）
24　濃黄色粘性土（炭２～３cm大混入。貼床）
25　濃黄色粘性土と灰褐色シルトブロック（16層類似土壌。汚れが強い。局部的な補修か。貼床）
26　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
27　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
28　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
29　暗灰褐色シルト
30　７層類似土壌（やや淡い。埋戻し土）
31　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
32　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
33　黒褐色シルト（２～３cm大の淡黄色シルトブロック極少量混入。埋戻し土）
34　灰褐色シルト（２～３cm大の淡黄色シルトブロック極少量混入）
35　濃黄色粘性土（基盤土に類似、汚れて粘性帯びる。貼床）
36　暗黄色粘性土（16層類似土壌。汚れが強い。貼床）
37　36層類似土壌（やや粗い。貼床）
38　暗灰褐色シルト
39　灰褐色シルト（38層類似土壌。やや淡くわずかに粗い。壁面防護材痕跡か）

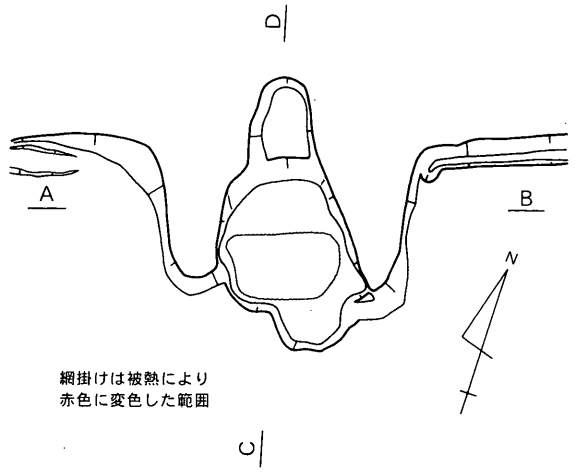
0　1m

第65図　竪穴住居跡遺構実測図26（SH14）

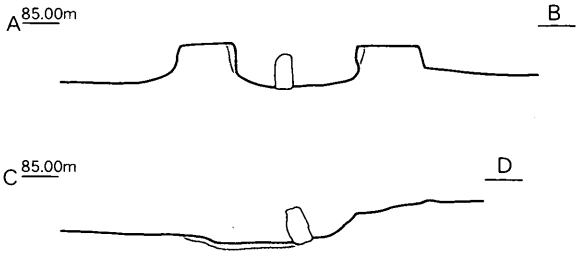


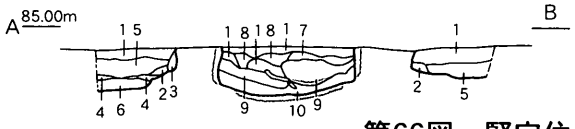
1　黒褐色シルトと濃黄色シルトブロック（基盤土。埋戻し土）
2　暗褐色シルトと灰色細砂（壁面防護材痕跡か）
3　草根により変色した部分
4　黒褐色シルト（1～3cm大の基盤土ブロック少量混入）
5　濁黄色粘性土（基盤土に類似するが汚れ目立つ。貼床）
6　黒褐色シルトブロックと濃黄色シルトブロック（基盤土）
7　淡黄色シルトブロック
8　暗褐色シルト
9　暗褐色シルト
10　暗褐色シルトブロックと暗黄色シルトブロック（貼床）
11　濃黄色シルトブロックと黒褐色シルトブロック（埋戻し土）
12　黒褐色シルトと濁黄色シルトブロック（炭混入。埋戻し土）
13　黒褐色シルトと濁黄色シルトブロック（炭多量に混入。埋戻し土）
14　黒褐色シルト（1～3cm大の基盤土ブロック少量混入。埋戻し土）
15　黄褐色シルトブロックと黒褐色シルト（埋戻し土）
16　黒褐色シルト（1～3cm大の基盤土ブロック少量混入。埋戻し土）
17　黄色シルトブロック（下面、厚さ2～5cm赤色に変色。竈天井部崩落）
18　炭・焼土粒多量に混入（竈内堆積層）
19　暗褐色シルト（わずかに炭混入。生活堆積）
20　黒褐色シルトと濁黄色シルトブロック（炭・焼土粒混入。生活堆積）
21　黒褐色シルトと濁黄色シルトブロック（炭混入。埋戻し土か）
22　黄色シルトブロック（基盤土。煙道部天井崩落）





網掛けは被熱により赤色に変色した範囲

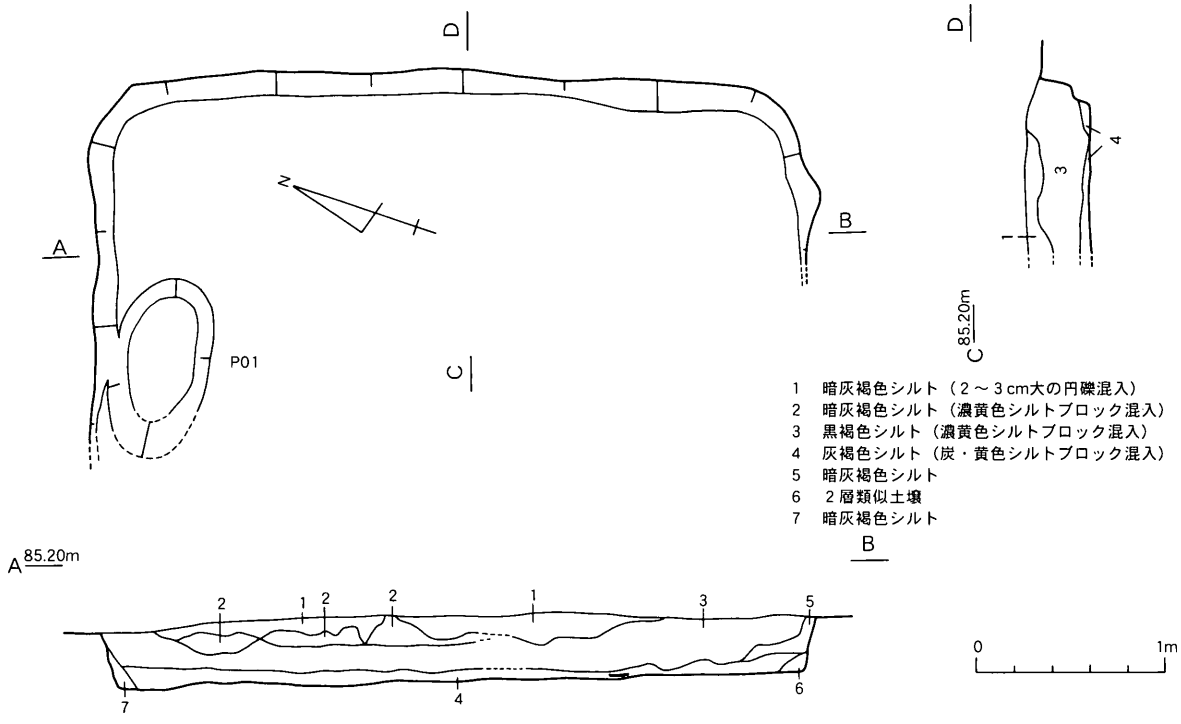




1　濃黄色シルトブロックと黒褐色シルトブロック（埋戻し土）
2　暗黄色シルトブロックと暗褐色シルトブロック（竈部崩落か）
3　暗褐色シルト
4　濁黄色シルトブロック（貼床）
5　暗褐色シルト（埋戻し土）
6　黒褐色シルトと濁黄色シルトブロック（炭混入）
7　6層類似土壌（やや淡い炭混入）
8　6層類似土壌（炭多量に混入）
9　竈天井部崩落（下面赤色に変色）
10　竈内堆積層

0　1m

第66図　竪穴住居跡遺構実測図27（SH14）



第67図　竪穴住居跡遺構実測図28（SH15）

竈は北壁面の中央部に存在する。燃焼部、器設部、煙道部の各上部構造は損壊して、部材が各部の内部に転落していた。

燃焼部及び器設部の基底部は、床面を開削する際に掘り残された基盤土で造り出されたもので、約30cmの高さがある。同部の外面が垂直面であることから、竈の原形は幅約130cm、奥行き約100cmの規模の箱型の形態であったと想定される。基底部の壁面内部は、被熱により赤色に変色するとともに、壁面外部よりも壁面が硬化していた。また、竈内部の床面も被熱により赤色に変色していた。

竈床面の中央部で出土した自然石は、煮沸容器の支柱として利用されたものと考えられる。

煙道部の底面は、傾斜角度が約10°で、段状に成形されている。

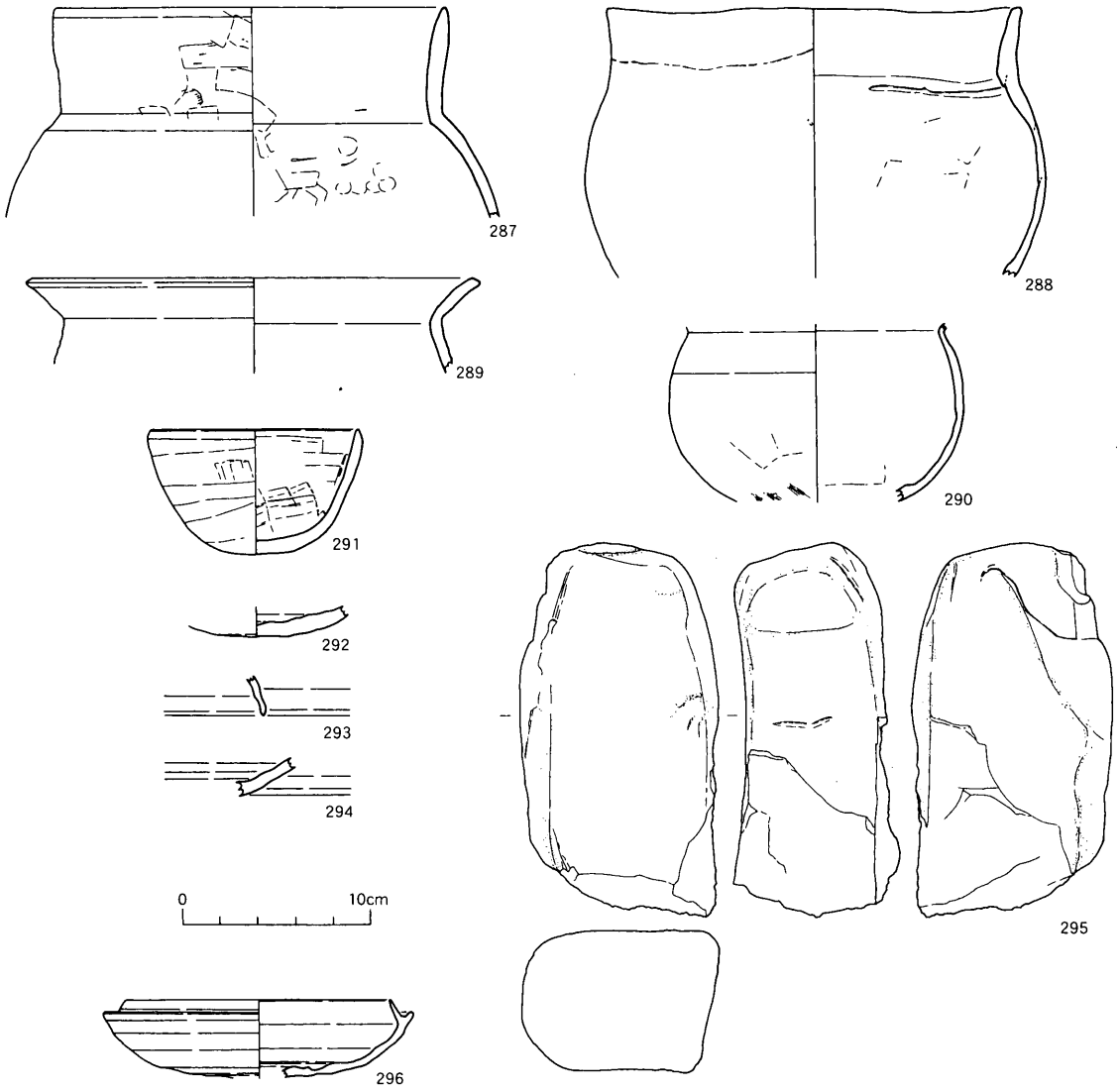
なお、床面全体の埋土中には、基盤土に類似した土壌ブロックが多く含まれていたことから、人為的に埋め戻されたことが推測される。

[遺物] 287の口縁部は、直立する形態である。288は器壁が薄い器形である。291は半球型の小型の体部が特徴である。295は自然石が未加工のまま利用された資料である。

SH15（第67,68図）

[遺構] 対象地の北部の東寄りの場所に所在する。遺構の西半部が現存する用水路の下部に存在するために、調査を行うことができなかった。各壁面は直線的な平面形態である。

床面の遺構は、北壁面沿いに柱穴跡が1個存在するが、壁面に近接し過ぎることと、規模が大きいことから、上部構造が存在した可能性は低い。



第68図　竪穴住居跡遺物実測図10（287～295：SH14，296：SH15）

[遺物] 296は浅い器形で、かえし部が内傾する形態である。

(2)掘立柱建物跡

SB01（第69図）

[遺構] 対象地のほぼ中央部から東寄りの位置に所在する。西側の梁行の中央部に柱穴跡が存在しないことから、同箇所は壁面がない開口した構造であったことが考えられる。

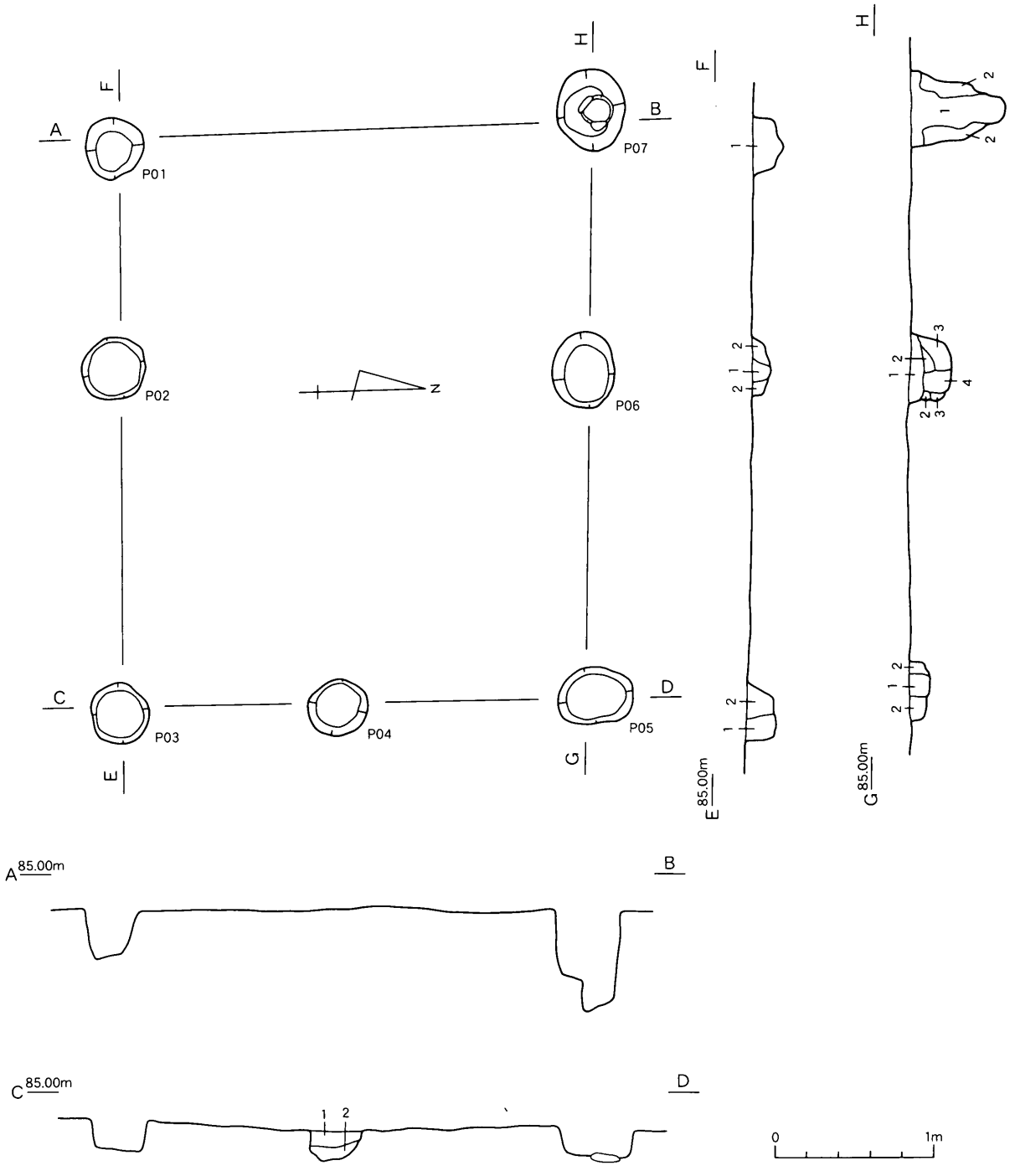
規模と建物の方向性が、SH11に類似することから、両者は共存した可能性がある。

柱根跡の規模から、柱材の直径は約14cmであったことがわかる。

SB02（第70図）

[遺構] 対象地の中央部から北寄りの位置に所在する。柱間距離が均等になるように、柱穴跡が整然と配列された遺構である。所在地と建物の方向性にもとづいて、SH03、SH05、SH15との共存が考えられる。

柱根跡の規模から、柱材の直径は約10cmであったことがわかる。



P01
1　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）

P02
1　黒褐色シルト（柱痕）
2　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）

P03
1　黒褐色シルト（柱痕）
2　濃黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）

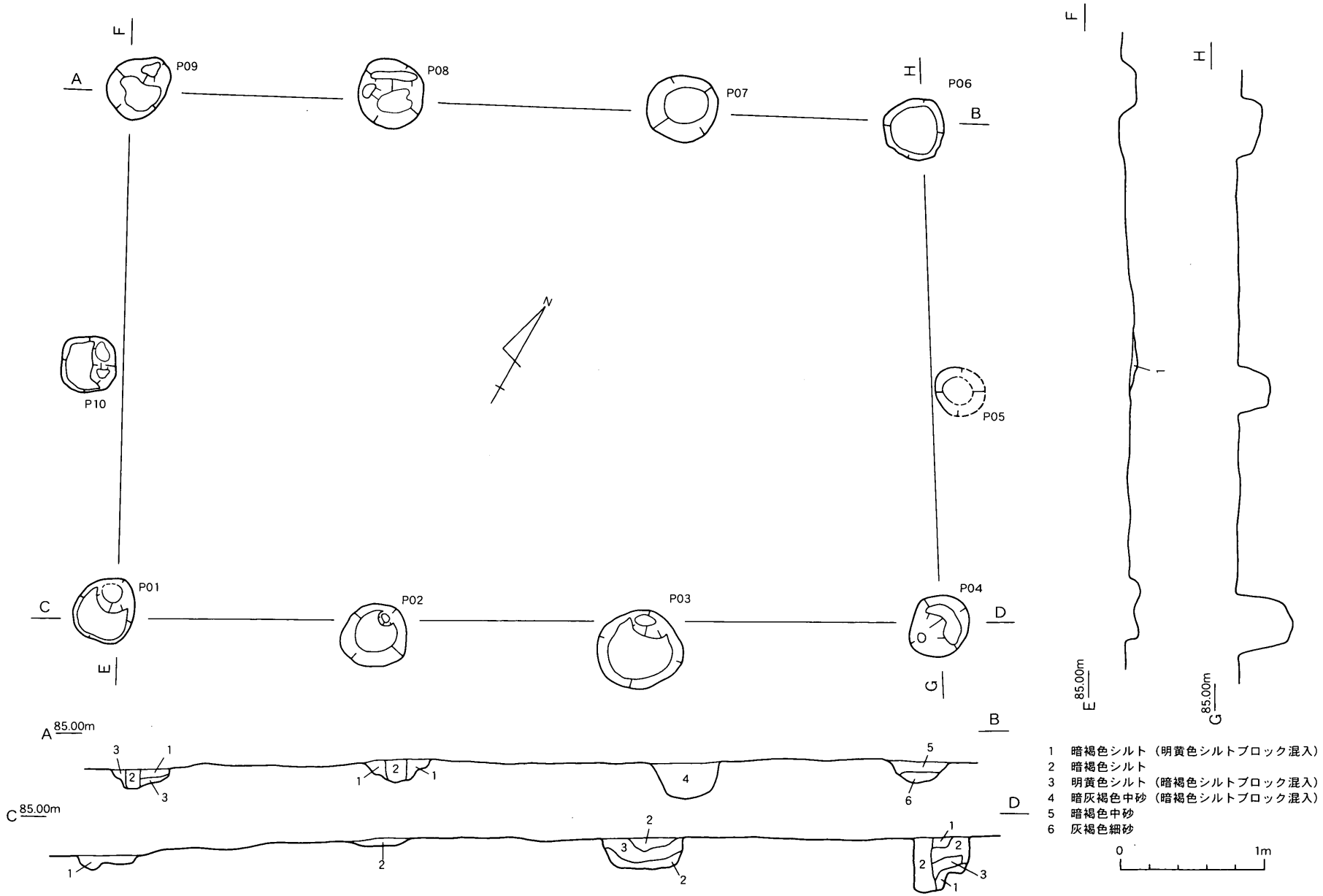
P04
1　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
2　暗灰黄色シルト（黒褐色シルトブロック混入）

P05
1　黒褐色シルト（柱痕）
2　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）

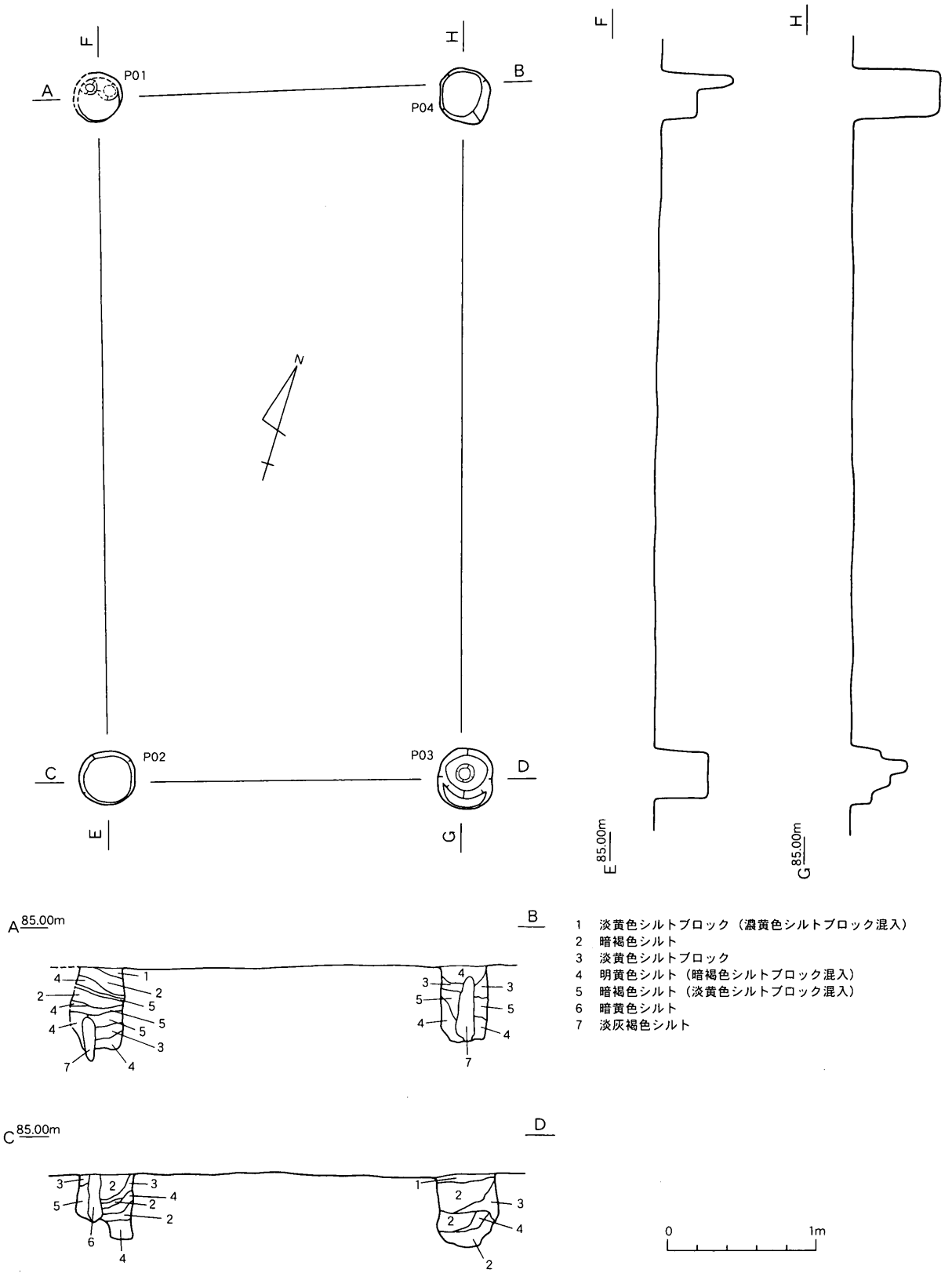
P06
1　暗灰色シルト（黒褐色シルト混入）
2　濃黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
3　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
4　黒褐色シルト（柱痕）

P07
1　灰白色シルト（黒褐色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルト

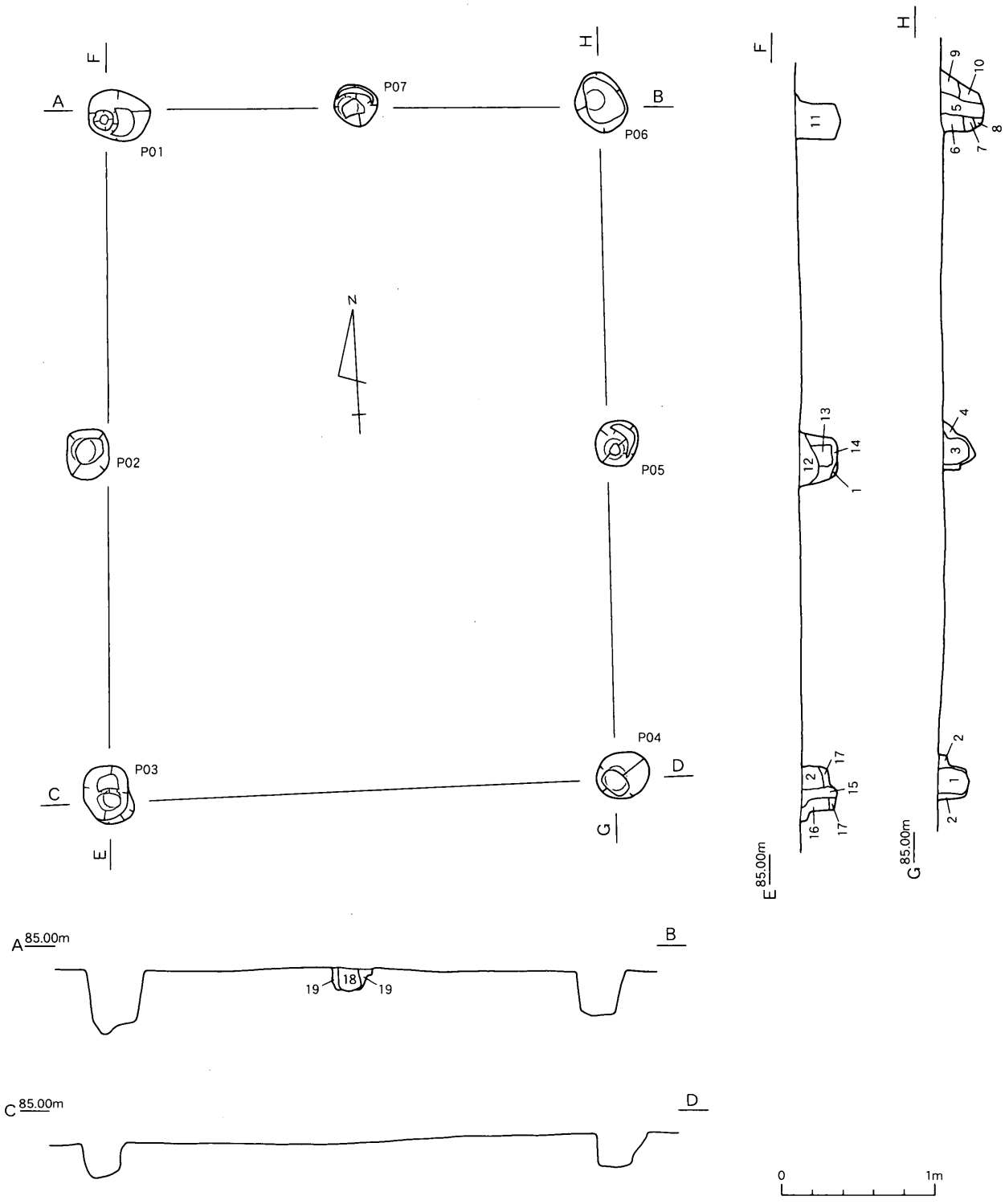
第69図　掘立柱建物跡遺構実測図１（SB01）



第70図　掘立柱建物跡遺構実測図２（SB02）

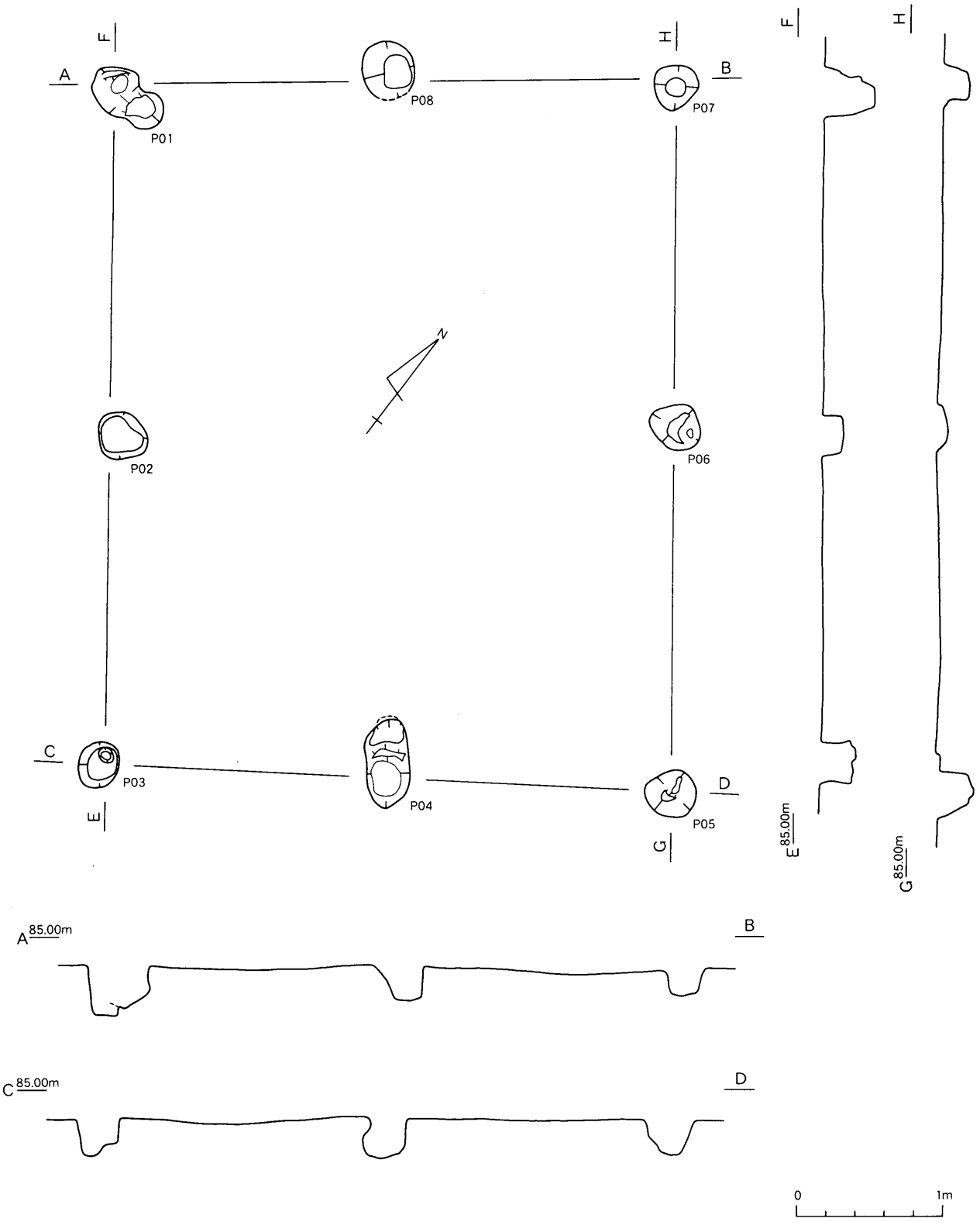


第71図　掘立柱建物跡遺構実測図３（SB03）

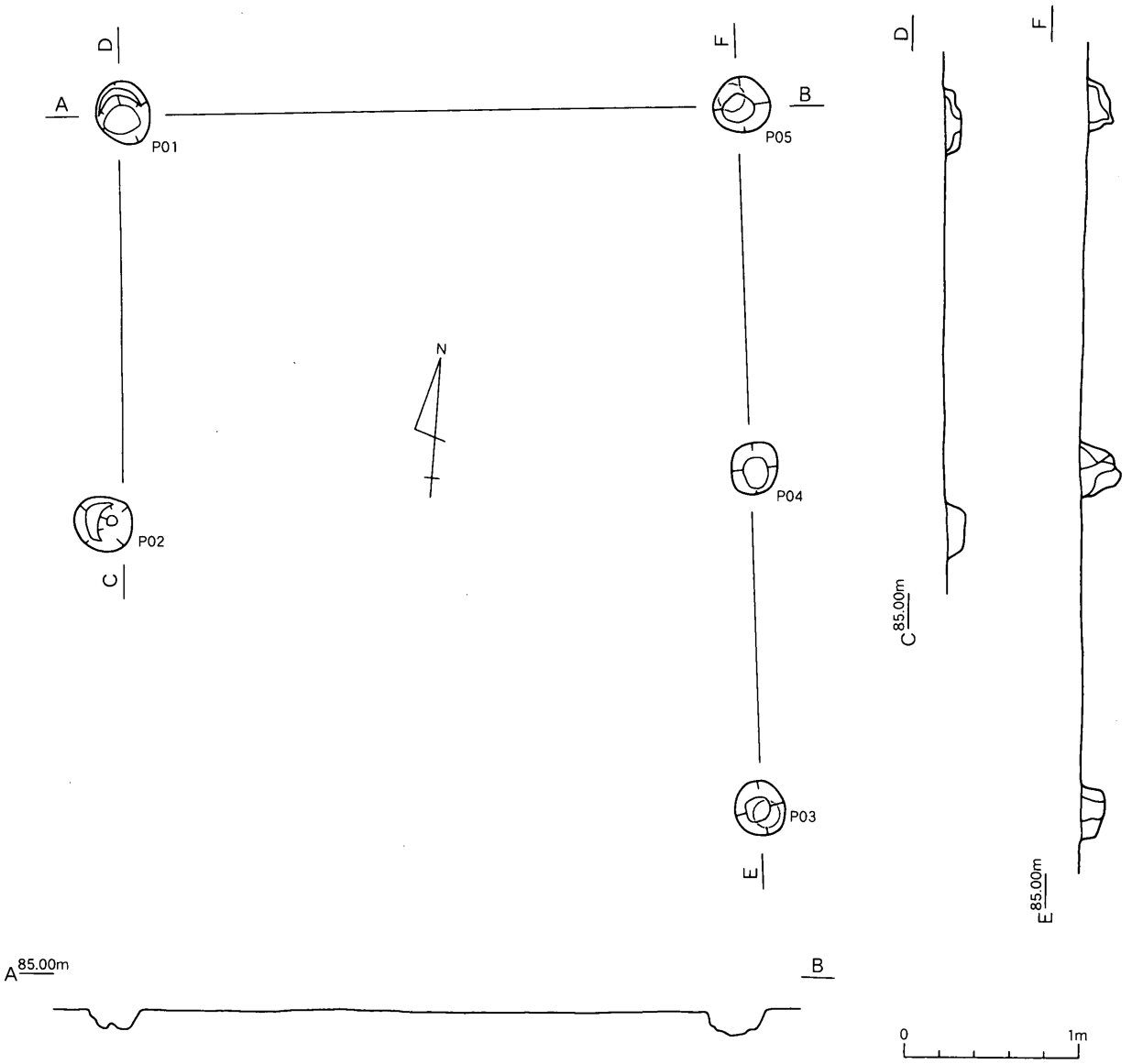


1　黒褐色シルト（柱痕）
2　濁黄色シルト
3　黒褐色シルト（柱痕）
4　濁黄色シルト
5　黒褐色シルト（柱痕）
6　黄褐色シルトブロック
　と黒褐色シルトブロック
7　黒褐色シルト
8　黄褐色シルトブロック
　と黒褐色シルトブロック
9　黄褐色シルトブロックと
　黒褐色シルトブロック
10　黒褐色シルト
　（黄褐色シルト
　ブロック混入）
11　黒褐色シルト
　（黄褐色シルト
　ブロック少量混入）
12　黒褐色シルト
13　黒褐色シルト（黄褐色シルト
　ブロック混入。柱痕か）
14　黄白色シルト
　（黒褐色シルトブロック混入）
15　黒褐色シルト（黄褐色シルトブロック少量混入。柱痕）
16　黄褐色シルト
　（黒褐色シルトブロック少量混入）
17　黒褐色シルト
18　黒褐色シルト（柱痕）
19　黄白色シルト
　（黒褐色シルトブロック混入）

第72図　掘立柱建物跡遺構実測図４（SB04）



第73図　掘立柱建物跡遺構実測図５（SB05）



第74図　掘立柱建物跡遺構実測図６（SB06）

SB03（第71図）

[遺構] 対象地の南半部の西側の境界部分に所在する。遺構の大部分が現存する用水路や対象地の外部に存在するために、全体像は不明である。

柱根跡の規模から、柱材の直径は約10cmであったことがわかる。

SB04（第72図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの位置に所在する。南側の梁行の中央部に柱穴跡が存在しないことから、同箇所は壁面がない開口した構造であったことが考えられる。この構造はSB07との類似点であるとともに、両者は形態と規模についても酷似している。

柱根跡の規模から、柱材の直径は約12cmであったことがわかる。

SB05（第73図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの位置に所在する。中央部の柱穴跡の位置が、対角線の交点に相当しないことから、同遺構の開削に際しては、任意の場所が選択されたと考えられる。

SB06（第74図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの位置に所在する。梁行の中央部に柱穴跡が存在しないことから、同箇所は壁面がない開口した構造であったことが考えられる。

(3)土　坑

SK27（第75図）

[遺構] 対象地の北部の東寄りの位置に所在する。平面形態は不整な溝状を示し、断面形態が浅い皿形であることから自然遺構と考えられる。

SK29（第75図）

[遺構] 対象地の北部の東寄りの位置に所在する。平面形態は不整な溝状を示し、断面形態が浅い皿形であることから自然遺構と考えられる。

SK30（第75,77図）

[遺構] 対象地の北部の東寄りの位置に所在する。平面形態は不整な溝状を示し、底面が著しく凹凸のある断面形態であることから、樹木が抜き取られた痕跡か自然遺構と考えられる。

[遺物] 305は、口縁下端部の屈曲が小さい器形である。

SK31（第75図）

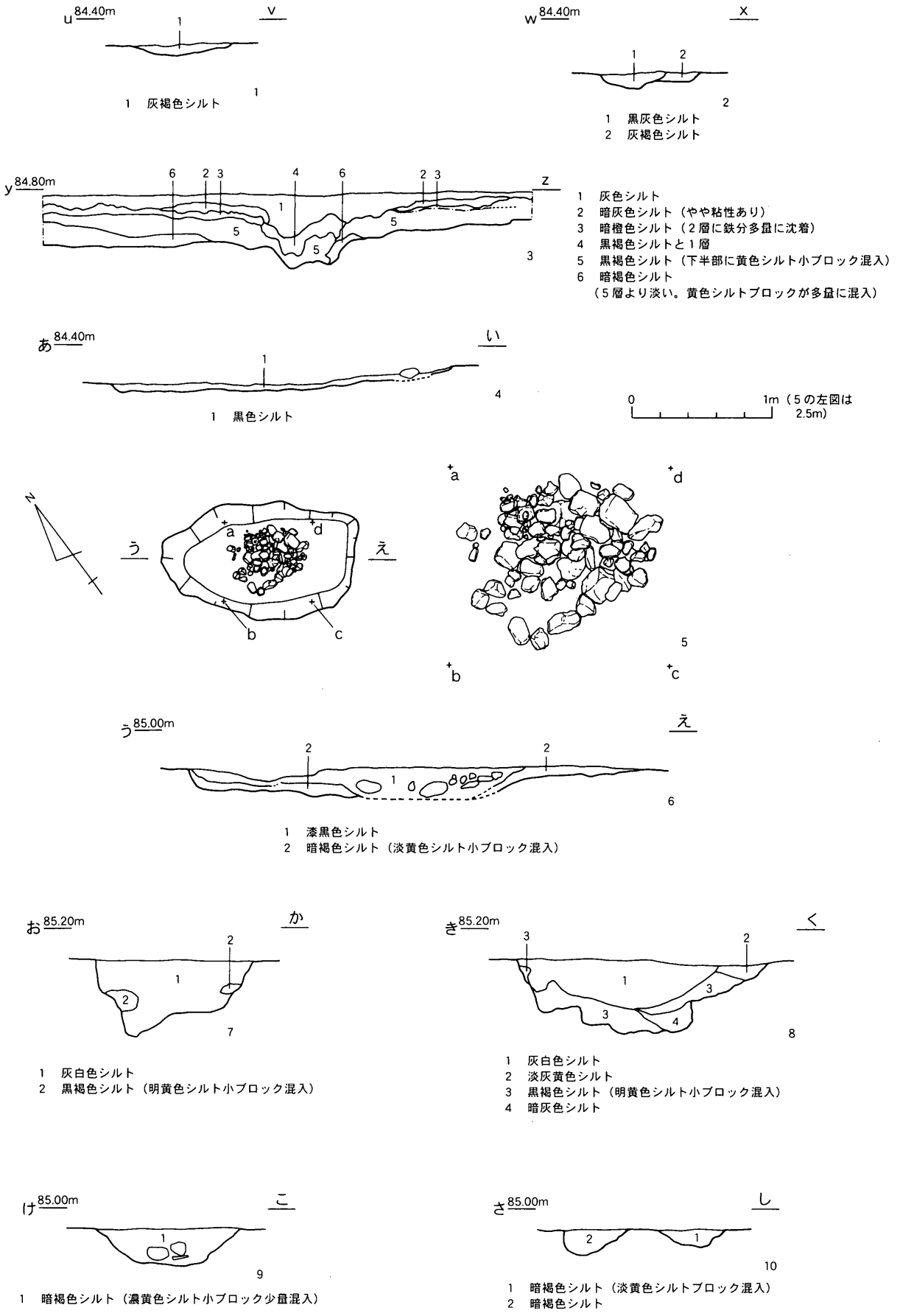
[遺構] 対象地の北部の東寄りの位置に所在する。平面形態は不整な溝状を示し、断面形態が浅い皿形であることから自然遺構と考えられる。

SK32（第75,77図）

[遺構] 対象地のほぼ中央部に所在する。土坑の中央部に、敷き詰められたような状態の自然石群が、直径約70cmの円形の範囲にわたって確認された。これらの石の配置には規則性がないことから、無作為に投入されたことが推察される。

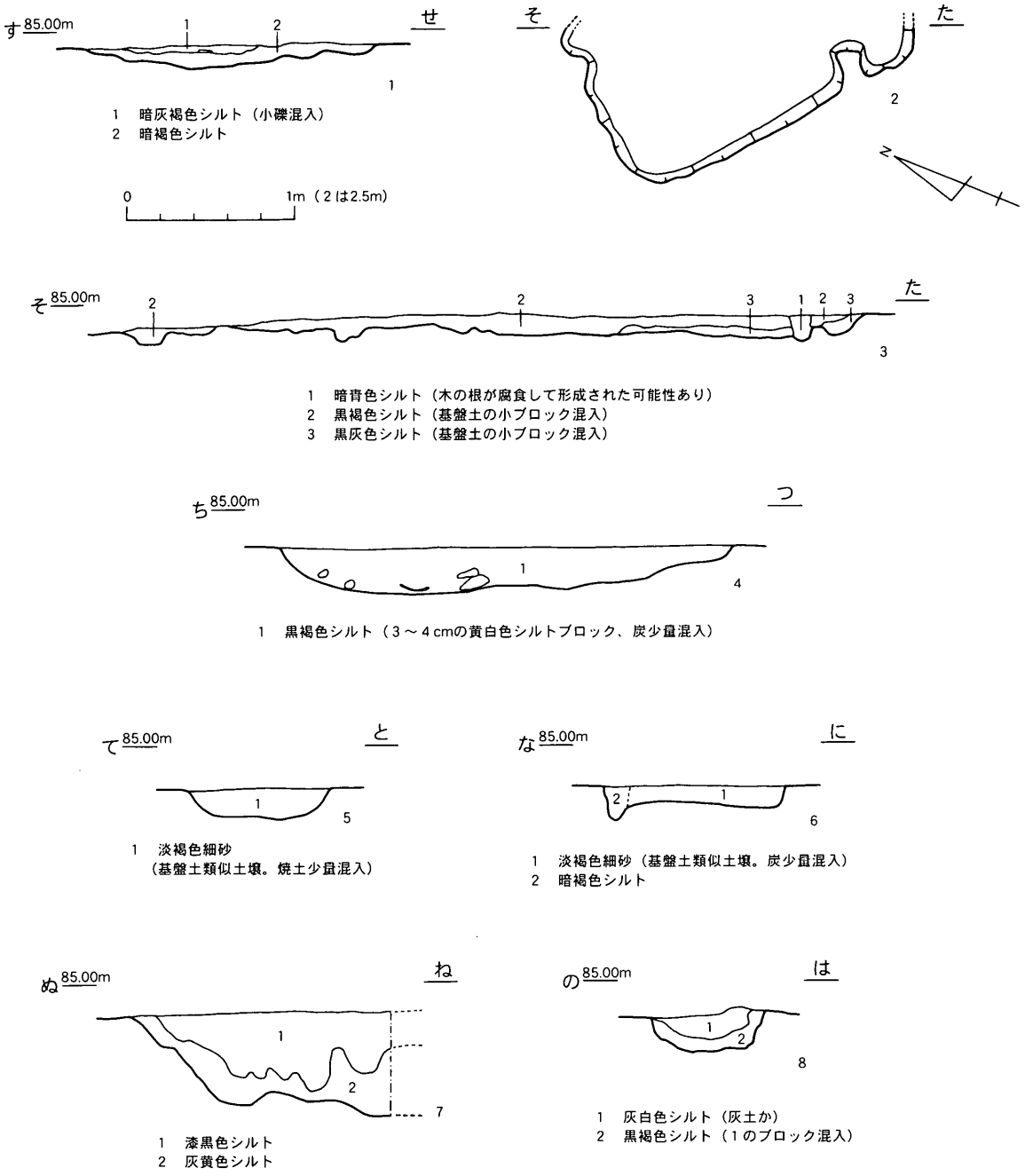
[遺物] 297は長胴の甑の把手部である。

SK33（第75,77図）



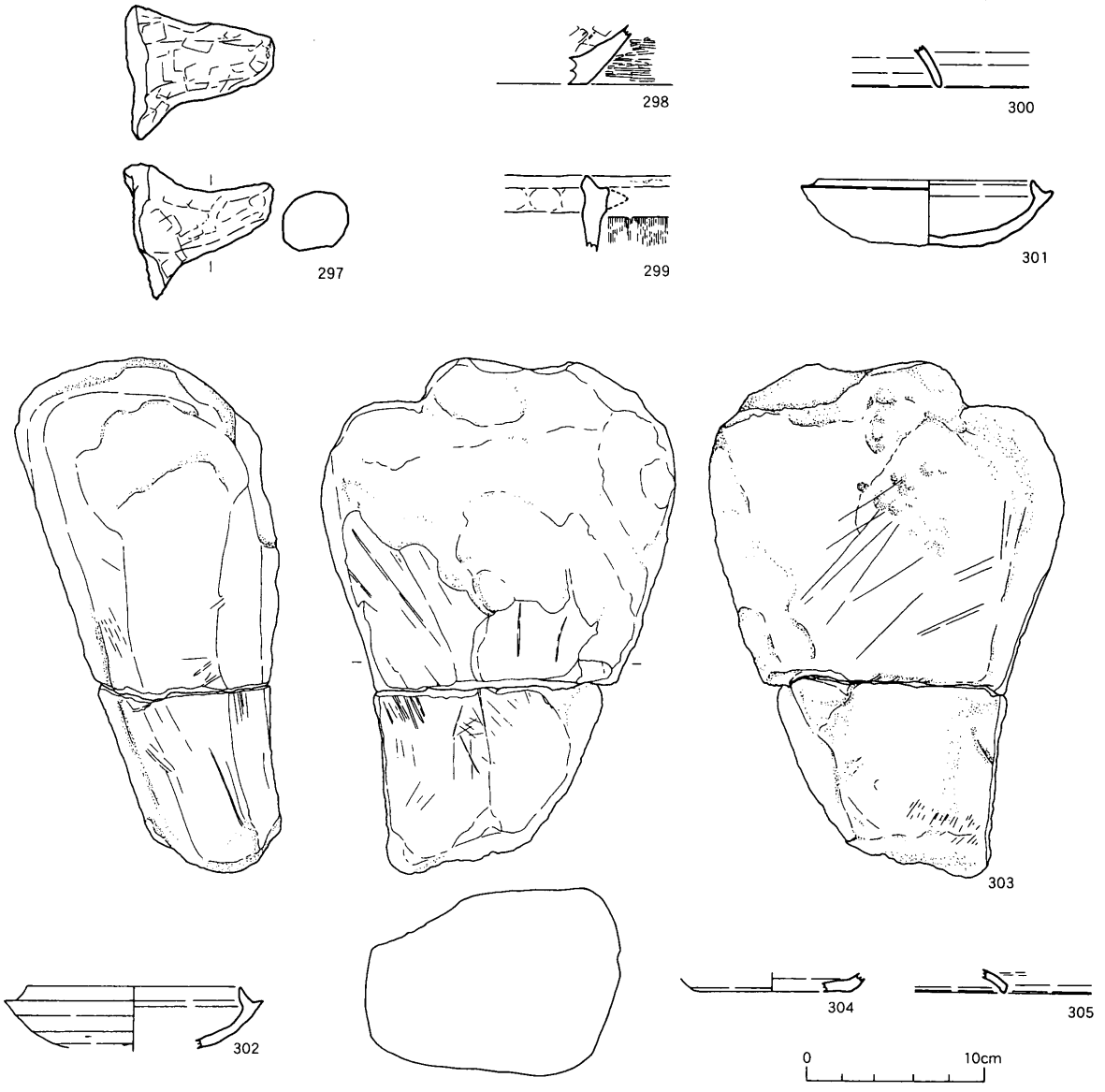
（1：SK27，2：SK29，3：SK30，4：SK31，5・6：SK32，7：SK33，8：SK34，9：SK35，10：SK37）

第75図　土坑遺構実測図2（SK27，SK29～SK35，SK37）



（1：SK38，2・3：SK39，4：SK42，5：SK43，6：SK45，7：SK46，8：SK47）

第76図　土坑遺構実測図3（SK38，SK39，SK42，SK43，SK45～SK47）



第77図　土坑遺物実測図２
（297：SK32，298：SK33，299：SK34，300・301：SK38，
302・303：SK42，304・305：SK30）

[遺構] 対象地の中央部から東寄りの位置に所在する。平面形態と横断面形態は不整形であるが、壁面が垂直気味に開削されていることから、人工的な遺構と考えられる。
[遺物] 298は混入品である。

SK34（第75,77図）

[遺構] 対象地の中央部から東寄りの位置において、SK33に近接して所在する。平面形態は南部が突出した不整形を示し、断面形態が浅い皿形であることから自然遺構と考えられる。
[遺物] 299は口縁部が低い器形で、同部に近い位置に鍔部が装着されている。

SK35（第75図）

[遺構] 対象地の中央部において、SB09に近接して所在する。平面形態が整然としており、断面形態が箱型であることから、同建物跡に関連して計画的に開削されたことが考えられる。

SK37（第75図）

[遺構] 対象地の中央部に所在する。北半部の壁面が歪曲した平面形態であることと、底面の凹凸が著しいことから、自然遺構と判断される。

SK38（第76,77図）

[遺構] 対象地の中央部から東寄りの位置に所在する。大型遺構であるが、壁面が著しく歪曲した平面形態であることと、壁面の位置が不明瞭な、きわめて浅い皿型の断面形態であることから、樹木が抜き取られた痕跡と判断される。

[遺物] 301は浅い器形で、かえし部が低く内傾した形態である。

SK42（第76,77図）

[遺構] 対象地の南部の西側の境界部分に近い位置に所在する。平面形態は、北部の壁面が崩落しているために歪曲した状態を示すが、断面形態は、底面が平坦な均整のとれた皿型である。SB05の関連遺構と考えられる。

[遺物] 302は浅い器形で、かえし部が低く内傾した形態である。303は未加工の自然石が利用された資料である。両側面の使用頻度が高いことがわかる。

SK43（第76図）

[遺構] 対象地の南部の西側の境界部分に近い位置に所在する。平面形態は、南部の壁面が崩落しているために歪曲した状態を示すが、断面形態は、底面が平坦な均整のとれた箱型である。

埋土中には、微量の焼土塊が包蔵されていたが、遺構の壁面及び底面に被熱の痕跡が認められないことから、他所から運搬されたことがわかる。

SK45（第76図）

[遺構] 対象地の南部の西側の境界部分に近い位置に所在し、SX04の中心部に位置することがわかる。遺構の中心軸の方向性は、SX04の長軸の方向性に合致する。遺構の壁面及び底面は均整のとれた直線状の形態であることから、計画的に開削されたことがわかる。

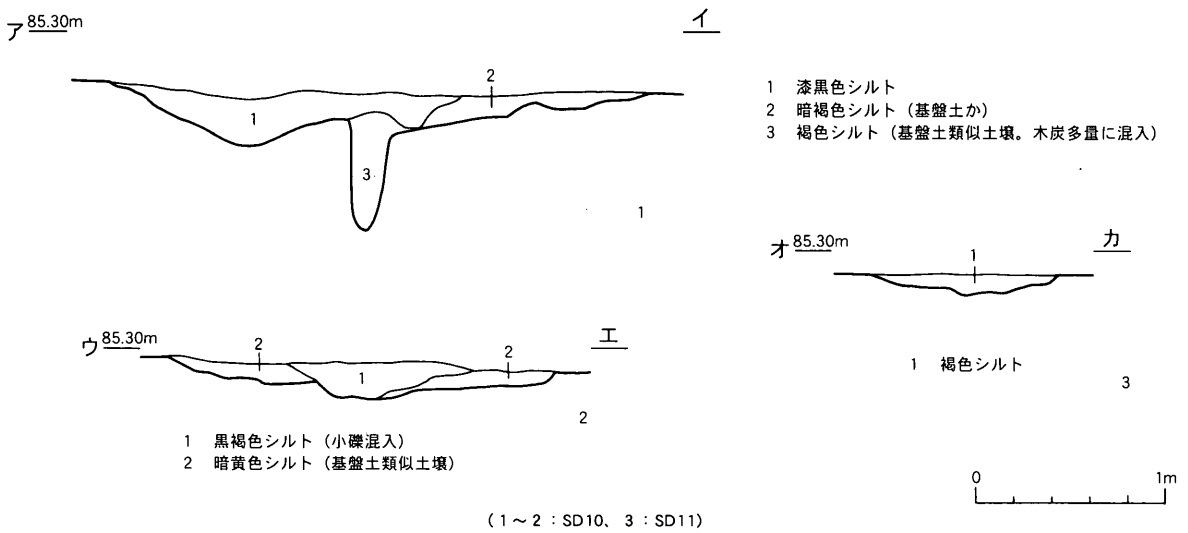
埋土中には、微量の焼土塊が包蔵されていたが、遺構の壁面及び底面に被熱の痕跡が認められないことから、他所から運搬されたことが考えられる。

(4)溝状遺構

SD10,SD11（第78図）

[遺構] 対象地の南部において、同地を南西から北東方向に蛇行して横断する流路跡である。両遺構は、壁面が著しく歪曲した平面形態である上に、断面形態がきわめて浅い皿型であることから、自然遺構と判断される。

また、遺構の延長と横幅が大きい一方で、流路の断絶箇所があることや埋土を構成する土壌が単純なことから、形成されてから埋没するまでは、短時間であったことがわかる。



第78図　溝状遺構遺構実測図２（SD10、SD11）

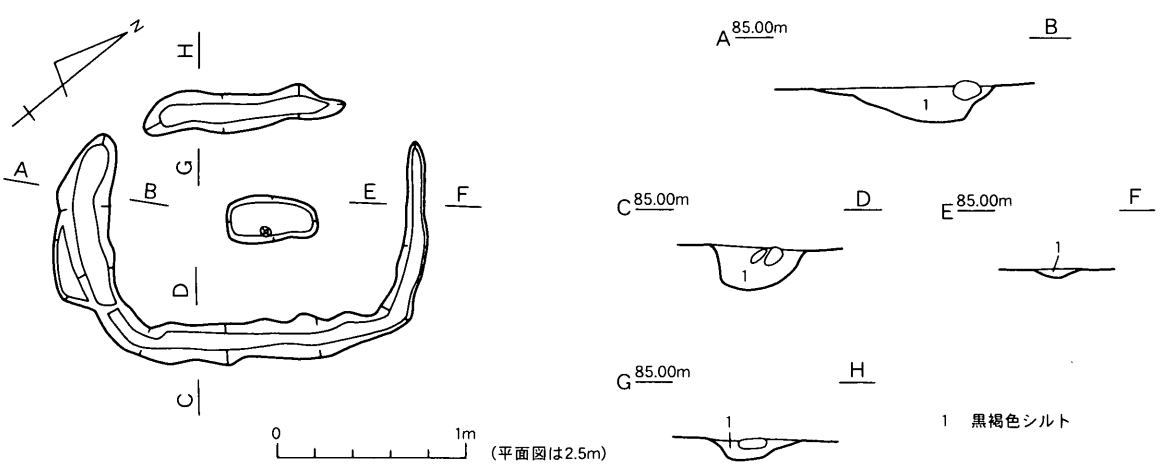
(5)柱穴跡

[遺構] 対象地の中央部を中心とした地域に所在する。規則的な配列を示す遺構が認められないことから、竪穴住居跡や掘立柱建物跡等の居住遺構の下部遺構に該当するものは存在しないと考えられる。

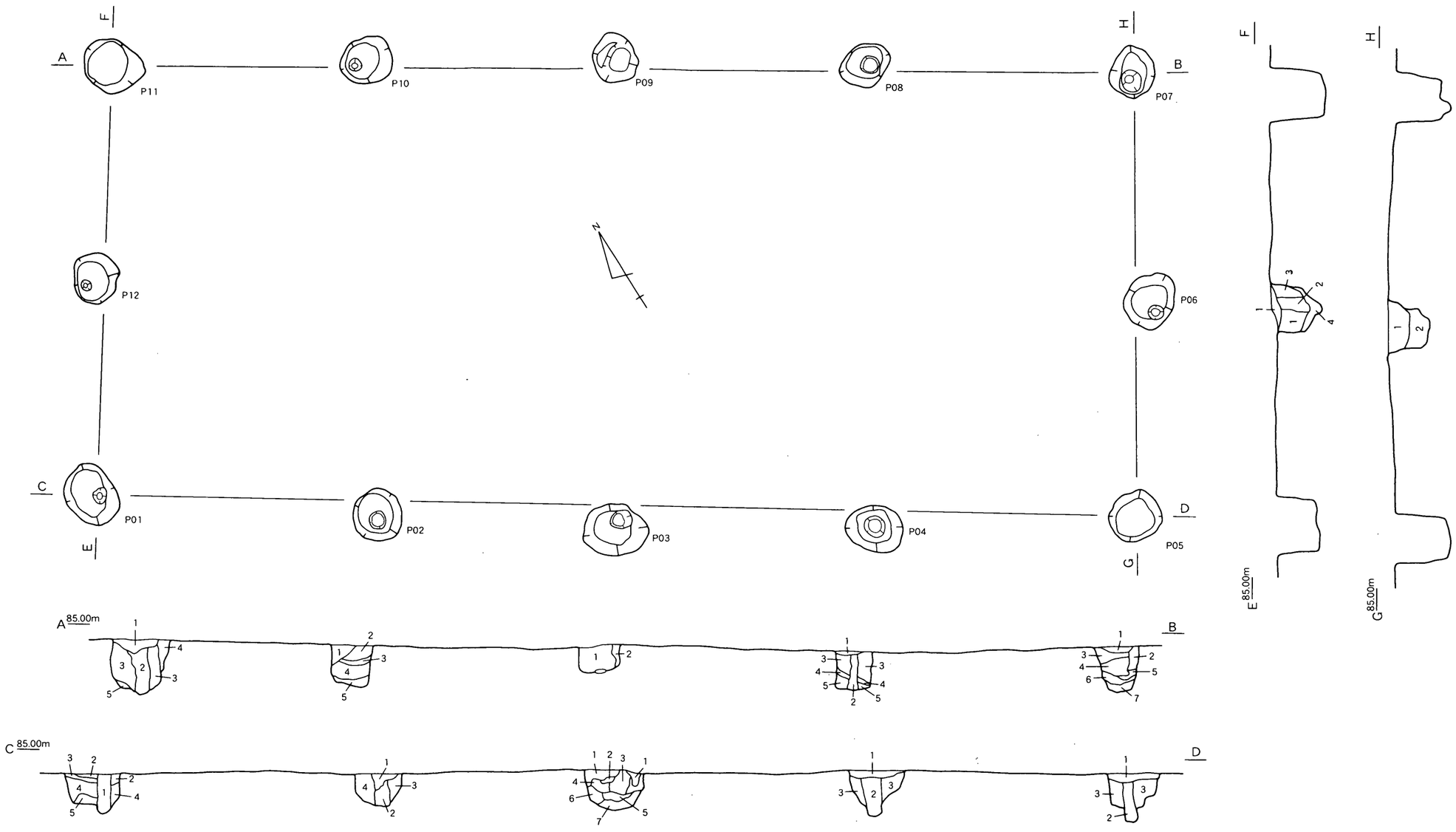
(6)不明遺構

SX04（第79図）

[遺構] 対象地の中央部から南寄りの西側の境界部分に近い位置に所在する。北西及び南西隅部が断絶しているが、溝状遺構の底面は、断絶箇所に近い位置ほど浅くなっているため、原形は一周していたものが、上部が削り取られたことにより断絶したことが考えられる。



第79図　不明遺構遺構実測図２（SX04）



P01
1　黒褐色シルト（柱痕）
2　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
3　明黄色シルト（黒褐色シルト小ブロック混入）
4　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
5　淡黄色シルト（黒褐色シルト小ブロック混入）

P02
1　暗灰色シルト（黒褐色シルト混入）
2　黒褐色シルト（柱痕）
3　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
4　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）

P03
1　暗灰色シルト（黒褐色シルトブロック混入）
2　明黄色シルト（黒褐色シルトブロック混入）
3　黒褐色シルト（柱痕）
4　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
5　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
6　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
7　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）

P04
1　明黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入。柱痕）
3　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）

P05
1　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
2　黒褐色シルト（柱痕）
3　明黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）

P06
1　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
2　明黄色シルトブロック（黒褐色シルト小ブロック混入）

P07
1　明黄色シルト（黒褐色シルト小ブロック少量混入）
2　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
3　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
4　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
5　明黄色シルト
6　黒褐色シルト
7　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルト小ブロック混入）

P08
1　濃黄色シルトブロック（暗灰色シルトブロック混入）
2　暗灰色シルト（黒褐色シルト混入。柱痕か）
3　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
4　黒褐色シルト
5　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）

P09
1　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
2　黒褐色シルト（灰黄色シルト混入）

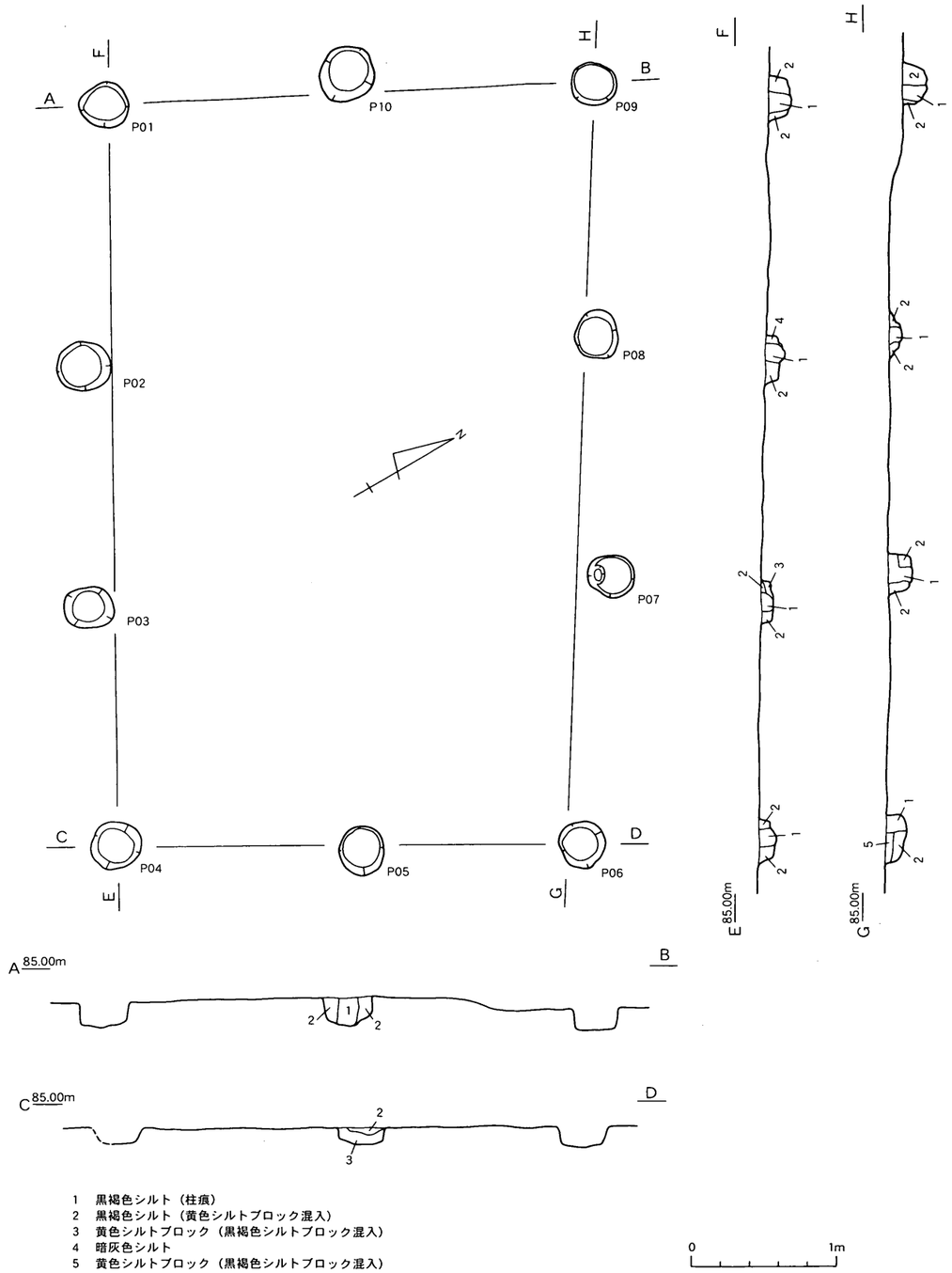
P10
1　暗灰色シルト（黒褐色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
3　明黄色シルト（黒褐色シルト小ブロック少量混入）
4　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
5　淡黄色シルト（黒褐色シルトブロック混入）

P11
1　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルト（柱痕）
3　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
4　淡黄色シルト（暗褐色シルト小ブロック混入）
5　明黄色シルト（黒褐色シルト小ブロック混入）

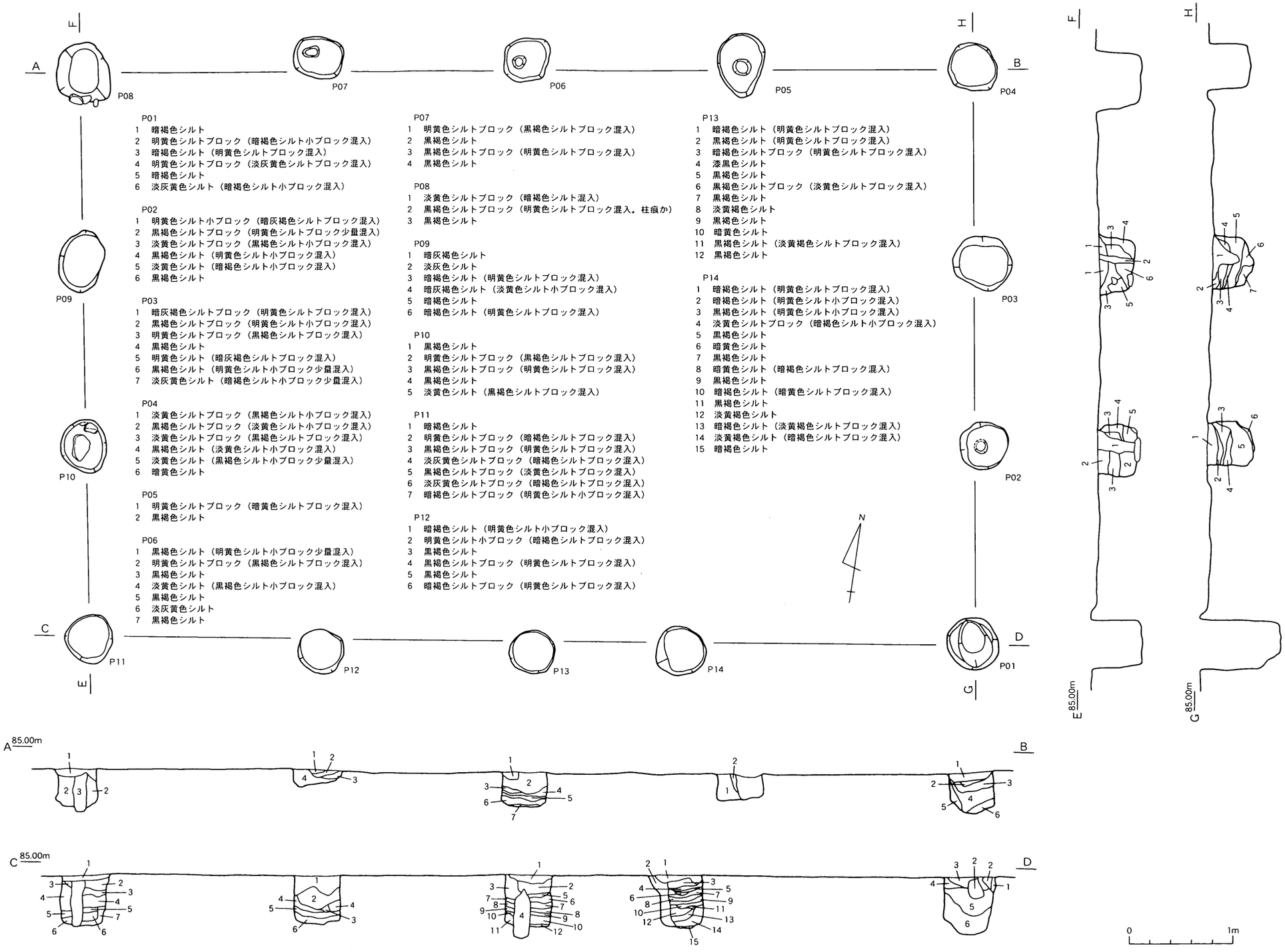
P12
1　黒褐色シルト（明黄色シルト大形ブロック混入）
2　黒褐色シルト（柱痕）
3　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
4　淡灰黄色シルト（黒褐色シルトブロック混入）

0　1m

第80図　掘立柱建物跡遺構実測図７（SB07）



第81図　掘立柱建物跡遺構実測図８（SB08）



P01
1　暗褐色シルト
2　明黄色シルトブロック（暗褐色シルト小ブロック混入）
3　暗褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
4　明黄色シルトブロック（淡灰黄色シルトブロック混入）
5　暗褐色シルト
6　淡灰黄色シルト（暗褐色シルト小ブロック混入）

P02
1　明黄色シルト小ブロック（暗灰褐色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック少量混入）
3　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルト小ブロック混入）
4　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
5　淡黄色シルト（暗褐色シルト小ブロック混入）
6　黒褐色シルト

P03
1　暗灰褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルトブロック（明黄色シルト小ブロック混入）
3　明黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
4　黒褐色シルト
5　明黄色シルト（暗灰褐色シルトブロック混入）
6　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
7　淡灰黄色シルト（暗褐色シルト小ブロック少量混入）

P04
1　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルト小ブロック混入）
2　黒褐色シルトブロック（淡黄色シルト小ブロック混入）
3　淡黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
4　黒褐色シルト（淡黄色シルト小ブロック混入）
5　淡黄色シルト（黒褐色シルト小ブロック少量混入）
6　暗黄色シルト

P05
1　明黄色シルトブロック（暗黄色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルト

P06
1　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック少量混入）
2　明黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
3　黒褐色シルト
4　淡黄色シルト（黒褐色シルト小ブロック混入）
5　黒褐色シルト
6　淡灰黄色シルト
7　黒褐色シルト

P07
1　明黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルト
3　黒褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）
4　黒褐色シルト

P08
1　淡黄色シルトブロック（暗褐色シルト混入）
2　黒褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入。柱痕か）
3　黒褐色シルト

P09
1　暗灰褐色シルト
2　淡灰色シルト
3　暗褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
4　暗灰褐色シルト（淡黄色シルト小ブロック混入）
5　暗褐色シルト
6　暗褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）

P10
1　黒褐色シルト
2　明黄色シルトブロック（黒褐色シルトブロック混入）
3　黒褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）
4　黒褐色シルト
5　淡黄色シルト（黒褐色シルトブロック混入）

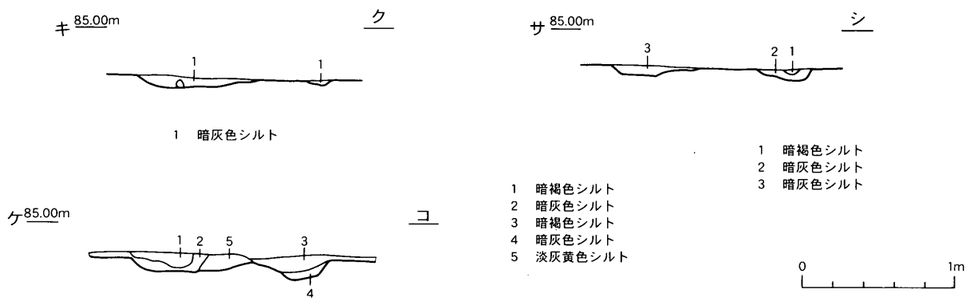
P11
1　暗褐色シルト
2　明黄色シルトブロック（暗褐色シルトブロック混入）
3　黒褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）
4　淡灰黄色シルトブロック（暗褐色シルトブロック混入）
5　黒褐色シルトブロック（淡黄色シルトブロック混入）
6　淡灰黄色シルトブロック（暗褐色シルトブロック混入）
7　暗褐色シルトブロック（明黄色シルト小ブロック混入）

P12
1　暗褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
2　明黄色シルト小ブロック（暗褐色シルトブロック混入）
3　黒褐色シルト
4　黒褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）
5　黒褐色シルト
6　暗褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）

P13
1　暗褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
2　黒褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
3　暗褐色シルトブロック（明黄色シルトブロック混入）
4　漆黒色シルト
5　黒褐色シルト
6　黒褐色シルトブロック（淡黄色シルトブロック混入）
7　黒褐色シルト
8　淡黄褐色シルト
9　黒褐色シルト
10　暗黄色シルト
11　黒褐色シルト（淡黄褐色シルトブロック混入）
12　黒褐色シルト

P14
1　暗褐色シルト（明黄色シルトブロック混入）
2　暗褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
3　黒褐色シルト（明黄色シルト小ブロック混入）
4　淡黄色シルトブロック（暗褐色シルト小ブロック混入）
5　黒褐色シルト
6　暗黄色シルト
7　黒褐色シルト
8　暗黄色シルト（暗褐色シルトブロック混入）
9　黒褐色シルト
10　暗褐色シルト（暗黄色シルトブロック混入）
11　黒褐色シルト
12　淡黄褐色シルト
13　暗褐色シルト（淡黄褐色シルトブロック混入）
14　淡黄褐色シルト（暗褐色シルトブロック混入）
15　暗褐色シルト

第82図　掘立柱建物跡遺構実測図９（SB09）



第83図　溝状遺構遺構実測図３（SD12）

埋土は単一の土壌で形成されており、遺構の全体にわたって、底面から遊離した位置に自然石が包蔵されていたことから、埋め戻しの際に全域にわたって人為的に投入されたことが推測できる。

SK45との位置関係から、本遺構は同土坑を取り囲む目的で開削された可能性があり、同土坑を外界と隔絶する機能を備えていたものと考えられる。

3．平安時代の遺構

(1)掘立柱建物跡

SB07（第80図）

[遺構] 対象地の中央部に所在する。相対する柱穴跡の連結線が、正確に直交するように計画的に構築された遺構である。各柱穴跡の平面形態と規模も均整がとれている。

柱根跡の規模から、柱材の直径は約10cmであったことがわかる。

SB08（第81図）

[遺構] 対象地の中央部から西寄りの位置に所在する。相対する柱穴跡の連結線が、正確に直交するように計画的に構築された遺構である。各柱穴跡は、上部が削り取られているために規模が浅くなっているが、相互に平面形態と規模の均整がとれている。また、梁行と桁行の柱間距離が同一規模である。

柱根跡の規模から、柱材の直径は約12cmであったことがわかる。

SB09（第82図）

[遺構] 対象地の中央部から北寄りの位置に所在する。P14の位置が北に偏っている以外は、各梁行及び桁行を構成する柱穴跡相互の平面形態や規模は均整がとれている。

各柱穴跡の埋土は、多くの異なる土壌で構成されていることから、柱材が丁寧に設置されたことがわかる。

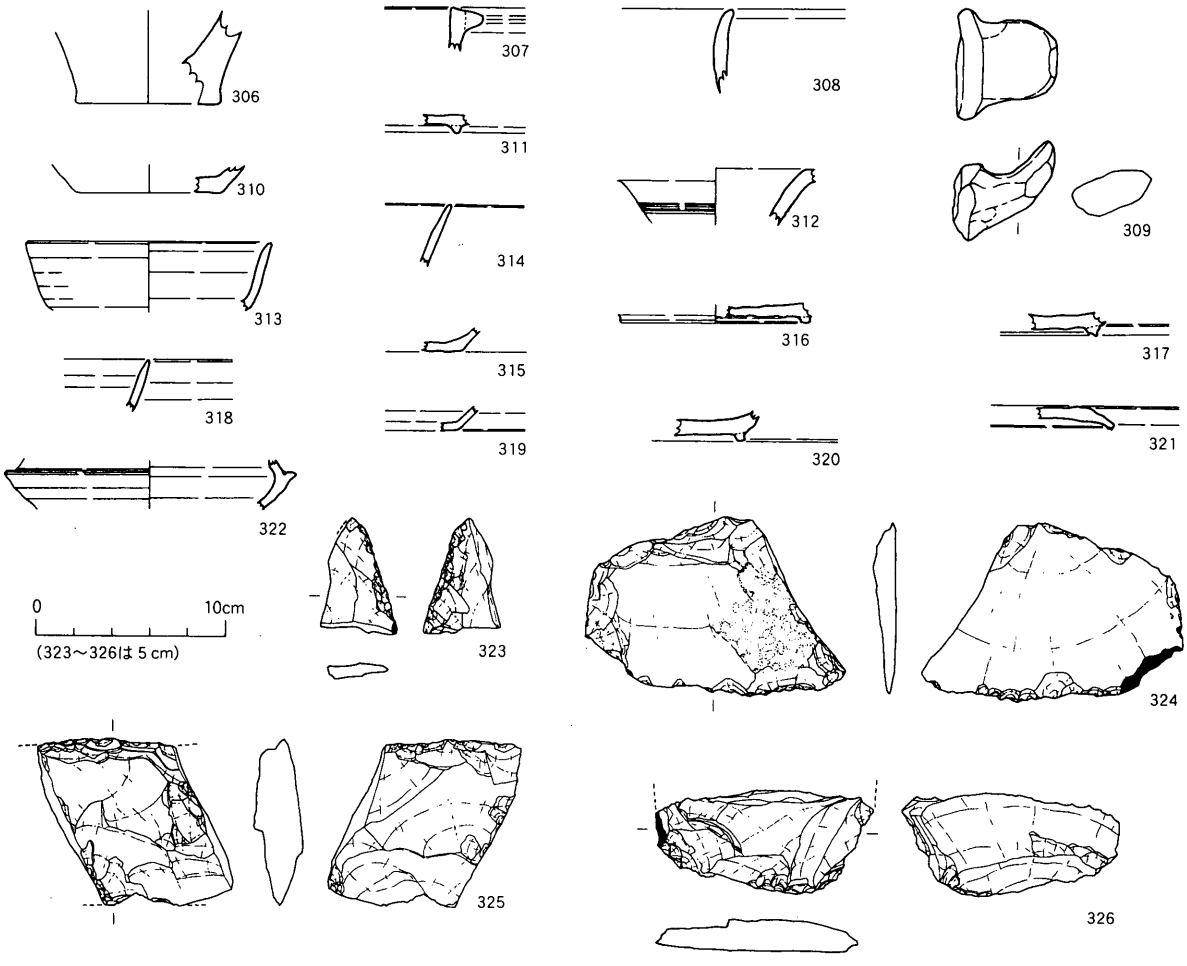
柱根跡の規模から、柱材の直径は約11cmであったことがわかる。

(2)溝状遺構

SD12（第83図）

[遺構] 対象地の中央部から北寄りの位置に所在する。同箇所において、対象地の西半部を東西方向に、直線状に横断する状態を示している。原形は、横幅が一定した計画的な流路であったと考えられるが、上部が削り取られたために、西側の境界部分では、流路の最も深い箇所が２本の平行した細い溝状となって検出されている。

本遺構には、主軸の方向性が当該地域に現存する条里型地割の東西方向の基軸線の方向性に合致するとともに、現存する水田畦畔の位置にも合致する特徴がある。したがって、対象地内に他に共通した特徴をもつ遺構が存在しないことを根拠にすると、本遺構は、当該地域の条里型地割の東西方向の基準線であったことが想定できる。



第84図　遺物包含層遺物実測図１

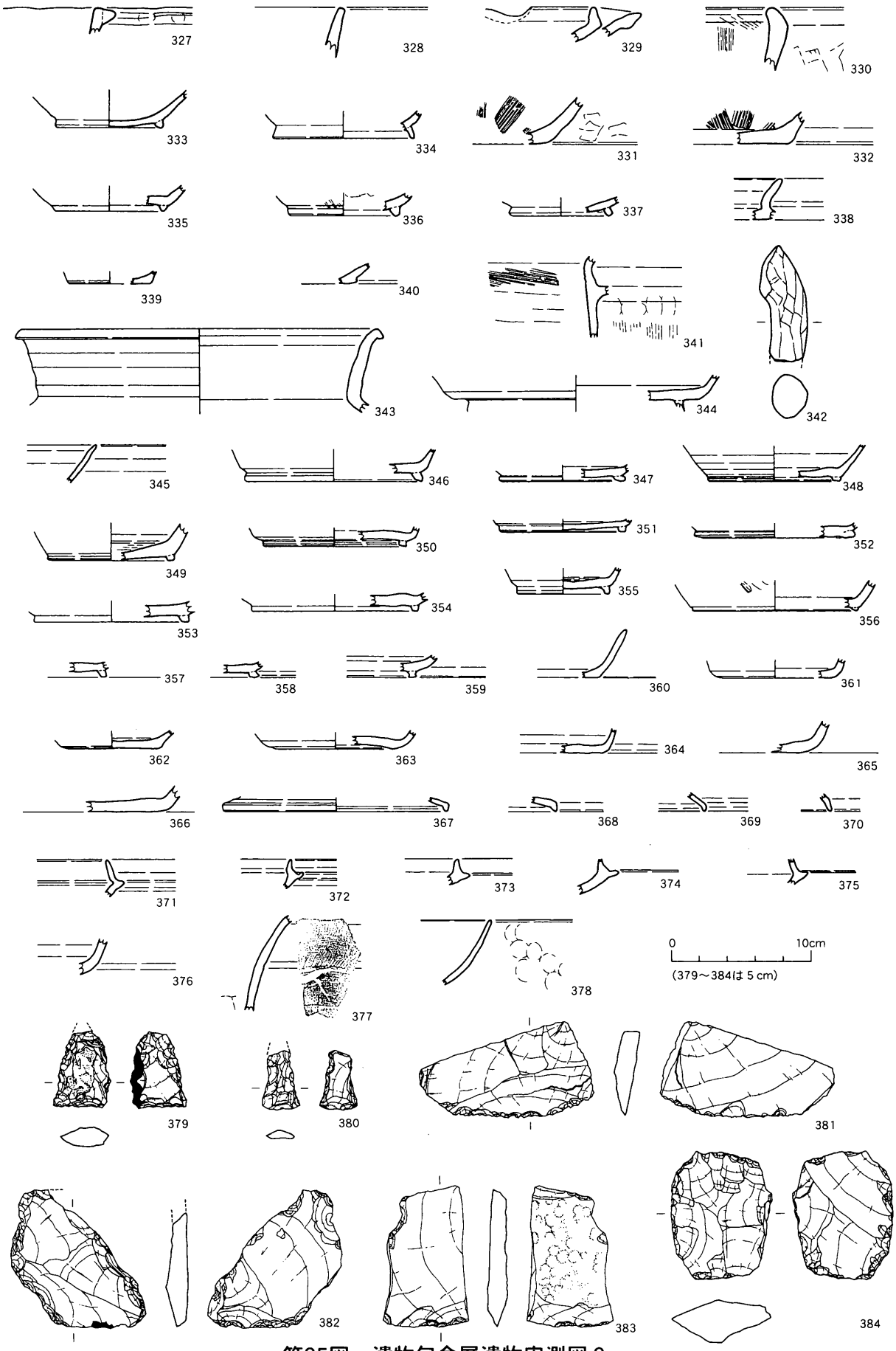
４．遺物包含層の遺物

対象地における本来的な遺物包含層は、Ⅱ区を中心に堆積していた黒色系シルト土壌だけである。

耕作土や遺構面から遊離した位置等から出土した２次的な資料については、別にまとめて報告する。

(1)黒色系シルト土壌出土遺物（第84図）

306と307は弥生時代前期に所属する資料である。309は長胴の器形の甕あるいは甑の一部である。321は口縁端部の屈曲が小さい器形である。323は、製作途中に片側の側縁部が破損したことが考えられる。324は、片側の側縁部に自然面が存在することから、原形が保存されていると判断される。325の原形は、横型の長方形である。326は基部が欠損している。



第85図　遺物包含層遺物実測図 2

(2)耕作土等出土遺物（第85図）

327は弥生時代前期に所属する資料である。333と334は高い器高の器形が想定される。341は長胴の器形である。346～359の高台部は、低い逆台形の縦断面形である。367～369は口縁端部の屈曲が明瞭な器形である。371のかえし部は、直立気味の長い形態である。378は高い器高の器形である。380は表面の磨耗が著しいことから、使用されて先端部が欠損したことが考えられる。383の原形は、横長の長方形が考えられる。

第4章　まとめ

第1節　遺跡の変遷

調査対象地における最古の出土品は、縄文時代晩期に所属する土器である。ただし、この遺物は砕片であり、数量もきわめて限定されていることから、他所から流入したものと考えられ、同時期の遺構が存在しない事実と合わせて、当該時期は無住の状態であったと考えられる。

最初の集落は、弥生時代後期後半頃に、対象地の北端部を中心とした地域に出現している。確認された竪穴住居跡が2軒であることから、集落の規模はかなり小型で、単一家族程度の集合体であったことがわかる。また、倉庫跡、墳墓、整備された灌漑用水路跡、集落域を明示した溝状遺構等が併存しないことから、継続的に集落経営が行われたことは考えられず、一時的な居住地としての土地利用が行われた結果と判断される。

ところで、対象地内部でも河水氾濫の被害を被りやすい同地域に、集落が形成された要因は不明であるが、これまでの埋蔵文化財調査の成果から、丸亀平野及び善通寺平野では、現金倉川に沿って所在する善通寺市龍川五条遺跡（弥生時代前期）、丸亀市中の池遺跡（弥生時代前期）、善通寺市稲木遺跡（弥生時代後期）等や、現大束川に沿って所在する坂出市下川津遺跡（弥生時代前期及び後期）、同市川津一ノ又遺跡（弥生時代後期）等のように、早い時期から河川に近い位置まで集落域として土地利用することが普遍化していたことが判明していることは注目される。

次に本遺跡は、古墳時代後期後半頃に最も繁栄した時期を迎えるが、前代の集落の所在地とは完全に異なる場所が居住地として選択されている。この原因については、北部地域の湿地化が進行したためと考えられる。

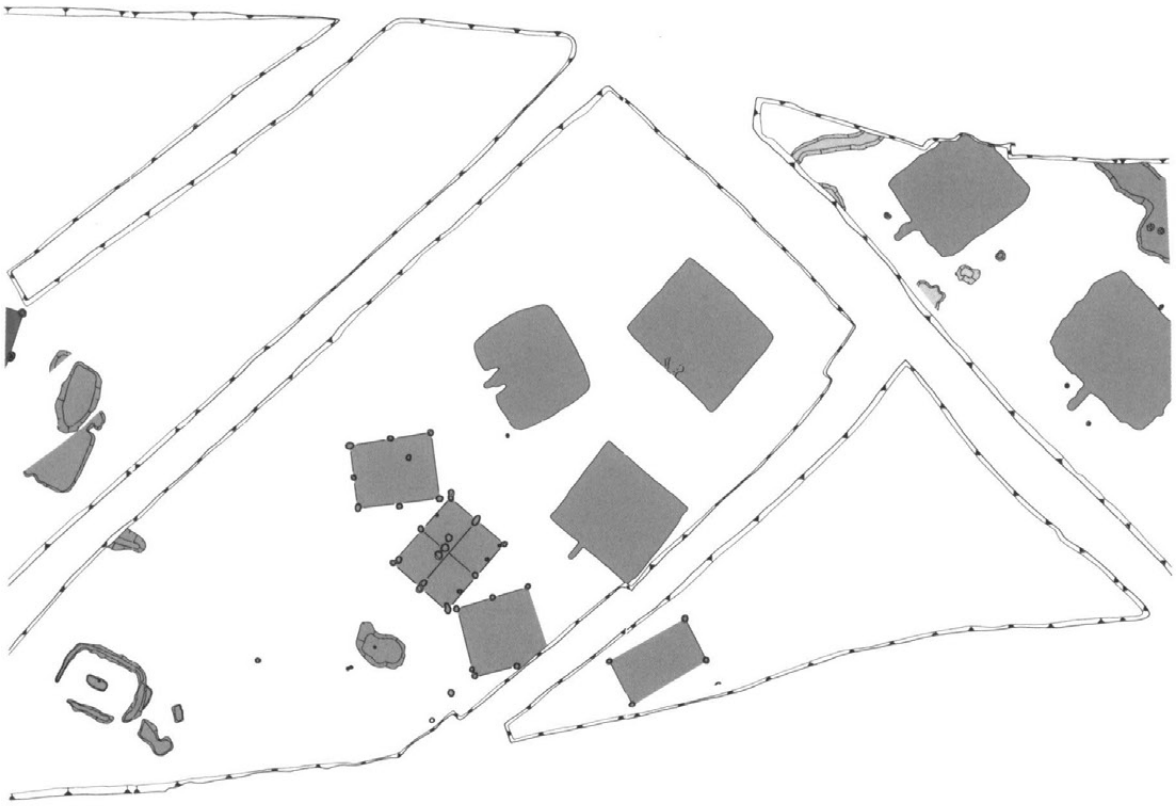
居住遺構は竪穴住居跡13軒（うち1軒は同一所在地で1回の建替えあり）と掘立柱建物跡6棟によって構成され、すべてが概ね陶邑窯跡群の須恵器編年Ⅱ型式第4段階とⅡ型式第5段階の時期に所属する。

これらの遺構は分布状態を基準として、次の3グループに大別することができる。北部東寄りのSH06、SH09、SH10、SH11、SH15、SB01、北部西寄りのSH03、SH04、SH05、SB02、南部のSH07、SH08、SH12、SH13、SH14、SB03、SB04、SB05、SB06である。各グループの竪穴住居跡と掘立柱建物跡の構成数には差異があるが、遺構間の距離を考慮すると、併存した遺構は前者が2、3軒程度、後者が1、2棟程度で、全グループにわたってほぼ共通する規模であったことがわかる。

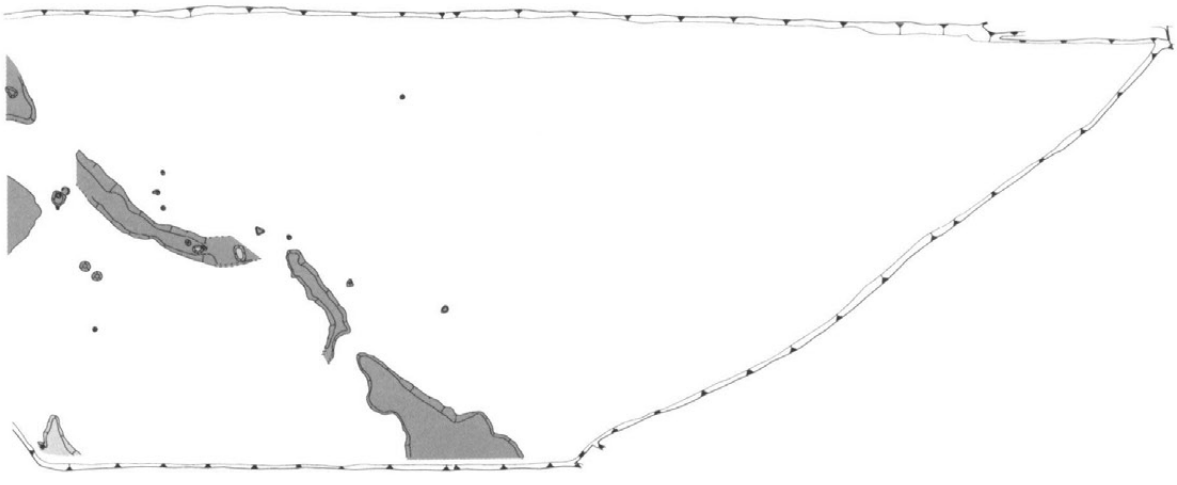
さて当該時期の竪穴住居跡は、床面積の大小により2種類に区別されることが判明した。大部分は通有の大きさに分類することができるが、SH04、SH05、SH09、SH11、SH15は小型のものである。しかも、この2種類の遺構が混在するのは北部の2グループに限定されていることから、両グループと南部の1グループとの間では、居住者の員数や家族構成あるいは同族構成の様態等の集落を構成する要素が異なっていたことが推測される。

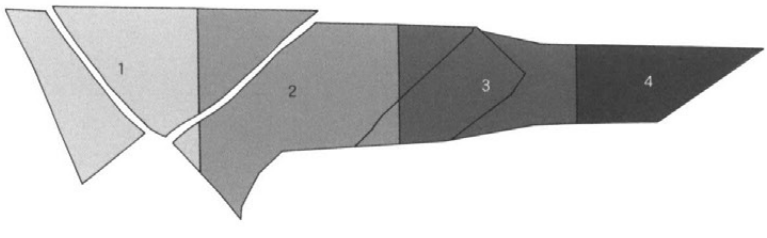
第106図　遺構変遷図 1

第87図　遺構変遷図２



第88図　遺構変遷図 3





第89図　遺構変遷図４

さらに各グループにおける竪穴住居跡の配列は、南北方向に縦長の形態を示す点においても共通した特徴と捉え得る。これは最初に成立したグループに引き続いて、一定の距離を保って次のグループが成立した結果と理解できる。そして各グループに挟まれた遺構の空白地域が、「広場」的な共有空間と考えられる。

なお、上記の集落の廃絶原因を示す資料は得られていない。

最後の集落は、平安時代後期の掘立柱建物跡３棟によって構成されている。SB07とSB09は通有の掘立柱建物跡（SB08）よりも規模が大きい点が特徴である。特殊な用途が想定されるが、遺物から特定することは難しい。

当該時期は、SD12のように条里型地割の完成時期に相当するが、上記の３遺構の主軸方向は条里型地割の方向性と完全に異なっていることがわかる。このことから、集落の形成は、条里型地割の完成よりも早い段階のことで、地割の施工のために廃絶が避けられなかった可能性があると考えている。

第２節　竪穴住居跡の竈の分類

本遺跡の竪穴住居跡の竈については、全体が粘土塊によって構築されたものと、基底部のみが基盤土で成形された後に、上部が粘土塊によって構築されたものに分類され、前者が圧倒的に検出例が多いことは平成８年度概報における大久保徹也氏の整理及び本書第３章の報告で明らかである。

ところが、上記の構築方法の差異に関わらず、各住居跡の内部に保存されていた竈の基底部の表面形状にもとづくと、原形についても２種類に分類されることがわかった。すなわち、基底部の外郭線が内傾気味に湾曲した形状か、直立した形状のいずれを示すかによって上部構造を復元した結果、大別することが可能となったのである。

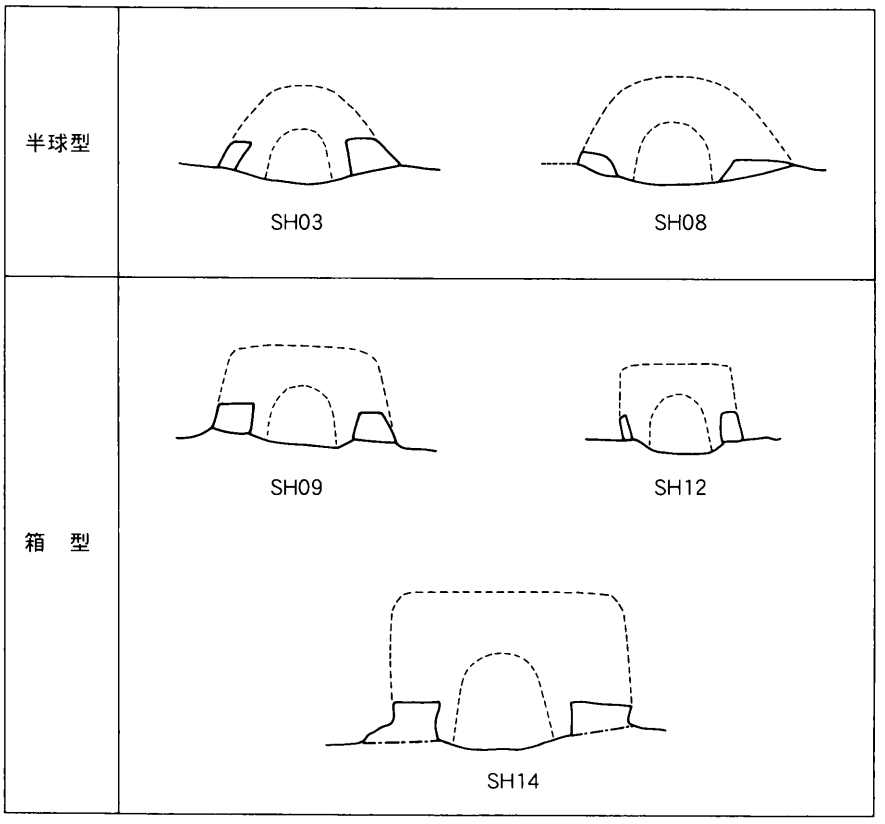
第11表　竈形態分類一覧表

遺構名	形　態	
	半球型	箱　型
SH03	○	
SH04	△	
SH05	△	
SH06	△	
SH07	△	
SH08	○	
SH09		○
SH10	△	
SH12		○
SH13	△	
SH14		○

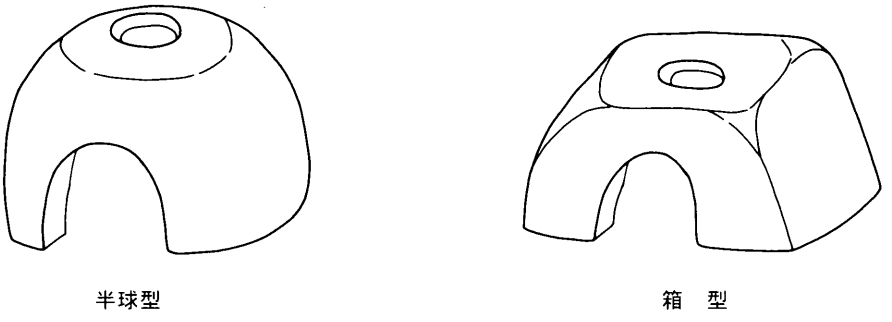
※△は不明か区分できないものを表す

保存状態が良好な竈は５基であるが、これらのうち、SH03は基底部の両側の外郭線が明らかに内傾し、SH08は同部の左側の外郭線が内傾することがわかる。一方、SH09は同部の左側が、SH12とSH14は両側が直立した形状であることが明らかである。

したがって、第90図のように前２者の上部構造については「半球型」、後３者の同部構造については「箱型」の原形が復元され、第91図に示した現存する２種類の竈の形態が、古墳時代には既に併存していたことがわかる。



第90図　竈形態分類図



第91図　竈形態模式図

付　　表

第２表　竪穴住居跡一覧表

遺構名	平面形態	規模（cm）			主軸方位	挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
		長さ(最大径)	幅	深さ				
SH01	円形	530	520	10	－	27～29	2,3	Ⅰ区SH01
SH02	円形か	－	－	－	－	30	3	Ⅰ区SH02
SH03	長方形	540	440	20	N－22°－W	36,37,39,40	3,4	Ⅲ区SH03
SH04	長方形	380	310	30	N－7°－E	38,40	5	Ⅲ区SH04
SH05	長方形	430	360	30	N－35°－W	41,42,49	5,6	Ⅲ区SH06
SH06	長方形	620	470	20	N－6°－E	43～45,49	7,8	Ⅲ区SH07
SH07	長方形	570	510	30	N－25°－W	46～49	8～10	Ⅳ区SH09
SH08	長方形	690	530	60	N－34°－W	50～53	10,11	Ⅳ区SH10
SH09	長方形	380	320	30	N－13°－W	54,58,59	12,13	Ⅲ区SH11
SH10	長方形	570	420	40	N－7°－W	55,56,59	13	Ⅱb区,Ⅲ区SH12
SH11	長方形	420	350	20	N－10°－E	57,59	14,15	Ⅲ区SH13
SH12	長方形	550	500	30	N－38°－W	60,61,64	15,16	Ⅲb区SH14
SH13	長方形	610	500	15	N－36°－W	62～64	16	Ⅲb区SH15
SH14	長方形	540	490	15	N－20°－W	65,66,68	17	Ⅲb区SH16
SH15	長方形か	380	200	40	N－20°－W	67,68	18	Ⅱb区SH17

第３表　掘立柱建物跡一覧表

遺構名	梁行(間・長さ(cm))	桁行(間・長さ(cm))	主軸方位	挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
SB01	2・320	2・360	N－88°－W	69	18	Ⅲ区SB04
SB02	2・370	3・570	N－65°－E	70	18	Ⅲ区SB05
SB03	1・450	1・250	N－73°－E	71	－	Ⅳ区SB06
SB04	2・330	2・440	N－4°－E	72	18	Ⅲb区SB07
SB05	2・370	2・450	N－38°－W	73	－	Ⅲb区SB08
SB06	1・350	2・390	N－5°－W	74	18	Ⅲb区SB09
SB07	2・390	4・900	N－59°－W	80	19	Ⅲ区SB01
SB08	2・330	3・540	N－66°－W	81	19	Ⅲ区SB02
SB09	3・570	4・870	N－84°－E	82	18	Ⅲ区SB03

第4表　土坑一覧表

遺構名	平面形態	規模（cm）			挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
		長さ	幅	深さ			
SK01	不整円形か	130	115	15	31	19	Ⅰ区SK01
SK02	整楕円形か	110	60	19	31	－	Ⅰ区SK02
SK03	不整円形	80	60	11	－	－	Ⅰ区SK03
SK04	不整円形	120	110	20	31	19	Ⅰ区SK04
SK05	整楕円形か	220	95	22	－	－	Ⅱ区SK01
SK06	不整楕円形か	130	50	15	－	19	Ⅱ区SK02
SK07	整楕円形	120	60	17	31	19	Ⅱ区SK03
SK08	整円形か	130	125	13	－	19	Ⅱ区SK04
SK09	不定形	210	100	23	31	－	Ⅱ区SK05
SK10	不整楕円形	300	110	15	－	－	Ⅱ区SK06
SK11	不整円形	275	240	13	－	20	Ⅱ区SK07
SK12	不整楕円形か	440	290	46	31,35	20	Ⅱ区SK08
SK13	不整楕円形	160	70	34	－	20	Ⅱ区SK09
SK14	不定形	210	80	12	－	20	Ⅱ区SK10
SK15	不整楕円形か	330	150	28	31	21	Ⅱ区SK12
SK16	不整楕円形	245	150	12	31	21	Ⅱ区SK15
SK17	不整楕円形	235	50	8	－	21	Ⅱ区SK18
SK18	不定形	150	100	40	－	－	Ⅱ区不明1
SK19	不整楕円形か	110	80	－	－	－	Ⅲ区SK07
SK20	不整楕円形か	80	60	8	－	－	Ⅲ区SK08
SK21	不整楕円形か	200	45	21	－	－	Ⅳ区SK01
SK22	不定形	160	90	12	31	－	Ⅳ区SK02
SK23	不整隅丸長方形	110	75	32	31	21	Ⅳ区SK03
SK24	不整楕円形か	230	140	20	－	－	Ⅳ区SK05
SK25	整隅丸長方形	80	50	20	－	－	Ⅳ区SK06
SK26	整楕円形	50	40	15	－	－	Ⅳ区SK07
SK27	不整楕円形か	220	70	6	75	21	Ⅱ区SK11
SK28	整楕円形か	60	40	8	－	－	Ⅱ区SK13
SK29	不整隅丸長方形	190	70	8	75	21	Ⅱ区SK14
SK30	不整楕円形	480	130	14	75,77	22	Ⅱ区SK16
SK31	不整楕円形	250	170	17	75	22	Ⅱ区SK17
SK32	不整楕円形	350	200	20	75,77	22	Ⅲ区SK01
SK33	不整円形	130	110	57	75,77	22	Ⅲ区SK02
SK34	不定形	170	155	61	75,77	22	Ⅲ区SK03
SK35	整隅丸正方形	100	100	20	75	23	Ⅲ区SK04
SK36	不整円形	70	65	7	－	23	Ⅲ区SK05
SK37	不整円形	120	90	20	75	23	Ⅲ区SK06
SK38	不定形	400	170	14	76,77	23	Ⅲ区SK09
SK39	不整隅丸長方形か	470	190	12	76	－	Ⅲ区SK10
SK40	不整楕円形	140	80	9	－	23	Ⅲ区不明3
SK41	不整円形か	150	70	19	－	－	Ⅲ区不明2
SK42	不整楕円形	270	180	24	76,77	23,24	Ⅲb区SK11
SK43	不整整長方形	90	50	17	76	24	Ⅲb区SK12
SK44	不定形	200	110	11	－	24	Ⅲb区SK13
SK45	不整楕円形	120	65	16	76	24	Ⅲb区SK14
SK46	不整楕円形か	150	110	52	76	24	Ⅲb区SK15
SK47	不整円形	80	70	21	76	24	Ⅳ区SK04

第５表　溝状遺構一覧表

遺構名	方向性	規模			挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
		延長(m)	幅(cm)	深さ(cm)			
SD01	北西－南東	5.7	150	27	32	24,25	Ⅰ区SD01
SD02	東－西	17.1	90	15	32,33	25	Ⅰ区SD02
SD03	北－南,東－西	5.9	115	13	32	25	Ⅰ区SD03
SD04	東－西	19.7	65	18	32	25	Ⅱ区SD01
SD05	北東－南西	12.3	90	21	32	25	Ⅱ区SD02
SD06	北西－南東	5.6	100	10	－	－	Ⅲ区SD03
SD07	北西－南東	0.9	30	24	－	－	Ⅲ区SD04
SD08	東－西	1.2	30	16	－	－	Ⅲ区SD05
SD09	北－南	4.5	90	19	32	－	Ⅳ区SD01
SD10	北東－南西	5.9	290	19	78	25	Ⅳ区SD02
SD11	北東－南西	6.4	110	12	78	26	Ⅳ区SD03
SD12	北東－南西	23.4	140	19	83	26	Ⅲ区SD01,02

第６表　柱穴跡一覧表

地区	遺構名	平面形態	規模(cm)					挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
			長さ(最大径)	幅	深さ	柱痕最大径	柱痕深さ			
Ⅰ区	SP01	不整円形	22.5	15	24	−	−	−	−	SP01
Ⅰ区	SP02	不整楕円形	85	17.5	7	−	−	−	−	SP02
Ⅰ区	SP03	不整円形	22.5	17.5	24	−	−	−	−	SP03
Ⅰ区	SP04	不整円形	17.5	15	5	−	−	−	−	SP04
Ⅰ区	SP05	不整円形	17.5	15	17	−	−	−	−	SP05
Ⅰ区	SP06	整円形	10	10	7	−	−	−	−	SP06
Ⅰ区	SP07	不整円形	20	17.5	5	−	−	−	−	SP07
Ⅰ区	SP08	不整円形	25	22.5	22	−	−	−	−	SP08
Ⅰ区	SP09	不整楕円形	47.5	17.5	6	−	−	−	−	SP09
Ⅰ区	SP10	整円形	17.5	17.5	17	−	−	−	−	SP10
Ⅰ区	SP11	不整円形	22.5	20	11	−	−	−	−	SP11
Ⅰ区	SP12	不整円形	20	17.5	11	−	−	−	−	SP12
Ⅰ区	SP13	不整円形	20	20	7	−	−	−	−	SP13
Ⅰ区	SP14	不整円形	25	22.5	8	−	−	−	−	SP14
Ⅰ区	SP15	不整円形	25	17.5	12	−	−	−	−	SP15
Ⅰ区	SP16	不整円形	25	15	19	−	−	−	−	SP16
Ⅰ区	SP17	不整円形	15	15	12	−	−	−	−	SP17
Ⅰ区	SP18	不整楕円形	42.5	32.5	5	−	−	−	−	SP18
Ⅰ区	SP19	不整円形	22.5	15	12	−	−	−	−	SP19
Ⅰ区	SP20	不整円形	22.5	20	7	−	−	−	−	SP20
Ⅰ区	SP21	不整円形	20	20	21	−	−	−	−	SP21
Ⅰ区	SP22	不整円形	10	10	8	−	−	−	−	SP28
Ⅰ区	SP23	不整円形	15	12.5	11	−	−	−	−	SP29
Ⅰ区	SP24	不整円形	20	15	8	−	−	−	−	SP30
Ⅰ区	SP25	整円形	20	20	15	−	−	−	−	SP33
Ⅱ区	SP26	不整楕円形	38	33	5	−	−	−	−	SP01
Ⅱ区	SP27	不整楕円形	38	27	11	−	−	−	−	SP02
Ⅱ区	SP28	不整円形	21	20	27	−	−	−	−	SP03
Ⅱ区	SP29	不整円形	18	−	13	−	−	−	−	SP04
Ⅱ区	SP30	不整円形	22	21	15	−	−	−	−	SP05
Ⅱ区	SP31	不整円形	26	24	9	−	−	−	−	SP06
Ⅱ区	SP32	不整円形	19	−	19	−	−	−	−	SP07
Ⅱ区	SP33	不整円形	−	−	−	−	−	−	−	SP08
Ⅱ区	SP34	不整円形	16	−	9	−	−	−	−	SP09
Ⅱ区	SP35	不整円形	38	35	17	−	−	−	−	SP10
Ⅱ区	SP36	不整円形	24	21	10	−	−	−	−	SP11
Ⅱ区	SP37	不整円形	23	20	9	−	−	−	−	SP12
Ⅱ区	SP38	不整円形	35	34	43	−	−	−	−	SP13
Ⅱ区	SP39	不整円形	24	18	12	−	−	−	−	SP14
Ⅱ区	SP40	不整円形	20	19	16	−	−	−	−	SP15
Ⅱ区	SP41	不整楕円形	50	26	11	−	−	−	−	SP16
Ⅱ区	SP42	不整円形	25	21	22	−	−	−	−	SP17
Ⅱ区	SP43	不整円形	30	26	24	−	−	−	−	SP18
Ⅱ区	SP44	不整円形	30	23	13	−	−	−	−	SP19
Ⅱ区	SP45	不整円形	26	−	17	−	−	−	−	SP20
Ⅱ区	SP46	不整楕円形	70	46	12	−	−	−	−	SP21
Ⅱ区	SP47	不整隅丸長方形	63	51	21	−	−	−	−	SP22
Ⅱ区	SP48	整楕円形	50	48	17	−	−	−	−	SP23

地区	遺構名	平面形態	規模(cm)					挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
			長さ(最大径)	幅	深さ	柱痕最大径	柱痕深さ			
Ⅱ区	SP49	不整円形	23	20	31	−	−	−	−	SP24
Ⅱ区	SP50	不整円形	27	22	34	−	−	−	−	SP25
Ⅱ区	SP51	不整円形	28	22	32	−	−	−	−	SP26
Ⅱ区	SP52	不整円形	27	26	21	−	−	−	−	SP27
Ⅱ区	SP53	不整円形	24	22	23	−	−	−	−	SP28
Ⅱ区	SP54	不整円形	20	20	17	−	−	−	−	SP29
Ⅱ区	SP55	不整円形	31	−	12	−	−	−	−	SP30
Ⅱ区	SP56	不整円形	28	−	8	−	−	−	−	SP31
Ⅱ区	SP57	不整円形	25	24	9	−	−	−	−	SP32
Ⅱ区	SP58	不整円形	19	17	27.5	−	−	−	−	SP33
Ⅱ区	SP59	不整楕円形	28	21	29	−	−	−	−	SP34
Ⅱ区	SP60	不整楕円形	68	45	12	−	−	−	−	SP35
Ⅱ区	SP61	不整楕円形	42	−	13.5	−	−	−	−	SP37
Ⅱ区	SP62	不整楕円形	50	46	12	−	−	−	−	SP38
Ⅱ区	SP63	不整円形	43	−	24	−	−	−	−	SP39
Ⅱ区	SP64	不整楕円形	63	28	11	−	−	−	−	SP40
Ⅱ区	SP65	整楕円形	53	43	15	−	−	−	−	SP41
Ⅱ区	SP66	整楕円形	59	44	20	−	−	−	−	SP42
Ⅱ区	SP67	不整楕円形	60	47	9	−	−	−	−	SP43
Ⅱ区	SP68	不整円形	24	20	10	−	−	−	−	SP44
Ⅱ区	SP69	不整円形	42	35	20.5	−	−	−	−	SP45
Ⅱ区	SP70	不整円形	38	32	20	−	−	−	−	SP46
Ⅱ区	SP71	不整円形	25	22	15	−	−	−	−	SP47
Ⅱ区	SP72	整楕円形	52	36	14.5	−	−	−	−	SP48
Ⅱ区	SP73	不整円形	18	16	10	−	−	−	−	SP49
Ⅱ区	SP74	不整円形	40	32	13	−	−	−	−	SP50
Ⅱ区	SP75	不整円形	25	24	6	−	−	−	−	SP51
Ⅱ区	SP76	不整円形	24	−	11	−	−	−	−	SP52
Ⅱ区	SP77	不整円形	12	11	7	−	−	−	−	SP53
Ⅱ区	SP78	整楕円形	67	46	5	−	−	−	−	SP54
Ⅱ区	SP79	整楕円形	44	36	8	−	−	−	−	SP55
Ⅱ区	SP80	不整円形	30	−	25	−	−	33	−	SP56
Ⅱ区	SP81	不整円形	26	−	17.5	−	−	−	−	SP57
Ⅱ区	SP82	不整円形	34	31	24	−	−	33	−	SP58
Ⅱ区	SP83	不整円形	15	−	8	−	−	−	−	SP59
Ⅱ区	SP84	不整円形	16	−	11	−	−	−	−	SP60
Ⅱ区	SP85	不整円形	26	23	25	−	−	−	−	SP61
Ⅱ区	SP86	不整円形	20	−	6	−	−	−	−	SP62
Ⅱ区	SP87	不整円形	20	18	25	−	−	−	−	SP63
Ⅱ区	SP88	不整円形	21	20	10	−	−	−	−	SP64
Ⅱ区	SP89	不整円形	25	24	11	−	−	−	−	SP65
Ⅱ区	SP90	不整円形	19	17	37	−	−	−	−	SP66
Ⅱ区	SP91	不整円形	20	−	11	−	−	−	−	SP67
Ⅱ区	SP92	不整円形	39	−	10.5	−	−	−	−	SP68
Ⅱ区	SP93	整楕円形	25	23	15	−	−	−	−	SP69
Ⅱ区	SP94	不整円形	14	13	7	−	−	−	−	SP70
Ⅱ区	SP95	不整円形	16	−	9	−	−	−	−	SP71
Ⅱ区	SP96	不整円形	21	−	18	−	−	−	−	SP72
Ⅱ区	SP97	不整楕円形	40	30	19	−	−	−	−	SP73

地区	遺構名	平面形態	規模(cm)					挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
			長さ(最大径)	幅	深さ	柱痕最大径	柱痕深さ			
Ⅱ区	SP98	不整円形	22	−	25	−	−	−	−	SP74
Ⅱ区	SP99	不整楕円形	27	20	9	−	−	−	−	SP75
Ⅱ区	SP100	不整円形	30	−	37	−	−	−	−	SP76
Ⅱ区	SP101	不整楕円形	53	−	25	−	−	−	−	SP77
Ⅱ区	SP102	不整楕円形	36	18	13	−	−	−	−	SP78
Ⅱ区	SP103	不整楕円形	42	13	4	−	−	−	−	SP79
Ⅱ区	SP104	不整円形	8	−	6	−	−	−	−	SP80
Ⅱ区	SP105	不整円形	9	−	9	−	−	−	−	SP81
Ⅱ区	SP106	整楕円形	23	13	7	−	−	−	−	SP82
Ⅱ区	SP107	不整楕円形	51	28	28	−	−	−	−	SP83
Ⅱ区	SP108	不整円形	21	16	11	−	−	−	−	SP84
Ⅱ区	SP109	不整楕円形	29	24	18	−	−	−	−	SP85
Ⅱ区	SP110	整楕円形	15	−	18	−	−	−	−	SP86
Ⅱ区	SP111	不整楕円形	55	11	6	−	−	−	−	SP87
Ⅱ区	SP112	不整楕円形	34	18	13	−	−	−	−	SP88
Ⅱ区	SP113	不整楕円形	22	14	22	−	−	−	−	SP89
Ⅱ区	SP114	整楕円形	20	12	14	−	−	−	−	SP90
Ⅱ区	SP115	不整楕円形	30	24	24	−	−	−	−	SP91
Ⅱ区	SP116	不整楕円形	54	17	16	−	−	−	−	SP92
Ⅱ区	SP117	不整楕円形	66	42	22	−	−	−	−	SP93
Ⅱ区	SP118	不整円形	18	−	12	−	−	−	−	SP94
Ⅱ区	SP119	不整楕円形	42	34	9	−	−	−	−	SP95
Ⅱ区	SP120	不整円形	30	24	36	−	−	−	−	SP96
Ⅱ区	SP121	整楕円形	20	19	18	−	−	−	−	SP97
Ⅱ区	SP122	整楕円形	26	18	28	−	−	−	−	SP98
Ⅱ区	SP123	整楕円形	20	15	26	−	−	−	−	SP99
Ⅱ区	SP124	不整円形	16	15	25	−	−	−	−	SP101
Ⅱ区	SP125	不整円形	12	11	21	−	−	−	−	SP102
Ⅱ区	SP126	不整楕円形	40	29	26	−	−	−	−	SP103
Ⅱ区	SP127	不整円形	20	−	24	−	−	−	−	SP104
Ⅱ区	SP128	不整円形	15	14	10	−	−	−	−	SP105
Ⅱ区	SP129	整楕円形	18	16	12	−	−	−	−	SP106
Ⅱ区	SP130	整楕円形	18	−	8	−	−	−	−	SP107
Ⅱ区	SP131	不整円形	12	−	29	−	−	−	−	SP108
Ⅱ区	SP132	不整円形	10	−	20	−	−	−	−	SP109
Ⅱ区	SP133	整楕円形	48	34	24	−	−	−	−	SP110
Ⅱ区	SP134	不整円形	18	−	19	−	−	−	−	SP111
Ⅱ区	SP135	不整円形	14	12	17	−	−	−	−	SP112
Ⅱ区	SP136	不整円形	28	18	26	−	−	−	−	SP113
Ⅱ区	SP137	不整円形	29	28	38	−	−	−	−	SP114
Ⅱ区	SP138	不整楕円形	21	18	32	−	−	−	−	SP115
Ⅱ区	SP139	不整楕円形	25	18	53	−	−	−	−	SP116
Ⅱ区	SP140	不整楕円形	25	16	19	−	−	−	−	SP117
Ⅱ区	SP141	不整円形	19	14	20	−	−	−	−	SP118
Ⅱ区	SP142	不整円形	12	−	19	−	−	−	−	SP119
Ⅱ区	SP143	整楕円形	13	−	12	−	−	−	−	SP120
Ⅱ区	SP144	整楕円形	20	14	23	−	−	−	−	SP121
Ⅲ区	SP145	不整円形	17.5	15	3	−	−	−	−	SP82
Ⅲ区	SP146	不整円形	22.5	20	9	−	11	−	−	SP101

地区	遺構名	平面形態	規模(cm)					挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
			長さ(最大径)	幅	深さ	柱痕最大径	柱痕深さ			
Ⅲ区	SP147	不整円形	22.5	17.5	24	−	−	−	−	SP102
Ⅲ区	SP148	不整円形	40	35	10	−	−	−	−	SP104
Ⅲ区	SP149	不整楕円形	50	50	5	−	−	−	−	SP105
Ⅲ区	SP150	不整円形	20	12.5	−	−	−	−	−	SP106
Ⅲ区	SP151	不整楕円形	80	67.5	8	−	−	−	−	SP107
Ⅲ区	SP152	不整円形	30	25	4	−	−	−	−	SP108
Ⅲ区	SP153	不整円形	17.5	17.5	9	−	−	−	−	SP139
Ⅲ区	SP154	不整楕円形	25	20	3	−	−	−	−	SP140
Ⅲ区	SP155	不整円形	20	17.5	20	−	−	−	−	SP141
Ⅱ区	SP156	不整円形	12	9	12.5	−	−	−	−	SP122
Ⅱ区	SP157	不整楕円形	23	20	9.5	−	−	−	−	SP123
Ⅱ区	SP158	不整円形	12	−	15	−	−	−	−	SP124
Ⅱ区	SP159	不整円形	18	16	10	−	−	−	−	SP125
Ⅱ区	SP160	不整円形	16	14	9	−	−	−	−	SP126
Ⅲ区	SP161	不整楕円形	30	20	6	−	−	−	−	SP01
Ⅲ区	SP162	不整楕円形	35	17.5	5	−	10	−	−	SP02
Ⅲ区	SP163	不整楕円形	190	30	1	−	−	−	−	SP03
Ⅲ区	SP164	不整楕円形	30	30	13	−	−	−	−	SP04
Ⅲ区	SP165	不整楕円形	65	40	5	−	34	−	−	SP05
Ⅲ区	SP166	不整楕円形	95	25	7	−	24	−	−	SP06
Ⅲ区	SP167	不整楕円形	37.5	30	2	−	−	−	−	SP07
Ⅲ区	SP168	不整円形	20	15	14	−	−	−	−	SP08
Ⅲ区	SP169	不整円形	17.5	15	13	−	−	−	−	SP10
Ⅲ区	SP170	不整円形	25	20	17	−	−	−	−	SP11
Ⅲ区	SP171	不整円形	32.5	30	9	−	−	−	−	SP78
Ⅲ区	SP172	不整円形	30	30	11	−	−	−	−	SP79
Ⅲ区	SP173	不整円形	20	17.5	4	−	−	−	−	SP80
Ⅲ区	SP174	不整円形	30	27.5	30	−	−	−	−	SP83
Ⅲ区	SP175	不整円形	27.5	20	13	−	−	−	−	SP85
Ⅲ区	SP176	整円形	15	15	7	−	−	−	−	SP86
Ⅲ区	SP177	整円形	12.5	12.5	9	−	−	−	−	SP87
Ⅲ区	SP178	不整円形	25	22.5	23	−	−	−	−	SP88
Ⅲ区	SP179	整円形	20	20	21	−	−	−	−	SP89
Ⅲ区	SP180	不整円形	22.5	17.5	16	−	−	−	−	SP90
Ⅲ区	SP181	不整円形	27.5	27.5	15	−	21	−	−	SP91
Ⅲ区	SP182	不整円形	15	15	−	−	−	−	−	SP92
Ⅲ区	SP183	整円形	27.5	27.5	9	−	14	−	−	SP99
Ⅲ区	SP184	整円形	25	25	18	−	11	−	−	SP100
Ⅲ区	SP185	整楕円形	35	17.5	−	−	−	−	−	SP114
Ⅲ区	SP186	不整円形	30	25	12	−	−	−	−	SP115
Ⅲ区	SP187	不整円形	27.5	25	10	−	6	−	−	SP121
Ⅲ区	SP188	不整円形	10	10	12	−	−	−	−	SP122
Ⅲ区	SP189	不整円形	15	12.5	7	−	−	−	−	SP123
Ⅲ区	SP190	不整円形	17.5	15	10	−	−	−	−	SP124
Ⅲ区	SP191	不整円形	12.5	10	7	−	−	−	−	SP125
Ⅲ区	SP192	不整円形	12.5	12.5	8	−	−	−	−	SP126
Ⅲ区	SP193	不整円形	15	15	13	−	−	−	−	SP127
Ⅲ区	SP194	不整円形	20	20	13	−	−	−	−	SP128
Ⅲ区	SP195	不整円形	15	12.5	4	−	−	−	−	SP129

地区	遺構名	平面形態	規模(cm)					挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
			長さ(最大径)	幅	深さ	柱痕最大径	柱痕深さ			
Ⅲ区	SP196	不整円形	22.5	22.5	5	−	14	−	−	SP130
Ⅲb区	SP197	不整円形	30	30	4	−	−	−	−	SP03
Ⅲb区	SP198	不整円形	40	35	9	−	−	−	−	SP04
Ⅲb区	SP199	不整円形	30	25	4	−	−	−	−	SP05
Ⅲb区	SP200	不整円形	25	20	21	−	−	−	−	SP09
Ⅲb区	SP201	不整円形	25	20	4	−	−	−	−	SP13
Ⅲb区	SP202	不整円形	20	15	9	−	−	−	−	SP15
Ⅲb区	SP203	不整円形	45	35	19	−	−	−	−	SP17
Ⅲb区	SP204	不整円形	40	30	47	−	−	−	−	SP20
Ⅲb区	SP205	不整円形	15	15	2	−	−	−	−	SP25
Ⅲb区	SP206	不整円形	20	15	8	−	−	−	−	SP29
Ⅲb区	SP207	不整円形	35	25	24	−	−	−	−	SP31
Ⅲb区	SP208	不整円形	20	15	3	−	−	−	−	SP37
Ⅲb区	SP209	不整円形	20	15	4	−	−	−	−	SP38
Ⅲb区	SP210	不整円形	30	25	51	−	−	−	−	SP39
Ⅳ区	SP211	整楕円形	40	30	19	−	−	−	−	SP04
Ⅳ区	SP212	不整楕円形	52.5	50	12	−	−	−	−	SP09
Ⅳ区	SP213	不整円形	25	22.5	14	−	−	−	−	SP10
Ⅳ区	SP214	不整円形	25	25	12	−	−	−	−	SP11
Ⅳ区	SP215	整楕円形	30	20	11	−	−	−	−	SP12
Ⅳ区	SP216	不整円形	20	15	9	−	−	−	−	SP14
Ⅳ区	SP217	不整円形	45	32.5	13	−	−	−	−	SP15
Ⅳ区	SP218	不整円形	20	17.5	−	−	−	−	−	SP16
Ⅳ区	SP219	不整円形	57.5	52.5	19	−	−	−	−	SP17
Ⅳ区	SP220	不整円形	57.5	52.5	19	−	−	−	−	SP18
Ⅳ区	SP221	不整円形	27.5	25	13	−	−	−	−	SP19
Ⅳ区	SP222	不整円形	25	22.5	13	−	−	−	−	SP20
Ⅳ区	SP223	不整楕円形	42.5	27.5	14	−	−	−	−	SP21
Ⅳ区	SP224	整円形	25	25	13	−	−	−	−	SP22
Ⅳ区	SP225	不整楕円形	45	45	14	−	−	−	−	SP23
Ⅳ区	SP226	不整円形	25	25	14	−	−	−	−	SP24
Ⅳ区	SP227	不整円形	37.5	37.5	13	−	−	−	−	SP25
Ⅳ区	SP228	不整円形	45	35	11	−	−	−	−	SP26
Ⅳ区	SP229	不整円形	30	25	9	−	−	−	−	SP27
Ⅲ区	SP230	整楕円形	27.5	20	6	−	−	−	−	SP16
Ⅲ区	SP231	不整円形	45	45	38	−	−	−	−	SP18
Ⅲ区	SP232	不整円形	35	32.5	13	−	5	−	−	SP19
Ⅲ区	SP233	整楕円形	27.5	15	4	−	−	−	−	SP27
Ⅲ区	SP234	不整円形	10	7.5	3	−	−	−	−	SP28
Ⅲ区	SP235	整楕円形	27.5	17.5	12	−	−	−	−	SP29
Ⅲ区	SP236	整楕円形	50	25	12	−	−	−	−	SP30
Ⅲ区	SP237	整楕円形	42.5	22.5	6	−	−	−	−	SP31
Ⅲ区	SP238	不整円形	25	20	8	−	−	−	−	SP35
Ⅲ区	SP239	不整円形	30	22.5	16	−	−	−	−	SP39
Ⅲ区	SP240	不整楕円形	60	32.5	−	−	−	−	−	SP71
Ⅲ区	SP241	不整隅丸長方形	37.5	30	7	−	15	−	−	SP72
Ⅲ区	SP242	不整円形	37.5	27.5	11	−	19	−	−	SP73
Ⅲ区	SP243	整円形	17.5	17.5	17	−	−	−	−	SP74
Ⅲ区	SP244	不整円形	22.5	20	21	−	−	−	−	SP75

地区	遺構名	平面形態	規模(cm)					挿図番号	写真図版番号	調査時の遺構名
			長さ(最大径)	幅	深さ	柱痕最大径	柱痕深さ			
Ⅲ区	SP245	不整楕円形	35	20	22	−	−	−	−	SP76
Ⅲ区	SP246	不整円形	25	25	24	−	−	−	−	SP77
Ⅲ区	SP247	不整円形	20	20	9	−	−	−	−	SP93
Ⅲ区	SP248	不整円形	17.5	15	12	−	−	−	−	SP94
Ⅲ区	SP249	不整円形	20	17.5	8	−	−	−	−	SP98
Ⅲ区	SP250	不整楕円形	47.5	32.5	13	−	6	−	−	SP109
Ⅲ区	SP251	不整円形	42.5	37.5	39	−	−	−	−	SP110
Ⅲ区	SP252	不整円形	32.5	30	7	−	−	−	−	SP111
Ⅲ区	SP253	不整円形	32.5	27.5	5	−	−	−	−	SP112
Ⅲ区	SP254	不整円形	17.5	17.5	7	−	−	−	−	SP113
Ⅲ区	SP255	不整円形	25	22.5	17	−	−	−	−	SP116
Ⅲ区	SP256	不整円形	57.5	52.5	30	−	−	−	−	SP138
Ⅱ区	SP257	不整楕円形	42	33	14	−	−	−	−	SP36

第7表　出土位置別出土品内訳一覧表

表の記述方法は以下のとおりである
・部位のうち、口縁部は「口」、杯部及び体部は「体」、底部は「底」、脚部は「脚」とする
・遺物名、器種、部位等の後の数字は破片数である。特に多いものは「多」とする
・弥生土器の器種は「壺」、「甕」、「鉢」、「高杯」、「その他」とする
・器種が特定できないものは「不明」とする
・サヌカイト剥片は「サ」とする

地区名	出土位置	出土層位	弥生土器				土師器				須恵器	石器・石製品・剥片	金属製品	その他
			壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他	壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他				
Ⅰ区	－						口9 体多			杯体1 不明底3	壺か甕か鉢体5 台付壺脚1 甕体1 無蓋高杯口1・体2 杯口3・底3 杯蓋口1 杯身口5 不明体7	石1 サ3		
Ⅱ区	－						口8 体多 底1			杯底13	壺か甕体14 杯口12・底7 杯蓋口2・体2	石鏃1 石包丁1 石包丁か刃器1 ﾁｬｰﾄ1 サ多	不明鉄製品1	
Ⅲ区	－						口2 体多			甑体14 器台1 脚2 把手1	壺か甕か鉢体12 小型壺体1 杯底2 杯蓋口1	石斧1 サ2		陶磁器1
Ⅳ区	－						口15 体多 底13	底2		杯口2・底多 竈1 把手1 脚10 すり鉢 口1・底1	壺口1 壺か甕か鉢体13 杯口多・体多・底多 杯身口13 すり鉢底14 不明口1・体多	石鏃2 石包丁1 石包丁か刃器2 石斧1 石英1 石2 サ6	不明鉄製品8	焼土3 陶磁器口5・体4・底1 製塩土器体多
Ⅰ区	SD01						体多 底1					サ2		
Ⅰ区	SD02						口1 体多							
Ⅰ区	SD03						体5							
Ⅱ区	SD05						体2							
Ⅳ区	SD10						体5				壺か甕か鉢体1			
Ⅰ区	SH01		口多 体多 底4	底1	脚3							サ2		木1 炭多
Ⅰ区	SH01	土器①	体7											
Ⅰ区	SH01	土器②	壺口6 甕口1 体多 底1											
Ⅰ区	SH01	土器③	甕口1 体6	口1										
Ⅰ区	SH01	土器④	体1											
Ⅰ区	SH01	土器⑤		口1 体13										
Ⅰ区	SH01	土器⑥			脚1									
Ⅰ区	SH01	土器⑦		口1										
Ⅰ区	SH01	土器⑧	甕底1											
Ⅰ区	SH01	土器⑨	体1											
Ⅰ区	SH01	土器⑩			体6									
Ⅰ区	SH01	土器⑪	体1											
Ⅰ区	SH01	土器⑫	口1											
Ⅰ区	SH01	土器⑬	体6											
Ⅰ区	SH01	土器⑭	体1											
Ⅰ区	SH01	土器⑮	体1											
Ⅰ区	SH01	土器⑯	体1											
Ⅰ区	SH01	土器⑰			体1									
Ⅰ区	SH01	土器⑱	体1											
Ⅰ区	SH01	土器⑲	体1											
Ⅰ区	SH01	石器①										サ1		
Ⅰ区	SH01	P01	壺口1 体4											
Ⅰ区	SH01	P02	体9											
Ⅰ区	SH01	P03	体5											
Ⅰ区	SH01	P04	体5											
Ⅰ区	SH01	P05	甕体9 底1	体1										
Ⅰ区	SH02						口1							

地区名	出土位置	出土層位	弥生土器				土師器				須恵器	石器・石製品・剥片	金属製品	その他
			壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他	壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他				
Ⅲ区	SH03						口4 体多				杯口5・体多 杯蓋口9・底1 杯身口11	サ1	不明鉄製品1	製塩土器口1 体2
Ⅲ区	SH03	No.2床上15cm					体10				杯身口1			
Ⅲ区	SH03	No.3床上8cm					口2							
Ⅲ区	SH03	No.6壁溝					体多							
Ⅲ区	SH03	No.7床上15cm									杯身底1			
Ⅲ区	SH03	No.8竈左側									杯身完形品1			
Ⅲ区	SH03	No.11床上15cm									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH03	No.12床上8cm									甕口1			
Ⅲ区	SH03	煙道部												製塩土器体1
Ⅲ区	SH03	竈周辺										紡錘車1		
Ⅲ区	SH03	竈周辺.No.5床上.P04					口1 体5							
Ⅲ区	SH03	竈内					体1				杯身口1			
Ⅲ区	SH03	土器⑮					体1							
Ⅲ区	SH03	床面					口2 体7							
Ⅲ区	SH03.SH06.SH09.SK35										甕体11			
Ⅲ区 Ⅳ区	SH03.SH08										甕口1・体10			
Ⅲ区	SH03.SH09						体多				甕口1・体11 杯身体2			
Ⅲ区	SH04						口5 体多				杯口3 杯身口8・体6・底5			
Ⅲ区	SH04	No.1煙道部												
Ⅲ区	SH04	No.2竈左側												
Ⅲ区	SH04	No.3竈内堆積物直上					体2							
Ⅲ区	SH04	No.4竈左側												
Ⅲ区	SH04	No.5竈左側					体1							
Ⅲ区	SH04	No.6床上5cm					体1							
Ⅲ区	SH04	No.7												
Ⅲ区	SH04	No.8竈右側床上5cm												
Ⅲ区	SH04	No.9												
Ⅲ区	SH04	No.10												
Ⅲ区	SH04	No.11床上2cm												
Ⅲ区	SH04	No.12床上4cm									小型壺底1			
Ⅲ区	SH04	煙道部					口1 体3							
Ⅲ区	SH04	中位					体2				甕体1			
Ⅲ区	SH04	竈周辺					体16							焼土2
Ⅲ区	SH04	竈周辺上位					体9				杯身口1			
Ⅲ区	SH04	床面									杯身口1			
Ⅲ区	SH04.SH05										小型壺体1			
Ⅲ区	SH05	竈内					体5			杯口1				
Ⅲ区	SH05	煙道部					体3							
Ⅲ区	SH05	竈右側					体17					石1		
Ⅲ区	SH06		底1				口2 体16				小型壺体1 短頸壺口1 杯蓋口1 杯身口2 壺蓋口1			製塩土器口2・体2
Ⅲ区	SH06	竈周辺.P03					体13							
Ⅲ区	SH06	土器No.1.土器No.2									杯身口2			
Ⅲ区	SH06	竈周辺.土器No.3									杯蓋口1			

地区名	出土位置	出土層位	弥生土器				土師器				須恵器	石器・石製品・剥片	金属製品	その他
			壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他	壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他				
Ⅲ区	SH06	土器④									小型壺体1			
Ⅲ区	SH06	3区下層,土器⑤					口1 体2							
Ⅲ区	SH06	3区下層,床面									はそう体3			
Ⅲ区	SH06	P08					口1 体4				杯口4・体多			
Ⅲ区	SH06	竈周辺							脚6					製塩土器口1
Ⅲ区	SH06, SH09										杯身口1・底1			
Ⅲ区	SH06, SH09										杯身口1			
Ⅲ区	SH06, SH09										杯身口2			
Ⅲ区	SH06, SH09						口2 体多			甑口1・体17	杯蓋口1			
Ⅲ区	SH06, SH11						口1 体多			竈2・体15				
Ⅲ区	SH06, SH11													
Ⅳ区	SH07	土器1,土器2,土器3,土器9									杯身口1			
Ⅳ区	SH07	土器6												
Ⅳ区	SH07	上層									提瓶か平瓶口1			
Ⅳ区	SH07	床面,竈周辺,竈内,土器4,土器5,土器6,土器7,土器8,土器9					口2 体多							
Ⅳ区	SH07	下層,土器10					体多							
Ⅳ区	SH07	床面,土器11									小型壺体3・底1			
Ⅳ区	SH08						口1 底1		口1・体9 脚12	杯底1	小型壺体1 台付壺脚1 甕体1 杯口4・底6 杯蓋口2・つまみ1 杯身口3	石1 石核1 サ2		
Ⅳ区	SH08	竈周辺(含む上位層)									杯口1			
Ⅳ区	SH08	竈周辺（含む上位層）,土器20					体6							
Ⅳ区	SH08	最上層									杯口1			
Ⅳ区	SH08	下層									杯底2	砥石1		
Ⅳ区	SH08	上層,竈周辺（含む上位層）,竈周辺,土器11					体多							
Ⅳ区	SH08	土器2,土器7									不明口1・体1			
Ⅳ区	SH08	土器3									甕体1			
Ⅳ区	SH08	土器5									甕体3			
Ⅳ区	SH08	土器8									甕体2			
Ⅳ区	SH08	土器8,土器10,P04									甕体4 杯体3			
Ⅳ区	SH08	土器9									杯身口1			
Ⅳ区	SH08	床面,竈周辺（含む上位層）,竈周辺,土器12					体7 底1							
Ⅳ区	SH08	床面					口6 体多							
Ⅲ区,Ⅳ区	SH08, SH09										杯蓋口1 はそう類3			
Ⅲ区	SH09									甑口2・体多	高杯体1 杯蓋口2 杯身口1			製塩土器口2

地区名	出土位置	出土層位	弥生土器				土師器				須恵器	石器・石製品・剥片	金属製品	その他
			壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他	壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他				
Ⅲ区	SH09	上層					□3 体多				高杯脚1 杯底1 杯蓋口2・体1 杯身口2		不明鉄製品2 鉄滓1	
Ⅲ区	SH09	下層									杯蓋口1・体1			製塩土器口2
Ⅲ区	SH09	②											鉄滓か炉壁2	
Ⅲ区	SH09	③									杯身口1			製塩土器口1
Ⅲ区	SH09	①,③,④									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	上層,⑪									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	上層,①									杯身口2・体1			製塩土器口3 体1
Ⅲ区	SH09	上層,③									杯蓋口2・体2			
Ⅲ区	SH09	③,④,竈内					□1 体9							
Ⅲ区	SH09	上層,竈内,土器31								甑体3				
Ⅲ区	SH09	①,上層,土器29								杯底1				
Ⅲ区	SH09	上層,土器37									杯身口2			
Ⅲ区	SH09	③,土器⑱					□1 体3							
Ⅲ区	SH09	上層,土器⑱					体7							
Ⅲ区	SH09	3区床面										石1		
Ⅲ区	SH09	上層,下層									杯身口1			
Ⅲ区	SH09	下層,土器23,竈土器②,竈土器③					□3							
Ⅲ区	SH09	竈床面										石鏃1		
Ⅲ区	SH09	土器①									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	土器②											不明鉄製品1	
Ⅲ区	SH09	土器21									杯身口1			
Ⅲ区	SH09	土器25									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	土器26,土器27,④									杯身口3			
Ⅲ区	SH09	土器28												製塩土器口1
Ⅲ区	SH09	土器③,上層									杯身口1			
Ⅲ区	SH09	土器36									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	土器38,③,上層									杯身口2・体2・底2			
Ⅲ区	SH09	土器39									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	土器42									杯身口1			
Ⅲ区	SH09	土器43									杯底1	砥石1		
Ⅲ区	SH09	土器⑤									杯身口1			
Ⅲ区	SH09	土器⑥									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	土器⑬									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH09	土器⑯									杯身口2			
Ⅲ区	SH09,SH10										杯底2			
Ⅲ区	SH09,SH10	下層,土器⑨,土器40									杯身口2・体1			
Ⅱb区	SH10	No.1								杯底1				
Ⅱb区	SH10	推定竈右脇					□1 体多							
Ⅲ区	SH10	土器①									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH10	土器②									杯蓋口1			
Ⅲ区	SH10						体17				小型壺口1 杯蓋口4			
Ⅲ区	SH10,SH03,SH09										甕口1・体2			
Ⅲ区	SH11										杯蓋口2 杯身口11・体7			
Ⅲ区	SH11	土器No.2,土器No.4床上5cm									杯身口3			
Ⅲ区	SH11	床面									杯蓋体1			

地区名	出土位置	出土層位	弥生土器				土師器				須恵器	石器・石製品・剥片	金属製品	その他
			壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他	壺か甕か鉢	鉢	高杯	その他				
Ⅲ区	SH11	上層					体2				杯身口1			
Ⅲ区	SH11	下層									小型壺口1			
Ⅲ区	SH11	下層,上層,竈,竈内土器,土器No.3床上5～7cm												製塩土器口1 体多
Ⅲ区	SH11	上層,下層,竈,土器No.3床上5～7cm					口1 体6							
Ⅲ区	SH11	上層,土器No.4床上5cm					体3							
Ⅲ区	SH11	竈					口4 体18							
Ⅲ区	SH11	土器No.1									杯身口1			
Ⅲ区	SH11	土器No.4床上5cm					体3							
Ⅲ区	SH11	土器No.5床上3～5cm								杯底1				
Ⅲb区	SH12						口5 体多 底2		口・体1	不明体7	小型壺口2 杯身口1			
Ⅲb区	SH13	No.25					口1							
Ⅲb区	SH14						口3 体多	底1		杯底1	杯体1 杯蓋完形品1・口1 杯身口1	砥石1 サ2		
Ⅱ区	SK07						体12							
Ⅱ区	SK09						体多							
Ⅱ区	SK11						体2							
Ⅱ区	SK12						口1 体多					サ2		焼土 炭化物
Ⅱ区	SK13						体1							
Ⅱ区	SK14						体3					サ1		
Ⅱ区	SK15						体1							
Ⅱ区	SK17													
Ⅳ区	SK26						体2							
Ⅱ区	SK30						体多			杯口1・底1	壺か甕体1 杯口1			
Ⅲ区	SK32									甑か竈体5 把手1				
Ⅲ区	SK33										壺か甕底1			
Ⅲ区	SK34						口1							
Ⅲ区	SK35						体1				甕体2	石核1 サ1		
Ⅲb区	SK42											砥石1		
Ⅳ区	SK47						体1							
Ⅱ区	SP46						体1							
Ⅱ区	SP47						体3							
Ⅱ区	SP48						体1							
Ⅱ区	SP49						体3							
Ⅱ区	SP50						体2							
Ⅱ区	SP63						体2					サ1		
Ⅱ区	SP72						体1							
Ⅱ区	SP80						口1 体6					サ1		
Ⅱ区	SP82						体4							
Ⅱ区	SP83						体2							
Ⅱ区	SP85						体2							
Ⅱ区	SP107						体3					サ1		
Ⅱ区	SP108											サ1		
Ⅳ区	SP217													焼土
Ⅱ区	SP257						体2							陶磁器口1
Ⅰ区	SX01	上面					体1					刃器1 サ1		

第8表　弥生土器・須恵器・土製品等一覧表

表の記述方法は以下のとおりである
・遺物種類のうち、弥生土器の機種は、「壺」、「甕」、「高杯」、「鉢」等に略して記述する
・遺物種類のうち、土師器の系譜にある酸化炎焼成による中世以降の土器については、すべて「土師器」に統一する
・胎土の特徴は、砂の粒子が目立たないものを「精緻」とし、粒子が観察できるものについては、量の多寡、特に目立つ鉱物の順で、該当箇所に「○」を記入する
・残存量は、完全に残存する部位か、原形の復元の手がかりとした部位がその部位全体に占める割合である

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
1	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
2	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○			○	
3	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
4	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
5	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
6	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
7	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	頸部	1/8未満		○			○	○			
8	29	—	弥生土器	壺か甕か鉢	Ⅰ区	SH01	底部	1/8未満		○		○	○	○			
9	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
10	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
11	29	—	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○			○	
12	29	—	弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	脚部	1/8未満		○		○	○				
13	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
14	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
15	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満			○	○					
16	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満			○	○	○				
17	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
18	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
19	29	—	弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満			○	○	○	○			
20	29	—	弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	脚部	1/8未満		○		○	○				
21	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
22	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
23	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満			○	○	○				
24	29	—	弥生土器	壺か甕	Ⅰ区	SH01	底部	1/8		○		○	○				
25	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
26	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	体部	1/8未満		○		○	○				
27	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	体部	1/8未満		○		○	○				
28	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	底部	2/8		○		○	○	○			
29	29	—	弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	脚部	1/8未満		○		○	○				
30	29	—	—	製塩土器	Ⅰ区	SH01	体部	8/8		○		○	○				
31	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
32	29	—	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○				
33	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	体部	1/8未満		○		○	○				
34	29	—	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	口縁部	2/8		○		○	○				
35	29	—	弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	脚部	4/8		○		○	○				
36	29	—	弥生土器	鉢	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
37	29	—	弥生土器	壺か甕か鉢	Ⅰ区	SH01	底部	1/8		○		○	○	○			
38	29	—	弥生土器	高杯	Ⅰ区	SH01	体部	2/8		○		○	○				
39	29	—	弥生土器	甕	Ⅰ区	SH01	体部	1/8未満		○		○	○				
40	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	2/8		○		○	○				

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
41	29	—	弥生土器	壺か高杯	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満			○	○	○				
42	29	—	弥生土器	壺	Ⅰ区	SH01	口縁部	1/8未満			○	○					
44	30	27	縄文土器	浅鉢	Ⅰ区	SH02	体部	1/8未満		○		○	○				
45	33	—	土師器	甕	Ⅰ区	SD02	口縁部	1/8未満		○		○	○				
46	33	27	縄文土器	浅鉢	Ⅱ区	SP80	口縁部	1/8未満		○		○	○				
47	33	27	縄文土器	深鉢	Ⅱ区	SP82	体部	1/8未満		○		○	○				
49	35	—	弥生土器	壺か甕	Ⅱ区	SK12	口縁部	1/8未満		○		○	○				
50	39	—	土師器	壺	Ⅲ区	SH03	体部	1/8未満		○		○	○				
51	39	—	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8			○	○	○				
52	39	—	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	口縁部	2/8		○		○	○				
53	39	—	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				
54	39	—	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				
55	39	—	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				
56	39	—	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	頸部	1/8未満		○		○	○	○			
57	39	—	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	底部	8/8		○		○	○				
58	39	32	土師器	甑	Ⅲ区	SH03,SH04	口縁部	1/8		○		○	○				
59	39	27	須恵器	壺	Ⅲ区,Ⅳ区	SH03,SH08,SH09	口縁部	1/8			○	○	○				
60	39	27	須恵器	壺	Ⅲ区	SH03,SH09	口縁部	4/8		○		○	○				○
61	39	28	須恵器	甕	Ⅲ区	SH03,SH09	口縁部	1/8	○								
62	39	—	須恵器	甕	Ⅲ区	SH03,SH06,SH09	底部	3/8			○	○	○				
63	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	体部	1/8			○	○	○				
64	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満			○	○	○				
65	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満	○								
66	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満			○	○					
67	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満			○	○	○				
68	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				
69	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				
70	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	2/8			○	○	○				
71	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	底部	2/8		○		○	○			○	
72	39	—	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8			○	○	○				
73	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8			○	○	○				
74	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8			○		○				
75	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03,SH09	体部	1/8	○			○					
76	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8			○	○	○				
77	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8		○		○	○				○
78	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8	○								
79	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8	○								
80	40	28	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	—	完形品		○		○	○				○
81	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	体部	1/8未満			○	○	○				
82	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満			○	○	○				
83	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満			○	○	○				
84	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満	○								
85	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満	○								
86	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満	○								
87	40	—	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
88	40	33	―	製塩土器	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8		○		○	○	○			
90	40	34	土師器	鉢	Ⅲ区	SH03,SH06	体部	1/8		○		○	○	○			
91	40	―	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				
92	40	―	土師器	甕	Ⅲ区	SH03	口縁部	1/8未満		○		○	○				
93	40	―	土師器	甕	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満		○		○	○				
94	40	―	土師器	甕	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満		○		○	○				
95	40	―	須恵器	杯	Ⅲ区	SH04	底部	2/8	○								
96	40	―	須恵器	杯	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満	○								
97	40	28	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH04	口縁部	3/8			○	○	○				
98	40	―	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満		○		○	○				
99	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満	○								
100	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満	○								
101	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	体部	1/8	○								
102	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	底部	3/8		○		○	○				
103	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満	○								
104	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満		○		○	○				
105	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満	○								
106	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満			○	○	○				
107	40	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH04	口縁部	1/8未満	○								
108	40	28	須恵器	小型壺	Ⅲ区	SH04	体部	3/8	○			○					
109	49	―	土師器	甕	Ⅲ区	SH05	口縁部，体部	1/8未満		○		○	○				
110	49	―	土師器	杯	Ⅲ区	SH05	口縁部	1/8未満		○		○	○				
111	49	―	須恵器	杯	Ⅲ区	SH05	口縁部	1/8未満	○								
112	49	28	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH05	口縁部	完形品			○	○	○				
113	49	―	弥生土器	鉢	Ⅲ区	SH06	底部	2/8		○		○	○	○			
114	49	―	土師器	甕	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8未満		○		○	○				
115	49	―	土師器	甑	Ⅲ区	SH06,SH09,SH10	口縁部	2/8		○		○	○				
116	49	―	土師器	不明	Ⅲ区	SH06,SH11	―	―		○		○	○				
117	49	―	須恵器	短頸壺	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8	○								
118	49	―	須恵器	壺か	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8	○								
119	49	―	須恵器	小型壺	Ⅲ区	SH06	底部	1/8未満		○		○	○				
120	49	28	須恵器	小型壺	Ⅳ区西	SH06,SH07,SH13	体部	3/8	○								
121	49	―	須恵器	小型壺	Ⅲ区	SH06	底部	2/8									
122	49	28	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH06,SH11	口縁部	7/8	○								
123	49	28	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH06	口縁部	6/8		○		○	○				
124	49	―	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8未満			○	○	○				
125	49	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH06,SH09	口縁部	8/8		○		○	○				
126	49	29	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH06	口縁部	3/8			○	○	○				
127	49	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH06,SH09	口縁部	1/8	○								
128	49	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8未満	○			○	○				
129	49	―	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8		○		○	○				
130	49	29	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH06,SH09	口縁部	4/8		○		○	○				
131	49	29	須恵器	はそう	Ⅲ区	SH06	体部	1/8	○					○			
132	49	34	―	製塩土器	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
133	49	―	―	製塩土器	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
134	49	－	－	製塩土器	Ⅲ区	SH06	口縁部	1/8未満		○		○	○				
136	49	－	土師器	甕	Ⅳ区西	SH07,SH08	口縁部、体部	1/8未満		○		○	○				
137	49	－	土師器	甕	Ⅳ区西	SH07	体部	1/8未満		○		○	○				
138	49	－	土師器	高杯	Ⅳ区西	SH07	底部	2/8		○		○	○				
139	49	29	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH07	口縁部	4/8			○	○	○				
140	49	29	須恵器	提瓶か平瓶	Ⅳ区西	SH07	口縁部	2/8	○								
141	53	－	土師器	壺か甕か鉢	Ⅳ区西	SH08	底部	1/8			○	○	○				
142	53	－	土師器	甕	Ⅳ区西	SH08	底部	1/8		○		○	○				
143	53	－	土師器	甕	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8		○		○	○				
144	53	－	土師器	甕	Ⅳ区西	SH08	頸部	1/8未満		○		○	○	○			
145	53	－	須恵器	壺	Ⅳ区西	SH08	体部	1/8未満	○								
146	53	－	須恵器	台付壺	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8	○								
147	53	－	須恵器	甕	Ⅳ区西	SH08	体部	1/8未満	○								
148	53	－	須恵器	甕	Ⅳ区西	SH08	体部	1/8未満		○		○	○				○
149	53	－	須恵器	鉢か	Ⅳ区西	SH08	口縁部、体部	1/8未満		○		○	○				
150	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8未満	○				○				
151	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8未満		○		○	○				
152	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8未満		○		○	○				
153	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8未満			○	○	○				
154	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	高台部	2/8	○								
155	53	29	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	高台部	1/8	○								
156	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8		○			○				
157	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	底部	1/8未満	○								
158	53	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	SH08	高台部	4/8	○								
159	53	29	須恵器	杯蓋	Ⅲ区、Ⅳ区西	SH08,SH09	口縁部	5/8	○								
160	53	－	須恵器	杯蓋	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8	○			○					
161	53	－	須恵器	杯蓋	Ⅳ区西	SH08	つまみ部	7/8		○		○	○				
162	53	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH08	底部	2/8	○								
163	53	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8未満		○		○	○				
164	53	－	須恵器	杯蓋	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8未満			○	○	○				
165	53	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH08	底部	2/8			○	○	○				
166	53	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH08	底部	4/8		○		○	○				
167	53	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH08	口縁部	1/8未満			○	○					
168	53	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH08	体部	1/8未満			○	○	○				
169	53	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	SH08	体部	1/8未満	○			○					
171	53	－	須恵器	小型壺	Ⅳ区西	SH08	体部	1/8	○			○	○				
172	53	－	須恵器	壺か甕	Ⅳ区西	SH08	底部	3/8	○			○	○				
173	53	－	須恵器	甕	Ⅳ区西	SH08	体部	1/8未満			○	○	○				
174	53	32	土師器	高杯	Ⅳ区西	SH08	口縁部、脚部	4/8		○		○	○				
175	58	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○				
176	58	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○				
177	58	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○				
178	58	－	土師器	鉢か甑	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○				
179	58	－	土師器	甑	Ⅲ区	SH09,SH10	底部	1/8未満		○		○	○				
180	58	－	須恵器	高杯	Ⅲ区	SH09	体部	1/8未満		○		○	○				

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
181	58	－	須恵器	高杯	Ⅲ区	SH09	脚部	1/8未満	○			○					
182	58	－	須恵器	椀か小型壺か	Ⅲ区	SH09	体部	1/8			○	○	○				
183	58	29	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	口縁部	2/8	○								
184	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8	○			○					
185	58	30	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	2/8	○			○	○				
186	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	体部	1/8未満			○	○	○				
187	58	30	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	3/8			○	○	○				
188	58	30	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	2/8	○								○
189	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8	○								
190	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満			○	○	○				
191	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8	○								
192	58	30	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	2/8		○		○	○				
193	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満	○								
194	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8			○	○	○				
195	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8	○								
196	58	30	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満	○								
197	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満	○								
198	58	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH09	体部	1/8未満			○	○	○				
199	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満			○		○				
200	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○				
201	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○				
202	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○				
203	58	30	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	4/8			○	○	○				
204	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○				
205	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○				
206	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	底部	6/8		○							○
207	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	2/8		○		○	○				
208	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満			○	○	○				
209	58	30	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○				
210	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	体部	2/8		○		○	○				
211	58	31	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	4/8			○						○
212	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○				
213	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8			○	○	○				
214	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	底部	2/8		○		○	○				○
215	58	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	底部	7/8		○		○	○				
216	58	31	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH09	底部	4/8	○			○	○				
217	58	－	須恵器	はそうか	Ⅲ区	SH09	頸部	4/8	○								
218	59	34	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
219	59	34	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○				
220	59	34	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8		○		○	○	○			
221	59	－	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
222	59	34	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
223	59	－	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
224	59	－	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
225	59	－	－	製塩土器	Ⅲ区	SH09	体部	1/8未満		○		○	○	○			

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
230	59	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH09	口縁部	1/8未満		○		○	○				
231	59	32	土師器	甕	Ⅲ区	SH09	口縁部	2/8		○		○	○				
232	59	32	土師器	杯	Ⅲ区	SH10	口縁部	5/8		○		○	○	○			
233	59	－	須恵器	小型壺	Ⅲ区	SH10	口縁部	1/8未満			○	○	○				
234	59	31	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	口縁部	5/8			○	○	○				
235	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	口縁部	2/8	○								
236	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	口縁部	1/8			○	○	○				
237	59	31	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	口縁部	3/8		○		○	○				
238	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	口縁部	1/8未満	○								
239	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	口縁部	1/8未満	○								
240	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH10	体部	6/8			○	○	○				
241	59	34	－	製塩土器	Ⅱb区	SH10	口縁部	5/8		○		○	○	○			
242	59	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8		○		○	○	○			
243	59	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
244	59	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8未満		○		○	○				
245	59	－	土師器	甕	Ⅲ区	SH11	体部	1/8未満		○		○	○				
246	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8未満	○								
247	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH11	体部	1/8未満	○								
248	59	－	須恵器	小型壺	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8			○	○	○				
249	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8			○	○	○				
250	59	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SH11	体部	1/8未満	○								
251	59	31	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH11	口縁部	2/8		○		○	○				
252	59	31	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH11	口縁部	2/8		○		○	○				
253	59	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8		○		○	○				
254	59	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH11	体部	1/8	○								
255	59	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH11	底部	7/8		○		○	○			○	
256	59	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	SH11	口縁部	1/8未満		○		○	○				
257	64	－	弥生土器か土師器	鉢	Ⅲb区	SH12	底部	1/8		○		○	○				
258	64	－	土師器	甕	Ⅲb区	SH12	口縁部	1/8未満		○		○	○				
259	64	32	土師器	甕	Ⅲb区	SH12	口縁部，底部	8/8		○		○	○				
260	64	－	土師器	甕	Ⅲb区	SH12	口縁部・体部	1/8		○		○	○	○			
261	64	33	土師器	高杯	Ⅲb区	SH12	口縁部	8/8		○		○	○				
262	64	－	須恵器	台付壺	Ⅲb区	SH12	口縁部	4/8		○		○	○				
263	64	－	須恵器	小型壺	Ⅲb区	SH12	口縁部	1/8未満		○		○	○				
264	64	－	須恵器	壺	Ⅲb区	SH12	口縁部	1/8未満	○								
265	64	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SH12	口縁部	1/8未満			○	○	○				
266	64	33	土師器	甕	Ⅲb区	SH13	口縁部	2/8		○		○	○				
267	64	－	土師器	甕	Ⅲb区	SH13	体部	1/8		○		○	○				
268	64	－	土師器	甕	Ⅲb区	SH13	口縁部	2/8		○		○	○				
269	64	33	土師器	甕	Ⅲb区	SH13,SH14	口縁部	3/8		○		○	○	○			
270	64	33	土師器	甕	Ⅲb区	SH13	口縁部	8/8		○		○	○	○			
271	64	－	土師器	甕	Ⅲb区	SH13	底部	1/8未満			○	○	○				
272	64	－	須恵器	壺	Ⅲb区	SH13	口縁部	1/8未満			○	○	○				
273	64	－	須恵器	甕	Ⅲb区	SH13	体部	1/8未満	○								
274	64	31	須恵器	高杯	Ⅲb区	SH13	体部	3/8	○								

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
275	64	－	須恵器	無蓋高杯	Ⅲb区	SH13	体部	2/8			○	○	○				
276	64	－	須恵器	無蓋高杯	Ⅲb区	SH13	体部	1/8未満	○								
277	64	－	須恵器	杯蓋	Ⅲb区	SH13	口縁部	1/8未満	○				○				
278	64	31	須恵器	杯蓋	Ⅲb区	SH13	口縁部	7/8			○	○	○				
279	64	－	須恵器	杯蓋	Ⅲb区	SH13	口縁部	1/8未満	○								
280	64	－	須恵器	杯蓋	Ⅲb区	SH13	口縁部	1/8未満	○								
281	64	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SH13	口縁部	3/8		○		○	○				
282	64	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SH13	口縁部	1/8未満			○	○	○				
283	64	－	須恵器	杯蓋	Ⅲb区	SH13	口縁部	1/8未満	○								
284	64	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SH13	底部	1/8			○	○	○				
285	64	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SH13	底部	1/8未満	○								
286	64	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SH13	底部	8/8	○								
287	68	33	土師器	甕	Ⅲb区	SH14	口縁部	2/8		○		○	○				
288	68	33	土師器	甕	Ⅲb区	SH14	口縁部	3/8		○		○	○				
289	68	－	土師器	甕	Ⅲb区	SH14	口縁部	1/8		○		○	○				
290	68	－	土師器	甕	Ⅲb区	SH14	体部	3/8		○		○	○	○			
291	68	33	土師器	鉢	Ⅲb区	SH14	口縁部	7/8			○	○	○				
292	68	－	須恵器	杯	Ⅲb区	SH14	底部	5/8			○	○	○				
293	68	－	須恵器	杯蓋	Ⅲb区	SH14	口縁部	1/8未満	○								
294	68	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SH14	体部	1/8未満	○								
296	68	32	須恵器	杯身	Ⅱb区	SH15	口縁部	2/8			○	○	○				
297	77	－	土師器	甑か竈	Ⅲ区	SK32	－	－		○		○	○				
298	77	－	弥生土器	壺か甕	Ⅲ区	SK33	底部	1/8未満		○		○	○	○			
299	77	－	土師器	羽釜	Ⅲ区	SK34	口縁部	1/8未満		○		○	○				
300	77	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	SK38	口縁部	1/8未満	○								
301	77	32	須恵器	杯身	Ⅲ区	SK38	口縁部	3/8		○		○	○				
302	77	－	須恵器	杯身	Ⅲb区	SK42	口縁部	1/8			○	○	○				
304	77	－	須恵器	杯	Ⅱ区	SK30	底部	1/8	○								
305	77	－	須恵器	杯蓋	Ⅱ区	SK30	口縁部	1/8未満	○								
306	84	－	弥生土器	壺か甕	Ⅱ区	黒色帯	底部	1/8		○		○	○				
307	84	－	弥生土器	甕	Ⅱ区	黒色帯	口縁部	1/8未満		○		○	○				
308	84	－	土師器	甕	Ⅲ区	黒色帯	口縁部	1/8未満		○		○	○				
309	84	－	土師器	甑	Ⅲ区	黒色帯	－	－		○		○	○				
310	84	－	土師器	杯	Ⅱ区	黒色帯	底部	1/8		○		○	○				
311	84	－	土師器	杯	Ⅱ区	黒色帯	高台部	1/8未満			○	○					
312	84	－	須恵器	壺	Ⅱ区	黒色帯	頸部	1/8		○		○	○				
313	84	－	須恵器	杯	Ⅱ区	黒色帯	口縁部	1/8	○								
314	84	－	須恵器	杯	Ⅱ区	黒色帯	口縁部	1/8未満	○								
315	84	－	須恵器	杯	Ⅱ区	黒色帯	底部	1/8未満		○		○	○				
316	84	－	須恵器	杯	Ⅱ区	黒色帯	高台部	1/8	○								
317	84	－	須恵器	杯	Ⅲ区	黒色帯	底部	1/8未満	○								
318	84	－	須恵器	杯	Ⅱ区	黒色帯	口縁部	1/8未満	○								
319	84	－	須恵器	杯	Ⅲ区	黒色帯	底部	1/8未満	○								
320	84	－	須恵器	Ⅲ	Ⅱ区	黒色帯	底部	1/8未満	○								
321	84	－	須恵器	杯蓋	Ⅱ区	黒色帯	口縁部	1/8未満			○	○	○				

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
322	84	－	須恵器	杯身	Ⅱ区	黒色帯	口縁部	1/8未満			○						○
327	85	－	弥生土器	甕	Ⅳ区東	側溝	口縁部	1/8未満		○		○	○				
328	85	－	土師器	甕	Ⅲ区	4トレンチ	口縁部	1/8未満		○		○	○	○			
329	85	－	土師器	鉢	Ⅳ区西	床土・包含層	口縁部	1/8未満			○	○	○				
330	85	－	土師器	すり鉢	Ⅳ区西	床土等	口縁部	1/8未満		○		○	○				
331	85	－	土師器	すり鉢	Ⅳ区西	床土等	底部	1/8未満		○		○					
332	85	－	土師器	すり鉢	Ⅳ区西	床土・包含層	底部	1/8未満		○		○	○				
333	85	－	土師器か	椀	Ⅳ区西	床土等	高台部	2/8			○	○	○				
334	85	－	土師器	椀	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8	○								
335	85	－	土師器	杯	Ⅱ区	耕作土・床土	底部	1/8	○								
336	85	－	土師器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	底部	1/8			○	○	○				
337	85	－	土師器	杯か	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8	○								
338	85	－	土師器	杯か	Ⅳ区西	床土等	口縁部	1/8未満	○								
339	85	－	土師器	皿	Ⅱ区	側溝	底部	1/8		○		○					
340	85	－	土師器	皿	Ⅱ区	耕作土・床土	底部	1/8未満	○								
341	85	－	土師器	土釜	Ⅳ区西	床土等	体部	1/8未満			○	○					
342	85	－	土師器	土釜	Ⅳ区西	北壁	－	－		○		○	○				
343	85	－	須恵器	壺	Ⅳ区西	包含層	口縁部	1/8			○	○					
344	85	－	須恵器	高杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8			○	○					
345	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土等	口縁部	1/8未満	○								
346	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8	○								
347	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8			○	○					
348	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	2/8	○								
349	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	2/8	○			○					
350	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8	○								
351	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8	○								
352	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土等	底部	2/8	○								
353	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8	○								
354	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8	○								
355	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	底部	3/8	○								
356	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8			○	○	○				○
357	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	高台部	1/8未満			○	○					
358	85	－	須恵器	杯	Ⅱ区	包含層	高台部	1/8未満	○								
359	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土等	高台部	1/8未満		○		○					
360	85	－	須恵器	杯	Ⅱ区	耕作土・床土	底部	1/8未満	○			○					
361	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	底部	1/8	○								
362	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	底部	4/8	○								
363	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土・包含層	底部	2/8	○								
364	85	－	須恵器	杯	Ⅱ区	側溝	底部	1/8未満	○								
365	85	－	須恵器	杯	Ⅳ区西	床土等	底部	1/8未満	○								
366	85	－	須恵器か	皿	Ⅳ区西	床土・包含層	底部	1/8未満	○								
367	85	－	須恵器	杯蓋	Ⅳ区西	床土等	口縁部	1/8未満			○	○					
368	85	－	須恵器	杯蓋	Ⅳ区西	床土等	口縁部	1/8未満	○			○	○				
369	85	－	須恵器	杯蓋	Ⅱ区	耕作土・床土	口縁部	1/8未満	○								
370	85	－	須恵器	杯蓋	Ⅲ区	東遺構面	口縁部	1/8未満	○								

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	種　類	器　種	地区	出土位置	残存量		胎土中の造岩鉱物								
							部　位	残存量	精緻	多い	少ない	長石	石英	雲母	角閃石	赤色鉱物	黒色鉱物
371	85	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	床土・包含層	口縁部	1/8未満	○								
372	85	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	床土・包含層	口縁部	1/8未満			○	○					
373	85	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	床土・包含層	口縁部	1/8未満	○								
374	85	－	須恵器	杯身	Ⅳ区東	側溝	体部	1/8未満	○								
375	85	－	須恵器	杯身	Ⅳ区西	床土等	口縁部	1/8未満	○								
376	85	－	須恵器	杯身	Ⅲ区	東遺構面	体部	1/8未満			○	○	○				
377	85	32	須恵器	はそう	Ⅳ区東	側溝	頸部	1/8未満	○								
378	85	－	黒色土器	椀か杯	Ⅳ区西	床土・包含層	口縁部	1/8未満	○								

第9表　石器・石製品一覧表

表の記述方法は以下のとおりである
・重さは、現存値である

遺物番号	挿図番号	写真図版番号	器　種	地　区	出土位置	重さ(g)	材　質
43	29	－	刃器	Ⅰ区	SH01	26.5	サヌカイト
48	35	－	刃器	Ⅰ区	SX01	45.6	サヌカイト
89	40	－	紡錘車	Ⅲ区	SH03	14.8	滑石
170	53	35	砥石	Ⅳ区西	SH08	169.5	凝灰岩
226	59	35	石鏃	Ⅲ区	SH09	0.5	サヌカイト
227	59	35	砥石	Ⅲ区	SH09	36.7	凝灰岩
295	68	－	砥石か台石	Ⅲb区	SH14	2854.8	砂岩
303	77	－	砥石	Ⅲb区	SK42	7500.0	凝灰岩
323	84	35	石鏃	Ⅱ区	黒色帯	2.3	サヌカイト
324	84	36	石庖丁か刃器	Ⅱ区	黒色帯	17.6	サヌカイト
325	84	36	石庖丁	Ⅱ区	黒色帯	34.5	サヌカイト
326	84	35	石斧	Ⅲ区	黒色帯	15.8	サヌカイト
379	85	－	石鏃	Ⅳ区西	床土等	2.8	サヌカイト
380	85	35	石鏃	Ⅳ区西	床土・包含層	0.7	サヌカイト
381	85	36	石庖丁か刃器	Ⅳ区西	床土・包含層	16.8	サヌカイト
382	85	36	石庖丁	Ⅱ区	床土・包含層	18.4	サヌカイト
383	85	－	刃器	Ⅳ区西	床土等	15.7	サヌカイト
384	85	35	石斧	Ⅳ区西	床土等	21.7	サヌカイト

第10表　金属製品一覧表

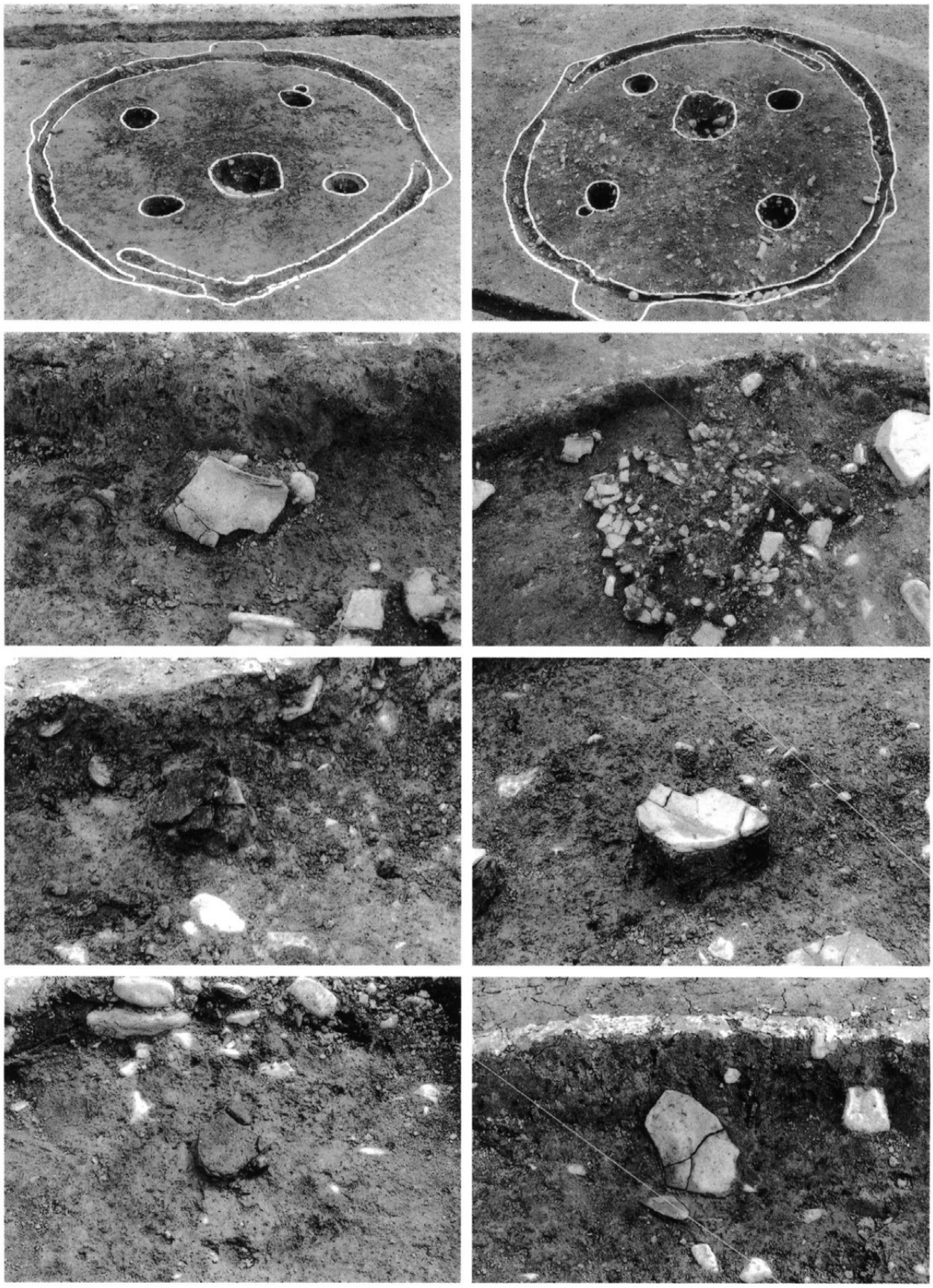
遺物番号	挿図番号	写真図版番号	器　種	地　区	出土位置	材　質
135	49	36	鏃か	Ⅲ区	SH06	鉄
228	59	36	刀子か	Ⅲ区	SH09	鉄
229	59	36	刀子か	Ⅲ区	SH09	鉄

写 真 図 版

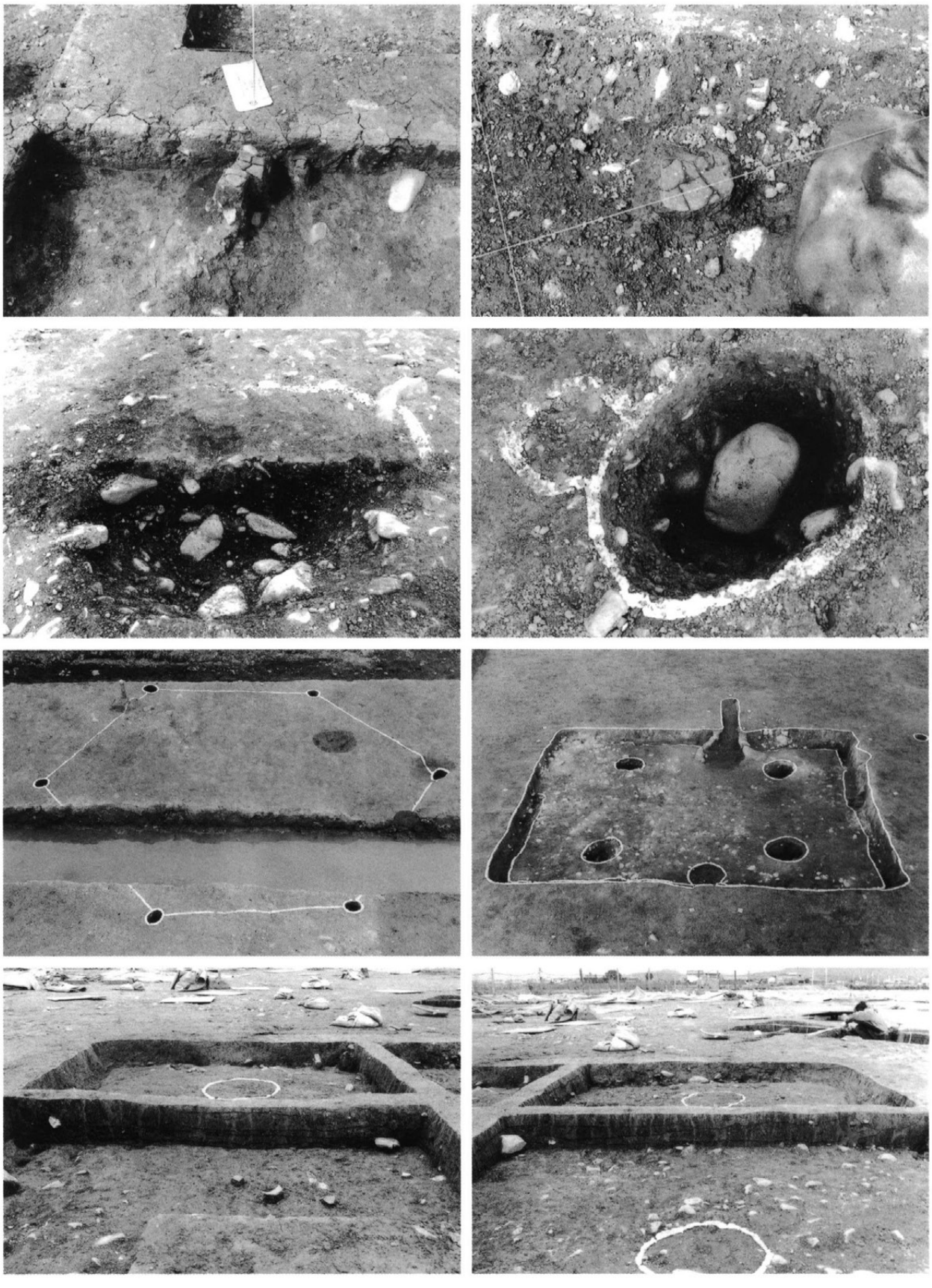
図版 1

上：Ⅰ・Ⅱ区　中上,中下：Ⅲ区　下左：Ⅲb区　下右：Ⅳ区

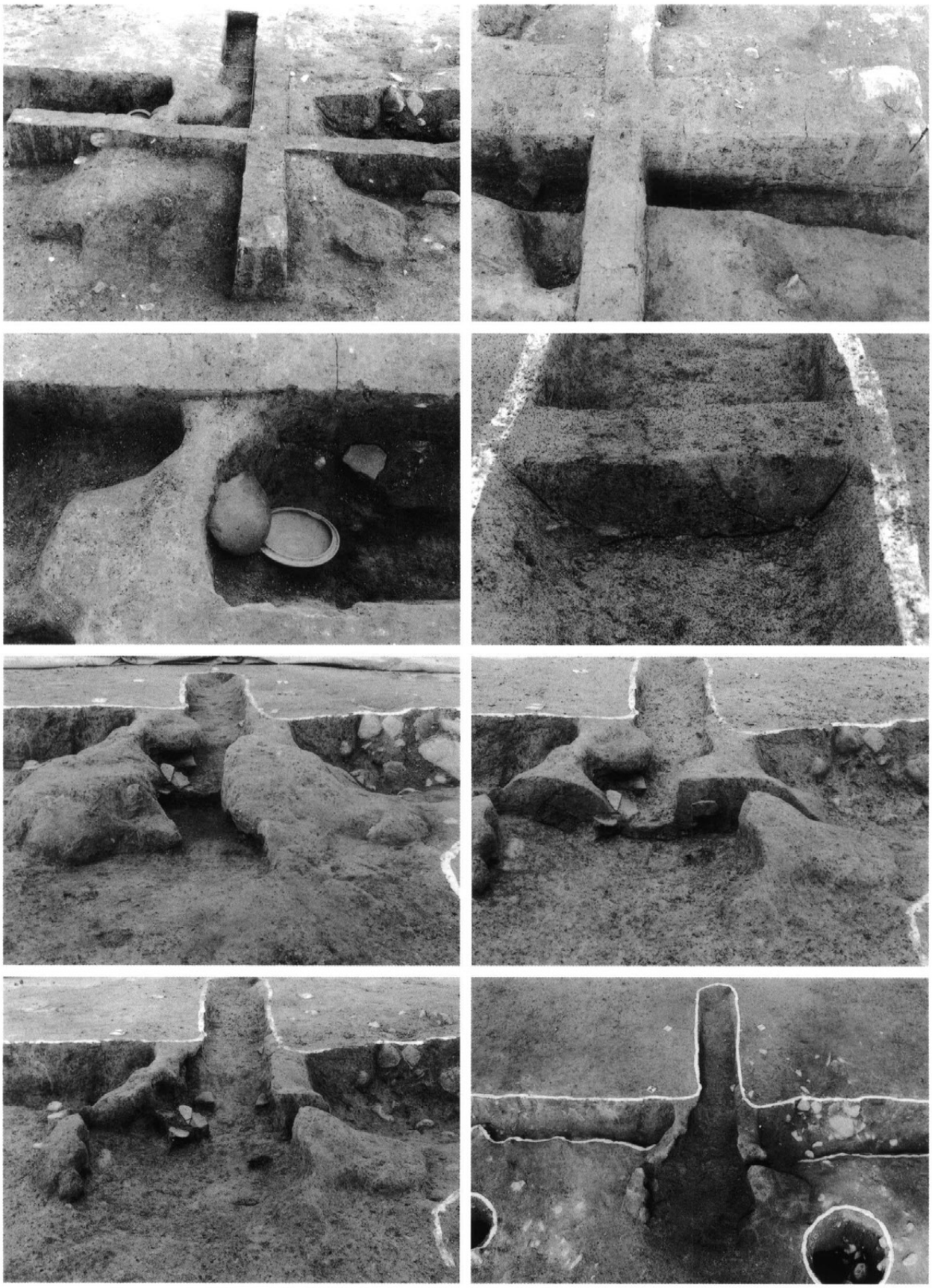
図版 2



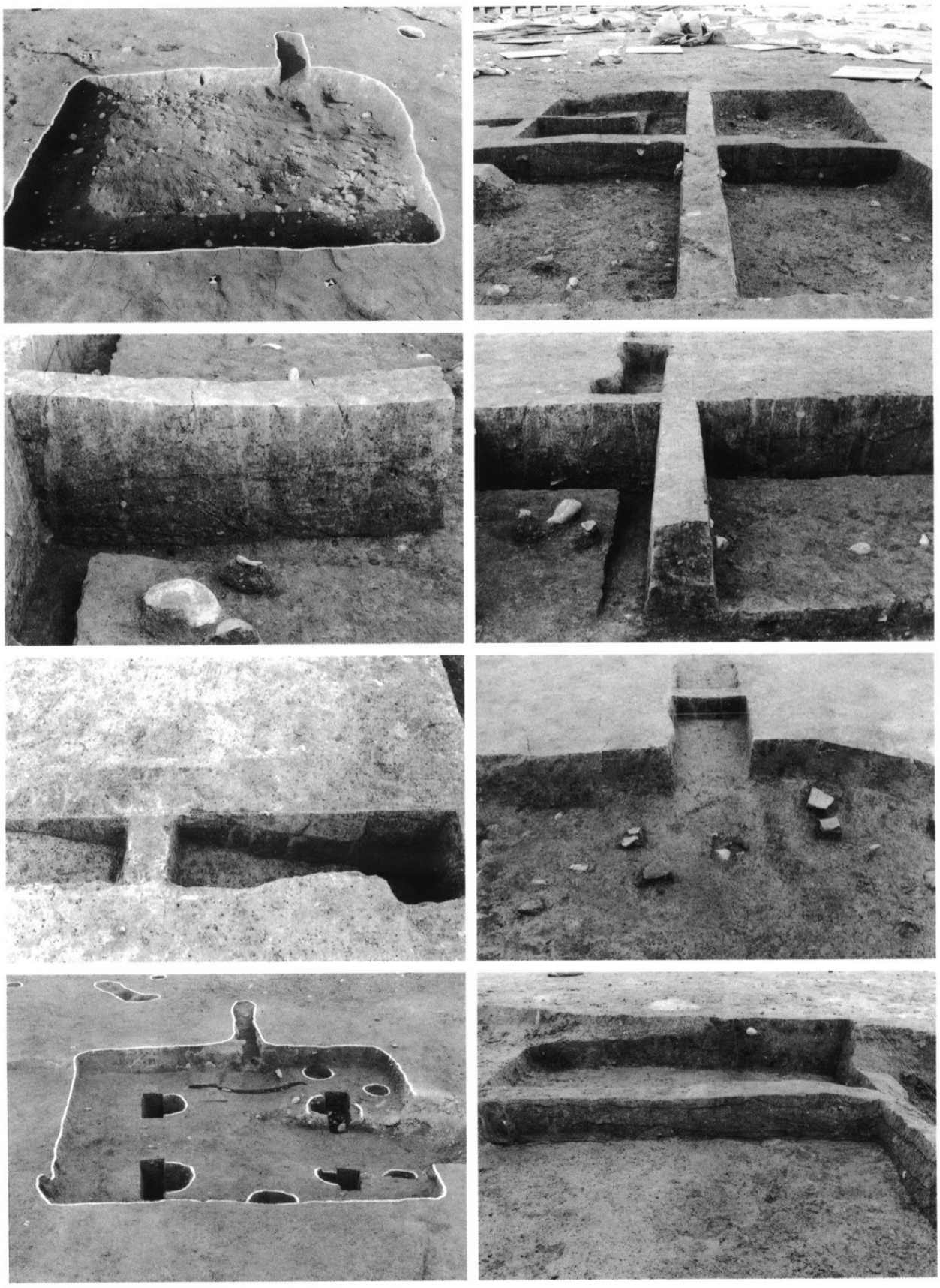
SH01



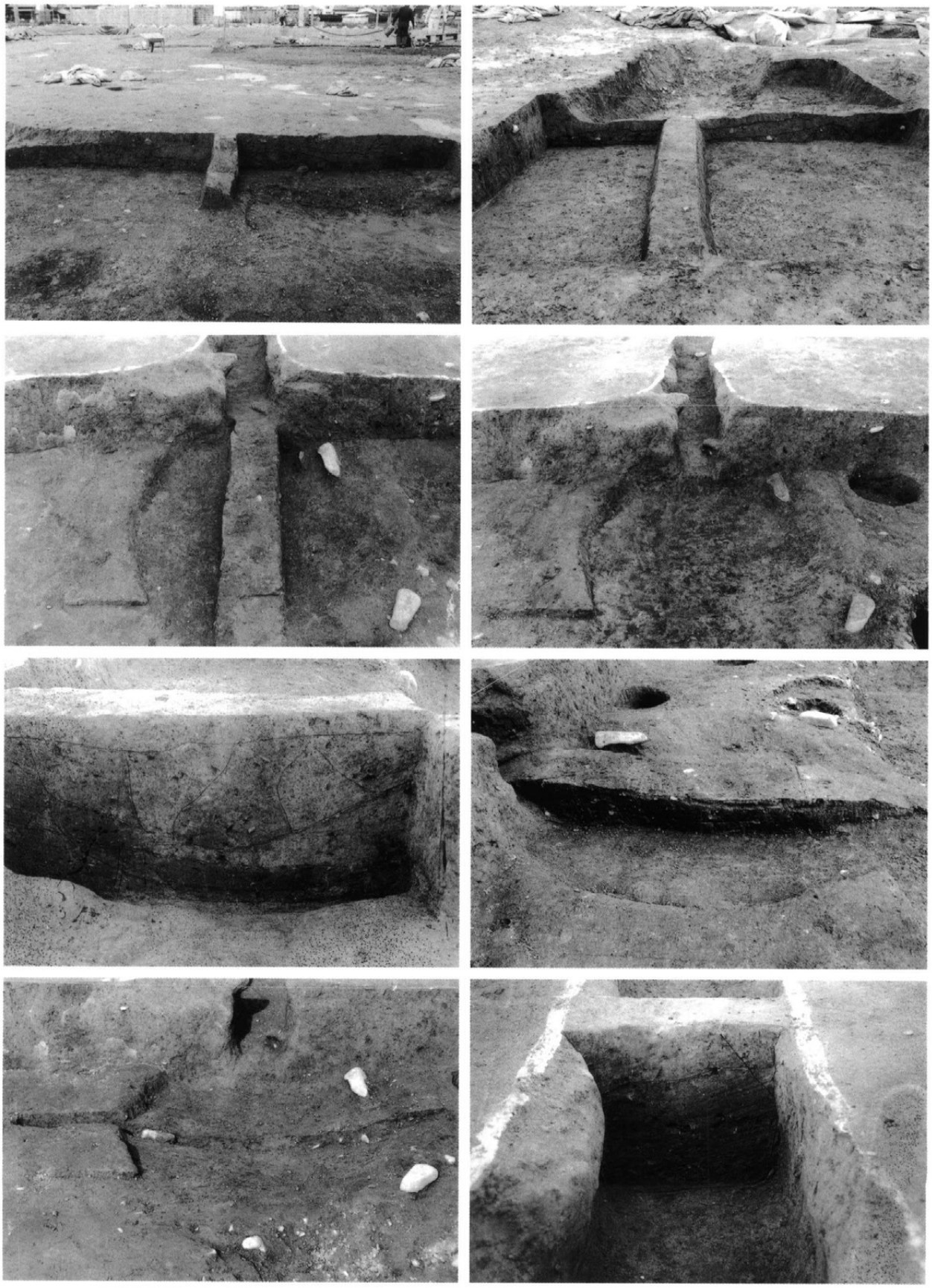
上,中上：SH01　中下左：SH02　中下右,下：SH03



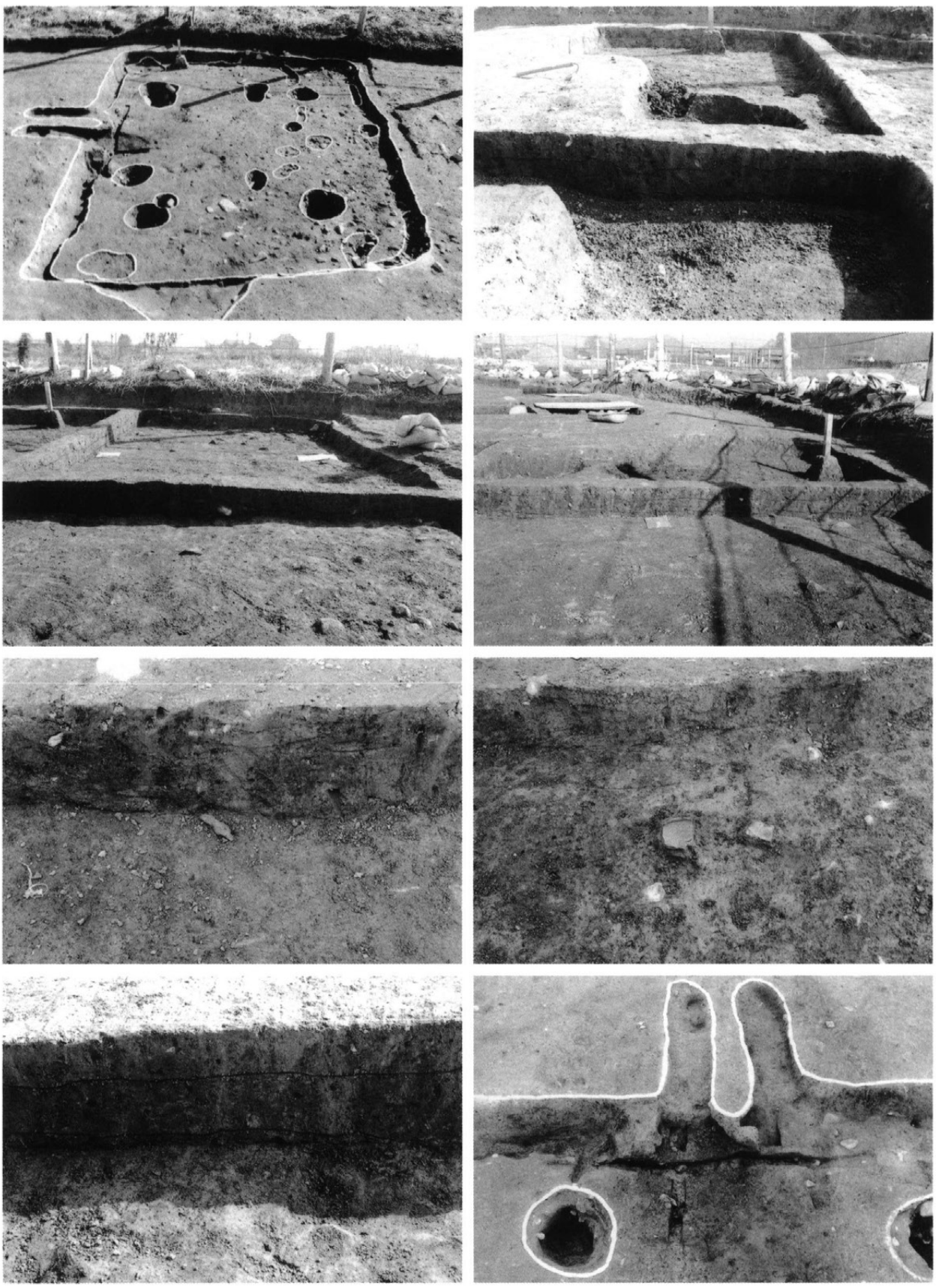
SH03



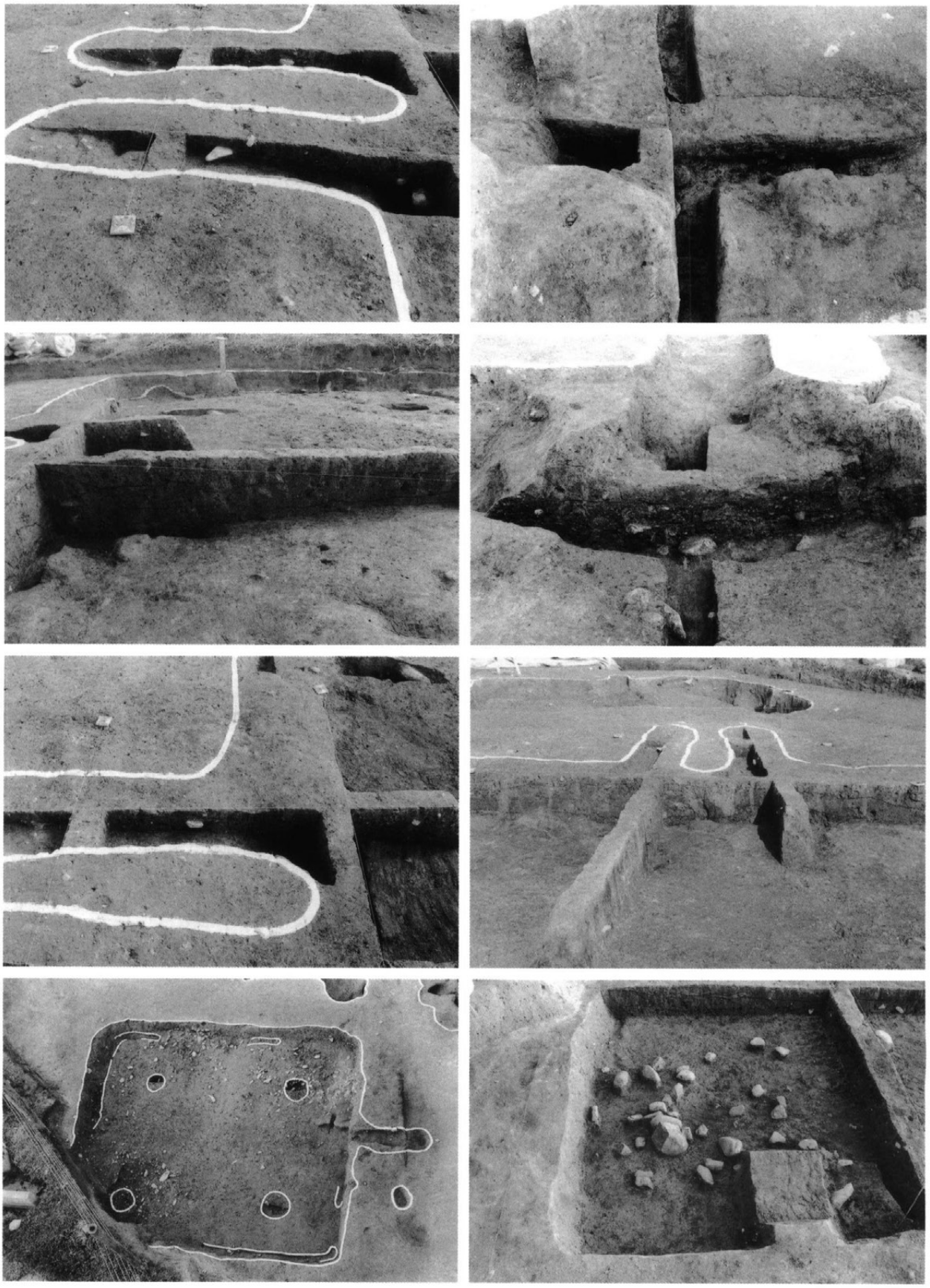
上,中上・下：SH04　下：SH05



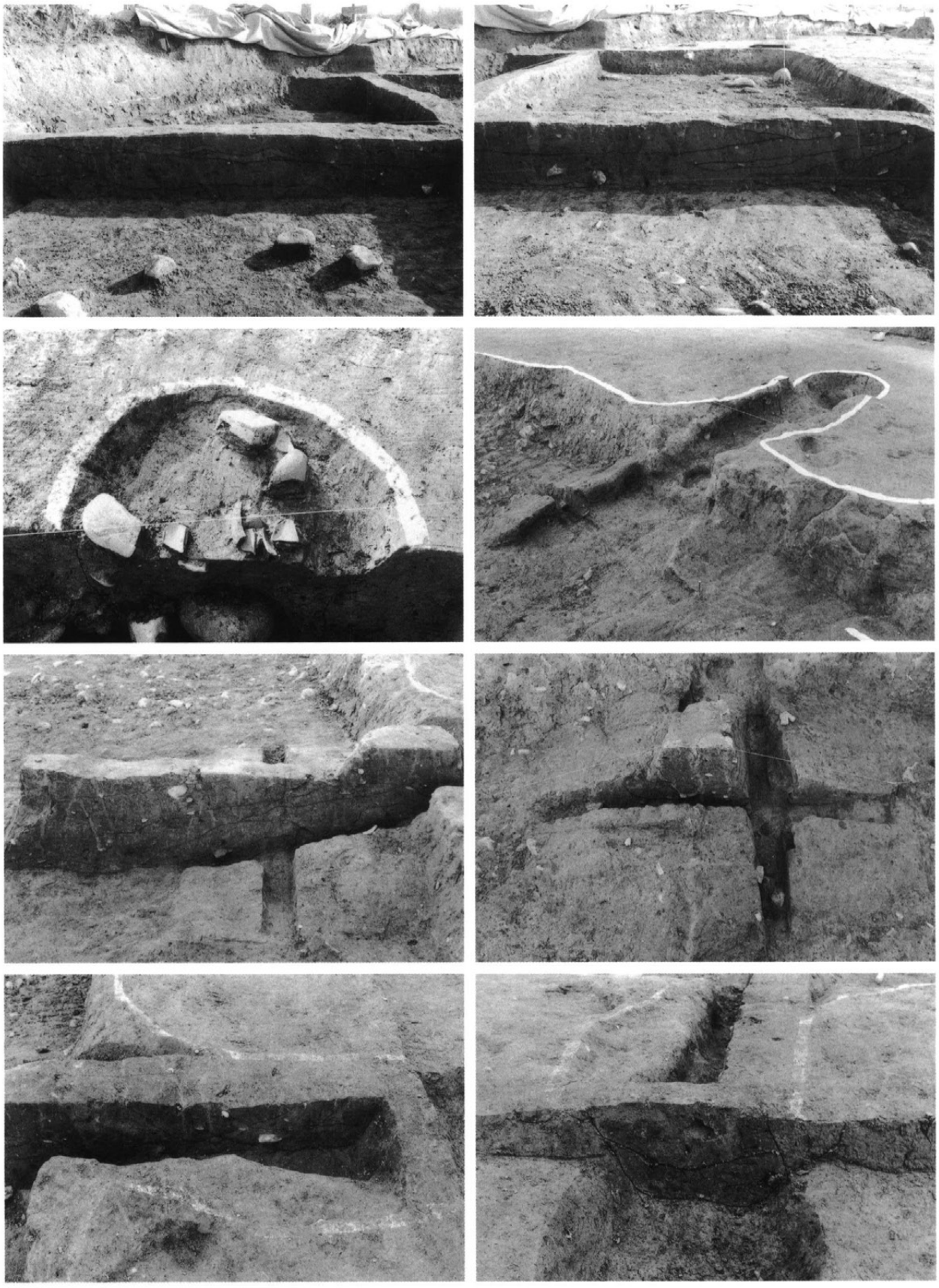
SH05



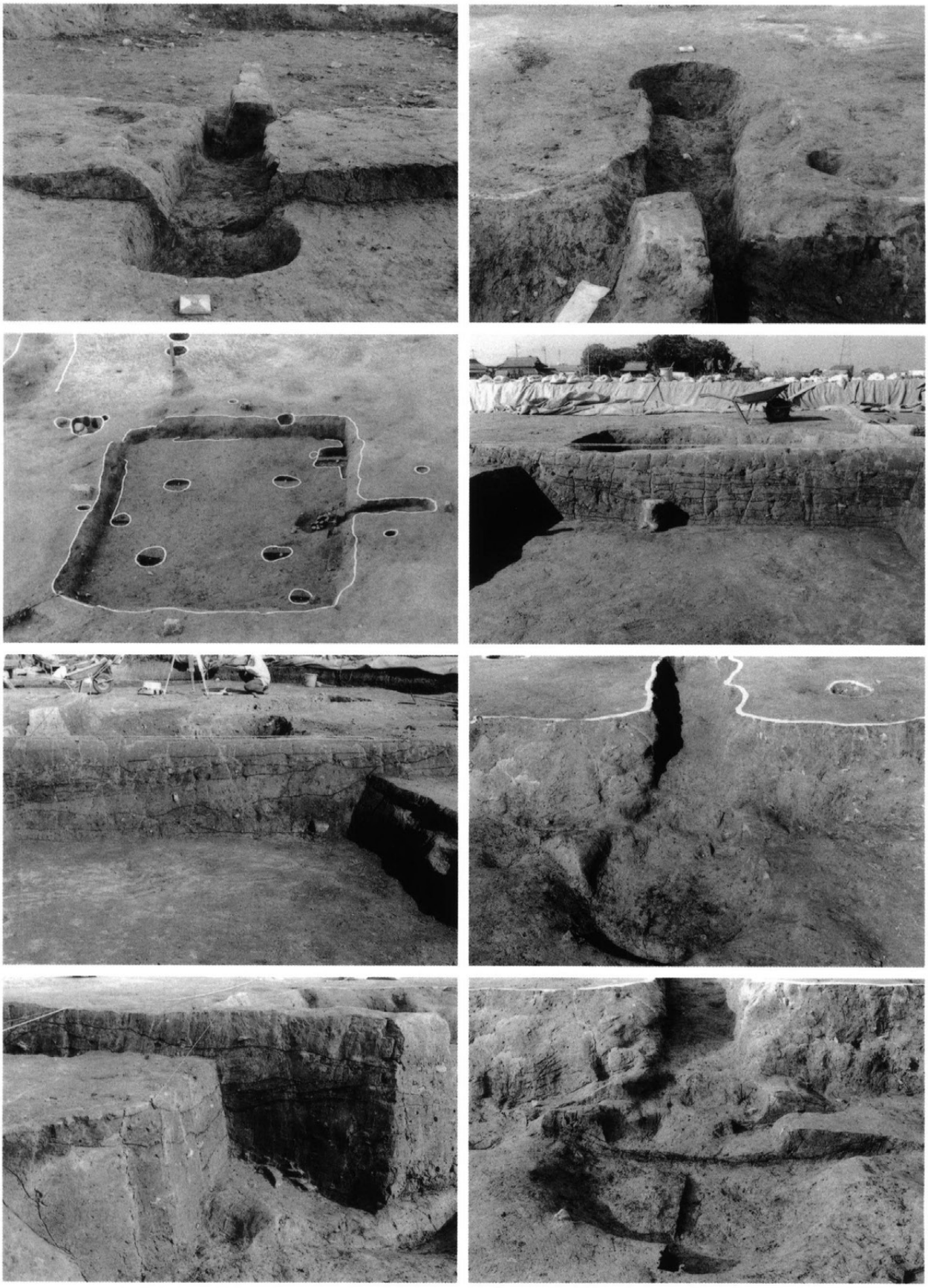
SH06



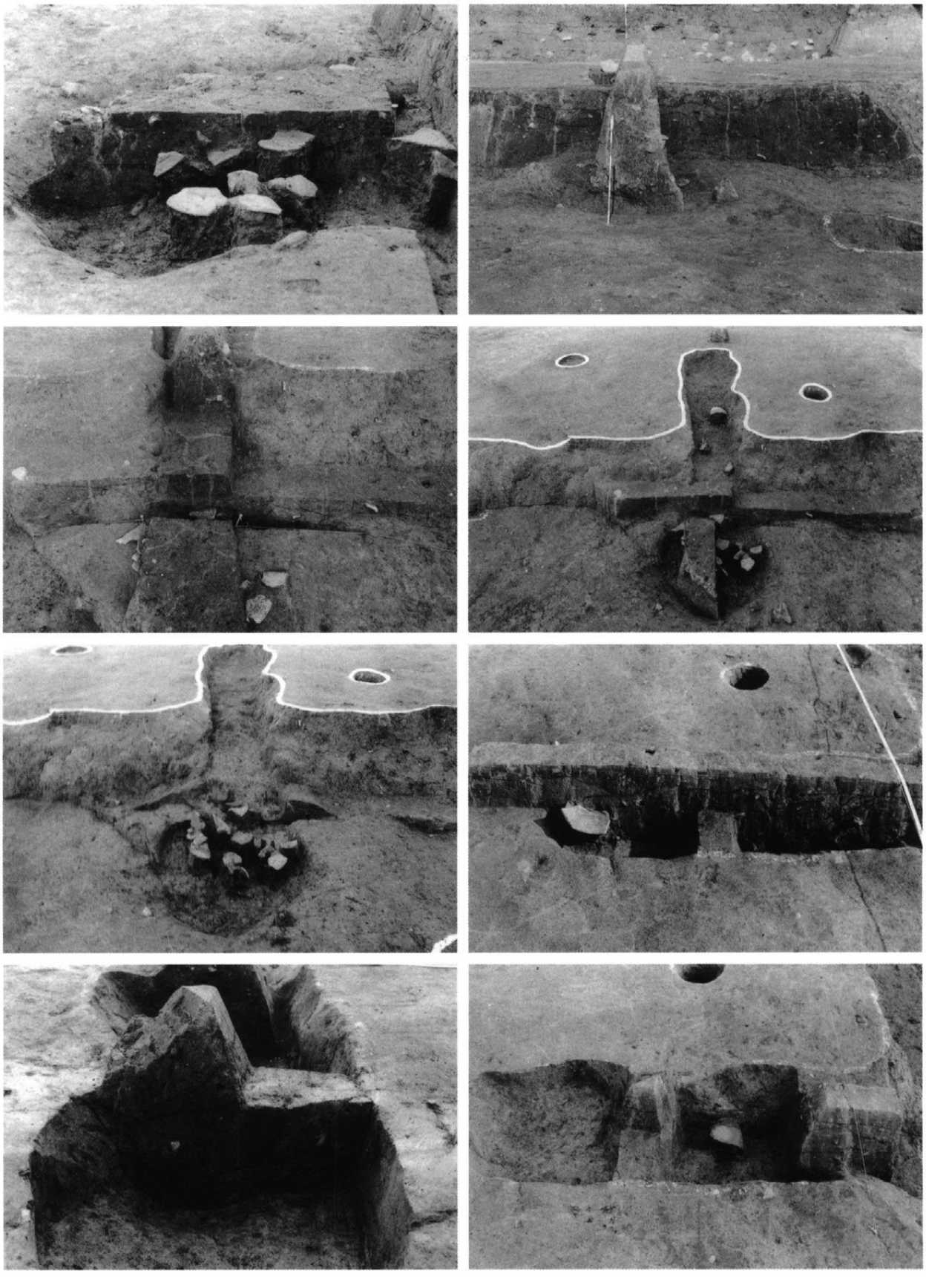
上,中上・下：SH06　下：SH07



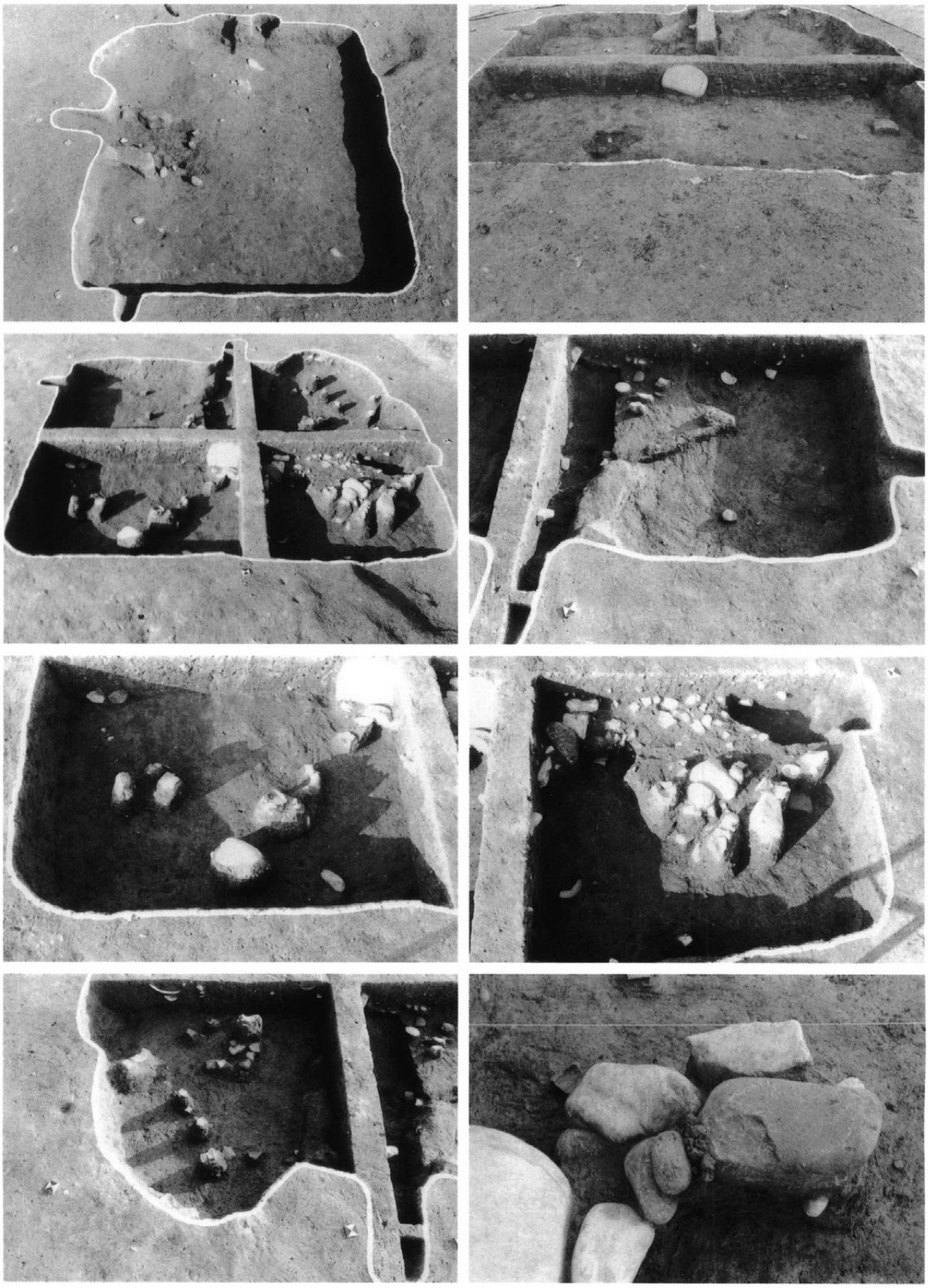
SH07



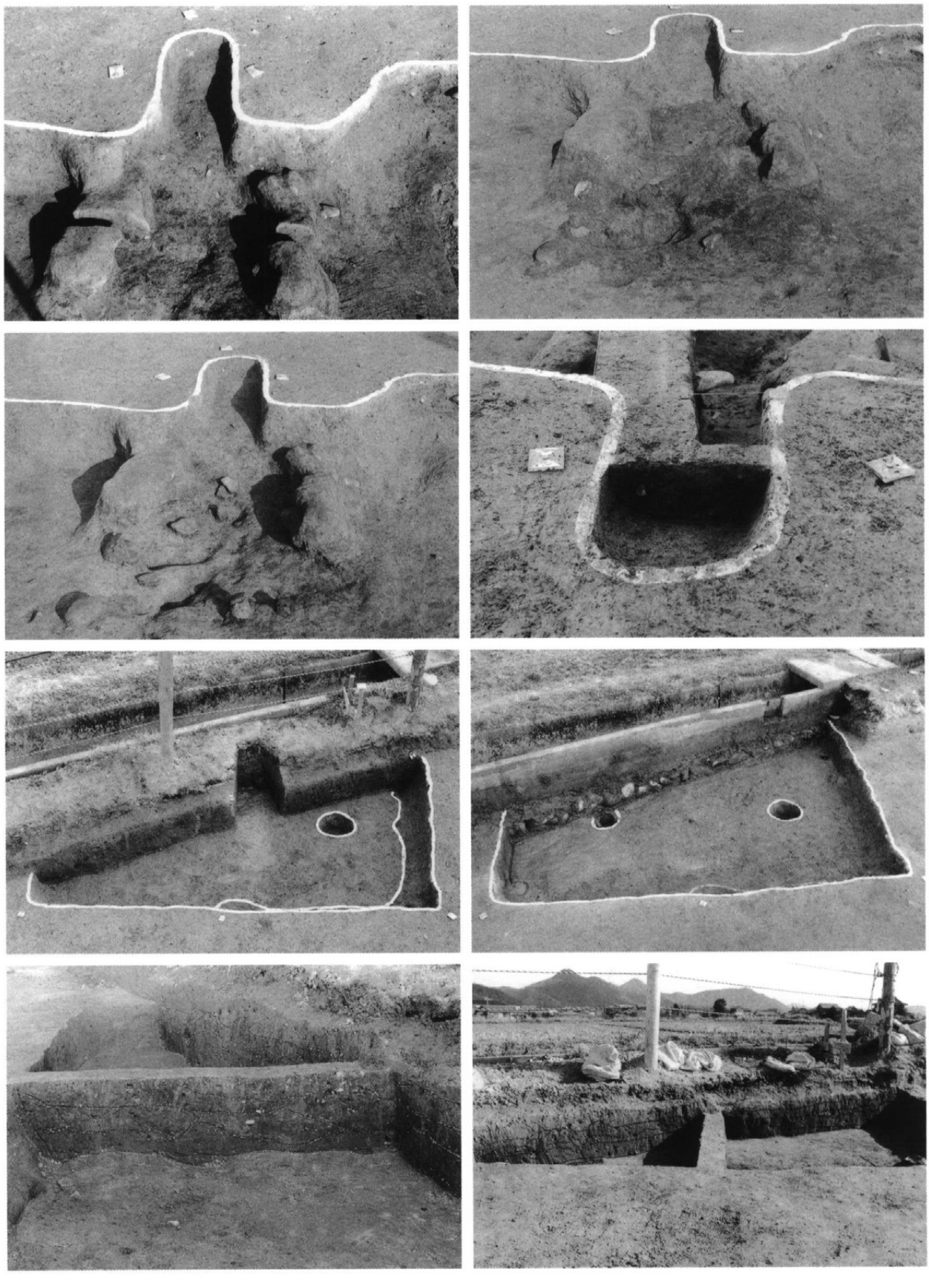
上：SH07　中上・下,下：SH08



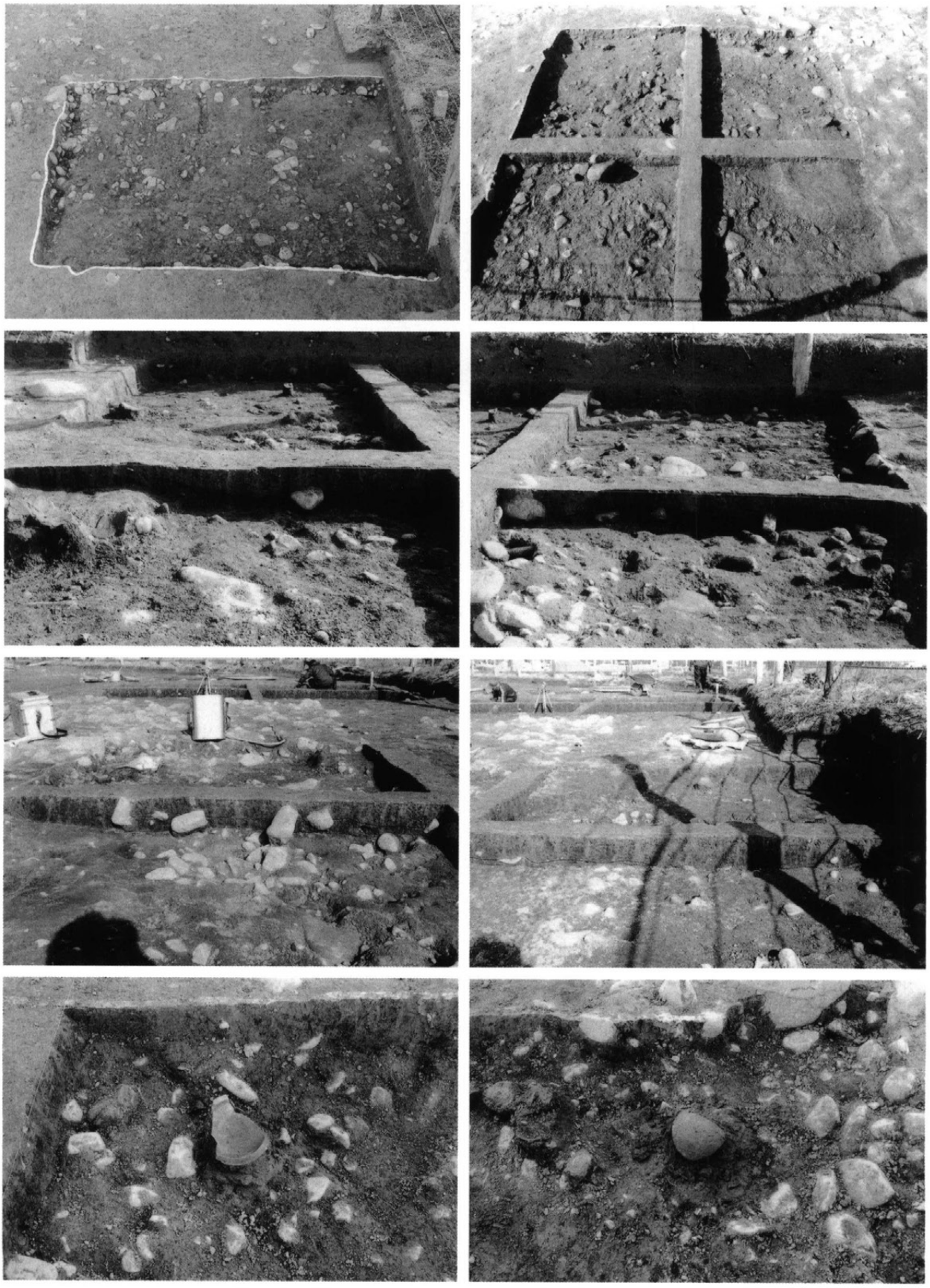
SH08



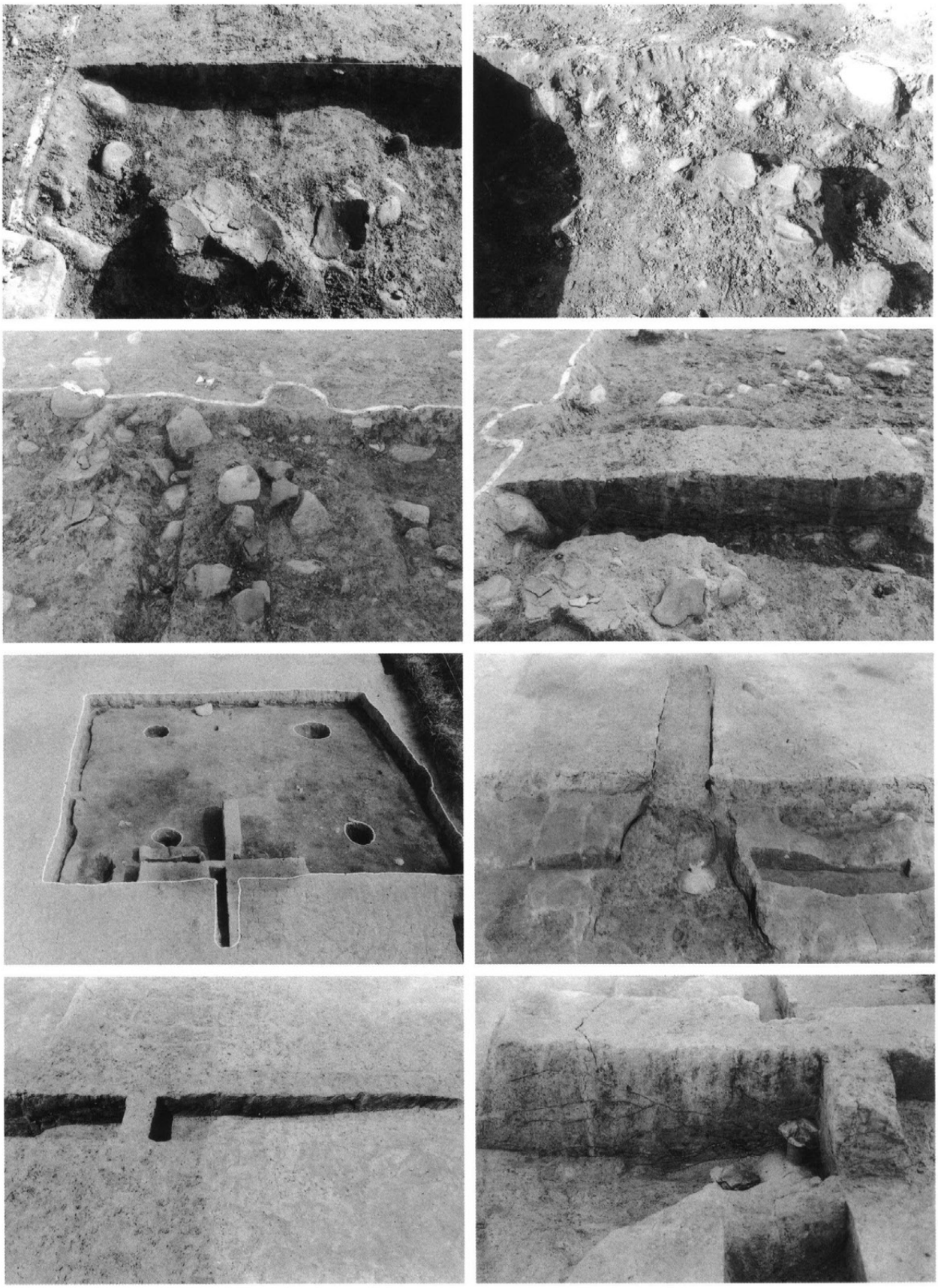
SH09



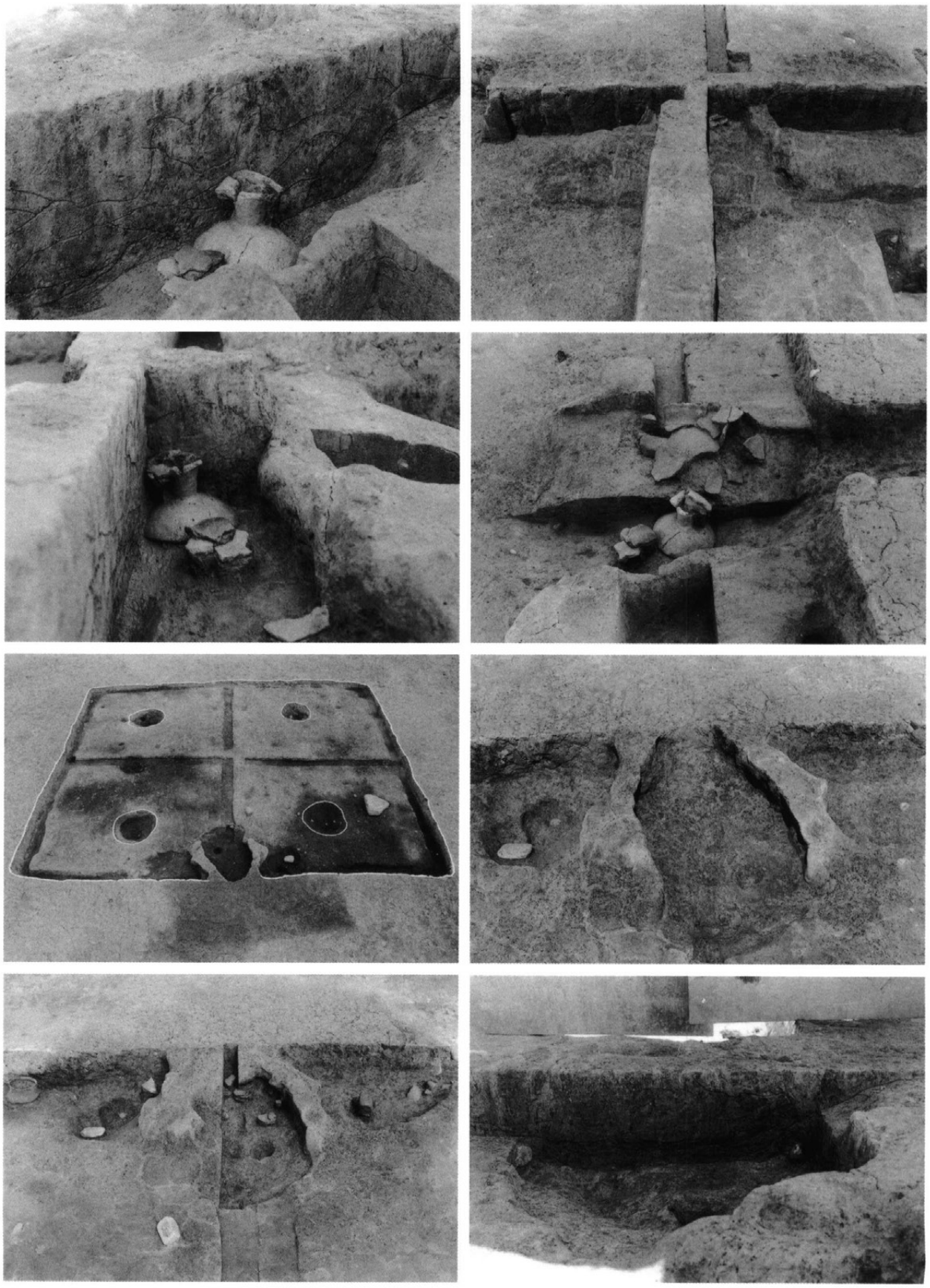
上,中上：SH09　中下,下：SH10



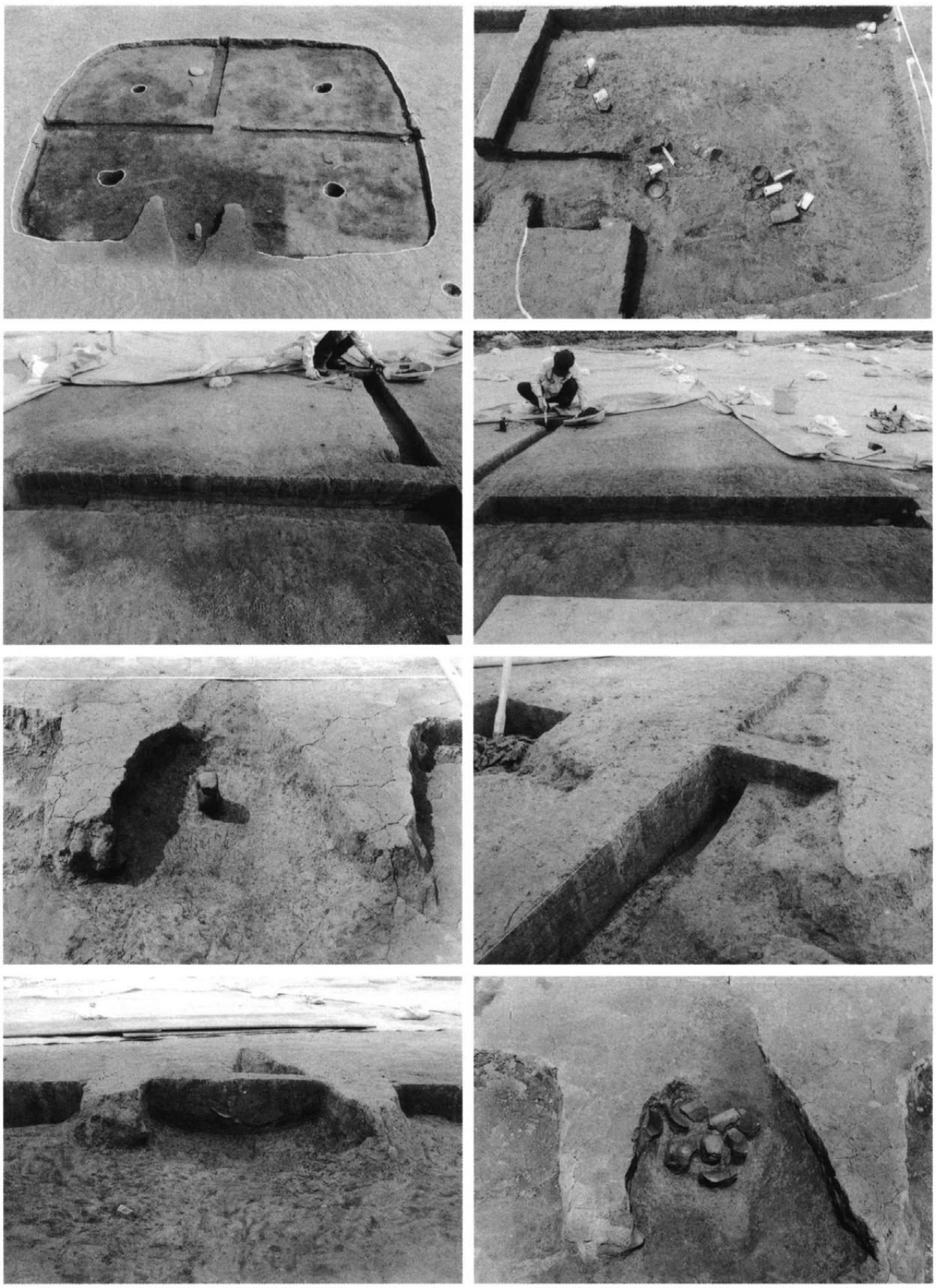
SH11



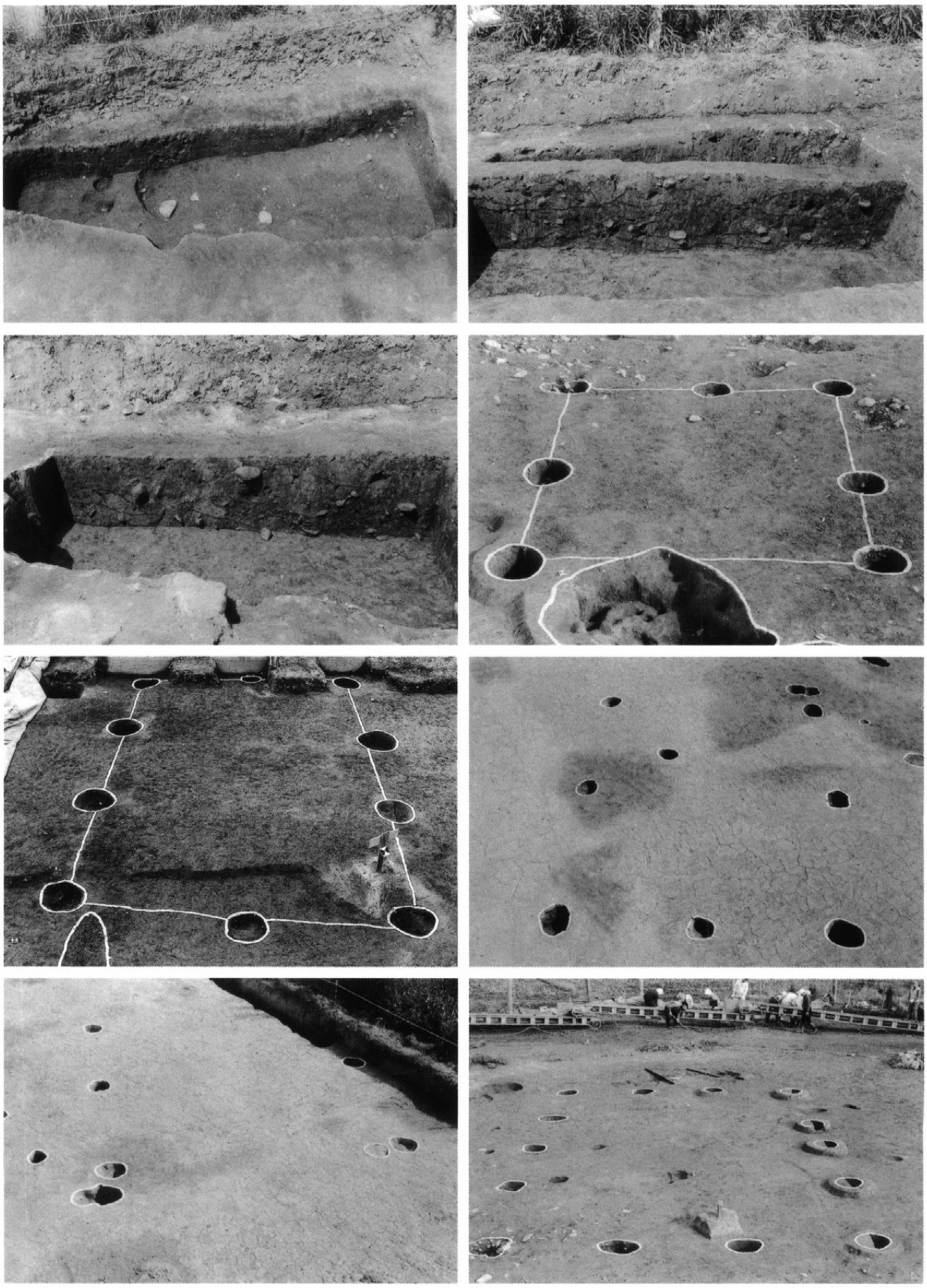
上,中上：SH11　中下,下：SH12



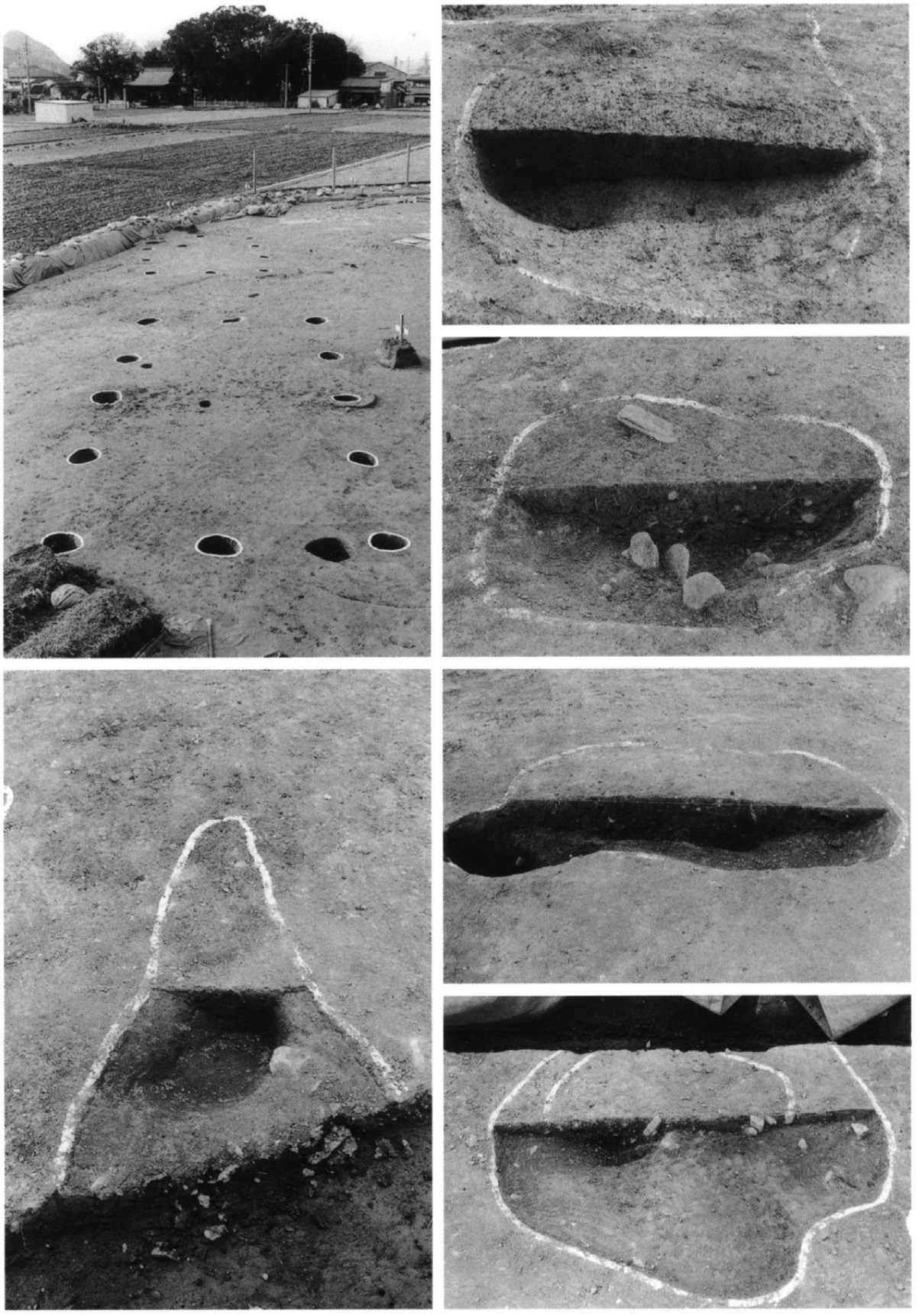
上,中上：SH12　中下,下：SH13



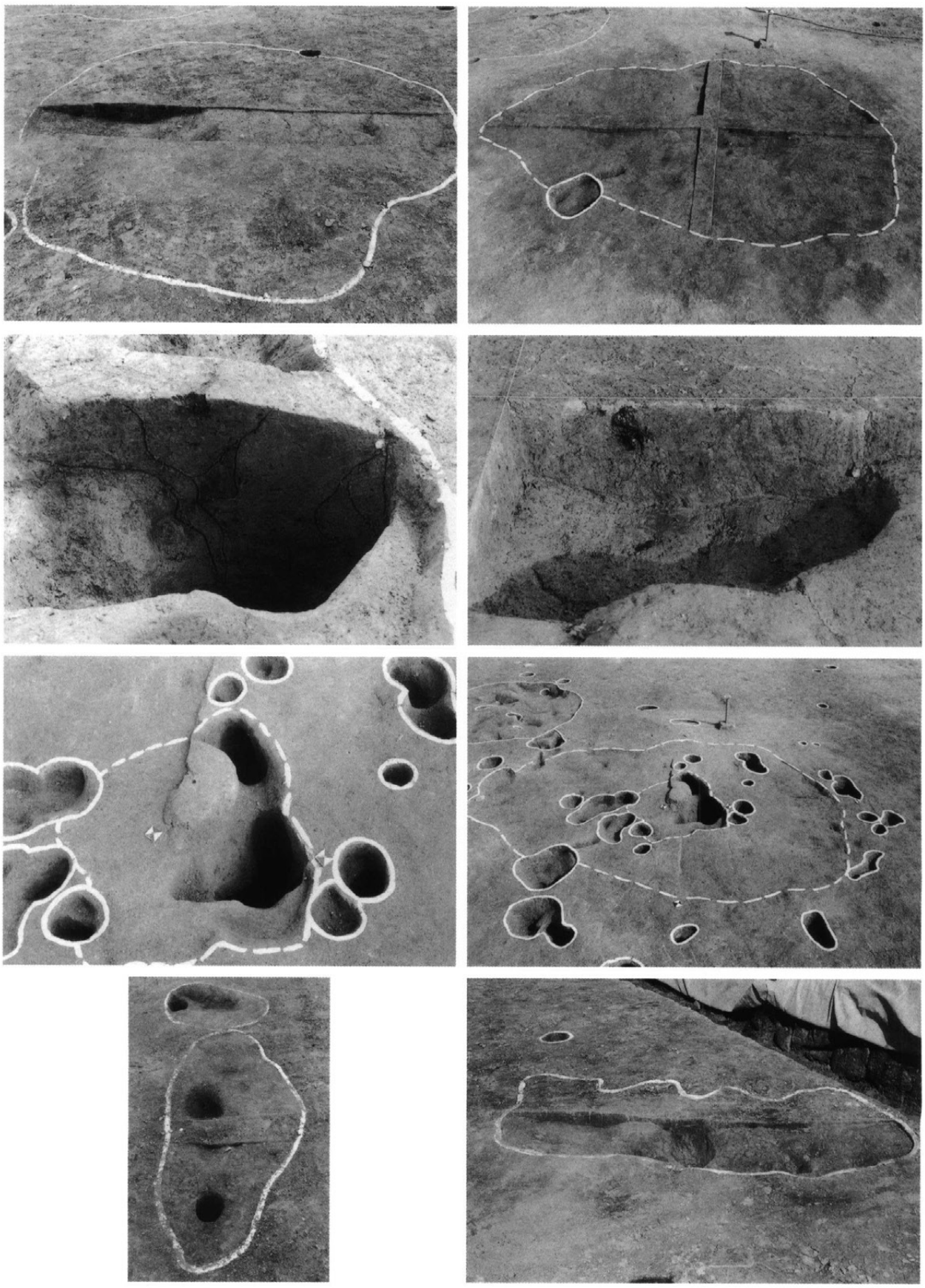
SH14



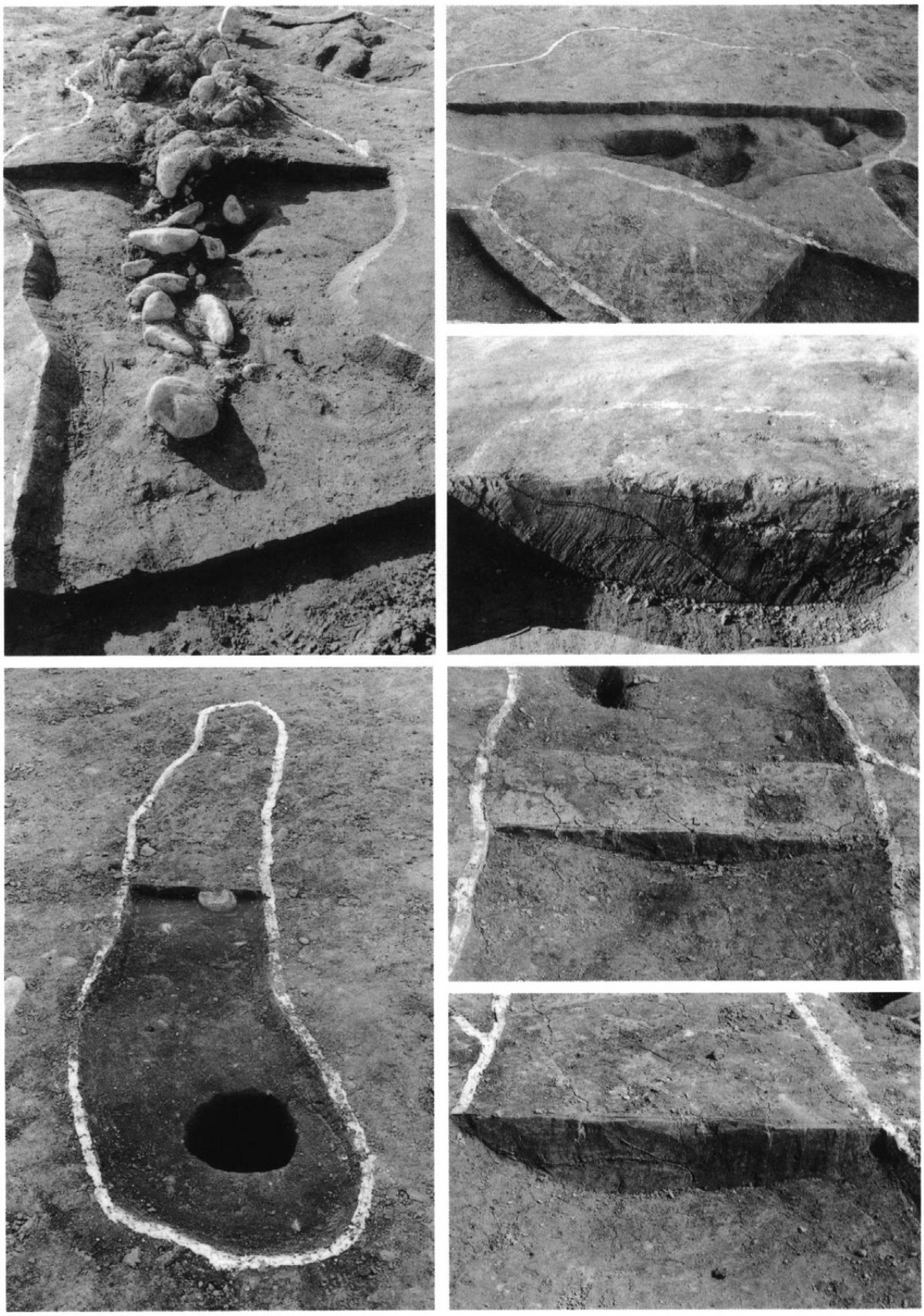
上,中上左：SH15　中上右：SB01　中下左：SB02　中下右：SB04　下左：SB06　下右：SB09



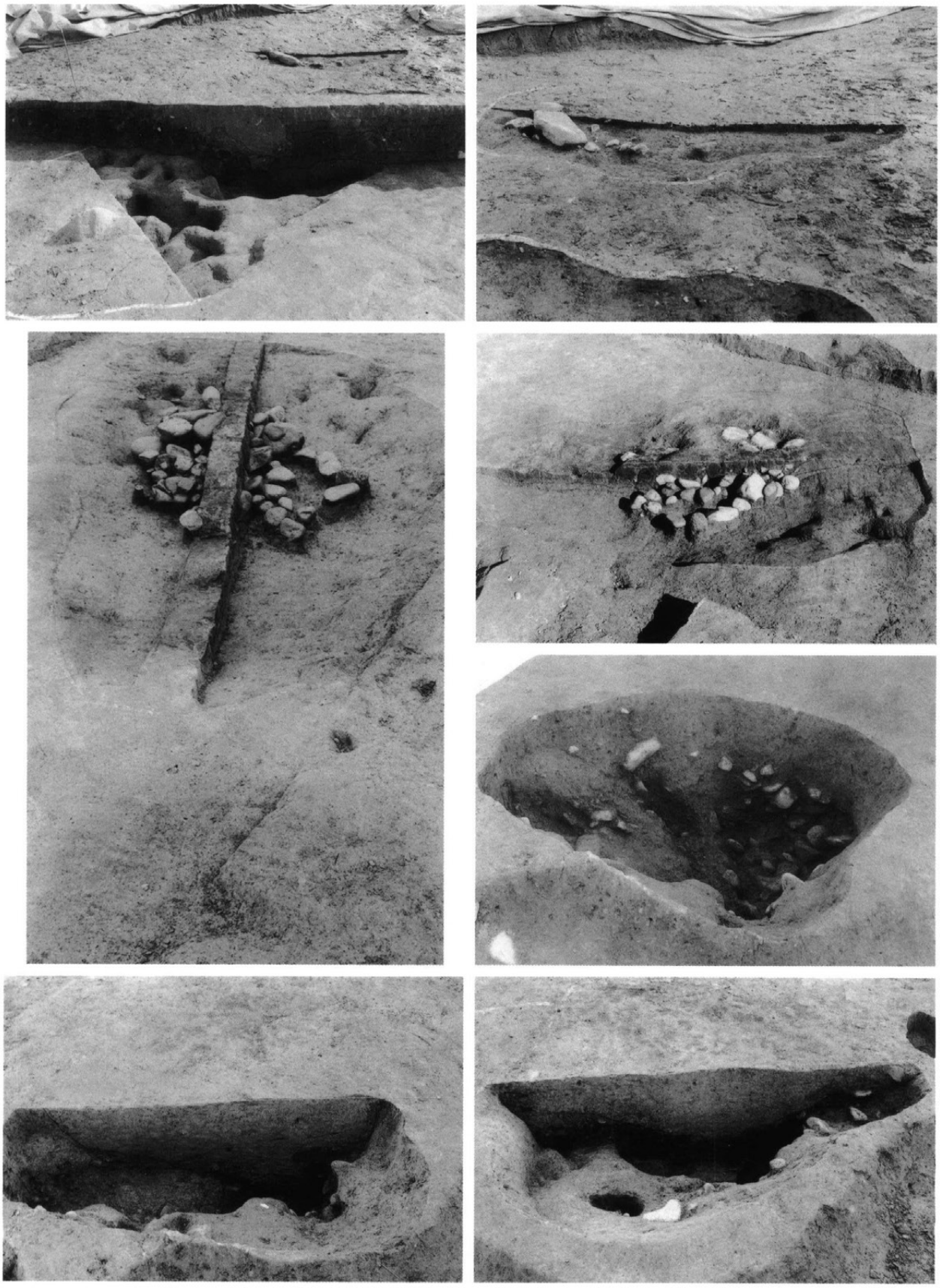
上左：SB07・08　上右：SK01　中上右：SK04　下左：SK06　中下右：SK07　下右：SK08



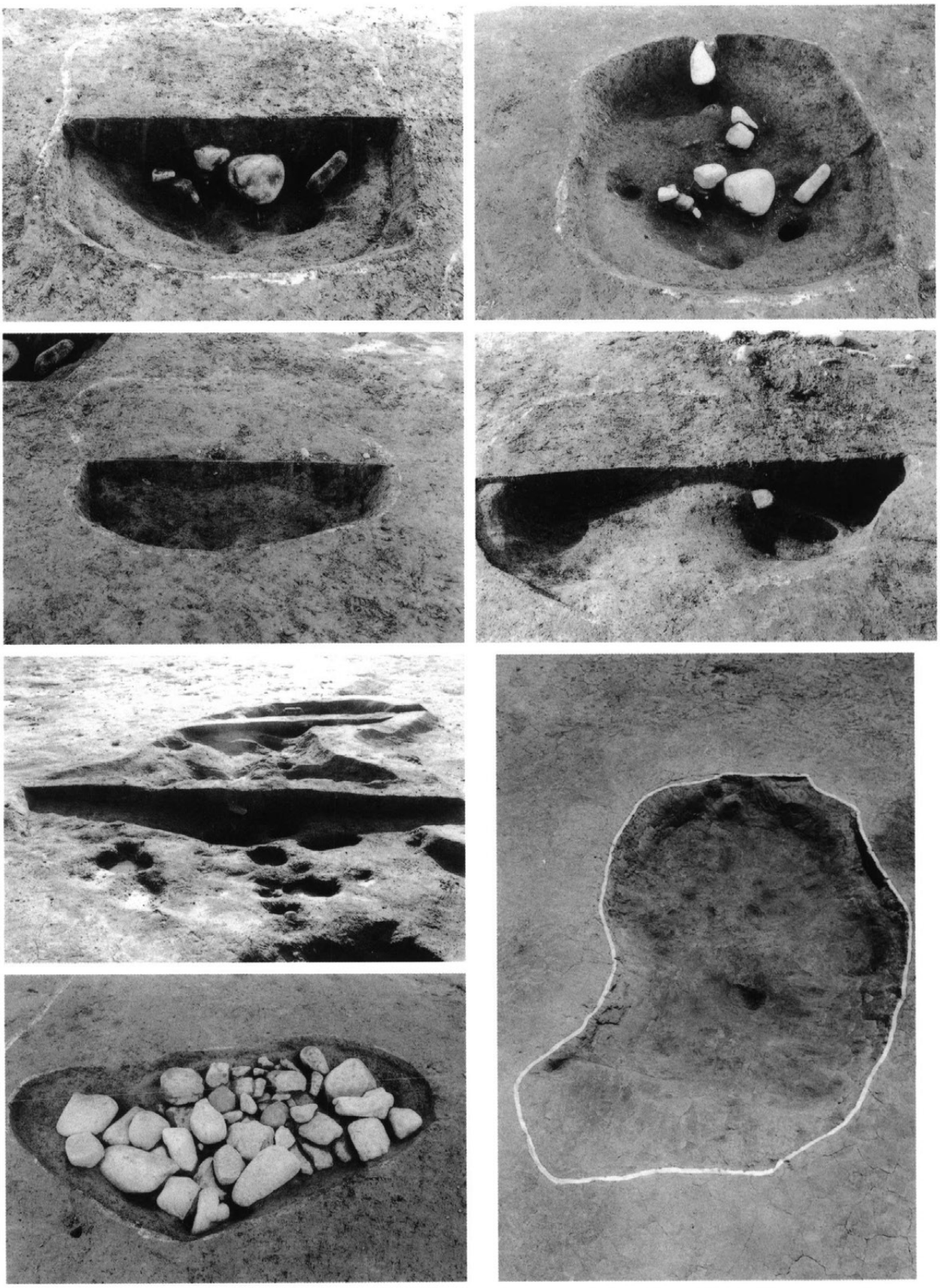
上左：SK11　上右,中上・下：SK12　下左：SK13　下右：SK14



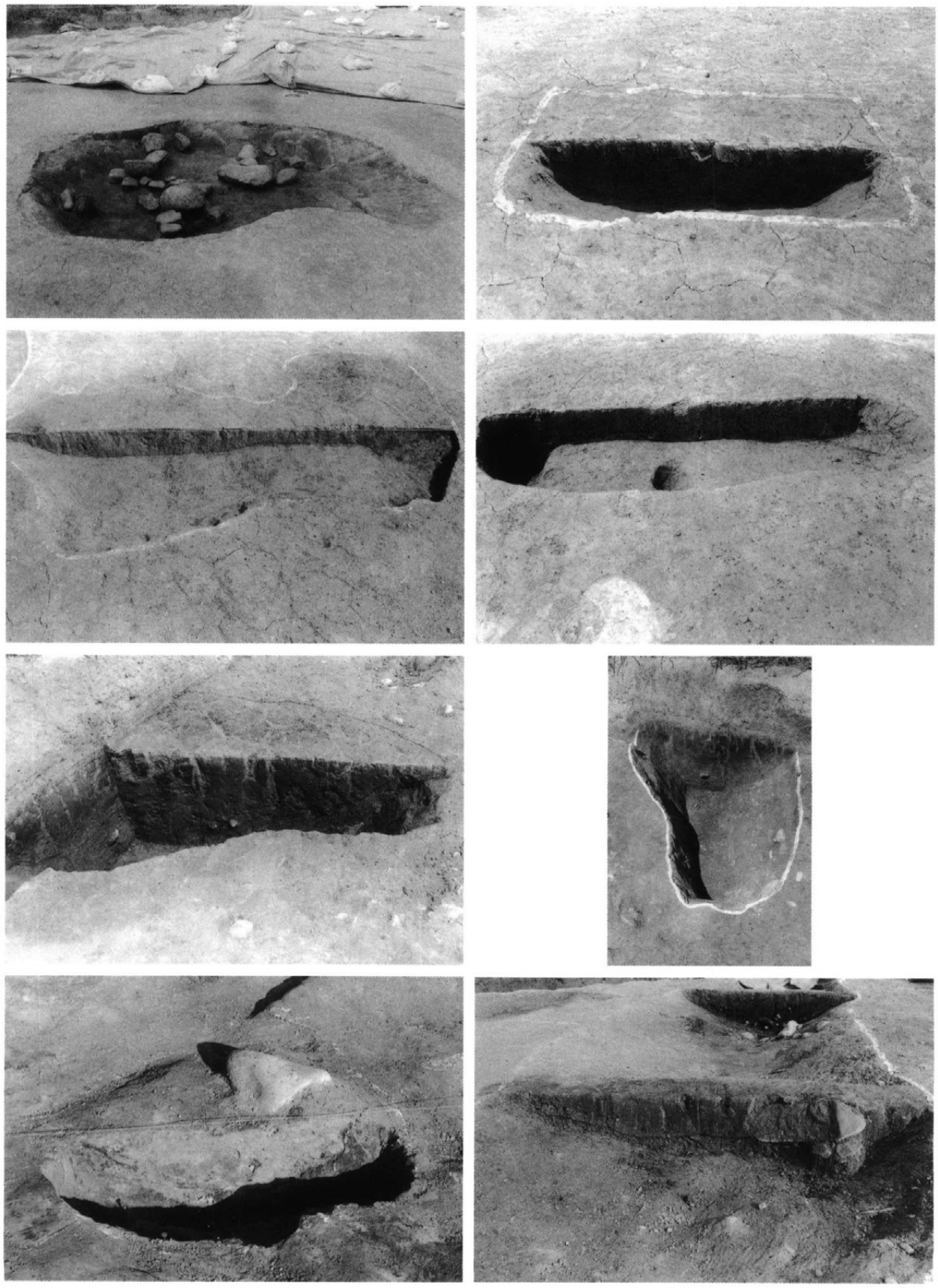
上左：SK15　上右：SK16　下左：SK17　中上右：SK23　中下右：SK27　下右：SK29



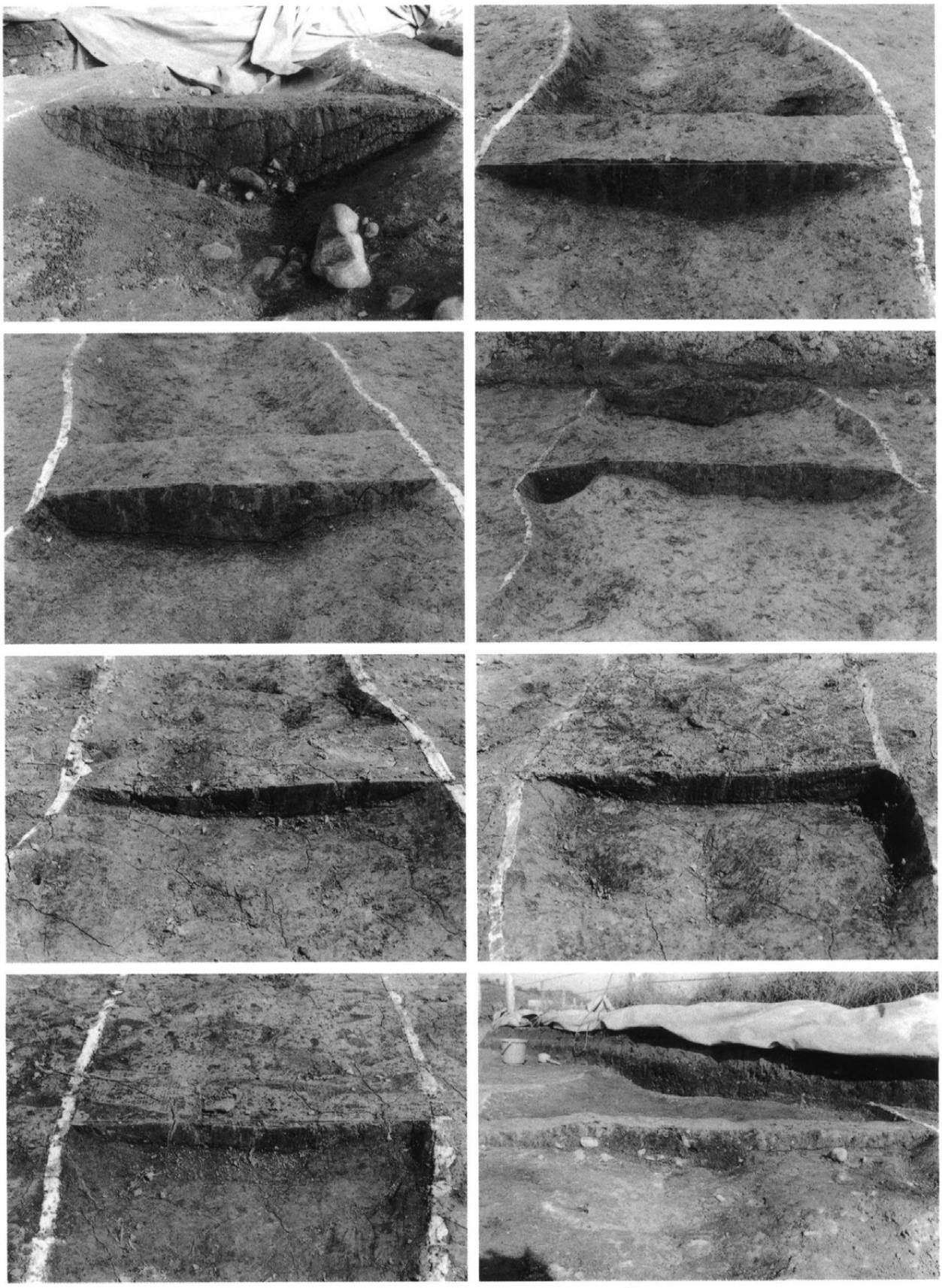
上左：SK30　上右：SK31　中左,中上右：SK32　中下右,下左：SK33　下右：SK34



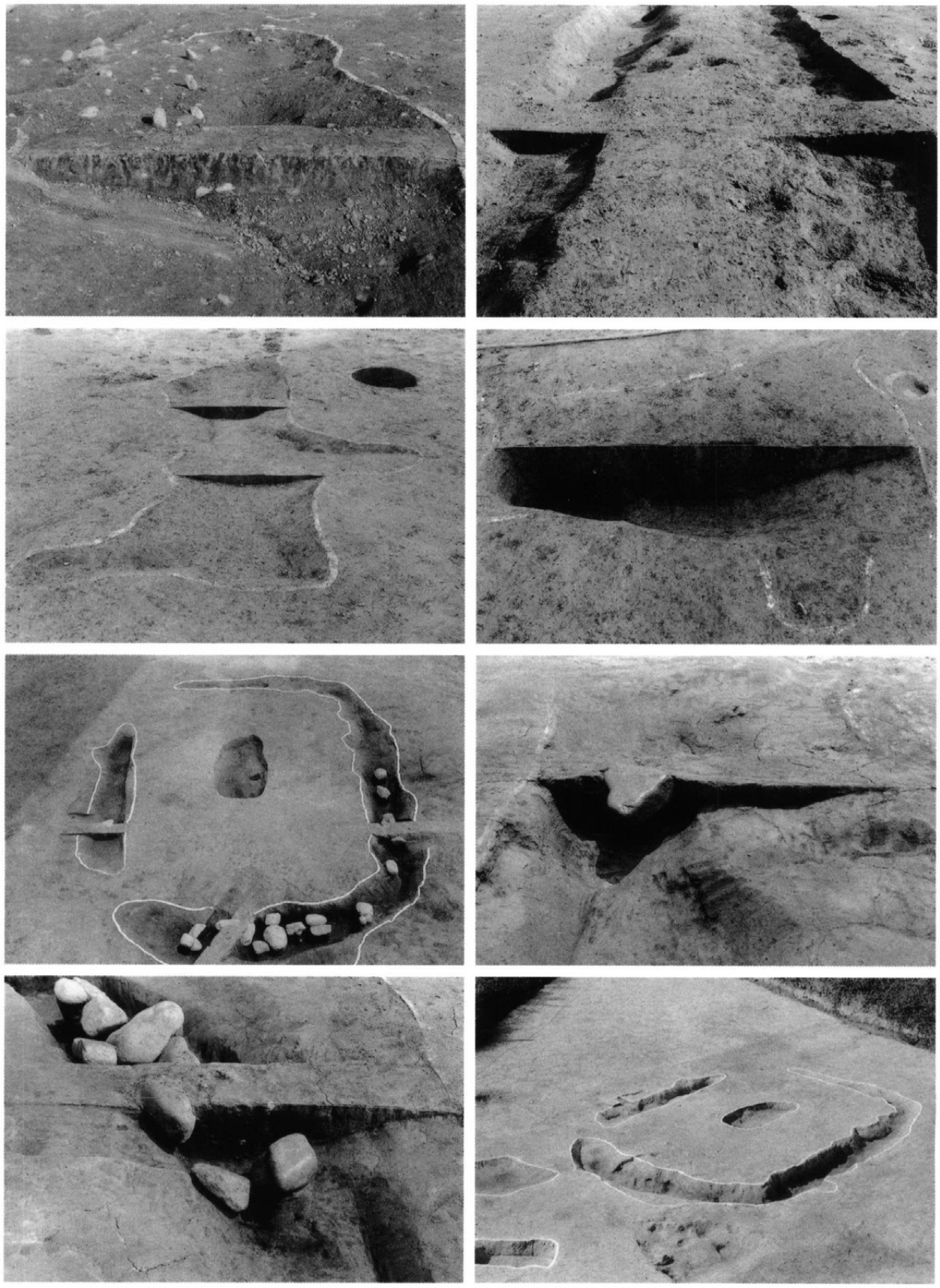
上：SK35　中上左：SK36　中上右：SK37　中下左：SK38　下左：SK40　下右：SK42



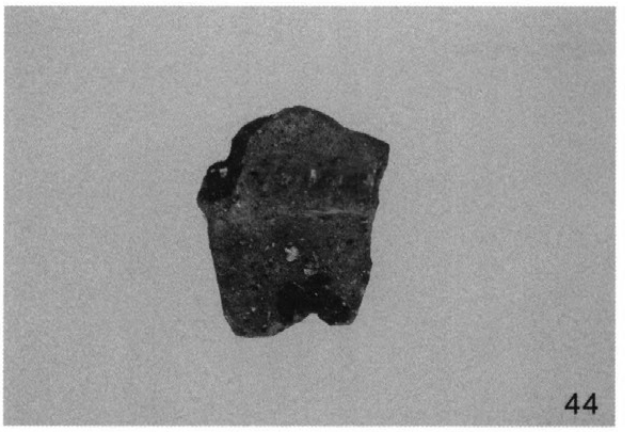
上左：SK42　上右：SK43　中上左：SK44　中上右：SK45　中下：SK46　下左：SK47　下右：SD01

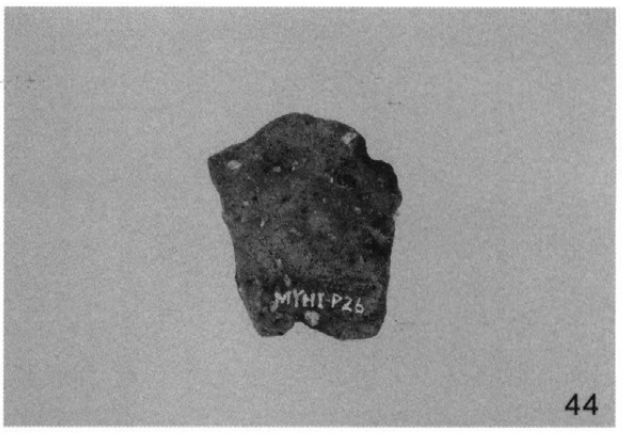


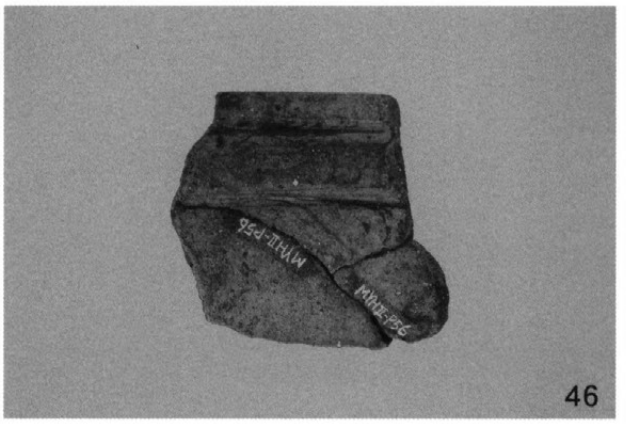
上左：SD01　上右,中上左：SD02　中上右：SD03　中下：SD04　下左：SD05　下右：SD10

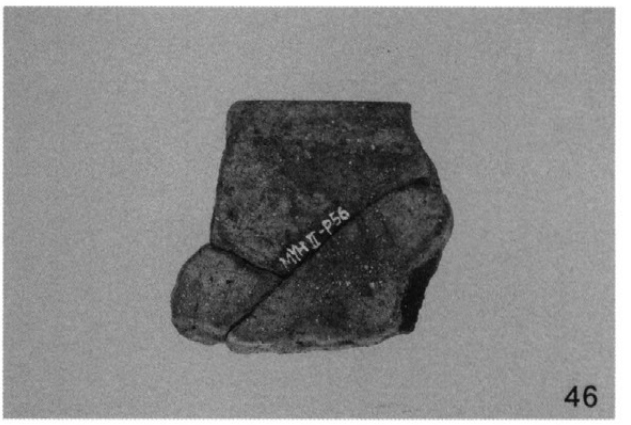


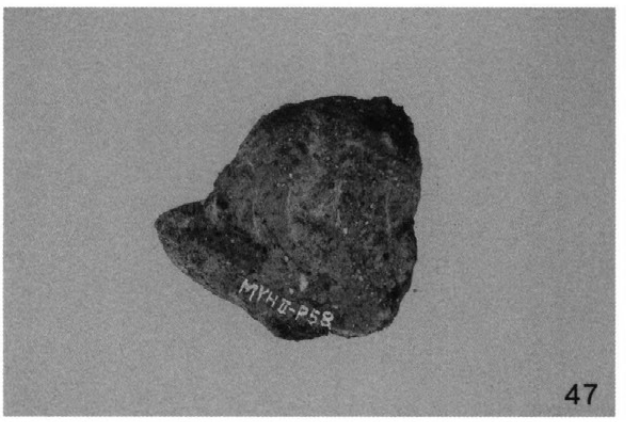
上左：SD11　上右：SD12　中上左：SX02　中上右：SX03　中下,下：SX04

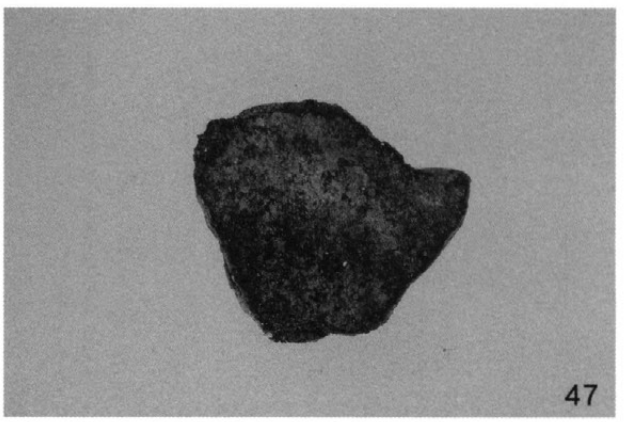


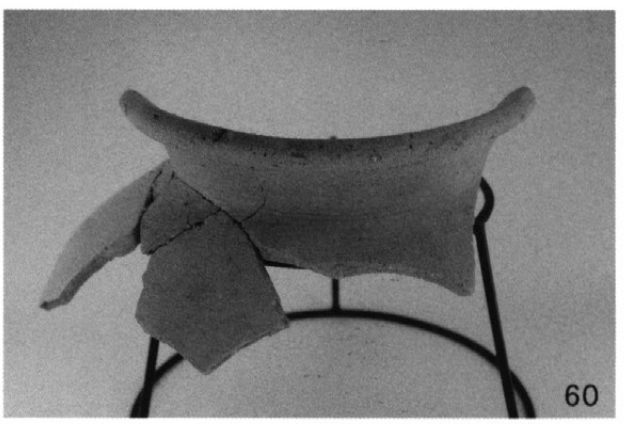




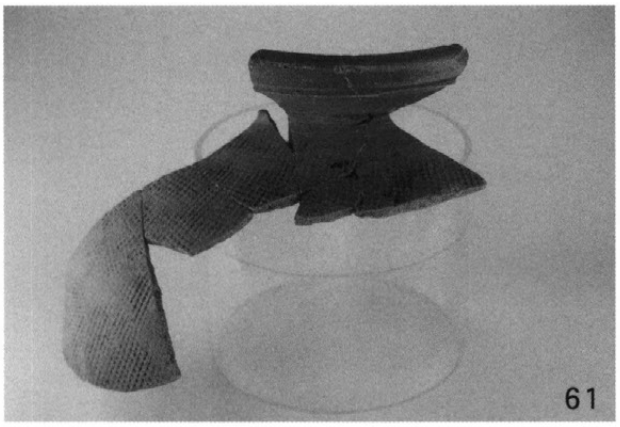


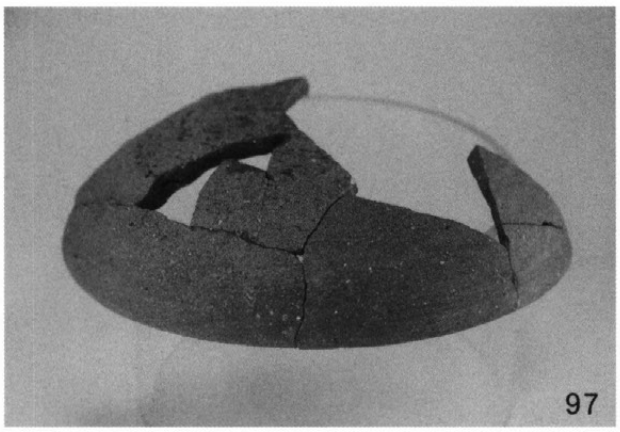


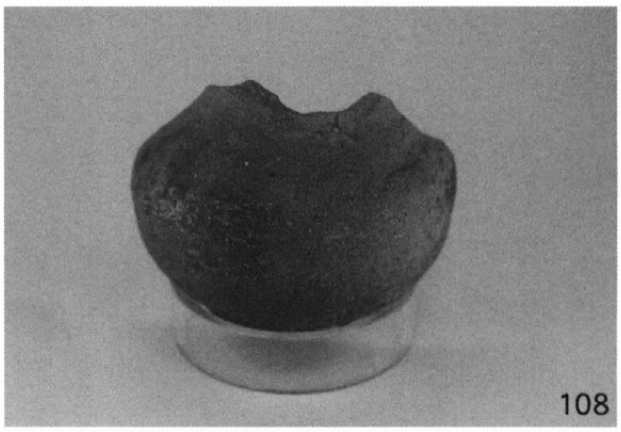


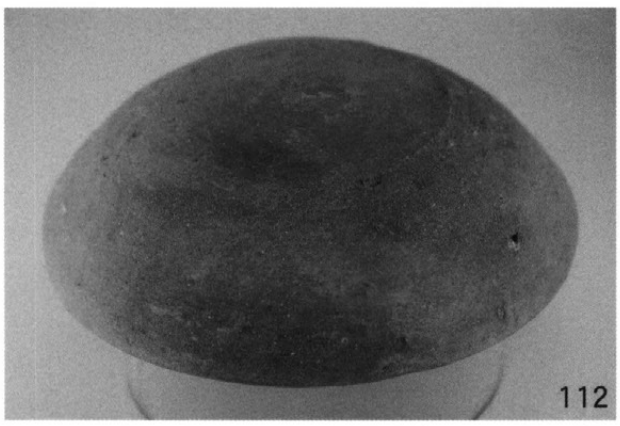


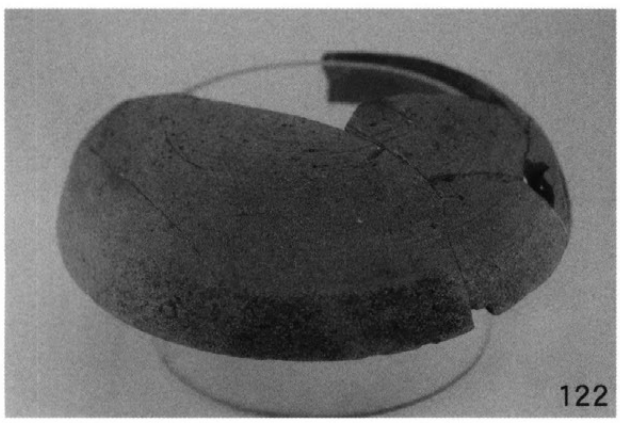
上,中上・下：縄文土器　下：須恵器 1

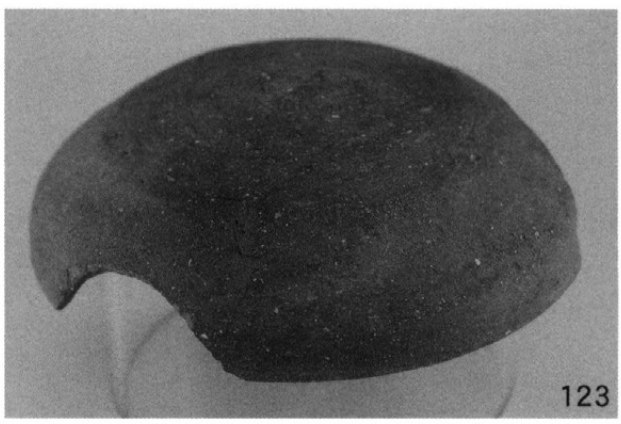




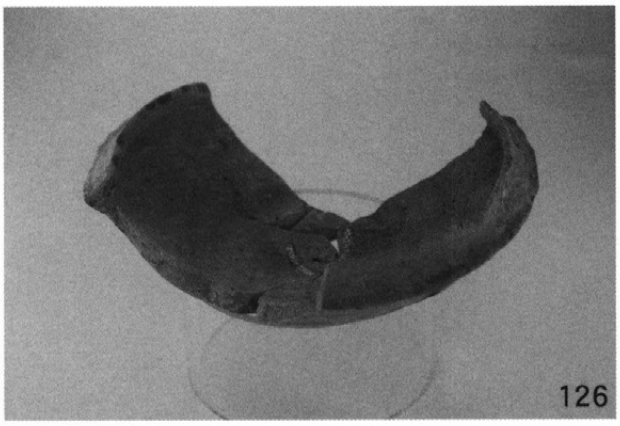


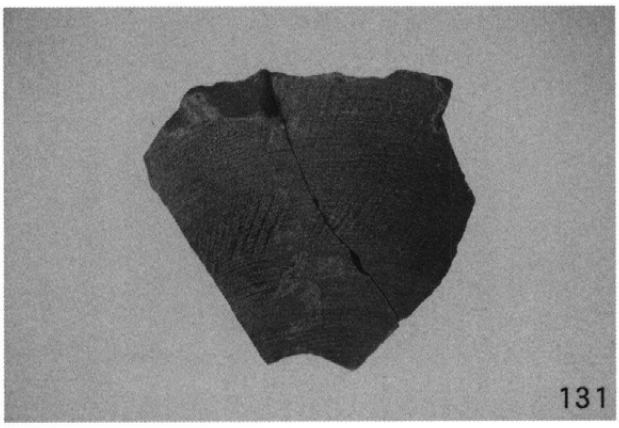


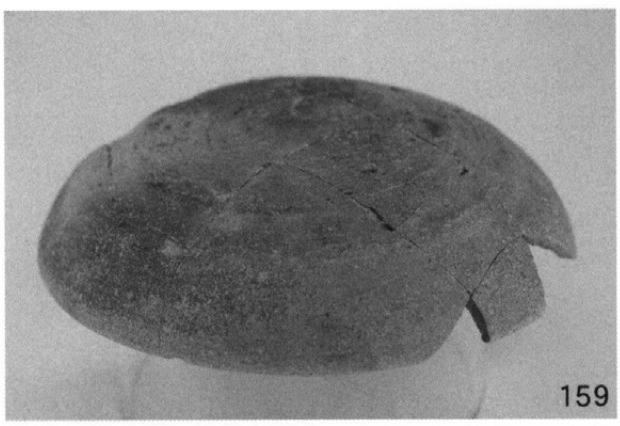


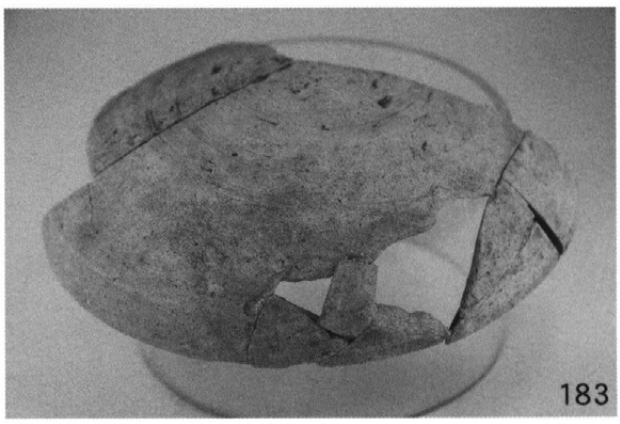


須恵器 2

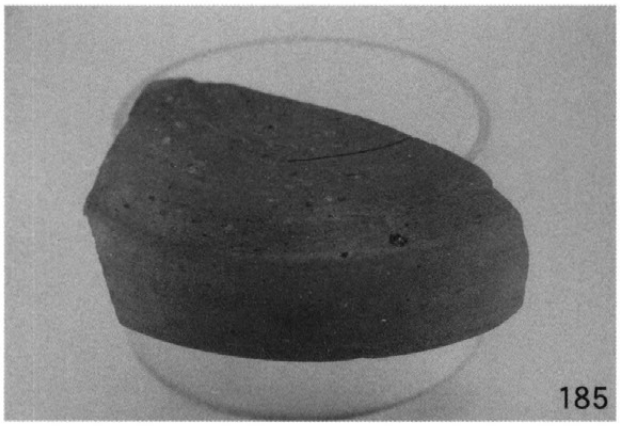


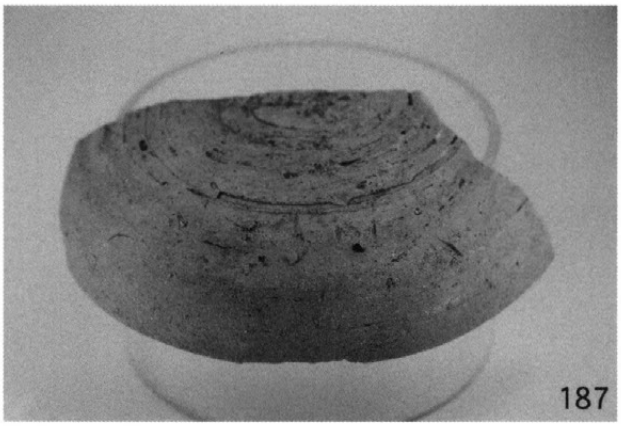


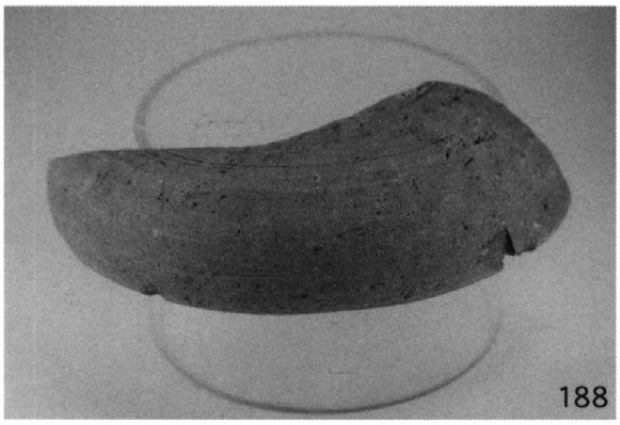


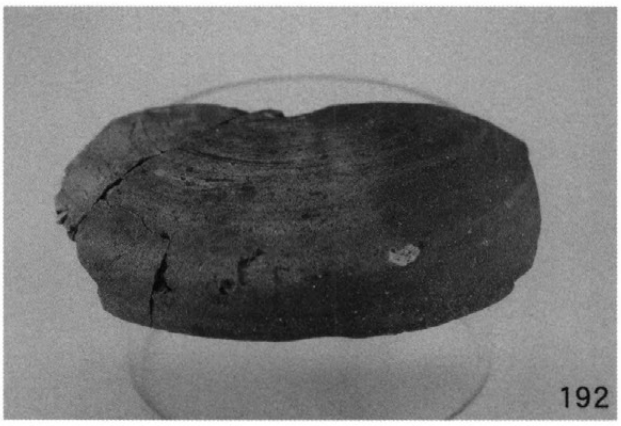


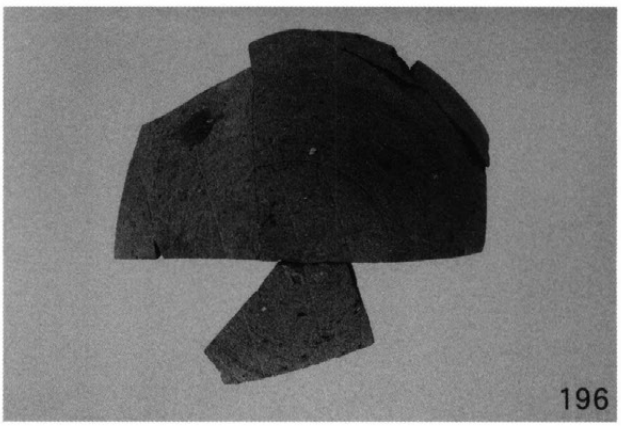
須恵器 3

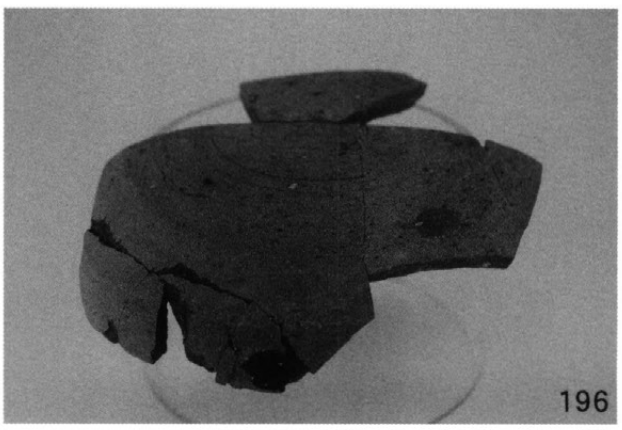




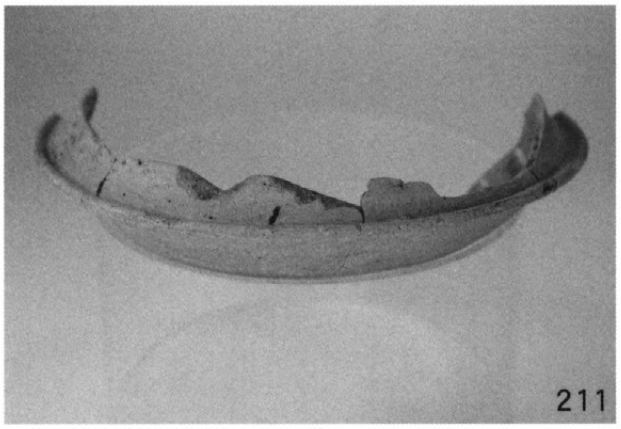


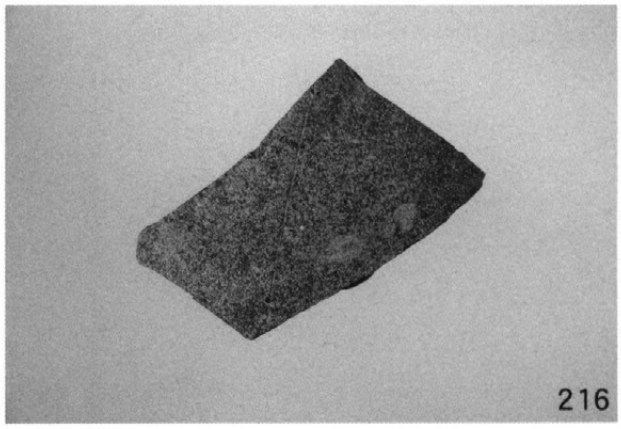


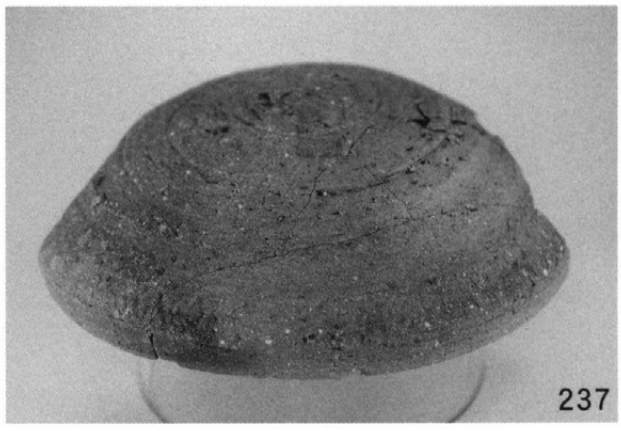


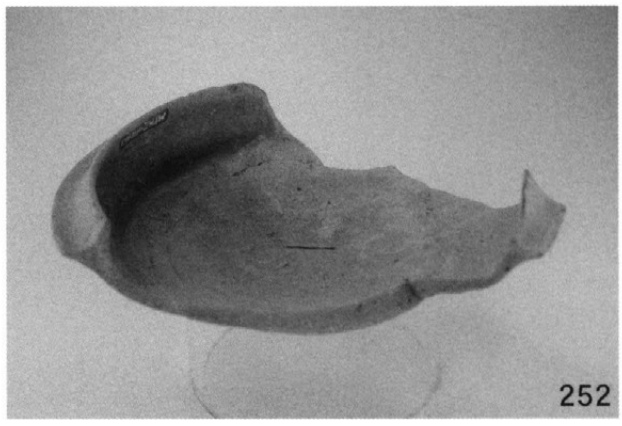


須恵器 4

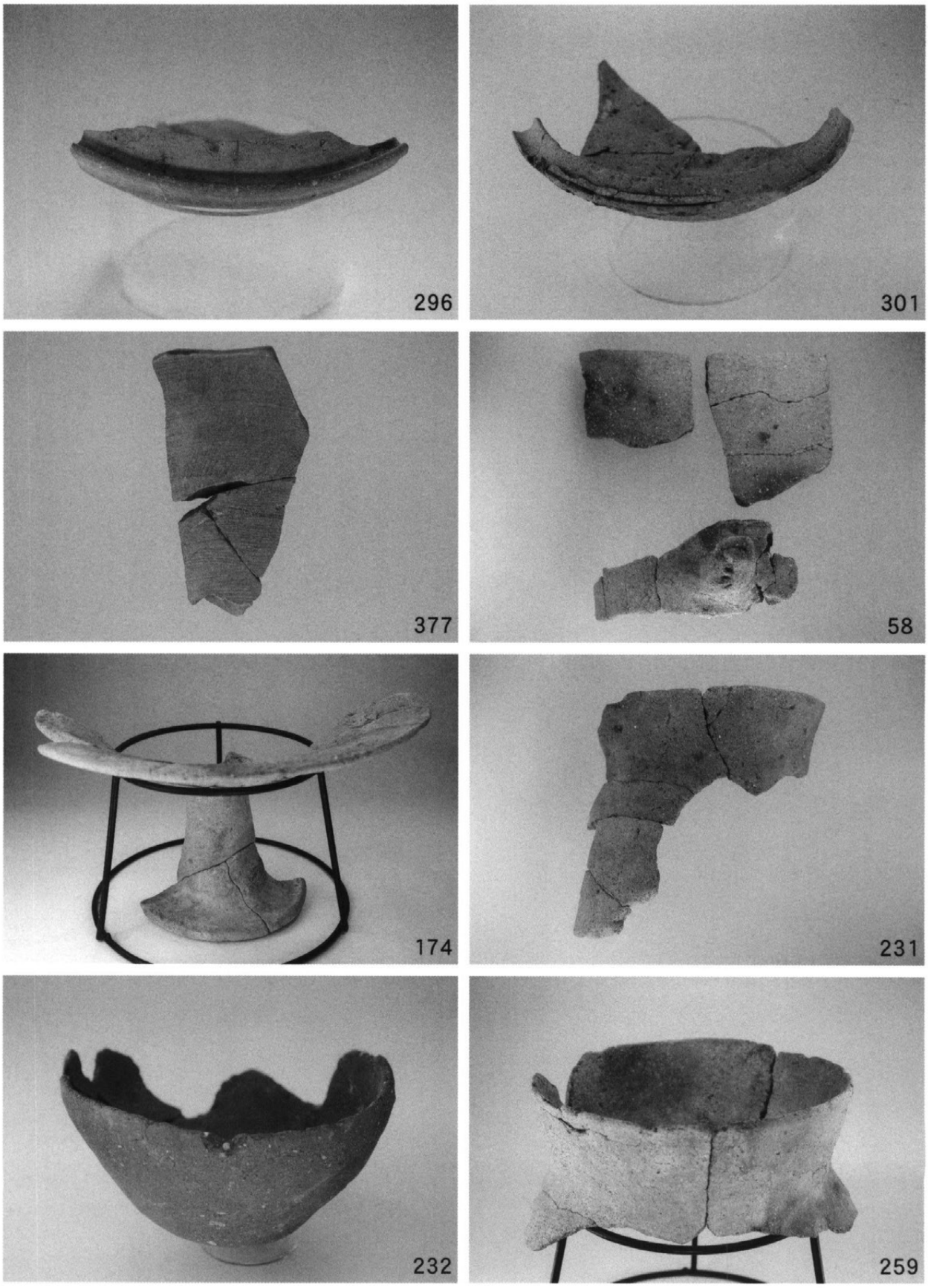




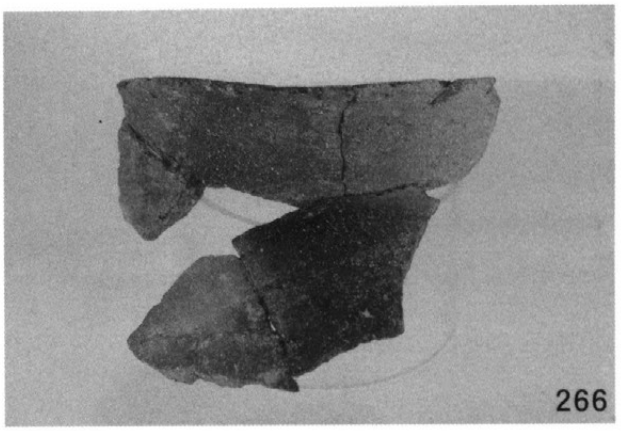


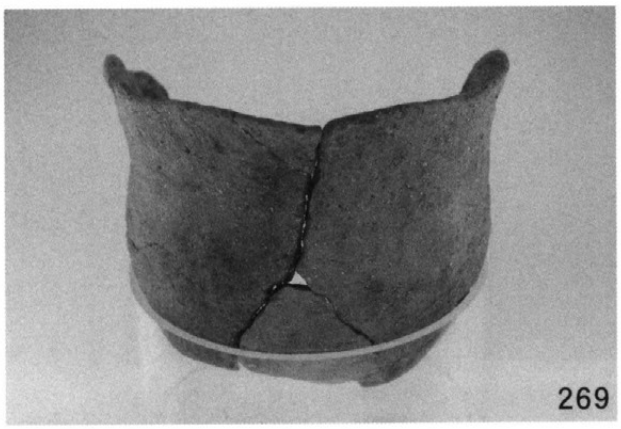


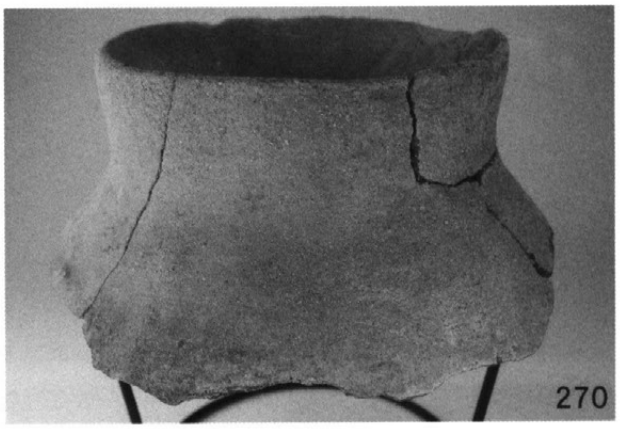
須恵器 5

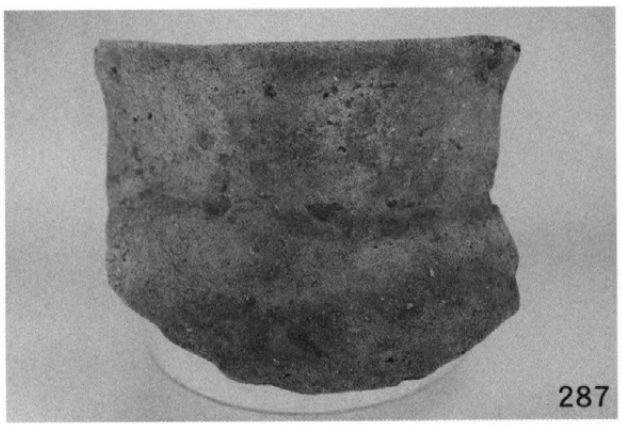


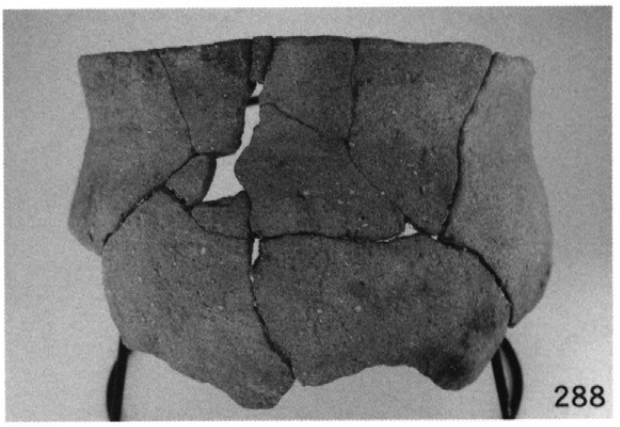
上,中上左：須恵器 6　中上右,中下,下：土師器 1

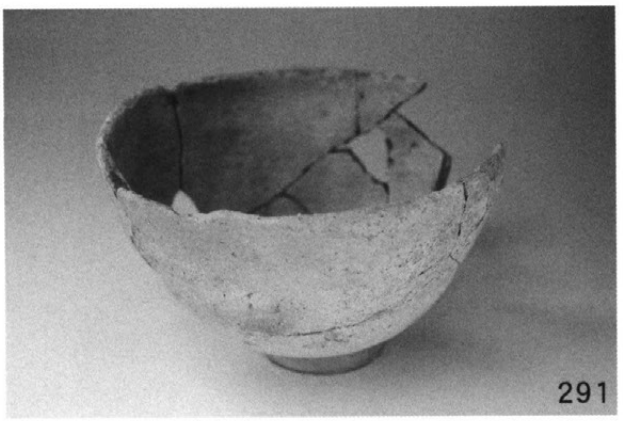


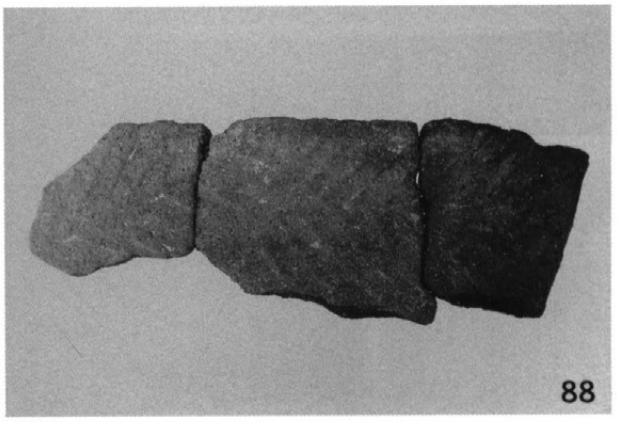




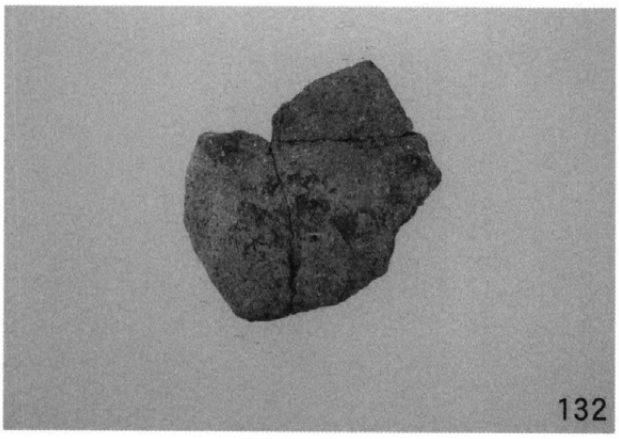


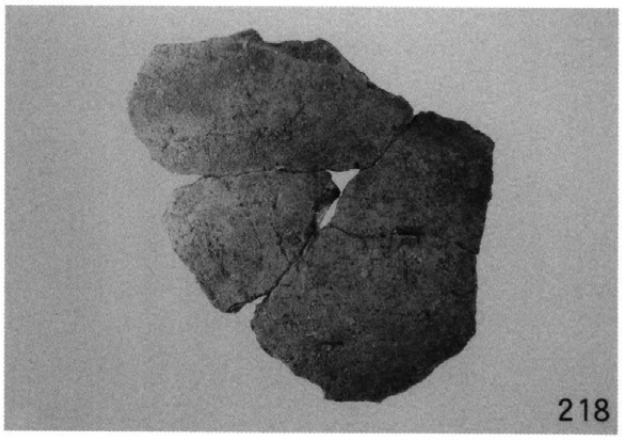


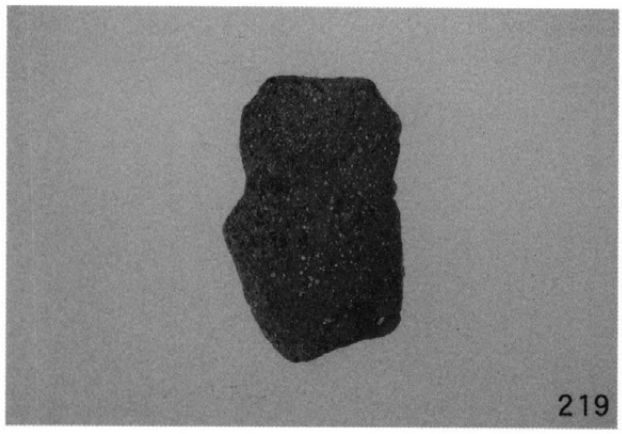


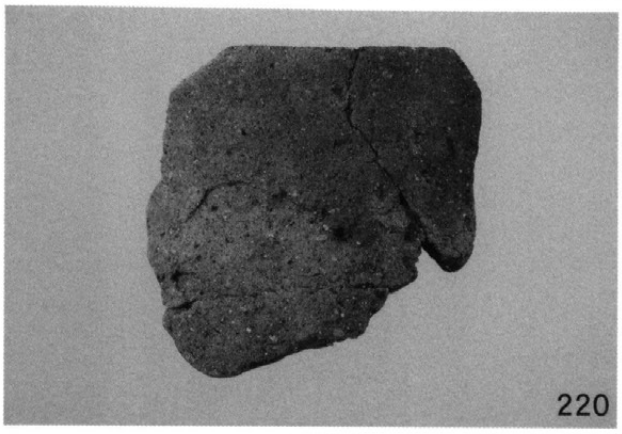


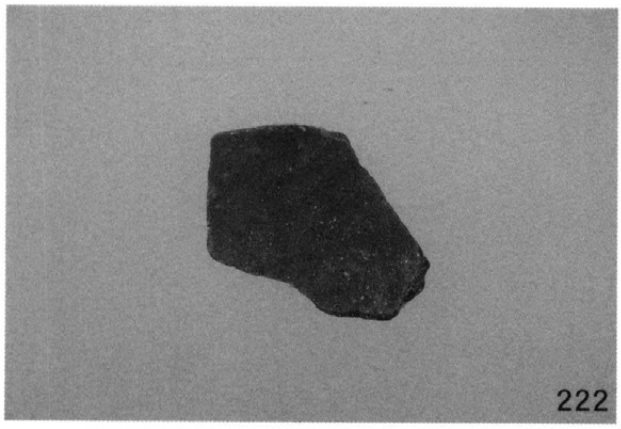
上,中上・下,下左：土師器２　下右：製塩土器１

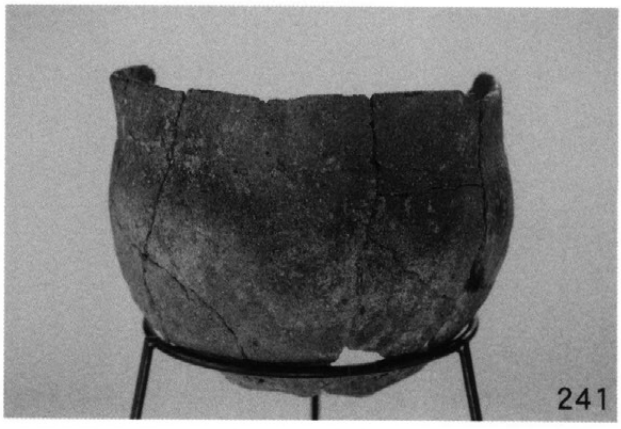


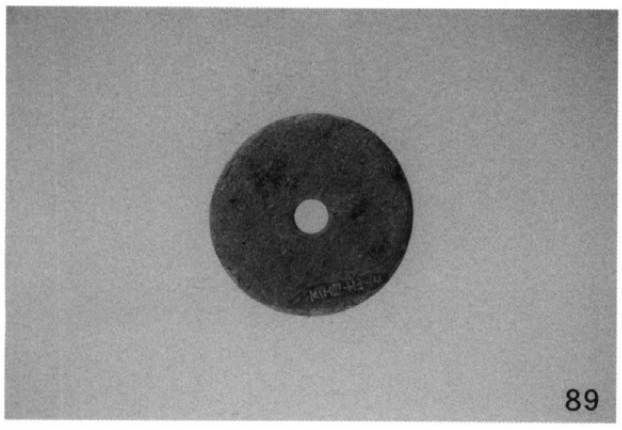


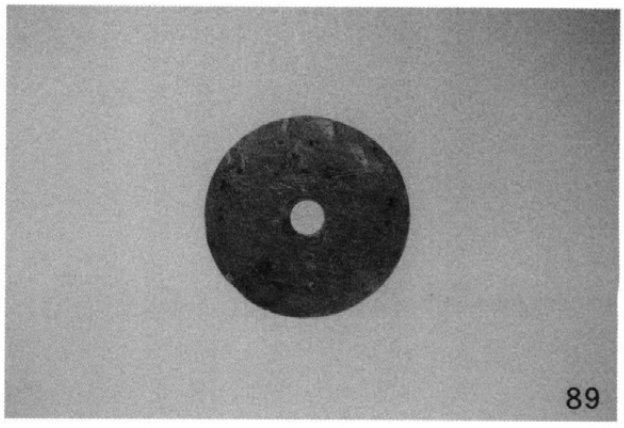




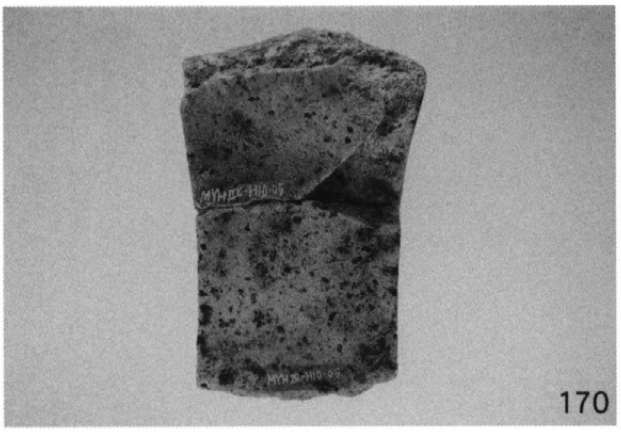


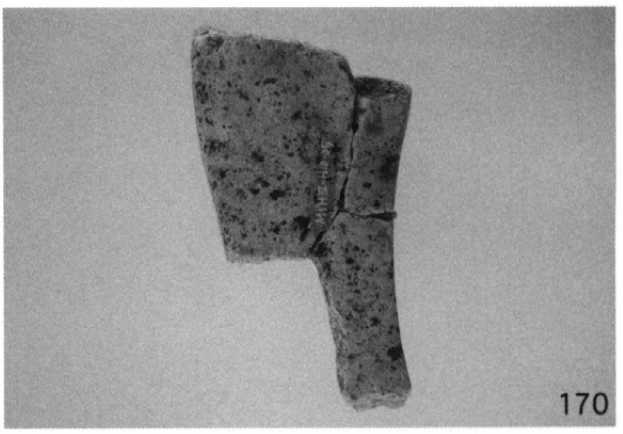


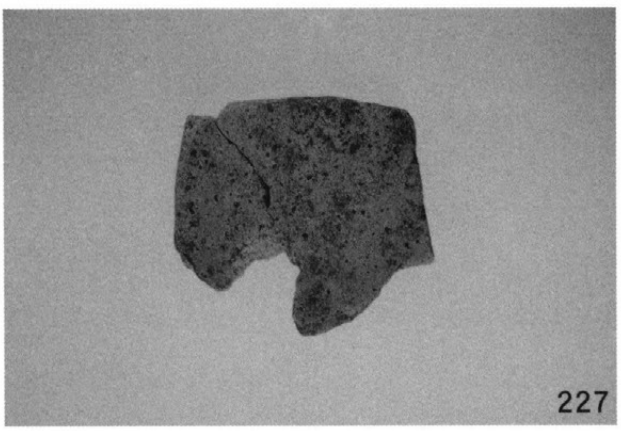


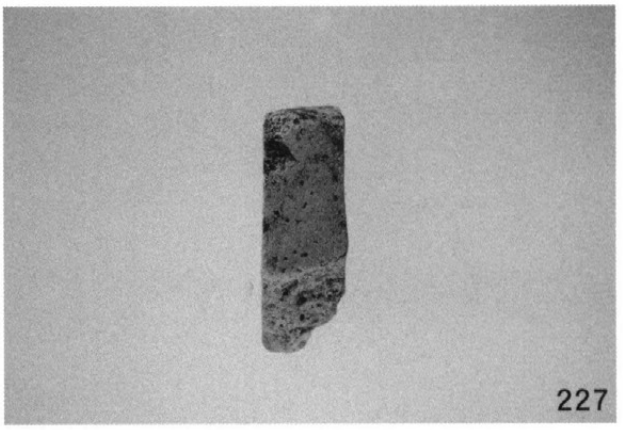


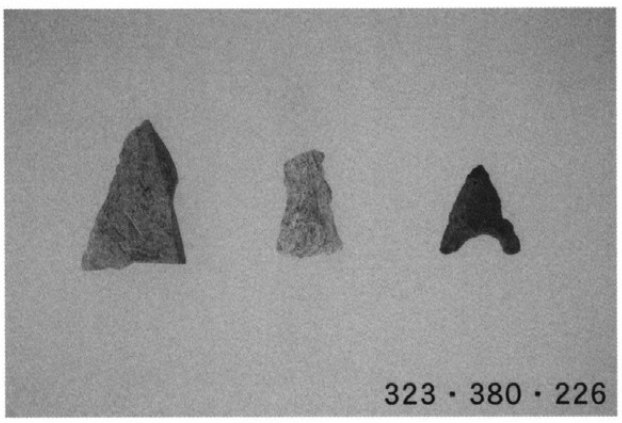
上,中上・下：製塩土器２　下：紡錘車

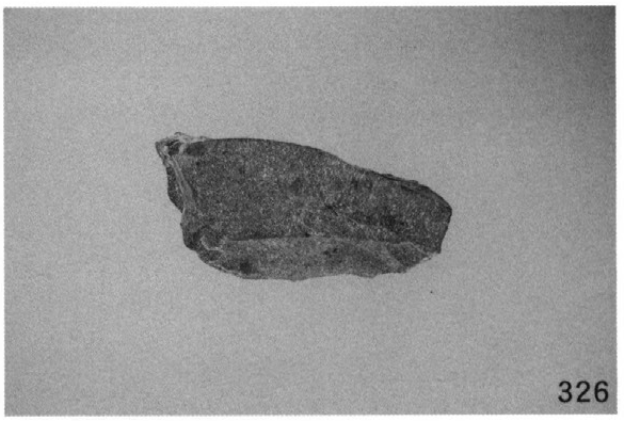


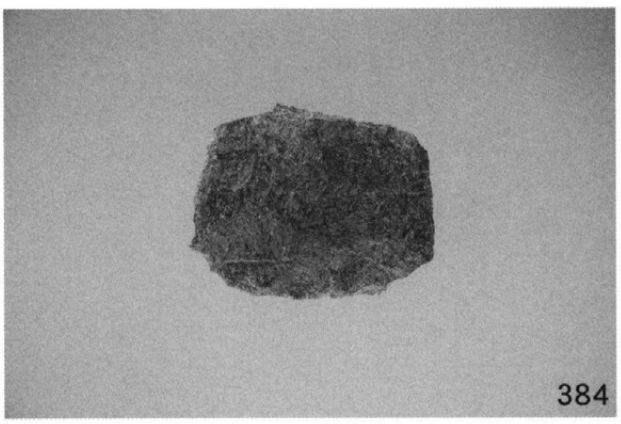


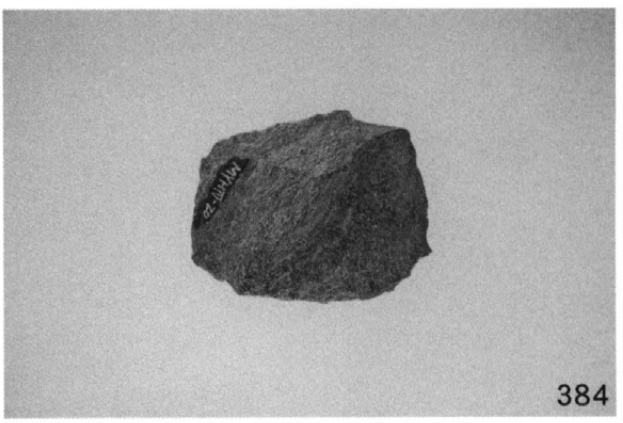




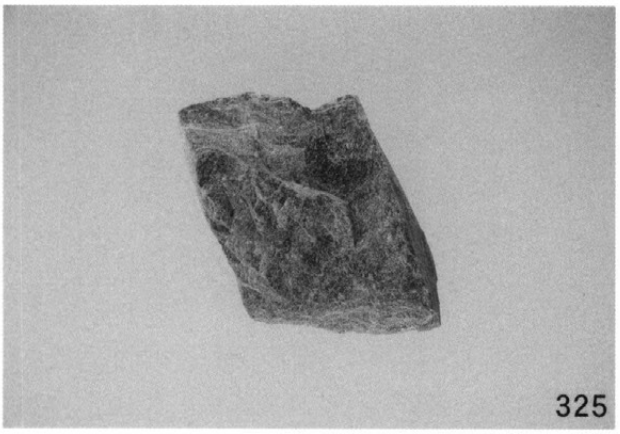


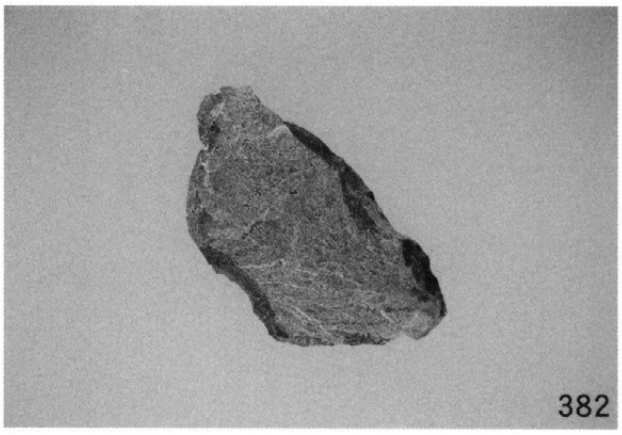


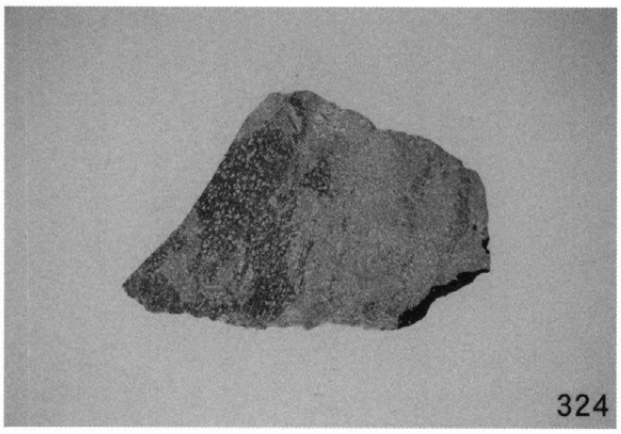


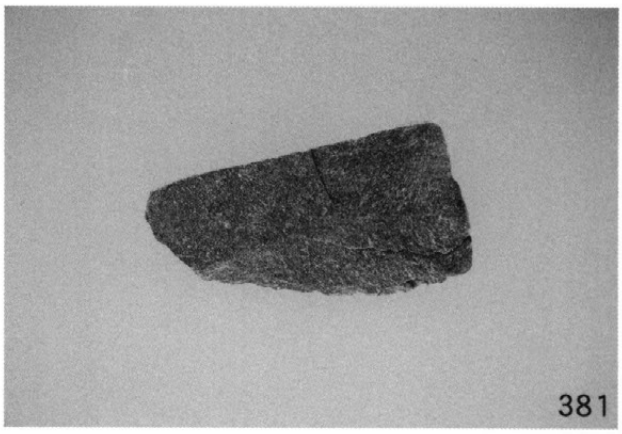


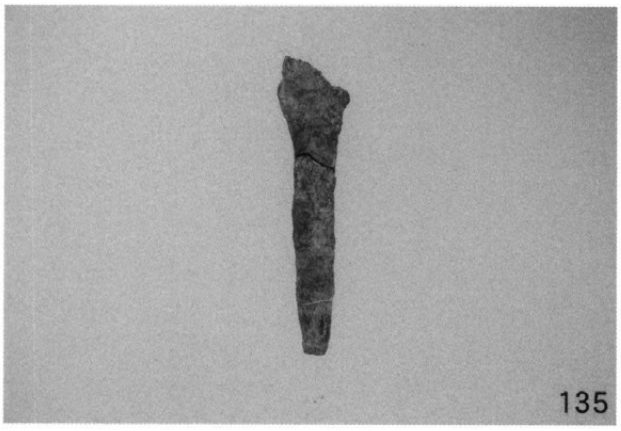
上,中上：砥石　中下左：石鏃　中下右,下：石斧

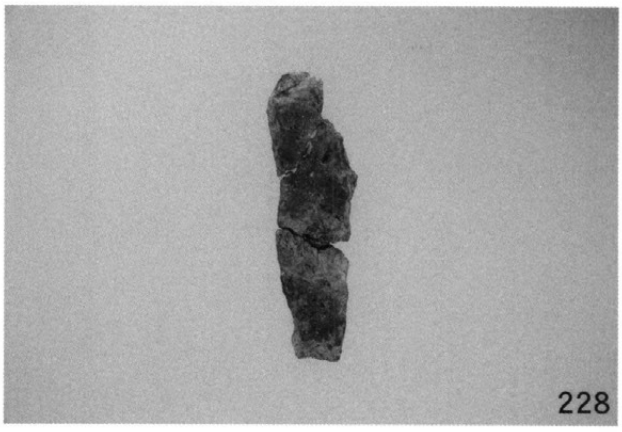


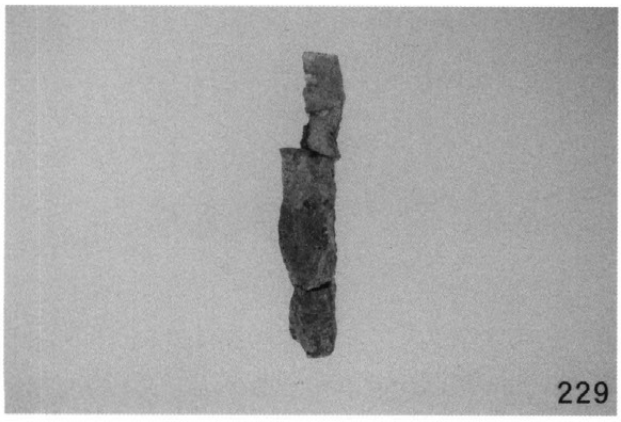


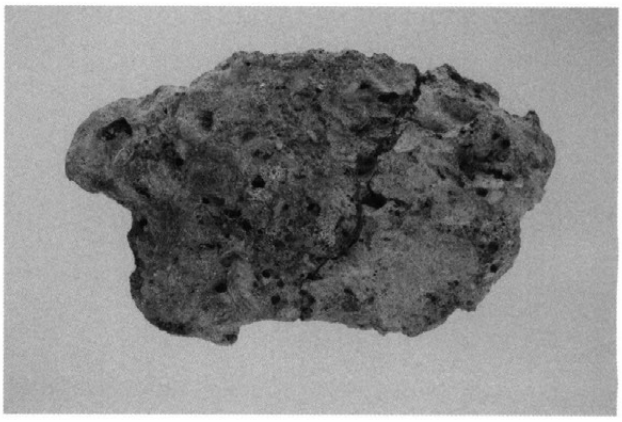












上：石包丁　中上：石包丁か刃器　中下左：鏃か　中下右,下左：刀子か　下右：鉄滓

報告書抄録

ふりがな	よしのしもひでいしいせき
書　名	吉野下秀石遺跡
副書名	
巻　次	
シリーズ名	一般国道32号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第3冊
編著者名	西岡達哉
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒762－0024　香川県坂出市府中町字南谷5001-4　　ＴＥＬ　(0877)48-2191(代表)
発行機関	香川県教育委員会・国土交通省四国地方整備局
発行年月日	西暦2007年10月31日

総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数
192	16	112	26	38	91	283

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡					
よしのしもひでいしいせき 吉野下秀石遺跡	なかたどぐん まんのうちょう よしのしも 仲多度郡 まんのう町 吉野下	37402		34度 11分 21秒	133度 50分 54秒	平成5年7月1日 ～ 平成6年3月31日 平成8年6月1日 ～ 平成8年8月31日	8,500	一般国道32号満濃バイパス建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉野下秀石遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 平安時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	縄文土器　石鏃 須恵器　紡錘車　製塩土器 土師器　黒色土器	

一般国道32号満濃バイパス建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第3冊

吉野下秀石遺跡

2007年10月31日発行

編集　香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4
電話　(0877)48-2191(代表)

発行　香川県教育委員会
国土交通省四国地方整備局